

恵庭市

柏木川 4 遺跡 (3)

— 柏木川基幹河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成19年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

恵庭市

柏木川 4 遺跡 (3)

— 柏木川基幹河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成19年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡全景



セクション S-N



遺物出土状況 S-N

K P - 397(1)



石斧取り上げ後遺物出土状況 N→S



鉢取り上げ後遺物出土状況 NE→SW



手形付土製品出土状況 SE→NW



足形付土製品出土状況 NW→SE

KP-397(2)



遺物集合



手形付土製品（左）・足形付土製品（右）展開

K P - 397出土遺物(1)



鉢



小型深鉢



小型鉢



鉢



把手付双口土器



小型浅鉢



把手付双口土器



石斧



セクション N→S



遺物出土状況 SW→NE

KP-386と出土遺物





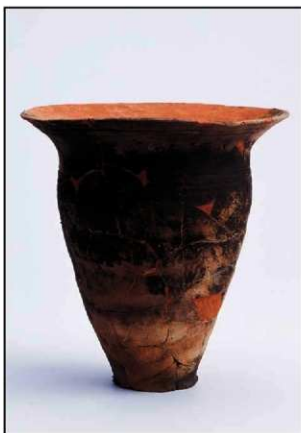
K P-358(前)・359(中)・360(奥)検出状況 E→W



調査風景 N→S



炭化材出土状況 E→W



遺物出土状況 E→W

K P-358と出土遺物



K P-358 (奥)・359 (前) 調査風景 W→E



覆土 2 層上面遺物出土状況 W→E



覆土 2 層上面遺物出土状況 SE→NW



遺物出土状況 N→S



K P-359と出土遺物



セクション E→W



遺物出土状況 E→W



K P-358 (前)・359 (中)・360 (奥) E→W



K P-360と出土遺物

例 言

1. 本書は柏木川基幹河川改修工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成17・18年度に実施した恵庭市柏木川4遺跡の調査報告書である。
2. 本書の編集、執筆は、谷島由貴、佐藤剛、吉田裕吏洋が担当し、各項目の文末に括弧で文責を示した。
3. 遺物については土器・鉄製品を佐藤剛、石器を谷島由貴が担当した。
4. 調査写真および室内撮影は、吉田裕吏洋が担当した。
5. 手形付・足形付土製品の鑑定は独立行政法人 産業総合研究所デジタルヒューマン研究センター 河内まき子氏に協力をお願いし玉稿を頂いた。また、札幌医科大学 松村博文氏にご教示いただいた。
6. 手形付・足形付土製品の類例を調べるに当たり、余市町水産博物館、函館市教育委員会、函館市埋蔵文化財事業団の御協力をいただいた。
7. 遺物・記録類は整理及び報告書作成後、恵庭市教育委員会が保管する。
8. 調査に当たっては下記の諸機関、各氏から御指導、御協力をいただいた（順不同、敬称略）。

文化庁、北海道教育庁文化・スポーツ課、独立行政法人産業総合研究所デジタルヒューマン研究センター、恵庭市教育委員会：水高和彦・上屋真一・松谷純一・長町章弘・大林千春・上松 登、恵庭市カリンバの会、独立行政法人産業総合研究所デジタルヒューマン研究センター：河内まき子、飯田恒夫、持丸正明、函館市教育委員会：田原良信・阿部千春・野村祐一、函館市北方民族資料館：福田祐二、市立函館博物館：佐藤智雄、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団：坪井睦美・輪島慎二、余市町水産博物館：乾 芳宏、札幌医科大学：松村博文、江別市セラミックアートセンター：兼平一志、北海道考古学研究所：横山英介、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構 国立民族学博物館：吉本 忍・日高真吾、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構 国立歴史民俗学博物館：西本豊弘、首都大学東京：山田昌久、明治大学：高瀬克範、東海学園女子短期大学：尾関清子、北海道北方博物館交流協会：野村 崇、北海道開拓記念館：平川善祥・山田悟郎・右代啓視、登別市教育委員会：菅野修広・鈴木貴寛、厚真町教育委員会：乾 哲也・天方直仁、伊達市教育委員会：大島直行・青野友哉・原 靖寿、千歳市埋蔵文化財調査センター：大谷敏三・田村俊之・豊田宏良・松田淳子、札幌市埋蔵文化財センター：上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司・石井 淳、平取町教育委員会：森岡健治・長田佳宏、富良野市教育委員会：杉浦重信・澤田 健、釧路市埋蔵文化財調査センター：石川 朗、八戸市教育委員会：小保内 裕之・宇部剛安、八戸市博物館：坂川 進、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：福島正和、盛岡市教育委員会：八木光則、東北歴史博物館：高橋栄一・村田晃一、東北学院大学：辻 秀人、大崎市教育委員会：大谷 基・高橋誠明、東松島市教育委員会：佐藤敏幸、東北大学大学院文学研究科：菅野知則、東京国立博物館：金子浩昌、株式会社シン技術コンサル：森田知忠

記号等の説明

- 本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。
KH：竪穴、KP：土坑、SP：小ピット、KF：焼土、KC：炭化物、
FC：フレイク・チップ集中
- 遺構図中の方位は真北を指し、細数字は標高（単位m）を表している。原則としてグリッドの基準線Mラインを横方向とし、図の上方がグリッドライン（A・B・C・・・）の若いものとしている。
- 遺構の規模については以下の要領で示した。一部破壊されているものは現存の長さを（ ）で示した。
確認面の長軸／下場の長軸×確認面の短軸／下場の短軸×最大の深さ（単位m）
- 土層の標記は、基本土層についてはローマ数字、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。土層説明には『新版標準土色粘1997年版』と『土壌調査ハンドブック 改訂版』（1997 日本ペドロジー学会編 博友社）を参考に、土色、土性（砂土、砂壤土、壤土、シルト質壤土、埴壤土、埴土の6種）、粘着性（なし、弱、中、強の4種）、堅密度（すこぶるしょう、しょう、軟、堅、すこぶる堅、固結の6種）、及び、層界の区分、礫の混入%（礫の大きさ、形状、風化の度合い）、その他に分けた。
- 掲載した実測図等の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構	1：40	大型竪穴住居跡	1：80
遺物出土状況	1：20	復元土器	1：3
土器拓影	1：3	剥片石器	1：2
礫石器	1：3	金属製品	1：2

- 挿図中の遺物のシンボルマーク及び網目は以下のとおりである。

● 土器	▲ 石器		

- 石器・土製品・石製品の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記している。
剥片石器、礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。破損しているものについては、その値を（ ）で括っている。

目 次

口絵	
例言	
記号等の説明	
目次	
挿図目次・表目次・図版目次	
I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	1
4 調査概要	4
(1) 調査区の設定	4
(2) 基本土層	4
(3) 調査の方法	6
(4) 整理の方法	10
(5) 遺物の分類	11
(6) 調査結果の概要	13
II 遺跡の位置と環境・周辺の遺跡	17
III 河岸段丘上の遺構と遺物	21
1 遺構と出土遺物	21
(1) 竪穴住居跡	21
(2) 土坑	35
(3) 小ピット	80
(4) 焼土	113
(5) 炭化物	113
(6) フレイク・チップ集中	148
(7) 遺物集中	148
(8) 土器集中	148
2 包含層の遺物	167
(1) 土器	167
(2) 石器	180
(3) 鉄製品	191
一覧表	192
IV 自然科学的分析	213
放射性炭素年代測定 (AMS測定)	213
柏木川4遺跡出土の足形付土製品の足形の持ちぬしの年齢推定	225
V まとめ	237
1 縄文時代の遺構	237
2 擦文時代について	242
引用・参考文献	245
写真図版	
報告書抄録	

目 次

口絵1	遺跡全景
口絵2	K P-397(1)
口絵3	K P-397(2)
口絵4	K P-397出土遺物(1)
口絵5	K P-397出土遺物(2)

口絵6	K P-397出土遺物(3)
口絵7	K P-386と出土遺物
口絵8	K P-358と出土遺物
口絵9	K P-359と出土遺物
口絵10	K P-360と出土遺物

挿 図 目 次

I 調査の概要

図I-1	遺跡の位置	2
図I-2	開拓期の地形	3
図I-3	調査範囲と調査区の設定	5
図I-4	基本層序	6
図I-5	平成18年度調査範囲の竪穴住居跡と土坑配置	7
図I-6	焼土配置	8
図I-7	最終面地形	9

II 遺跡位置と環境・周辺の遺跡

図II-1	周辺の地形と遺跡	18
図II-2	遺跡周辺の地形	19

III 河岸段丘上の遺構と遺物

図III-1	竪穴住居跡と土坑分布	24
図III-2	K H-5	25
図III-3	K H-6	26
図III-4	K H-7 (1)	27
図III-5	K H-7 (2)	28
図III-6	K H-8 (1)	29
図III-7	K H-8 (2)	30
図III-8	K H-8 (3)	31
図III-9	K H-8 (4)	32
図III-10	K H-9	33
図III-11	K H-10・K H-11	34
図III-12	K P-296~303	82
図III-13	K P-304~311	83
図III-14	K P-312~319	84
図III-15	K P-320~327	85
図III-16	K P-328~335	86
図III-17	K P-336~343	87
図III-18	K P-344~351	88
図III-19	K P-352~358	89
図III-20	K P-358遺物出土状況	90
図III-21	K P-359	91
図III-22	K P-360~364・366・367	92
図III-23	K P-368~372	93
図III-24	K P-373~378	94
図III-25	K P-379~381・383~386	95
図III-26	K P-386遺物出土状況 ・K P-387~394	96
図III-27	K P-395~397	97
図III-28	K P-398~406・411	98
図III-29	K P-412・413・415~421	99
図III-30	K P-422~429	100
図III-31	K P-430~435・437~439	101

図III-32	K P-440~451	102
図III-33	K P-452~461	103
図III-34	K P-462~471	104
図III-35	K P-472~475	105
図III-36	K P-476~483	106
図III-37	K P-484~492	107
図III-38	K P-493~502	108
図III-39	K P-503~511	109
図III-40	K P-512~515・S P-6~13	110
図III-41	焼土分布	112
図III-42	S P-14~17・K F-120~125	136
図III-43	K F-126~134	137
図III-44	K F-135~146	138
図III-45	K F-147~154	139
図III-46	K F-155~160・162~168	140
図III-47	K F-169~174・176~183	141
図III-48	K F-184~193・195~199	142
図III-49	K F-200~212・214・215	143
図III-50	K F-216~229	144
図III-51	K F-230~232・234~240	145
図III-52	K F-243・244・252~254・259	146
図III-53	斜面の焼土	147
図III-54	K C-1・F C-2~4・遺物集中1 ・土器集中28・31・32	150
図III-55	遺構出土の土器(1)	151
図III-56	遺構出土の土器(2)	152
図III-57	遺構出土の土器(3)	153
図III-58	遺構出土の土器(4)	154
図III-59	遺構出土の土器(5)	155
図III-60	遺構出土の土器(6)	156
図III-61	遺構出土の土器(7)	157
図III-62	遺構出土の土器(8)	158
図III-63	遺構出土の土器(9)	159
図III-64	遺構出土の土器(0)	160
図III-65	遺構出土の土器(0)	161
図III-66	遺構出土の石器(1)	162
図III-67	遺構出土の石器(2)	163
図III-68	遺構出土の石器(3)	164
図III-69	遺構出土の石器(4)	165
図III-70	遺構出土の石器(5)	166
図III-71	包含層出土の土器(1)	168
図III-72	包含層出土の土器(2)	169
図III-73	包含層出土の土器(3)	170
図III-74	包含層出土の土器(4)	171
図III-75	包含層出土の土器(5)	172
図III-76	包含層出土の土器(6)	173
図III-77	包含層出土の土器(7)	174

図Ⅲ-78	包含層出土の土器(8)	175
図Ⅲ-79	包含層出土の土器(9)	176
図Ⅲ-80	包含層出土土器の分布(1)	177
図Ⅲ-81	包含層出土土器の分布(2)	178
図Ⅲ-82	包含層出土土器の分布(3)	179
図Ⅲ-83	包含層出土の石器(1)	183
図Ⅲ-84	包含層出土の石器(2)	184
図Ⅲ-85	包含層出土の石器(3)	185
図Ⅲ-86	包含層出土土器の分布(1)	186
図Ⅲ-87	包含層出土土器の分布(2)	187
図Ⅲ-88	包含層出土土器の分布(3)	188
図Ⅲ-89	包含層出土土器の分布(4)	189
図Ⅲ-90	包含層出土土器の分布(5)	190
図Ⅲ-91	包含層出土の鉄製品	191

IV 自然科学的分析

炭化物の放射性炭素年代		213
図IV-1	暦年校正(1)	221
図IV-2	暦年校正(2)	222
図IV-3	サンプル採取位置	224

I 調査の概要

表I-1	遺構	15
表I-2	出土遺物	15

Ⅲ 河岸段丘状の遺構と遺物

表Ⅲ-1	遺構規模一覧	192
表Ⅲ-2	遺構掲載土器一覧	202
表Ⅲ-3	遺構掲載石器一覧	203
表Ⅲ-4	遺構出土遺物一覧	204
表Ⅲ-5	包含層掲載土器一覧	210
表Ⅲ-6	包含層掲載石器一覧	211

中原		
図版1	遺跡全景	
図版2	KH-5	
図版3	KH-6(1)	
図版4	KH-6(2)・KH-7(1)	
図版5	KH-7(2)	
図版6	KH-8(1)	
図版7	KH-8(2)	
図版8	KH-9	
図版9	KH-10	
図版10	KH-11	
図版11	土坑① K P-296~K P-301	
図版12	土坑② K P-303・309・312・314・315	
図版13	土坑③ K P-318~321	
図版14	土坑④ K P-322・330・331・334	
図版15	土坑⑤ K P-335~337・339・340・344	

柏木川4遺跡出土の足形付土製品の足形の持ちぬしの年齢推定

図1.	足形付土製品の三次元形状計測から足長を算出する。	226
図2.	実験で作成した粘土足型と vivid による足型の計測結果。	229
図3.	踵点、足先点の高さ	229
図4.	足長から踵点高、親指先端高を推定する	230
図5.	日本人の体格調査における乳幼児の足長の測り方	232
図6.	ビデオスコープによる乳幼児の足底写真の撮影	233
図7.	年齢群別男女の足長の平均値と標準偏差	233
図8.	年齢別足長平均値と推定年齢範囲。	234

V まとめ

図V-1	時期別遺構分布(1)	239
図V-2	時期別遺構分布(2)	240
図V-3	K P-386とK P-397	240
図V-4	晩期土坑の大きさ分布	241
図V-5	手形付土製品・足形付土製品	241
図V-6	搬入時代の遺構分布	244

表 目 次

IV 自然科学的分析

炭化物の放射性炭素年代		
表IV-1		217
表IV-2		220

柏木川4遺跡出土の足形付土製品の足形の持ちぬしの年齢推定

表1.	粘土テストピースの収縮率	227
表2.	粘土製足型の乾燥による寸法変化	228
表3.	変形要因を考慮した修正足長	231

図 版 目 次

図版16	土坑⑥	K P-346・347・349・351
図版17	土坑⑦	K P-352・353・355・358~360
図版18	土坑⑧	K P-358
図版19	土坑⑨	K P-358・359
図版20	土坑⑩	K P-358~360
図版21	土坑⑪	K P-360
図版22	土坑⑫	K P-361・362・370~372
図版23	土坑⑬	K P-371・372
図版24	土坑⑭	K P-373~377
図版25	土坑⑮	K P-378
図版26	土坑⑯	K P-378~380
図版27	土坑⑰	K P-381・383・386
図版28	土坑⑱	K P-386
図版29	土坑⑲	K P-386・389・396
図版30	土坑⑳	K P-397
図版31	土坑㉑	K P-397

- 図版32 土坑㉔ K P-397
- 図版33 土坑㉕ K P-397~399
- 図版34 土坑㉖ K P-400・403・415・422・423
- 図版35 土坑㉗ K P-425~429
- 図版36 土坑㉘ K P-430・431・433~435
- 図版37 土坑㉙ K P-438・439・454・457・458
- 図版38 土坑㉚ K P-460・462・468・469・472・473
- 図版39 土坑㉛ K P-475・477~479
- 図版40 土坑㉜ K P-482~487
- 図版41 土坑㉝ K P-490・493・495・502
- 図版42 土坑㉞ K P-505・506・508・510・511・513・514
- 図版43 小ビット
S P-6~8・10~12・17
- 図版44 焼土(1)
Q・R-67 付近焼土群・K F-124・131・141・160
- 図版45 焼土(2)
炭化物・斜面部焼土・K F-173・K C-1
- 図版46 遺物集中1・土器集中
遺物集中1・土器集中28・31・32
- 図版47 段丘上の遺構出土土器(1)
K H-5~11
- 図版48 段丘上の遺構出土土器(2)
K P-130~359
- 図版49 段丘上の遺構出土土器(3)
K P-360~386
- 図版50 段丘上の遺構出土土器(4)
K P-378~397
- 図版51 段丘上の遺構出土土器(5)
K P-397
- 図版52 段丘上の遺構出土土器(6)
K P-397
- 図版53 段丘上の遺構出土土器(7)
K P-397
- 図版54 段丘上の遺構出土土器(8)
K P-399~490
- 図版55 段丘上の遺構出土土器(9)
K P-491・502・S P-11・K F-126~239
- 図版56 段丘上の遺構出土土器⑩
F C-2・4・遺物集中1・土器集中28・31・32
- 図版57 段丘上の遺構出土土器(1)
K H-6~8
- 図版58 段丘上の遺構出土土器(2)
K H-8・9
- 図版59 段丘上の遺構出土土器(3)
K H-11・K P-343・377
- 図版60 段丘上の遺構出土土器(4)
K P-381・386
- 図版61 段丘上の遺構出土土器(5)
K P-389~469
- 図版62 段丘上の遺構出土土器(6)
K P-482・485・K F-125~160
- 図版63 段丘上の遺構出土土器(7)
K F-151~160・遺物集中1
- 図版64 段丘上の調査(1)
- 図版65 段丘上の調査(2)
- 図版66 段丘上の包含層出土土器(1)
- 図版67 段丘上の包含層出土土器(2)
- 図版68 段丘上の包含層出土土器(3)
- 図版69 段丘上の包含層出土土器(4)
- 図版70 段丘上の包含層出土土器(5)
- 図版71 段丘上の包含層出土土器(6)
- 図版72 段丘上の包含層出土土器(7)
- 図版73 段丘上の包含層出土土器(8)
- 図版74 段丘上の包含層出土土器(1)
- 図版75 段丘上の包含層出土土器(2)
- 図版76 段丘上の包含層出土土器(3)
- 図版77 段丘上の包含層出土鉄製品

I 調査の概要

1 調査要項

遺 跡 名：柏木川4遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-04-21）

事 業 名：柏木川基幹河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道石狩支庁

受 託 者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

所 在 地：恵庭市柏木町610、612ほか

調査面積	発掘期間	整理期間
14,140㎡	平成17年5月9日～平成17年10月28日	平成17年10月31日～平成18年6月30日
12,600㎡	平成18年5月8日～平成18年10月30日	平成18年11月1日～平成19年7月31日

本報告書に掲載したのは、平成17年度調査の河岸段丘上5,460㎡（A・C地区）の縄文時代包含層の遺物と平成18年度調査の河岸段丘上9,000㎡（E地区）の遺構及び包含層の遺物である。

2 調査体制

平成17年度

理事長	森重 楯一	主査	村田 大（発掘担当者）
第1調査部長	千葉 英一	主任	吉田裕吏洋（発掘担当者）
第2調査課長	佐藤 和雄		

平成18年度

理事長	森重 楯一	主査	谷島 由貴（発掘担当者）
第1調査部長	千葉 英一	主任	佐藤 剛（発掘担当者）
第2調査課長	佐藤 和雄	主任	吉田裕吏洋（発掘担当者）

平成19年度

理事長	森重 楯一	主査	谷島 由貴
第2調査部長	西田 茂	主任	吉田裕吏洋
第1調査課長	佐藤 和雄	第2調査課 主任	佐藤 剛

3 調査に至る経緯

柏木川下流地域は以前からしばしば洪水被害を受けていたが、昭和58年8月の大雨によって大きな被害を受けた。このことから治水事業として柏木川改修計画が昭和58年度に策定され、昭和61年以降、河道拡幅工事が下流から上流（市道西6線を始点に道道江別―恵庭線付近）へ進められてきた。平成7年に改修区間の延長・遊水池設置が計画され、平成9年4月に柏木川改修計画増の区間（道道江別―恵庭線～道央自動車道）と第1・第2遊水池建設が決定された。

北海道土木現業所から北海道教育委員会に第1遊水池（約50,000㎡）について文化財保護のための事前協議が行われた。これを受けて北海道教育委員会は柏木川4遺跡の試掘調査を平成15年7月と10月に隣接する柏木川5遺跡とともに行った。その結果、34,000㎡について、埋蔵文化財包蔵地の存在

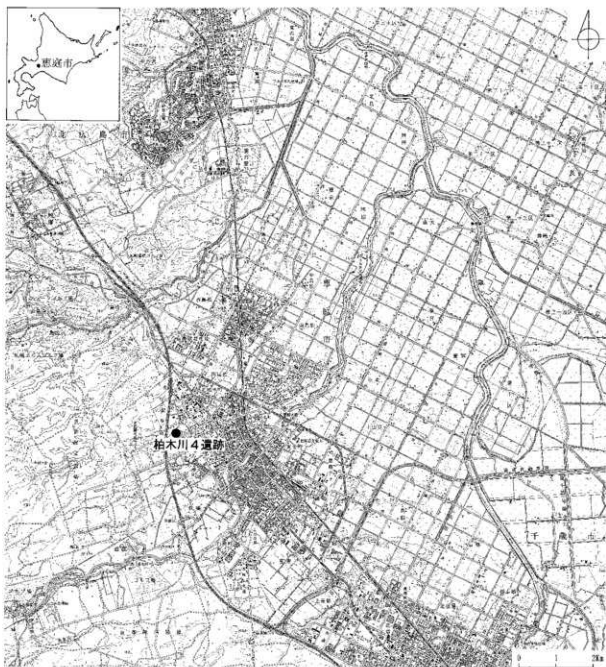


図 I - 1 遺跡の位置

(この図は国土地理院1:50,000地形図「えにわ」を複製し加筆している)

が確認され、協議の結果工事計画の変更は困難であることから、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

平成16年度から当センターが事業を受託し、平成16年度に8,470㎡、17年度に14,140㎡、最終の18年度は12,600㎡の調査を行っている。このうち1,210㎡は、遺構が当初予定調査範囲の外側に広がる事が判明したため北海道教育委員会と北海道土木現業所が再協議を行い、拡張して調査したものである。

16年度調査については、遺跡の南西側部分を調査し、『柏木川4遺跡・柏木川13遺跡②』（北埋調報211）を、17年度調査の一部については、調査区の中央部分から南側のA・C地区の遺構と擦文時代の遺構・遺物について『柏木川4遺跡②-A・C地区-』（北埋調報229）を刊行している。本書は17年度調査A・C地区の縄文時代と近世の包含層出土遺物、および18年度調査の段丘上E地区について報告する。



図 I-2 開拓期の地形

(この図は陸地測量部、明治43年5万分1之尺「漁」を複製し加筆したものである)

平成16年度を除き、便宜上地区名をつけて調査を行っている。平成17年度はA・B・Cの3地区に、平成18年度はD・Eの2地区に分けて調査を行った。A・C・E地区は河岸段丘上で、B・D地区は柏木川の氾濫原である(図I-3)。

平成17年度調査のB地区と平成18年度調査のD地区の柏木川氾濫原については、平成20年度以降に報告する予定である。

なお、柏木川改修計画に伴い昭和61年から発掘調査が始まり、恵庭市教育委員会と当センターにより中島松1遺跡、中島松4遺跡、中島松5遺跡、中島松6遺跡、中島松7遺跡、南島松2遺跡、南島松3遺跡、南島松4遺跡、西島松2遺跡、西島松3遺跡、西島松5遺跡、西島松9遺跡、西島松17遺跡、西島松18遺跡の調査が行われている。

4 調査概要

(1) 調査区の設定

調査区の設定は平成16年度『柏木川4遺跡・柏木川13遺跡(2)』(北理調報211)を踏襲し、グリッド設定杭の測量及び杭の打設を次により行った(図I-3)。

工事予定範囲のほぼ中央を通る基準線上のSP200とSP300を結ぶ線を基軸のMラインとし、SP200基準点のM-40とした。Mラインに平行する5m毎のラインを北西に向かってアルファベットのL、K…、同様に南東へN、O…とした。また、基準点SP200のMラインと直行する線を40ラインとし5m毎に南西へ向かって数字の39、38…と減じ、北東へ41、42…とした。アルファベットと数字のラインが交差する地点(図I-3)、5m方眼を調査の基本単位とした。各調査区は、その南側の交点のアルファベットと数字の組み合わせで呼称される。

なお、Ⅲ章挿図の遺構図では上記グリッドラインに囲まれた調査区をさらに1m角に25等分し、1～25の数字で表示している。例として図I-3左の方眼図中のT-68区を示した。

Mラインは真北に対しN-42° 44' 19"-Eである。

基準杭の座標は平面直角座標系第Ⅱ系、緯度・経度は以下のとおりである。

SP200(調査区杭 M-40)

日本測地系(旧座標) X=-123,189.720 Y=56,769.409

世界測地系(測地成果2000) X=-122,926.379 Y=57,075.945

北緯42° 05' 03.9549 東経140° 34' 16.4544

SP300(調査区杭 M-20)

日本測地系(旧座標) X=-123,263.166 Y=56,837.274

世界測地系(測地成果2000) X=-122,999.825 Y=57,143.811

北緯42° 53' 19" 東経141° 33' 16"

水準測量は北海道恵庭市北柏木町1丁目こばと公園内の恵庭市設置「BM No.1」を用いて、各測量に使用した。

平成11年恵庭市設置「BM No.1」 H=31.790

(2) 基本土層

段丘上の基本土層は以下のとおりである。基本土層の模式図を図I-4に示した。恵庭市教育委員会が遺跡調査の基本土層としているI層：盛土・耕作土・表土、II層：T a-a、III層：黒色土(遺物包含層)、IV層：褐色土(漸移層)、V層：E n-aをおおむね踏襲している。

I層：表土・耕作土。黒色～黒褐色(10YR1.7/1～2/2) 層厚は約0.3mである。C・E地区は畑地として利用され、高い部分は削られ窪地は埋められている。このため、I層の直下がV層の場合やI層表土が厚く堆積しているところもある。

II層：浅黄橙色～にぶい黄褐色(10YR8/3～6/3) 樽前a降下軽石層(T a-a)1739年に樽前山が噴火したときのもの。攪乱のない場合は層厚20～30cm程度。上位は粗粒砂で径0.5～1mm、中位は中粒砂で径0.3mm程度、下位は極粗粒砂で径1～2mmを主体としている。

III層：黒色～黒褐色(10YR1.7/1～2/2) 層厚30cm程度の壤土～砂壤土で粘性があり、しまりがある。一部の土坑上部の窪みや氾濫原のIII層上部から樽前c降下軽石層(T a-c、約2,500年前)が層厚1cm程度でみられる。氾濫原ではT a-cのさらに上位に白頭山-苦小

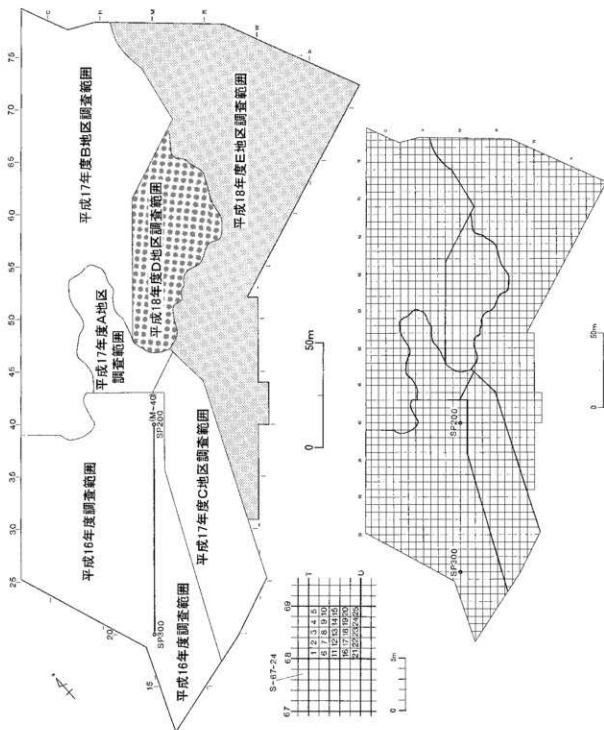


図 I-3 調査範囲と調査区の設定

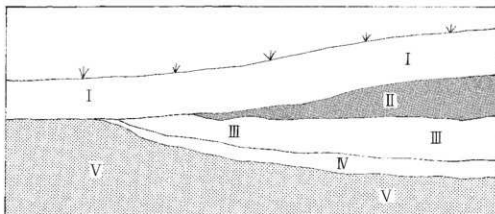


図1-4 基本層序

牧火山灰(B-Tm、約1,000年前)が層厚1cm弱で確認されている。

IV層：暗褐色(10YR 3/3～3/4) 層厚30cm程度の壤土～砂壤土に粘性があり、しまりがある。

III層とV層の漸位層。恵庭a降下軽石層(E n-a)の軽石粒を少量含む。

V層：明黄褐色(10YR 6/6～6/8) 恵庭a降下軽石層(E n-a)。約1万8千年前の降下。段丘崖は段丘上からの斜面堆積物がみられる。

発掘調査の最終面はV層上面、または耕作により削平されている部分ではV層中位である。(谷島)

(3) 調査の方法

(a) 調査

平成18年度の調査は表土とII層(Ta-a)を重機で除去した後、包含層調査を実施した。北側から調査区中央の河岸段丘崖に近い範囲ではIII層が約30cm残っていたが、東側から南側にかけては畑の耕作によりV層まで削平を受けていた。また、包含層が残っているところでも民家の基礎等で攪乱を受けている部分が多くみられた。

(b) 遺構

遺構は平成16年の調査例に従って命名している。竪穴住居跡を「KH」、土坑を「KP」、小ピットを「SP」、焼土を「KF」、炭化物集中を「KC」、フレイク・チップ集中を「FC」と区分し略号を付けている。Tピットは土坑に含めている。また、遺物集中と土器集中についてはそのまま「遺物集中」と「土器集中」としている。遺構名は調査順に遺構区分毎の符号を冠し平成17年度から続けて番号を付した。竪穴住居に付属する小ピット・柱穴・炉などはそれぞれの遺構区分を冠した上で「HP」・「HF」の記号をつけさらに番号を付している。例えば、竪穴住居内の炉は「KH-8HF1」、土坑、小ピット・柱穴を「KH-7HP1」である。

平成18年度の調査は竪穴住居跡が「KH-5」から始まり、土坑は「KP-296」から、小ピットは「SP-14」から、焼土は「KF-120」から、炭化物集中を「KC-1」から、フレイク・チップ集中を「FC-2」から始めている。遺物集中は「遺物集中1」のみである。土器集中は「土器集中27」から始めているが、これは氾濫原から検出され本報告の対象ではないため「土器集中28」から掲載している。これらの遺構や欠番遺構、氾濫原のB・D地区の遺構については「表1-1遺構」に示している。

本報告の対象とした平成17年度調査のA・C地区包含層と平成18年度E地区の出土遺物は「表1-

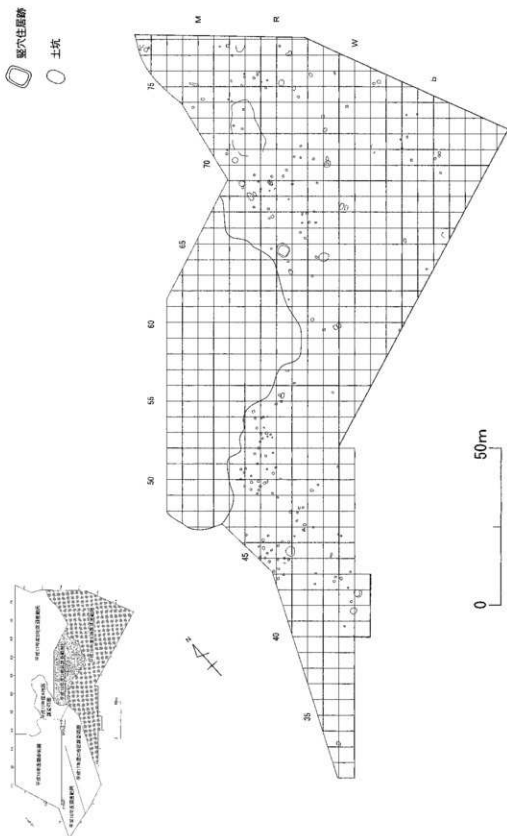


図1-5 平成18年度調査範囲の竪穴住居跡と土坑配置

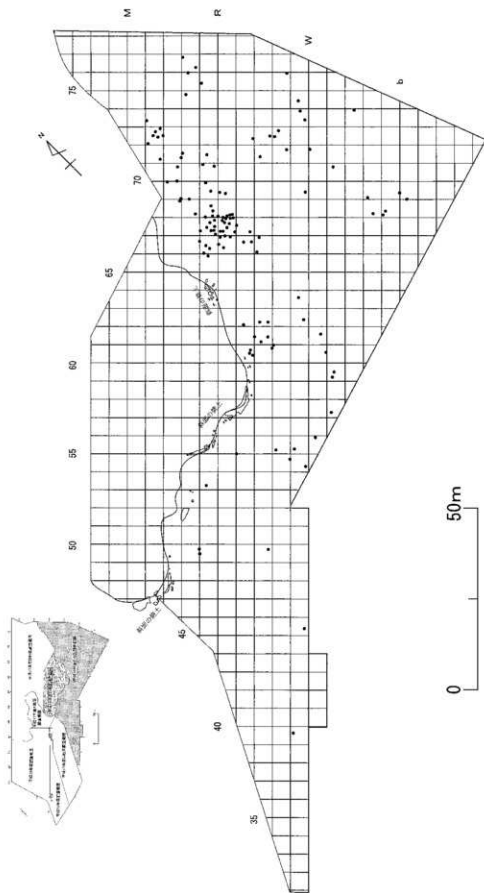


図1-6 焼土配置

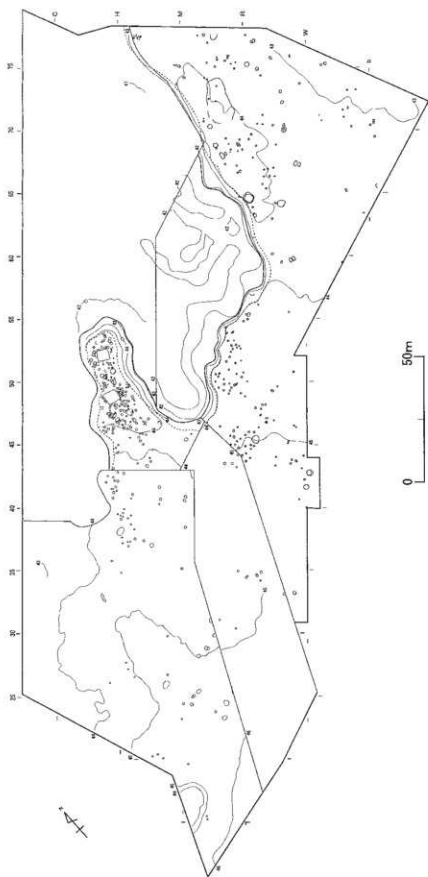


図1-7 最終面地形

2 遺物」に示している。

遺構の実測は、1/20で方眼紙に記録している。また、デジタルカメラを併用し作図した場合もある。

土層注記は「標準土色帖」を用いて統一性を保つようになっている。(谷島)

(c) 写真

屋外での撮影は、モノクロとリバーサルのフィルムを用い、67サイズを主体に必要なに応じて45サイズのフィルムを使用した。ブレやボケを防止するために、三脚とレリーズの使用を徹底した。セクションなどは順光で、堅穴住居跡や土坑の完掘は掘り込みの深さや床面・坑底面から壁面の状態が判るように、遺物出土状況などは、立体感や質感、出土位置の高低差がわかるように、逆光から逆逆光での撮影を心がけた。銀塩フィルムでの撮影と同時に、デジタルスチールカメラで、同アングルでの撮影を行い、その画像データを基に、写真台帳のデジタルデータ化も行った。(吉田)

(4) 整理の方法

(a) 遺物

遺物は、Ⅲ層からⅥ層については、調査区、層位、日付をビニール袋に明記して取り上げた。遺構の遺物は基本的に図に位置を記録しながら個別番号をつけて取り上げている。

遺物は、水洗・乾燥後、分類作業を行って遺物台帳に登録した。その後、注記作業を行った。

土器の注記は遺跡名の柏木川4遺跡を「カ4」と略記し、遺構出土のものは遺構名前に「K」を冠し、続けて取り上げ番号を付けたものについて遺物取り上げ番号、出土層位の順に記した。

包含層出土のものはグリッド名を記入し、出土層位の順で、それぞれ簡略化して記入した。

石器は注記を行わず小形のカードに遺構名または出土グリッド、層位、点数、分類名、日付などを記入し石器に添付した。

土器は遺構、グリッド毎に仮収納した。石器は遺構毎に収納した他、包含層は器種別に収納した。フローテーションを行い、検出された遺物も集計の数字に含んでいる。(谷島)

(b) 写真

スタジオ撮影

安定した光量で撮影することができ、遺物の持つ本来の色を写真においても再現するため、ストロボを用いて行った。復元土器、石器の一部については立面撮影を行った。石器においては俯瞰による無影撮影が一般的であるが、立面による撮影は立体感、質感など、遺物実測図では表現の難しい点について補うことができる。立面撮影の背景に白いデコラ板（無反射で蛍光塗料を使用していないもの）を使用した。撮影においては、特に立体感を表現することに留意して行った。また、実測図では表現できない、遺物の持つ色調や手触りなどの質感を感じさせるようなライティングを心がけた。立面撮影全般に、普段のものを見るときのような自然な角度内での撮影を心がけ、写真を見るものに不自然感を与えない構図を目指した。現場での撮影と同様、1つの被写体に対して同一条件下で2コマ撮影した。

機材 ストロボ機材は3200W/Sのジェネレーター（コメットCA3200）を2～3台、発光部（CA32H）を2～6灯、ディフューザーは、ライトバンク・アンブレラを使用した。

カメラは、TOYO-VIEW45GXに6×7用アダプターをつけて用い、フィルムはブローニー

サイズのT-MAX100とE100Gを使用した。必要に応じて同フィルムの4×5サイズも使用した。
現像

フィルム現像 カラーリバーサルフィルム・カラーネガフィルムの現像は外注により処理している。モノクロフィルムには、自動現像機（ILFORD ILFOLAB FP40）での自家処理を行っている。これは、約15分で同時に2本の現像～乾燥までの処理をすることができる。大きな利点としてフィルムがパトローネやマガジンに入っているので、全暗黒にしなくても処理できること。また、ほぼ一定の現像がなされるので品質も安定することがあげられる。

ペーパー現像 写真図版用のモノクロ写真の焼き付け、整理用の密着焼きの現像は自動現像機（ILFORD ILFOLAB MG2950）での自家処理を行っている。この機械は一定の条件での現像となるため露出時間の増減による仕上がりの予想がしやすいという利点がある。

保管・管理

写真台帳 現場で作成した写真台帳、またスタジオ撮影した台帳はパソコンに入力し、被写体による検索が可能なデジタルデータベースとして管理している。これは画像データを別フォルダにJPEG形式で保存し、文字データファイルの画像領域をリンクさせる形式をとるものである。これによりデータの圧縮と作業スピードの高速化が図られる。また検索が瞬時に行え、パソコン上でカットを確認できるため、不必要にオリジナルフィルムに触れる機会が減少し、フィルムの劣化、破損などを防ぐことができる。

フィルム アルバムはコスモスプリントファイルを用いて整理している。フィルム1コマにつき番号をつけ、フィルムの種類ごとに連番で管理している。

フィルムに触れるときは必ず手袋を着用し、変色、劣化、カビの発生を防いでいる。また同一条件で撮影した2コマのうち1コマは長期保存用のオリジナルフィルムとして安定的な保管に努めている。使用頻度や貸し出し依頼の多いカットに関しては、デュープを作成し対応している。（吉田）

(5) 遺物の分類

(a) 土器

以下の分類基準を用いて行った。

I 群

- a 類：胎土が密で、貝殻条痕文、貝殻文、及び撚糸文、組紐瓦痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの
- b 類：胎土が粗で、撚糸文、組紐瓦痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの

II 群

- a 類：厚みがあり、縄文原体（0段多縄が多い）は条の幅が広く、地文の縄文が器面に深く施文される、丸底、尖底を特色とするもの
- b 類：地文が絡条体、撚糸文で、内面が磨かれる円筒土器下層式に相当するもの

III 群

- a 類：貼付け文及びその文様構成を引く沈線文で文様帯が構成される、円筒土器上層式に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるもの、および萩ヶ岡1・2式に相当するもの
- b 類：萩ヶ岡3・4式、天神山式、柏木川式、北筒式（トコロ6類）、および地文を施文する前に隆起する貼付けを行い、刺突文等で文様を構成する棟瓦台式に相当するもの

IV群

- a類：余市式、タブコブ式、ウサクマイC式、十腰内Ia式に相当するもの（余市式として分類される、幅の広い貼付け文と無文帯をもち、刺突文、縄線文、沈線文などで文線帯が構成される一群は遺跡の状況によりⅢ群b類またはIV群a類の中で扱う。当遺跡ではIV群a類に分類した。）
- b類：手稲式、鯉間式に相当するもの
- c類：堂林式、三ツ谷式、指の爪などによる器表面への斜めからの刺突である爪文が施される御殿山式、湯の里3式に相当するもの

V群

- a類：大洞B式、大洞BC式、及び主に半截竹管状工具による器表面への垂直な刺突のほどこされる上ノ国式に相当するもの
- b類：大洞C₁式、大洞C₂式に相当するもの
- c類：大洞A式、大洞A'式に相当するもの

VI群

縄文時代に属する土器群（北大Ⅲ式土器群も含む）

VII群

弥生時代に属する土器群

土製品等

土器片転用の土製円盤、焼成粘土塊等に分けている。 (佐藤 剛)

(b) 石器

石器は、剥片石器類、礫石器類、その他剥片等に大別し、器種ごとに分類した。

剥片石器類

石鏃：三角形のもの、木葉形や菱形のもの、有茎のもの、分類の困難な破片・未成品などに分け、さらに三角形と有茎のものは凹基、平基、凸基に分けている。

石槍またはナイフ：有茎のもの、茎が明瞭にみられないもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

石錐：素材の一部に刺突部を作り出したもの、棒状のもの、棒状のものにつまみ部をもつもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

つまみ付きナイフ：片面全面加工のもの、周縁加工のもの、両面加工のもの、横型のもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

スクレイパー：石べらと称されるもの、縦長剥片の下端部に刃部をもつもの、縦長剥片の側縁に刃部をもつもの、側縁に抉り入りがあり刃部とするもの、横長剥片の側縁に刃部をもつもの、素材の形状を大きく変えていないもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

両面調整石器：両面が加工された剥片石器のうち、上記の分類に当てはまらないもの。

礫石器類

石斧：擦り切り手法によるもの、敲打により整形されたもの、打ち欠きにより整形されたもの、部分

的に磨かれたもの、全面磨製のもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

たたき石：棒状礫を素材としたもの、扁平礫を素材としたもの、円礫を素材としたもの、くぼみ石と称されるもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

すり石：擦痕があるもので手にもてる大きさの礫。断面が三角形の礫の稜を磨ったもの、円礫を素材としたもの、扁平な礫や礫を扁平に打ち剥き周辺を半円状に打ち欠いたり両端を打ち欠き弦を擦ったりした扁平打製石器と称されるもの、北海道式石冠と称されるもの、分類の困難な破片などに分けられる。

石鍾：扁平礫の2カ所又は4カ所を打ち欠き紐・縄など掛ける用としたもの。

砥石：研磨面に溝があるもの、研磨面が平滑かやや凹状で板状のもの、角柱状のものに分けている。

石鉾：薄い礫を素材とし、機能部の断面形がU字またはV字状で長軸方向に擦痕のあるもの。

台石・石皿：敲打痕もしくは擦痕のある大形礫。

その他剥片等

Uフレイク：使用痕のみられる剥片。

Rフレイク：調整痕のみられる剥片。

ピエス・エス・キーク：両極打法による剥片

フレイク：石核・石器から剥離されたもので、二次的な剥離を受けていないもの。

石核：剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。

加工痕礫：加工痕・使用痕のみられる礫。

礫・礫片：加工痕・使用痕はみられない礫・礫片のうち被熱など有意と思われるもの。

石製品等

玉類などの装飾品や祭祀に用いる石器、異形石器に分けている。

(c) 鉄製品

鉄製品は、器種別に分けている。

(谷島)

(6) 調査結果の概要

平成18年度の調査は12,600㎡の調査を行った。このうち9,000㎡は河岸段丘上でありE地区と呼称した。黒色土の残りが良く遺構の生活面より上位が残存する部分と耕作による削平で遺構の底部分がかるうじて残る、または、完全に痕跡が削平された部分が含まれる。

柏木川の氾濫原をD地区と呼称した。この地区については本報告から除外した。

地区名、および、調査年度については「3 調査に至る経緯」を参照していただきたい。

河岸段丘上の調査

河岸段丘上から縄文時代前～晩期・擦文時代の遺構が検出されている。

竪穴住居跡11軒や晩期を主体とした土坑212基、小ピット12カ所、中～晩期の焼土122カ所、炭化物集中1カ所、フレイクチップ集中3カ所、遺物集中1カ所、土器集中3カ所が確認された。

出土した遺物は縄文時代早期～晩期・擦文文化期・アイヌ文化期があり、縄文時代中期後半と晩期後葉が主体をなし、土器、石器等63,838点が出土している。

段丘上の遺構のなかでは、縄文時代晩期後葉の土坑墓K P-397で足形付土製品・手形付土製品が

副葬されていた。規模は長径80cm、短径60cm、深さ27cmの楕円形で、底は丸みがあり、埋め戻されている。足形付・手形付土製品各1点、把手付双口土器など土器5点、および石斧1点の計8点が出土している。土器型式はタンネトウシ式である。

擦文時代の隅丸長方形を呈する土坑8基と楕円形の土坑1基が検出されている。その内、隅丸長方形の土坑6基は長軸が平行した二基一対で、それぞれ30～40m離れている。

柏木川の氾濫原の調査

氾濫原では縄文時代後期後葉以降の時期の異なる河道跡が確認されている。

土器や石器など遺物が多く出土し岸辺の利用が認められるのは後期後葉の河道跡で、木製品などの有機質遺物も出土している。晩期と擦文の河道跡では遺物の出土も少なく、また、有機質遺物の残る環境ではなかったようである。

後期後葉の河道跡から出土した有機質遺物は長さ約60cmの舟形容器や槌状木製品、掘り棒様の両端の尖った木製品など約40点や漆製品の薄片3点が出土している。

さらに、編布と思われる繊維製品が1.2m×0.6mの範囲で出土している。この繊維製品は2種類以上の編み方（綴じ方）が認められ、折り重なって出土している部分もある。この他、土器の補修孔に紐の一部が残って出土している。

有機質の脆弱な遺物は保存処理が必要なため平成17年度調査の北側B地区と平成18年度D地区と合わせて平成20年度以降に刊行する予定である。

(谷島)

表I-1 遺構

	検出遺構	欠番遺構	泥濘原B・D地区の遺構
堅穴住居跡	KH-5~11		
土坑	K P-296~364・366~381・383~406・411~413・415~435・437~515	K P-365・382・407~410・414・436	K P-292~295
小ピット	S P-6~17		
焼土	K F-120~160・162~174・176~193・195~212・214~232・234~240・243・244・252~254・259・斜面の焼土	K F-161・175・194・213・265~267	K F-114~119・233・241・242・245~251・255~258・260~264・268~273
炭化物集中	K C-1		K C-2~?
フレイクチップ集中	F C-2~4		F C-1・5・6
遺物集中	遺物集中1		
土器集中	土器集中28・31・32	土器集中7・8・10・30	土器集中1~6・9・11~27・29・30・33

表I-2 出土遺物

	平成17年度		平成18年度		計
	A地区包含層	C地区包含層	E地区包含層	E地区遺構	
I a	24				24
I b-3			24	24	48
I b-4			159	144	303
II a			20	4	24
II b	50	1,078			1,128
III a			333	739	1,072
III b	706	1,022	6,441	578	8,747
IV	117				117
IV a			258	97	355
IV b			164	23	187
IV c	9		976	113	1,098
V a			11	6	17
V b				62	62
V c	25,875	92	2,604	1,530	30,101
VI	4		8		12
VII	583	31	724	401	1,739
不明	6				6
計	27,374	2,223	11,722	3,721	45,040
土製品	1			12	13
石鏃	124	9	45	14	192
石槍	7	8	6		21
石鏃	15	4	9		28
つまみ付きナイフ	6	10	16	5	37
スクレイパー	230	15	63	15	323
両面調整石器	1		3		4
ピエス・エスキュー	3		3		6
Uフレイク			60	11	71
Rフレイク	103	13	50	14	180
フレイク	3,392	775	1,627	7,491	13,285
石核	18	9	22		49
石斧	37	21	25	2	85
石斧片	12	7	52	25	96
たたき石	39	6	36	7	88
凹石			7	1	8
すり石	6	1	11	1	19
扁平打製石器		1		2	3
北海道式石冠	1	7	18	7	33
石鏃			2		2
石鏃		2			2
砥石	25	5	12	6	48
台石	1		2	4	7
石皿	3	1	4	2	10
原石	11		9	2	22
鏃	1,617	1,029	955	319	3,920
鏃片			38	199	237
計	5,651	1,923	3,075	8,127	18,776
石製品	6				6
金属製品	3				3
合計	33,035	4,146	14,797	11,860	63,838

II 遺跡の位置と環境・周辺の遺跡

1 遺跡の位置と環境

柏木川4遺跡は北海道石狩地方南部、太平洋と日本海に挟まれた石狩低地帯の中央に位置する恵庭市にある。西側は恵庭岳(1,320m)や漁岳(1,318m)から続く山地で、遺跡(図I-1)は山地から扇状地の地形転換部分で標高約40mに立地し、柏木川右岸の河岸段丘と氾濫原からなる。

柏木川は石狩川水系の千歳川の支流で、水源は遺跡の西に広がる広大な陸上自衛隊島松演習場内にあり約2km山側の木村丘付近から発している。柏木川の長さは19.2kmでキトウシメムナイ川などの小河川と合流し、下流ではルルマップ川と合流して島松川に流入している。島松川は千歳川に合流し、さらに石狩川に合流して日本海に注ぐ。

柏木川は明治29年地測量部仮製5万分1図「長都」で「ベケレベッ」と記載されている。

「恵庭市史」(1979)の中で松浦武四郎の『西蝦夷日誌』(安政5年、1858)を引用し「(前略)茅野過てロロマップ(小川)、名義第一上の枝川と伝儀。過てヘケレベ(橋有)、名義明き川なり、水底焼砂にて濁らざるなり。是迄の川皆シュママップに落。(後略)」とある。同じく、松浦武四郎「新道誌」『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』に「(前略)其土皆むかしタルマイ山の焼石なりと。故に水至りて清冷なるによって此名有るなり。(後略)」と有り、「タルマイ山の焼石」は1739年降下の樽前a火山灰のことでその色調が明灰白色であることから、河床堆積物の色調から命名されたものと考えている。また、榎原正文の『データベースアイヌ語地名3』(2002)ではアイヌ語で「ベケレ・ベッ」「明るい・川」の意としている。

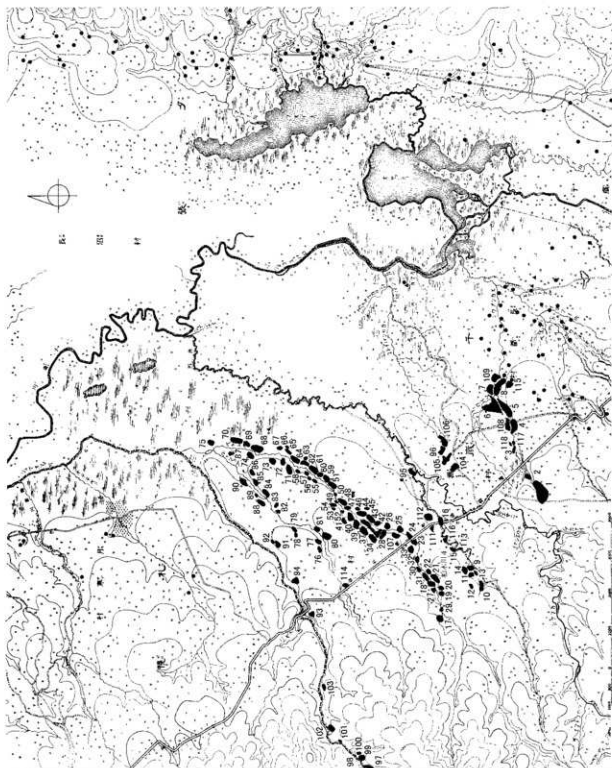
遺跡より1km程上流に道立水産孵化場があり、湧水がみられる。現在は河川改修や土砂の堆積などでサケ等の遡上は少ないようであるが、焼土のフローテーションサンプルから多量のサケ類等の焼骨が検出されている。

アイヌ語地名の「ベケレベッ」から現在の「柏木川」に至る変遷は、以下のように地形図から読み取れる。明治29年地測量部仮製5万分1図「長都」(図II-1)によると、「ルルマップ」川合流点の上流に柏木川「ベケレベッ」の表記がある。中流には小河川の「キトウシメムナイ」も記入されている。明治43年陸地測量部仮製5万分1図「漁」(図I-2)によると「島松川」の合流点から「ルルマップ」川の合流点までの地名の表記は「ベケレベッ川」となり、中流に「柏木川」の表記がされている。

本遺跡周辺の地質は第三紀層を覆う火山性の堆積物からなっている。これらは支笏湖を含む周辺の火山群の噴出物である。地表近くには上からT a - a層(1739年)、T a - b層(1667年)、B - T m層(約1000年前)、T a - c層(約2500年前)が堆積し、年代判定の指標となっている。

2 周辺の遺跡

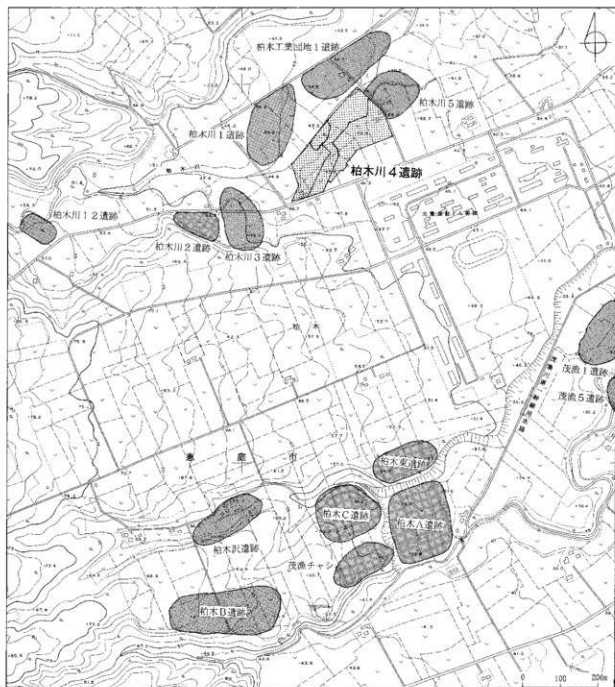
石狩低地帯の中央部(図II-1)は西方の支笏湖周辺に恵庭岳や漁岳、空沼岳などの山地と東の馬追丘陵に挟まれ、中央を南から北に千歳川と支流の水系が平野部を流れている。西側を恵庭市と北広島市、南側を千歳市、東を長沼町が位置する。平野部は標高7~10mで、現在は排水・灌漑が進み水田や畑が広がっているが、嘗てはオサットー、マオイトーなどの沼沢地帯が広がっていた。沼沢地帯の周囲の丘陵や山地縁辺の川筋及び、平野部の河川の傍に位置する微高地に遺跡が立地し、その分布は千歳川下流(北側)の開いた馬蹄形を呈する。



図II-1 馬込の地形と遺跡
 (この図は陸地測量部、明治29年北海道製5万分1之尺「長部」を複製し加筆したものである)

遺跡の遺跡一覧 (遺跡番号 A-04)

1	遺跡番号	A-01
2	遺跡名	馬込
3	遺跡の位置	27. 30.70.65.61
4	遺跡の形状	54 南北長
5	遺跡の面積	30. 3.20.70.65.62
6	遺跡の用途	55 中層長
7	遺跡の用途	56 中層長
8	遺跡の用途	57 中層長
9	遺跡の用途	58 中層長
10	遺跡の用途	59 中層長
11	遺跡の用途	60 中層長
12	遺跡の用途	61 中層長
13	遺跡の用途	62 中層長
14	遺跡の用途	63 中層長
15	遺跡の用途	64 中層長
16	遺跡の用途	65 中層長
17	遺跡の用途	66 中層長
18	遺跡の用途	67 中層長
19	遺跡の用途	68 中層長
20	遺跡の用途	69 中層長
21	遺跡の用途	70 中層長
22	遺跡の用途	71 中層長
23	遺跡の用途	72 中層長
24	遺跡の用途	73 中層長
25	遺跡の用途	74 中層長
26	遺跡の用途	75 中層長
27	遺跡の用途	76 中層長
28	遺跡の用途	77 中層長
29	遺跡の用途	78 中層長
30	遺跡の用途	79 中層長
31	遺跡の用途	80 中層長
32	遺跡の用途	81 中層長
33	遺跡の用途	82 中層長
34	遺跡の用途	83 中層長
35	遺跡の用途	84 中層長
36	遺跡の用途	85 中層長
37	遺跡の用途	86 中層長
38	遺跡の用途	87 中層長
39	遺跡の用途	88 中層長
40	遺跡の用途	89 中層長
41	遺跡の用途	90 中層長
42	遺跡の用途	91 中層長
43	遺跡の用途	92 中層長
44	遺跡の用途	93 中層長
45	遺跡の用途	94 中層長
46	遺跡の用途	95 中層長
47	遺跡の用途	96 中層長
48	遺跡の用途	97 中層長
49	遺跡の用途	98 中層長
50	遺跡の用途	99 中層長
51	遺跡の用途	100 中層長
52	遺跡の用途	101 中層長
53	遺跡の用途	102 中層長
54	遺跡の用途	103 中層長
55	遺跡の用途	104 中層長
56	遺跡の用途	105 中層長
57	遺跡の用途	106 中層長
58	遺跡の用途	107 中層長
59	遺跡の用途	108 中層長
60	遺跡の用途	109 中層長
61	遺跡の用途	110 中層長
62	遺跡の用途	111 中層長
63	遺跡の用途	112 中層長
64	遺跡の用途	113 中層長
65	遺跡の用途	114 中層長
66	遺跡の用途	115 中層長
67	遺跡の用途	116 中層長
68	遺跡の用途	117 中層長
69	遺跡の用途	118 中層長
70	遺跡の用途	119 中層長
71	遺跡の用途	120 中層長
72	遺跡の用途	121 中層長
73	遺跡の用途	122 中層長



図Ⅱ-2 遺跡周辺の地形

恵庭市内では、小河川の流域に遺跡が集中することが知られている。なかでも柏木川流域に遺跡が多く、市内で周知されている124か所の遺跡のうち、半数の60か所が柏木川流域に分布する（図Ⅱ-1、番号を付したものは恵庭市内の遺跡である）。当遺跡は柏木川の上流部に位置する。周辺については、図Ⅱ-2を参照されたい。

旧石器時代

茂漁4遺跡でEn-a層から細石核・掻器等が、ユカンボシE10遺跡では細石刃・細石核が、ユカンボシE5遺跡で細石核が、中島松6遺跡で細石核と彫器が出土している。

縄文時代早期

柏木川13遺跡で、竪穴住居跡が1軒検出され、床面から前半期に属する平底の貝殻文土器と蛇紋岩製の石斧や石製品が出土した。柏木川11遺跡からは、東銅路Ⅱ式土器が出土している。島松町甲遺跡からは、アルトリ式・東銅路Ⅲ式・東銅路Ⅳ式土器が出土している。カリンバ2遺跡第Ⅳ地点からは東銅路Ⅲ式～中茶路式期の住居跡が18軒検出されている。

縄文時代前期

柏木B遺跡では末期の植苗式土器・大麻Ⅴ式土器を伴う住居跡が24軒検出された。柏木川7遺跡からは大麻Ⅴ式期の住居跡が7軒検出されている。柏木川8遺跡からは加茂川式土器が出土している。

縄文時代中期

柏木川1遺跡は柏木川式土器の標識遺跡である。竪穴住居跡が6軒調査され、口縁部に貼付帯をもつ深鉢形土器が2個体と、まとまった石器が出土した。西島松14遺跡からは終末期の大木10式土器を伴う土坑が1基検出されている。西島松15遺跡からは柏木川式土器の時期の竪穴住居跡が17軒検出されている。B地点でも同時期の竪穴住居跡が4軒検出されている。カリンバ2遺跡第Ⅶ地点からは円筒土器上層式期2軒、柏木式期7軒、北筒式期11軒の竪穴住居跡が検出されている。北筒式期の住居跡のうち長軸12mを越える大型住居跡が2軒ある。カリンバ1遺跡C・Eからは円筒土器上層d式～柏木川式期にかけての住居跡が22軒検出されている。このうち長軸が約17mと約30mの大型住居跡が2軒ある。

縄文時代後期

カリンバ3遺跡では終末期の墓から漆塗り装身具や玉・勾玉が大量に見られている。これらの出土品は平成17年に国の史跡カリンバ遺跡として指定された。柏木B遺跡では3基の周堤墓が調査され土壌から石棒・玉類が出土した。西島松5遺跡では前葉の余市式に相当する住居が2軒、中葉の手稲式～ホッケマ式に相当する円形の住居3軒の調査が行われている。他に、ユカンボシE3遺跡・ユカンボシE8遺跡などがある。

縄文時代晩期

柏木川8遺跡からタンネットウL式土器が出土している。

続縄文時代

柏木B遺跡では後北C₁・D式土器の時期の土坑墓が検出され、柱穴様ビットや付属ビットを持つものが確認されている。土坑墓の付属ビットの可能性のあるものからガラス玉が30個出土している。

縄文時代

柏木川1遺跡では前半期の墳墓が1基調査され、甕・坏とともに刀子・鎌・鍬などの鉄製品も出土した。柏木東遺跡（茂漁古墳群）では、昭和9年の調査で北海道式古墳が19基確認された。柏木川11遺跡は竪穴住居跡が3軒調査された。いずれも焼失住居である。茂漁4遺跡は7軒の竪穴住居跡が調査され、住居内から琥珀玉・須恵器蓋が出土している。柏木川13遺跡は竪穴住居跡が5軒検出された。このうち3軒は外側四隅に柱穴を持ついわゆる「カリンバ型」の住居である。西島松5遺跡では10軒の竪穴住居跡の調査が行われ、その7割でカマドの煙道が南向きであるとの結果が得られている。

アイヌ文化期

茂漁チャシ跡が茂漁川左岸の段丘上に立地している。面崖式のチャシで2本の塚が確認されている。カリンバ1遺跡C・E地点からは、近世アイヌ期の建物跡や焼土が検出されている。なお、この周辺には集落跡が確認されている。(谷島)

III 河岸段丘上の遺構と遺物

1 遺構と出土遺物

遺構は平成18年度調査範囲のE地区を対象として掲載している。

段丘上（E地区）の遺構は竪穴住居跡が7軒、土坑が212基、小ピットが12カ所、焼土122カ所、炭化物集中が1カ所、フレイクチップ集中が3カ所、遺物集中が1カ所、土器集中が3カ所検出された。北側の段丘崖付近に位置する遺構では包含層が残存し掘り込み面や生活面の判明したところもあるが、段丘崖から離れた奥側は耕作によりV層からの検出となっている遺構が多い。

欠番遺構や氾濫原のB地区・D地区の遺構により番号が途切れているので、これらについては「表I-1遺構」を参照していただきたい。また、対象とした遺構や遺構出土遺物はこの章の最後に表を付した。

(1) 竪穴住居跡

KH-5（図Ⅲ-2・55 図版2・47）

位置・立地：R・S-45、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：3.10×2.82m 平面形：不整楕円形

確認・調査：削平を受けているIV層中で、土器囲い炉とその周囲に広がる堅くしまりのある範囲を確認した。土器囲い炉は隅丸長方形で、底面は丸みがあり、掘り込みを持つものである。炉の周辺には細かい炭化物が分布している。炉の土器片は、深鉢一個体の口縁部から胴部の破片で、すべて土器の内面を内側に向けて設置している。堅くしまりのある範囲は平坦であることから、床面と考えられる。周辺の包含層はIV層中まで削平を受けているため、壁の立ち上がりは確認できなかった。堅くしまりのあるIV層の範囲及び周辺の精査を行ったが、柱穴は確認できなかった。炉跡の土器以外は、遺物は出土しなかった。

時期は土器囲い炉の土器から、縄文時代後期初頭の時期と考えられる。（佐藤）

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部。口縁部は幅の広い折返し口縁で、さらに口縁部から胴部にかけて5条の幅の狭い扁平な貼付けがある。RL多条縄文+LR多条縄文。余市式土器。

KH-6（図Ⅲ-3・55・66、図版3・4・47・57）

位置・立地：T・U-63・64、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：3.14/2.96×2.58/2.40×0.24m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層の精査で暗褐色土のまとまりを検出した。長軸は北西から南東でV層に掘り込まれている。

床は南東が高くやや傾斜し、緩やかな凹凸がみられる。

東側の床面から長軸1.76m、短軸1.08mの不整な楕円形で坑底がほぼ平坦なピットを検出した。上部には焼土があり住居の地床炉として使用されていた痕跡がある。ピットの覆土から住居と同じようにⅢ群a類とb類の土器が出土していることから、ピットを埋め床面と地床炉として使われていたものと考えられる。

柱穴跡は北側の床に1カ所、北東壁に1カ所検出されている。竪穴の外側を精査したところ、東側に2カ所、北側に3カ所、西側に1カ所検出されている。

出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時代の竪穴住居跡である。(谷島)

掲載遺物：土器：1～2は深鉢の胴部。1は太めの貼付けがあり、その上に竹管状工具による押し引き。2は細めの貼付けがあり、貼付けに沿って縄文押圧。1は萩ヶ岡3式土器。2は萩ヶ岡4式土器。

石器：1・2は黒曜石製の石鎌で有茎凸基もの。2は尖頭部を再加工したため平面形が丸くなっている。3は厚みのある黒曜石製のスクレイパー。上半は折れて欠損している。4は3面を使用した砂岩製の砥石。5は泥岩の楕円礫を使用した砥石。側面に縦方向の使用痕がみられる。

KH-7 (図Ⅲ-4・5・66、図版4・5・57)

位置・立地：R-64・65、段丘崖から約2m離れた調査区北側に位置する。

規 模：4.48/3.55×4.10/3.24×0.22m 平面形：隅丸方形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。西側は段丘崖で近・現代の攪乱により確認面はⅣ層である。

平面形は隅丸方形を呈し、壁の内側20から60cmがベンチ状になり床面より高い。掘り込みはⅤ層に達し床面は緩やかな凹凸がみられるがほぼ水平である。北西側の床面は攪乱を受け壊されている。

中央部の北よりに地床跡が検出されている。柱穴跡は床面とベンチの段差部分から8カ所、ベンチと壁から17カ所、竪穴の外に25カ所検出されている。ベンチからフレイク・チップが多量に出土し、そのうち特にまとまっていた部分10カ所をKH-7フレイク集中として取り上げている。このフレイク集中はベンチ上の柱穴と重なる部分が多い。

出土遺物や遺構の形態、覆土から縄文時代中期前半Ⅲ群a類土器の時代の竪穴住居跡である。

掲載遺物：石器：1・2は黒曜石製の石鎌で木葉形のもの。3は頁岩製のスクレイパーで刃部は半円形を呈する。4は黒曜石製のスクレイパーで石槍またはナイフの破片に折れ面を打点とした再加工を施している。両者ともフレイク集中から出土している。5は安山岩の楕円礫を使用したたたき石で両端部に使用痕がみられる。上部のたたき痕から縦方向に割れたものが2点接合している。6は砂岩製の砥石破片。両面を使用している。(谷島)

KH-8 (図Ⅲ-6・7・8・9・55・66、図版6・7・47・57・58)

位置・立地：O・P-70～74、Q-70～72、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：17.87/9.97×17.20/9.55×0.20 平面形：隅丸長円形

確認・調査：Ⅲ～Ⅳ層の精査で検出した。8カ所以上の近・現代の攪乱により遺構の形態が捉えにくい竪穴であるが、長軸方向が北東を向き約18mを測る。床面は東側が低いほぼ平坦である。

床面とやや床より浮いて焼土が12カ所から検出されHF-10を除き北半に位置する。焼土の配列は認められない。

中央よりやや北側のHF-5の上にフレイク集中が検出されている。

柱穴は床面に19カ所、北西側の壁に7カ所、東側の壁に2カ所、南側の壁に3カ所みられる。壁から検出された柱穴は並ぶが、床面のは配列が捉えがたい。

覆土から掘りこまれたKP-431・432・433・502が床面を掘り込んでいる。

出土遺物や遺構の形態、覆土から縄文時代中期前半Ⅲ群a類土器の時代の竪穴住居跡である。

(谷島)

掲載遺物：土器：1～2は深鉢の口縁部。1は細めの貼付けがあり、貼付けに沿って縄文押圧。2は口唇部に竹管状工具による刺突。3は深鉢の胴部。原体はLR+RL結束第1種。4は深鉢の底部。底部外面は無文である。1～3は萩ヶ岡4式土器。4は天神山式土器と考えられるが、萩ヶ岡4式土

器の可能性もある。

石器：1は石鏃で黒曜石を使用した有茎凸基のもの。2～4は頁岩製のつまみ付ナイフ。2は2点が接合している。3・4は横型のもの。3はつまみ部上に打面があり、4は表面から見ると左側に打点がある。5は頁岩製のスクレイパーで上部の折れ面に再調整の痕がみられる。6は泥岩の亜円礫を使用したたき石で角になる部分に使用痕がみられる。7は安山岩の円礫を使用したたき石。8は扁平な礫の3辺に打ち欠きがみられる扁平打製石器だが未使用である。9は砂岩製の砥石で1面を使用している。10は安山岩を使用した台石。2点が接合している。

KH-9 (図III-10・55・67、図版8・47・58)

位置・立地：W-42・43、調査区南側の段丘上の標高45.2m付近に位置する。

規 模：2.57/2.44×2.38/2.26×0.16m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。床面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。炉は掘り込みのある地床炉である。炉の覆土は掘り込み部分より西側に広がっており、掘り込み部分よりも広く炉として使っていたと考えられる。柱穴は壁際に4本確認した。いずれも浅いものである。南東側の壁際にはV層を掘り残したベンチ構造がある。ベンチ部分はほぼ平坦である。遺物は炉の周辺を中心に、細かな土器片とフレイクを床面及び床面からやや浮いた状態で確認した。

時期は床面の土器片から、縄文時代中期前半の時期と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。太めの貼付けがあり、その上に竹管状工具による押し引きが施される。萩ヶ岡3式土器。

石器：1は黒曜石製のスクレイパーで半円状を呈する。2は黒曜石のRフレイクで3辺に使用痕がみられる。

KH-10 (図III-11・55、図版9・47)

位置・立地：V・W-41、調査区南側の段丘上の標高45.2m付近に位置する。

規 模：2.15/2.09×1.88/1.82×0.07m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、炭化物混じりの黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は炭化物を含む自然堆積である。極浅いものであったが、床面と柱穴及び隣りに接するKH-9と規模と遺物出土状況が類似することから、堅穴住居跡と判断した。床面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。柱穴は南西側の壁際に2本確認した。いずれも浅いものである。炉は見られなかった。覆土中に炭化物を含むため、焼失家屋の可能性がある。ベンチ構造については確認できなかったが、削平により極浅いものであったためとも考えられる。遺物は東側を中心に、細かな土器片とフレイクを床面及び床面からやや浮いた状態で確認した。

時期は床面の土器片から、縄文時代中期前半の時期と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部。口唇部上に刺突。2は深鉢の胴部。R.L複節縄文。1～2は萩ヶ岡2～3式土器。

KH-11 (図III-11・55・67、図版10・47・59)

位置・立地：O-77、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.74/2.34×××0.22m 平面形：楕円形？

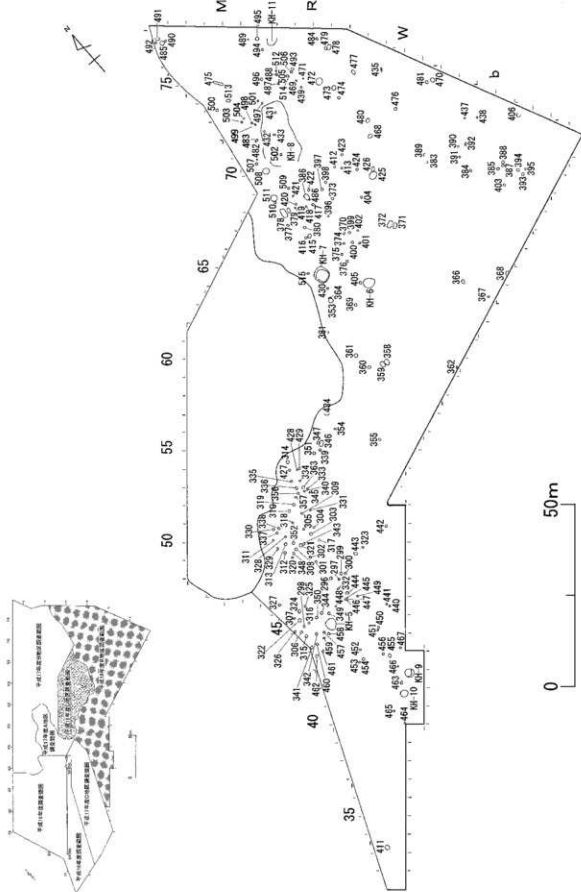
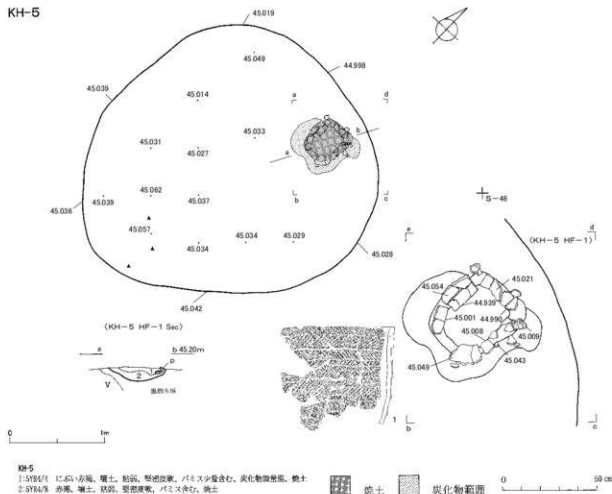


図 III - 1 聚穴住居跡と土坑分布

KH-5



図III-2 KH-5

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出された。北西側半分は調査区外のクリアランスで調査していない。

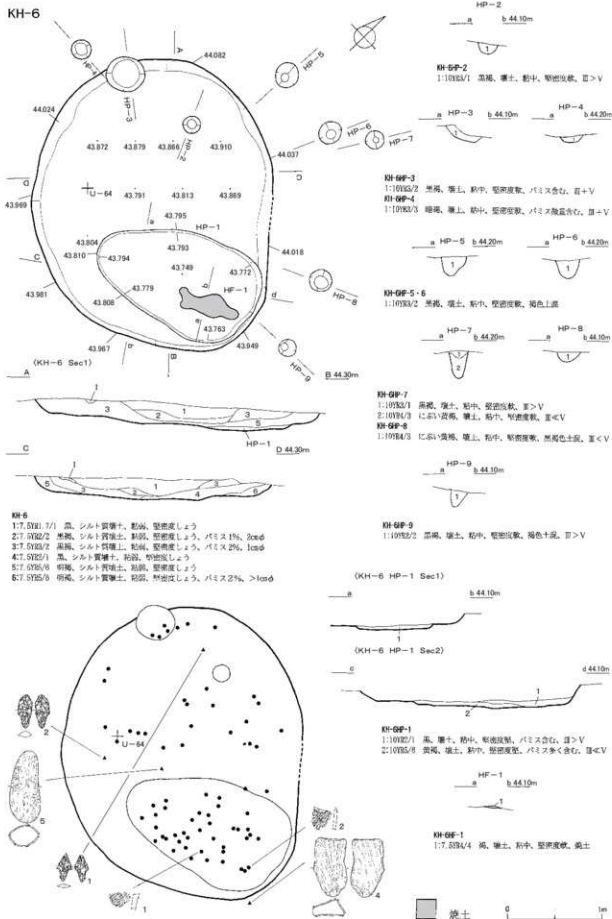
床面は南西側が低く緩く傾斜するがほぼ平坦である。床のほぼ中央部と思われるところに焼土HF-1があり、東側に付属ピットHP-1がある。HP-1は西側に攪乱がみられる。焼土は床面から盛り上がりしている。出土した遺物は床面より若干上で出土していることから覆土2は張り床として埋めていたと思われる。柱穴は検出されなかった。

炭化物の年代測定値は4490±40yrBP (No.1: IAAA-62015)の値が出ている。

出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の竪穴住居跡である。(谷島)

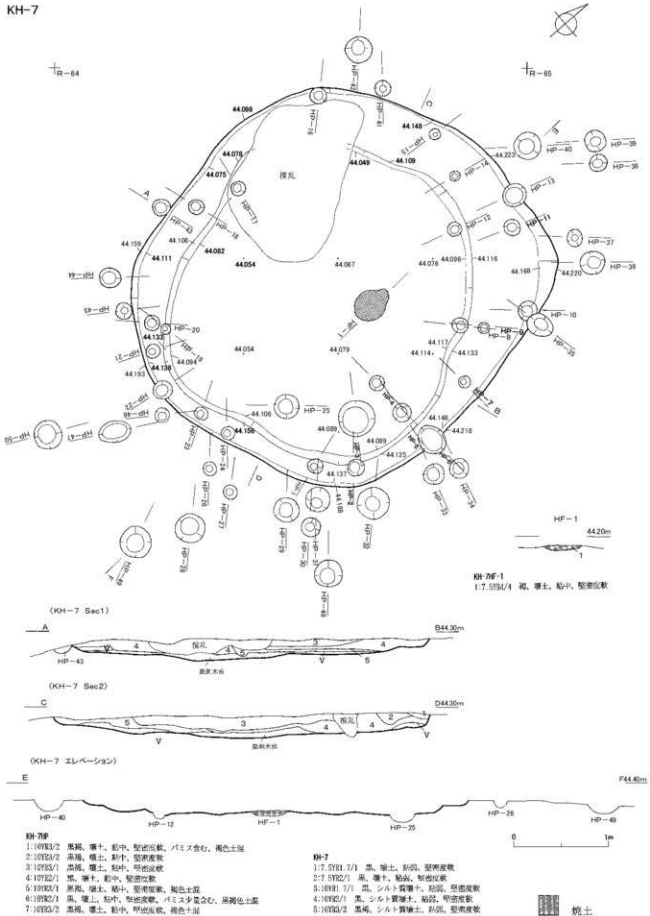
掲載遺物：土器：1～2は深鉢の口縁部。1は一部に突起部が残る。原体はLR+RL結末第1種。2は口唇部下に細めの貼付けが施される。貼付け上に棒状工具による押圧がある。原体はLR+RL結末第1種。1～2は萩ヶ岡4式土器。

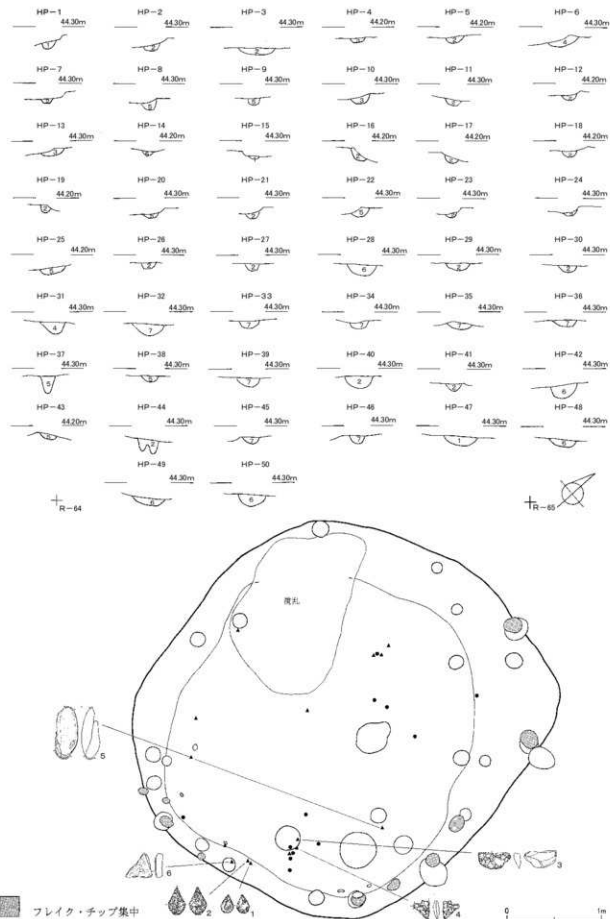
石器：1は頁岩製のつまみ付ナイフ。2は片岩製の石斧で身が薄く造られている。3・4は北海道式石冠で安山岩を使用している。両者とも左側が破損し、すり面にたたき痕がみられる。4の上部は2面のすり痕がみられる。



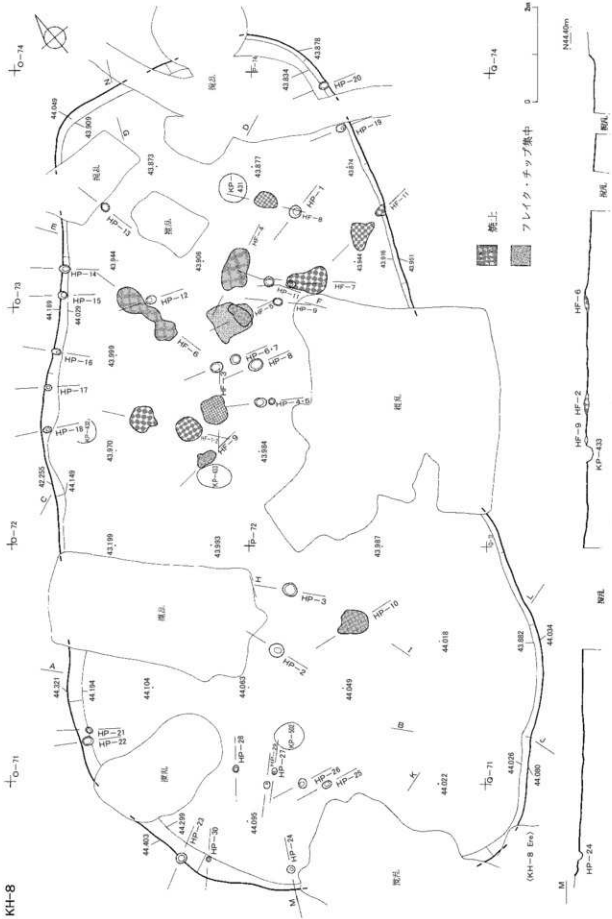
図III-3 KH-6

KH-7

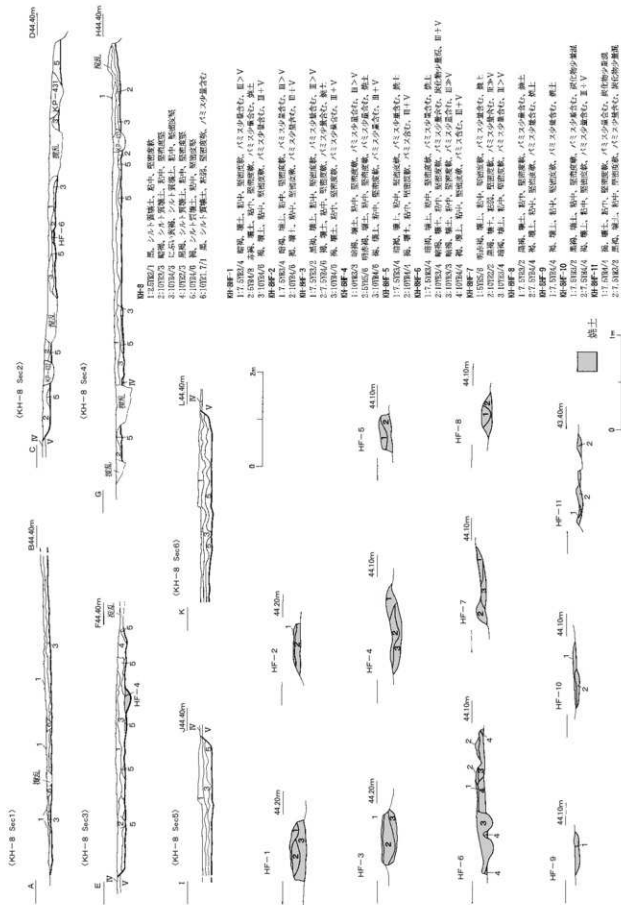




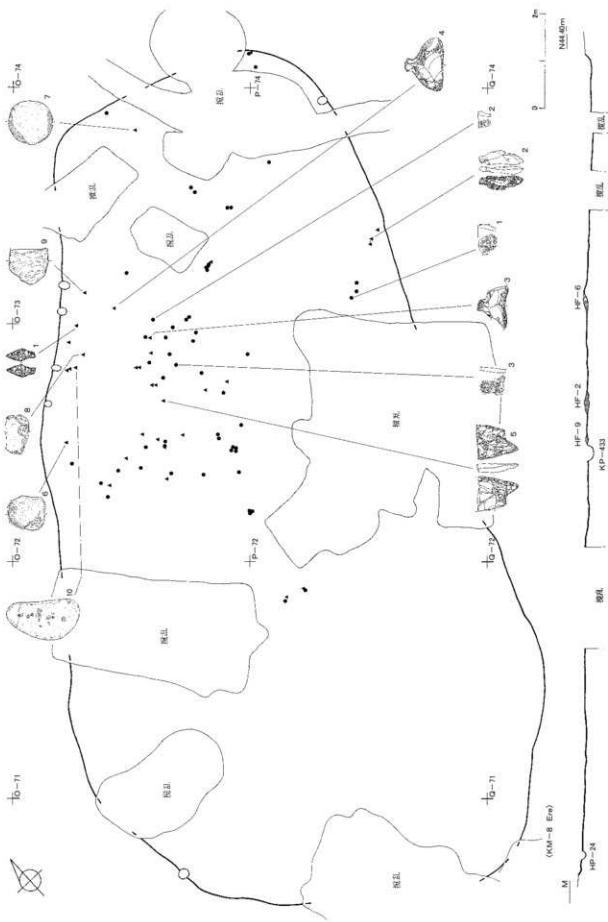
図III-5 KH-7(2)



図III-6 KH-8(1)

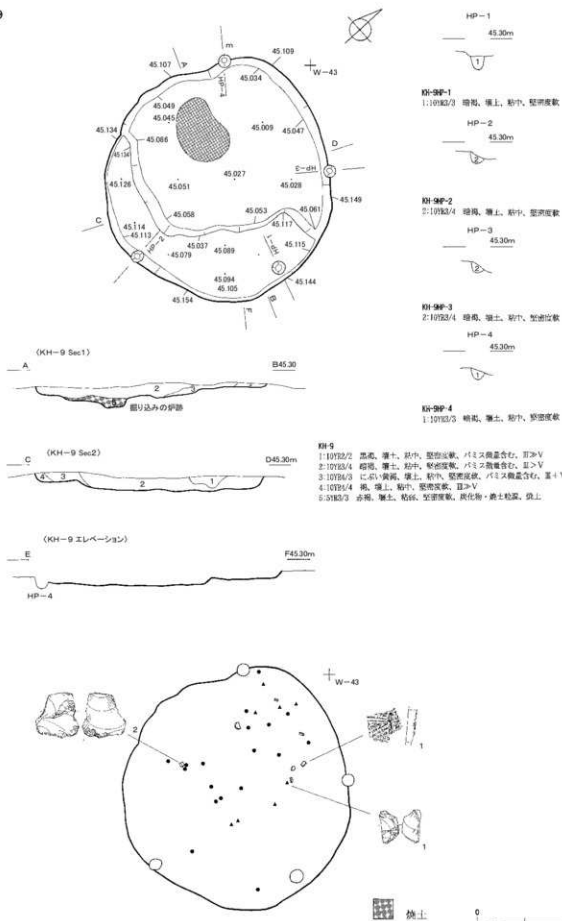


図III-7 KH-8(2)



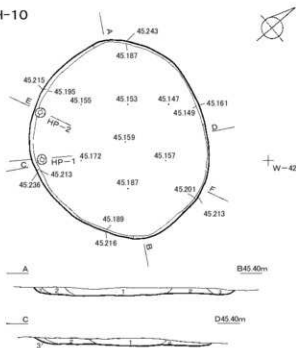
図III-9 KH-8(4)

KH-9



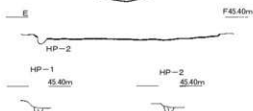
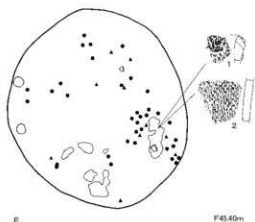
図III-10 KH-9

KH-10



KH-10

- 1:10Y2/1 土、礫土、砂小、堅硬皮膜、パミス少量含む、黄褐色土層、Ⅱ>V
 2:10Y2/2 黒褐、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、炭化物多
 3:10Y2/3 暗褐、礫土、砂中、堅硬皮膜、褐色土層、Ⅱ+V



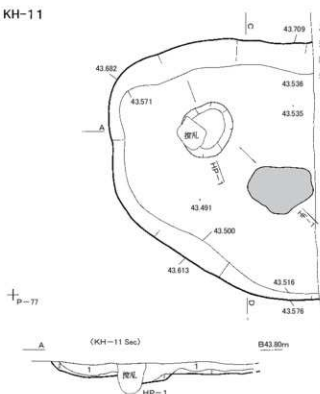
KH-10F-1

- 1:10Y2/2 暗褐、礫土、砂小、堅硬皮膜

KH-10F-2

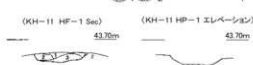
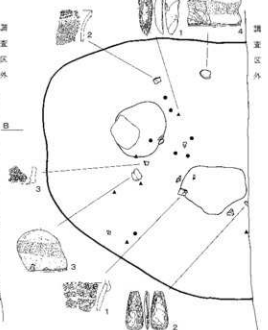
- 1:10Y2/4 暗褐、礫土、砂中、堅硬皮膜

KH-11



KH-11

- 1:10Y2/2 黒褐、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、Ⅱ>V
 2:10Y2/3 暗褐、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、Ⅱ>V
 3:10Y2/4 暗、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、Ⅱ+V



KH-11F-1

- 1:7.5Y2/1 7/1 黒、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、炭化物少量混
 2:7.5Y2/4 暗褐、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、炭化物少量混、礫土
 3:5Y2/4 に近い暗褐、礫土、砂中、堅硬皮膜、パミス少量含む、炭化物少量混、礫土



図III-11 KH-10・KH-11

(2) 土坑

KP-130 (図Ⅲ-56、図版48)

昨年度調査を行ったKP-130出土遺物と今年度報告している包含層出土遺物が接合したため、ここで報告する。

掲載遺物：土器：1は深鉢。口縁部に沈線による施文。突起部がある。タンネットウシ式土器。

KP-296 (図Ⅲ-12、図版11)

位置・立地：R・S-47・48、調査区南側中央の段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.84/0.56×0.82/0.54×0.34m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層はⅢ層の自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はやや丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-297 (図Ⅲ-12、図版11)

位置・立地：S-47、調査区南側中央の段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.65/0.36×0.58/0.34×0.22m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-298 (図Ⅲ-12、図版11)

位置・立地：Q-45、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.70/0.58×0.58/0.44×0.16m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-299 (図Ⅲ-12、図版11)

位置・立地：S-48、調査区南側中央の段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.82/0.62×0.72/0.52×0.27m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層はⅢ層の自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-300 (図Ⅲ-12、図版11)

位置・立地：S-48、調査区南側中央の段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.75/0.46×0.68/0.44×0.23m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層はⅢ層の自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-301 (図Ⅲ-12、図版11)

位置・立地：R-48、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.62/0.38×0.52/0.29×0.23m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-302 (図Ⅲ-12)

位置・立地：Q-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.60/0.34×0.57/0.35×0.10m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-303 (図Ⅲ-12、図版12)

位置・立地：Q-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.87/0.44×0.84/0.42×0.28m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は2層中から出土したが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-304 (図Ⅲ-13)

位置・立地：Q・R-50、調査区南西側の段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.67/0.30×0.64/0.33×0.21m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は2層中から出土したが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-305 (図Ⅲ-13)

位置・立地：Q-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.63/0.45×0.57/0.39×0.16m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は覆土中から出土したが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-306 (図Ⅲ-13)

位置・立地：Q-44・45、調査区南西側の段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.74/0.50×0.64/0.46×0.14m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。坑底から枝状の炭化物が出土した。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-307 (図Ⅲ-13)

位置・立地：P-45：調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.63/0.43×0.48/0.30×0.15m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-308 (図Ⅲ-13)

位置・立地：P・Q-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.83/0.50×0.76/0.46×0.18m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。遺物は覆土中から出土したが、遺構には伴わない。

KF-166を壊していることからより新しい。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-309 (図Ⅲ-13、図版12)

位置・立地：Q-51、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.78/0.45×0.64/0.33×0.44m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は小さく、丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-310 (図Ⅲ-13)

位置・立地：P-51、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.76/0.57×0.68/0.46×0.30m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-311 (図Ⅲ-13)

位置・立地：O-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.56/0.34×0.52/0.28×0.21m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-312 (図Ⅲ-14、図版12)

位置・立地：P-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.82/0.60×0.75/0.52×0.30m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は覆土中から出土したが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-313 (図Ⅲ-14)

位置・立地：P-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.86/0.53×0.86/0.50×0.24m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-314 (図Ⅲ-14、図版12)

位置・立地：P-54、調査区南西側の氾濫原に面した標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.90/0.50×-/×0.49×0.44m 平面形：円形

確認・調査：段丘斜面のV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。斜面下側の半分は崩落していた。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-315 (図Ⅲ-14、図版12)

位置・立地：Q-44、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.79/0.46×0.79/0.45×0.31m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-316 (図Ⅲ-14)

位置・立地：Q-45、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.67/0.47×0.56/0.40×0.19m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。遺物は覆土中から出土したが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-317 (図Ⅲ-14)

位置・立地：R-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.68/0.32×0.62/0.31×0.25m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、そ

れ以下は埋め戻しである。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-318 (図Ⅲ-14、図版13)

位置・立地：P-50・51、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.63/0.37×0.62/0.38×0.20m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-319 (図Ⅲ-14、図版13)

位置・立地：P-51・52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.77/0.52×0.74/0.55×0.29m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は東側が若干落ち込むが、ほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-320 (図Ⅲ-15、図版13)

位置・立地：P-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.64/0.42×0.59/0.39×0.23m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-321 (図Ⅲ-15、図版13)

位置・立地：Q-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する

規 模：0.93/0.63×0.89/0.60×0.33m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。KP-343を壊していることから、KP-343より新しい。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-322 (図Ⅲ-15、図版14)

位置・立地：Q-45、調査区南西側の段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：1.04/0.70×0.90/0.55×0.27m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-323 (図Ⅲ-15)

位置・立地：T-49、調査区南側中央の段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 横：0.65/0.38×0.52/0.36×0.26m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-324 (図Ⅲ-15)

位置・立地：Q-46、調査区南西側の段丘上の標高44.9m付近に位置する。

規 横：1.00/0.72×0.77/0.54×0.30m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。周囲にⅢ層が残っていたことから、掘り込み面はⅢ層中と考えられる。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はやや丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-325 (図Ⅲ-15)

位置・立地：Q-46、調査区南西側の段丘上の標高44.9m付近に位置する。

規 横：0.60/0.46×0.56/0.36×0.19m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-326 (図Ⅲ-15)

位置・立地：P・Q-45、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 横：0.58/0.46×0.42/0.37×0.18m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-327 (図Ⅲ-15)

位置・立地：P-46、調査区南西側の段丘上の標高44.9m付近に位置する。

規 横：0.68/0.48×0.63/0.45×0.18m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-328 (図Ⅲ-16)

位置・立地：P-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 横：0.54/0.40×0.53/0.38×0.18m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-329 (図Ⅲ-16)

位置・立地：O-P-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.72/0.48×0.61/0.38×0.28m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-330 (図Ⅲ-16、図版14)

位置・立地：O-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.71/0.50×0.69/0.50×0.28m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-331 (図Ⅲ-16・56、図版14・48)

位置・立地：Q-51、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.50/0.36×0.40/0.24×0.21m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は埋め戻しである。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

掲載遺物：土器；1は深鉢の胴部。原体はLR+RL結束第1種。2は突起部。ための貼付けがあり、その上に沈線文が施される。萩ヶ岡4式土器。

KP-332 (図Ⅲ-16)

位置・立地：S-47、調査区南側中央の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.75/0.59×0.48/0.31×0.24m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-333 (図Ⅲ-16)

位置・立地：Q-52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.64/0.35×0.56/0.29×0.35m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-334 (図Ⅲ-16、図版14)

位置・立地：Q-53、調査区南西側の氾濫原に近い標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.52/0.36×0.46/0.26×0.30m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。KF-121が至近にあるが、関係は不明である。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-335 (図Ⅲ-16、図版15)

位置・立地：P-53、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.69/0.40×0.61/0.39×0.32m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は東側にやや傾斜しながらほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-336 (図Ⅲ-17・56、図版15・48)

位置・立地：P・Q-52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.85/0.63×0.65/0.44×0.61m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。掘り込みは深く、覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土2層中からのみ土器片、フレイクが出土している。埋め戻し土の2層中からのみ遺物が出土していることから、土坑墓の可能性がある。

時期は出土土器から、縄文時代後期後葉と考えられる。 (佐藤)

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部。口縁部は切出し状で、口縁部下にI Oの突瘤文。堂林式土器。

KP-337 (図Ⅲ-17、図版15)

位置・立地：O・P-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.66/0.44×0.62/0.43×0.26m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-338 (図Ⅲ-17)

位置・立地：P-50、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.72/0.57×0.61/0.45×0.19m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-339 (図Ⅲ-17、図版15)

位置・立地：R-54・55、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.5m付近に位置する。

規 横：0.71/0.44×0.66/0.42×0.31m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-340 (図Ⅲ-17、図版15)

位置・立地：Q-52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 横：0.55/0.34×0.43/0.28×0.32m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-341 (図Ⅲ-17)

位置・立地：Q-44、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 横：0.78/0.58×0.76/0.56×0.20m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-342 (図Ⅲ-17)

位置・立地：R-44、調査区南西側の段丘上の標高45.1m付近に位置する。

規 横：0.72/0.49×0.65/0.44×0.22m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-343 (図Ⅲ-17・67、図版59)

位置・立地：Q-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 横：1.22/1.06×0.46/0.33×0.12m 平面形：溝状

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は埋め戻しである。2層は粘性のある灰黄褐色土で、骨が変性した遺体層と考えられる。坑底はやや丸みがあるものの平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。石器は遺構に伴い、土器片は混入と考えられる。遺体層が見られることから土坑墓であり、規模から幼児埋葬と考えられる。KP-321に壊されていることから、KP-321より古い。

時期は、晩期の土坑に壊されていること、溝状の形態からみて、縄文時代後期後葉と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：石器：1は黒曜石の石鏃片だが、形態から未成品が破損したため廃棄した可能性がある。2は黒曜石の石鏃茎部破片。

KP-344 (図Ⅲ-18、図版15)

位置・立地：R-45・46、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.85/0.50×0.78/0.48×0.29m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-345 (図Ⅲ-18)

位置・立地：Q-52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.46/0.33×0.44/0.26×0.17m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-346 (図Ⅲ-18・56、図版16・48)

位置・立地：R-55、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.5m付近に位置する。

規 模：1.58/1.45×0.92/0.80×0.19m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中出土の擦文土器及び礫は他の類似する土坑の出土状況から、遺構に伴うと考えられる。坑底と周辺を精査したが、遺体層や付属施設は見られなかった。

時期は出土土器から、擦文時代前期(8世紀)と考えられる。 (佐藤)

掲載遺物：土器：1は甕の口縁部～頸部。口縁部に1条、頸部にやや密に段状沈線文がある。内外面は横ナデされる。8世紀代の擦文土器。

KP-347 (図Ⅲ-18、図版16)

位置・立地：R-55、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.5m付近に位置する。

規 模：0.83/0.50×0.77/0.46×0.41m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は、一部が若干落ち込むが明瞭な段状にはならず、丸みがある。壁はやや急角度に立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-348 (図Ⅲ-18)

位置・立地：P-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.68/0.43×0.64/0.34×0.17m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-349 (図Ⅲ-18、図版16)

位置・立地：R-45・46、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.85/0.54×0.73/0.44×0.33m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-350 (図Ⅲ-18)

位置・立地：R-45、調査区南西側の段丘上の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.76/0.46×0.66/0.42×0.28m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-351 (図Ⅲ-18、図版16)

位置・立地：Q・R-54、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.5m付近に位置する

規 模：0.84/0.49×0.80/0.46×0.52m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-352 (図Ⅲ-19、図版17)

位置・立地：P-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.76/0.36×0.72/0.35×0.41m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-353 (図Ⅲ-19・56、図版17・48)

位置・立地：R・S-63、段丘崖から約4m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.36/1.12×1.08×0.25m 平面形：隅丸方形

確認・調査：Ⅲ層の精査で重複した黒褐色土のまとまりを確認した。南側が新しいものと判断し調査を進めた。坑底はほぼ平坦で、やや丸みを持って立ち上がる。坑底はV層に掘り込まれている。東側は攪乱により壊されている。北側はKP-364を壊している。覆土上面に焼土が有りその下に黒褐色土がみられる。中央部の覆土中に礫が出土している。

土坑の形態や覆土の堆積土から擦文時代の遺構と考えられる。 (谷島)

掲載遺物：土器；1は甕の胴部。器面調整は内外面とも縦位のハケメ。8世紀代の擦文土器。

KP-354 (図Ⅲ-19)

位置・立地：S-56、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.3m付近に位置する。

規 模：0.64/0.49×0.54/0.45×0.10m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-355 (図Ⅲ-19・56、図版17・48)

位置・立地：U-55、調査区中央の段丘上の標高44.2m付近に位置する。

規 模：0.72/0.60×0.63/0.53×0.07m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積か埋め戻しであるかは不明である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中から細破片の遺物が出土している。KP-169・171が周辺にあるが、関係は不明である。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

掲載遺物：土器；1はくびれのある深鉢の口縁部。小さな山形の突起があり、突起上に竹管上工具による刺突。沈線で文様が施文される。堂林式土器。

KP-356 (図Ⅲ-19)

位置・立地：Q-52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.70/0.53×0.62/0.43×0.26m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-357 (図Ⅲ-19)

位置・立地：P・Q-52、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.66/0.45×0.53/0.36×0.33m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は北側が低く丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-358 (図Ⅲ-19・20・56、図版17～20・48)

位置・立地：U・V-59、調査区中央の段丘上の標高43.8m付近に位置する。

規 模：1.65/1.48×1.06/0.87×0.19m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、2つの黒褐色土のまとまりを確認した。東側がKP-358、西側がKP-359である。覆土は埋め戻しである。1～3層は、西側で楕円形に落ち込んでいた。1層は均質な黒褐色土であるが、同じ形態のKP-371・372の土層との関連から、埋め戻しと考えられる。坑底は平坦で、壁は確認状況ではなだらかに立ち上がっているが削平を受けているためと考えられ、隣接するKP-359の形態から本来は急角度もしくは垂直気味に立ち上がっているものと想定する。3層中からは、20(縦)×15(横)×3(厚さ)cmほどの白色粘土塊が出土した。遺物は2層上面

と3層上面からまとまって出土した。2層上面からは、坏の破片、フレイク、分割礫（方割石）、大型の礫片が出土した。坏の破片は隣接するK P-359と接合した。礫の下の3層上面からは、口縁部の一部を欠く甕1個体が横倒して出土し、その中から口縁部の形態から別個体と考えた甕の破片1点が出土した。それ以外の出土している遺物は、凍上・流下作用により動いているものと考えられ、本来は2層上面に属すると考えられる。遺構の構築と遺物、層位の関係を説明すると、土坑を掘り上げた後、始めに3層を埋め戻し、甕を横倒して置く。次に炭化材を含む2層を埋め、その上面に大型の礫片3個体と分割礫（方割石）1個体を置き、フレイクを散布する。礫のそばには坏の大きな破片を置く。そして、最後に1層を埋め戻していると考えられる。坑底と周辺を精査したが、遺体層や付属施設は見られなかった。3層中から出土した白色粘土塊については、昨年度の調査担当者の村田 大から、昨年度調査を行った堅穴住居跡（KH-2～3）の竈の構築材に酷似するとの見解をいただいた。K P-358とK P-359は南北に長軸方向を揃えて隣接し、それぞれから出土した坏が接合したことから、2基一対と考えられる。

炭化物の年代測定値は $1280 \pm 30 \text{yrBP}$ （N o.2: IAAA-62016）の値が出ている。

時期は出土土器から、撥文時代前期（8世紀）と考えられる。

（佐藤）

掲載遺物：土器；1は完形の甕。口縁部下と頸部に段状沈線文がある。口縁部の内外面は横ナデ。胴部の内外面は下位からのハケメ調整される。底部に笹葉痕がある。2は甕の口縁部。口縁部下にやや密な段状沈線文がある。1～2は8世紀代の撥文土器。

K P-359（図III-21・57、図版17・19・20・48）

位置・立地：U-59、調査区中央の段丘上の標高43.9m付近に位置する。

規 模：1.53/1.43×1.03/0.91×0.19m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、2つの黒褐色土のまとまりを確認した。東側がK P-358、西側がK P-359である。覆土は埋め戻しである。1～3層は、西側で楕円形に落ち込んでいた。1層は均質な黒褐色土であるが、同じ形態のK P-371・372の土層との関連から、埋め戻しと考えられる。2層は全体に炭化物を含むが、中位から3層上面にかけて、南半で多量の炭化材が出土した。灰白色部分は灰と考えられる。坑底は平坦で、壁は急角度もしくは垂直気味に立ち上がる。遺物は2層上面を中心にまとまって、小形甕の破片、坏の破片、フレイク、小礫が出土した。それ以外の出土している遺物は、凍上・流下作用により動いているものと考えられ、本来は2層上面に属すると考えられる。坏の破片は隣接するK P-359と接合した。遺構の構築と遺物、層位の関係を説明すると、土坑を掘り上げた後、始めに3層を埋め戻し、次に炭化材を含む2層を埋める。その上面に小礫とフレイクを散布し、最後に1層を埋め戻している。坑底と周辺を精査したが、遺体層や付属施設は見られなかった。これらは南北に長軸方向を揃えて隣接し、それぞれから出土した坏が接合したことから、2基一対のものである。

炭化物の年代測定値は $1270 \pm 30 \text{yrBP}$ （N o.3: IAAA-62017）の値が出ている。

時期は出土土器から、撥文時代前期（8世紀）と考えられる。

（佐藤）

掲載遺物：土器；1は甕の頸部～胴部。頸部にやや密な段状沈線文がある。内外面は細かなハケメ。2は坏の口縁部～体部。器面調整は内外面とも丁寧なミガキ。K P-358から大部分の破片が出土し、K P-359から出土したやや大きめの破片1点と接合している。3は口縁部下に円孔のある甕の口縁部～体部。口縁部下に段状沈線文がある。円孔は、段状沈線文施文後に焼成前穿孔。器面調整は内外面ともミガキ。口縁部内面は横ナデされる。1～3は8世紀代の撥文土器。

KP-360 (図Ⅲ-22・57、図版17・20・21・49)

位置・立地：T・U-59、調査区中央の段丘上の標高43.9m付近に位置する。

規 模：0.87/0.74×0.64/0.55×0.19m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は、出土した土器破片同士の間隙が見られず位置が動いていないと考えられることから、埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は確認状況ではなだらかに立ち上がっているが削平を受けているためとも考えられる。遺物は土器破片2個体分、小礫が1～3層上面に平面的にまとまって出土した。破片の部位がばらばらの位置にあることから、本来もばらばらな破片の集まりを平面的に置いたものと考えられる。各個体ともに、出土した破片からは全体を復元できる分量は見つかっていない。削平のためとも考えられるが、全体の状況は不明である。

時期は出土土器から、擦文時代前期（8世紀）と考えられる。（佐藤）

掲載遺物：土器：1は甕の口縁部～胴部。口縁部下と頸部に密な段状沈線文がある。器面調整は内外面とも下位からのハケメ。2は甕の頸部～胴部。頸部に2条の段状沈線文がある。1～2は8世紀代の擦文土器。

KP-361 (図Ⅲ-22、図版22)

位置・立地：T-60、調査区中央の段丘上の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.96/0.50×0.89/0.47×0.32m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや不整形で、やや凹凸があり、壁はなだらかに立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。（佐藤）

KP-362 (図Ⅲ-22、図版22)

位置・立地：Y-59、調査区中央の段丘上の標高43.8m付近に位置する。

規 模：0.71/0.47×0.52/0.30×0.33m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は南西側でなだらかに、それ以外では急角度に立ち上がる。覆土上位の2層はその場で焚かれた焼土である。

時期は焼土が土坑内から出土していることから、縄文時代晩期後葉の可能性が高いと考えられる。

（佐藤）

KP-363 (図Ⅲ-22)

位置・立地：Q-52・53、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.82/0.57×0.80/0.48×0.30m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁は西側でなだらかに、それ以外では急角度に立ち上がる。覆土中から遺物が出土しているが、遺構には伴わない。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。

（佐藤）

KP-364 (図III-22)

位置・立地：R-63、段丘崖から約4m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.78/0.68×-×0.22 平面形：隅丸方形？

確認・調査：Ⅲ層で重複した暗褐色土のまとまりを確認した。南側が新しいものと判断し調査を進め、KP-353を掘り出した。北側の壁に重複した土坑の断面が確認されたが、KP-353を完掘した後でKP-364の調査に取り掛かった。

坑底は平坦でV層に掘り込まれ、重複したKP-353とほぼ同じ深さである。壁はやや丸みを持って立ち上がり、南側はKP-353に壊され、東側は立ち上がり部分まで攪乱により壊されている。出土遺物や覆土の堆積状況から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-366 (図III-22)

位置・立地：Z-64、調査区東側の段丘上の標高43.5m付近に位置する。

規 模：1.24/0.86×0.75/0.46×0.18m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は均質で、炭化物を少量含むことから、埋め戻しと考えられる。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は覆土に黒褐色土をほとんど含まないことから、縄文時代早期の可能性が高いと考えられる。(佐藤)

KP-367 (図III-22)

位置・立地：a-63、調査区東側の段丘上の標高43.6m付近に位置する。

規 模：0.74/0.34×0.40/0.14×0.26m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。坑底の平面形は幅が狭い。

時期は黒褐色土主体の覆土と他の土坑との類似から、縄文時代晩期後葉の可能性が高いと考えられる。(佐藤)

KP-368 (図III-23)

位置・立地：b-64、調査区東側の段丘上の標高43.5m付近に位置する。

規 模：1.69/1.34×1.20/0.76×0.25m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は一部で凹むものの平坦で、壁は南西側でやや急角度に、それ以外はなだらかに立ち上がる。

時期は覆土に黒褐色土をほとんど含まないことから、縄文時代早期の可能性が高いと考えられる。(佐藤)

KP-369 (図III-23)

位置・立地：T-62・63、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.73/0.54×0.72/0.54×0.26 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は中央部が盛り上がり、掘り込みはV層に達する。壁はやや丸みを持って立ち上がる。覆土は黒色～褐色壤土が埋め戻されている。西側に攪乱がみられる。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期後葉の土坑と考えられる。(谷島)

KP-370 (図Ⅲ-23・57、図版22・49)

位置・立地：S-66、段丘崖から約17m離れている。

規 模：0.58/0.50×0.49/0.36×0.21m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや傾斜するがほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁はやや丸みを持って立ち上がる。覆土は黒色と黒褐色壤土が埋め戻されている。

上位の黒色土からV群c類土器の一括土器が出土している。

出土遺物や遺構の形態・覆土から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑と考えられる。

(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部～胴部。やや幅の広い山形突起がある。口縁部は縄線文と沈線文が施文される。2は深鉢の口縁部～胴部。1～2はタンネットウL式土器。

KP-371 (図Ⅲ-23、図版22・23)

位置・立地：V-66、調査区北側の段丘上の標高43.9m付近に位置する。

規 模：1.58/1.52×0.94/0.81×0.12m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、2つの黒褐色土のまとまりを確認した。東側がKP-371、西側がKP-372である。覆土は埋め戻しである。1～3層は、全体的に楕円形に落ち込んでいた。1層はその場で焚かれた焼土である。2層は全体に炭化物を含むが、北半で多量の炭化材が出土した。坑底は平坦で、壁は急角度もしくは垂直気味に立ち上がる。坑底と周辺を精査したが、遺体層や付属施設は見られなかった。KP-371とKP-372は南北に長軸方向を揃えて隣接すること、他の類似する土坑との比較から、2基一対のものである。

炭化物の年代測定値は1300±30yrBP (No.4:IAAA-62018)の値が出ている。

時期は他の類似する土坑との比較から、縄文時代前期(8世紀)と考えられる。(佐藤)

KP-372 (図Ⅲ-23、図版22・23)

位置・立地：V-66、調査区北側の段丘上の標高43.9m付近に位置する。

規 模：1.98/1.88×1.12/1.04×0.15m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、2つの黒褐色土のまとまりを確認した。東側がKP-371、西側がKP-372である。覆土は埋め戻しである。1～3層は、西側が楕円形に落ち込んでいた。1層はその場で焚かれた焼土である。2層は全体に多量の炭化物を含む。坑底は平坦で、壁は急角度もしくは垂直気味に立ち上がる。坑底と周辺を精査したが、遺体層や付属施設は見られなかった。KP-371とKP-372は南北に長軸方向を揃えて隣接すること、他の類似する土坑との比較から、2基一対のものである。

炭化物の年代測定値は1340±30yrBP (No.5:IAAA-62019)の値が出ている。

時期は他の類似する土坑との比較から、縄文時代前期(8世紀)と考えられる。(佐藤)

KP-373 (図Ⅲ24、図版24)

位置・立地：R・S-68、段丘崖から約22m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.73/0.43×0.65/0.34×0.15m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下面で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸みがある。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期の土坑と考えられる。(谷島)

KP-374 (図Ⅲ-24、図版24)

位置・立地：S-66、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.58/0.43×0.48/0.34×0.19m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅳ層上で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸みがある。掘り込みはⅤ層に達する。北東側の壁は中ほどまで攪乱で壊されている。覆土はバミスを含む黒色～褐色壤土が埋め戻されている。中央部の覆土上半に礫が出土している。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期の土坑と考えられる。(谷島)

KP-375 (図Ⅲ-24、図版24)

位置・立地：S-65、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.71/0.46×0.58/0.36×0.23m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅴ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸みがある。掘り込み面はⅢ層中と考えられる。覆土はバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻されている。Ⅰ群b-4類とⅢ群b類土器片が覆土中位から出土している。覆土から骨片も出土している。

出土遺物や遺構の形態、覆土から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時代の土坑と考えられる。(谷島)

KP-376 (図Ⅲ-24・57、図版24・49)

位置・立地：S-65、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.70/0.53×0.62/0.47×0.30m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅴ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。壁の立ち上がりは丸みがある。覆土は黒褐色壤土に黄褐色土ブロックを含み埋め戻されている。坑底部にⅠ群b-4類の一括土器が出土している。

出土遺物や遺構の形態、覆土から縄文時代早期後葉、Ⅰ群b-4類土器の時代の土坑と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部～胴部。口縁部に縄端の連続押圧。東鉋路Ⅳ式土器。

KP-377 (図Ⅲ-24・67、図版24・59)

位置・立地：P-67、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.71/0.39×0.56/0.34×0.13m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはⅤ層に達する。壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～褐色壤土が埋め戻されている。中央部の覆土上半に台石が出土している。

出土遺物や遺構の形態、覆土から縄文時代晩期後葉、Ⅴ群c類土器の時代の土坑と考えられる。

掲載遺物：石器：1は安山岩の台石で片面に使用痕が有る。(谷島)

KP-378 (図Ⅲ-24・57、図版25・26・50)

位置・立地：P-67・68、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.62/2.37×1.25/0.96×0.36 m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：Ⅲ層の精査で焼土とその周囲に黒色土のまとまりを確認した。東側に約50cm離れた長軸方向が並行してK P-379がある。坑底はほぼ平坦であるが東側にくぼみがある。掘り込みはV層に達する。壁の立ち上がりは丸みがある。覆土の上半は焼土があり、その直下から炭化物とバミスを多く含む黒色壤土の薄層がある。下半はバミスを含む黒色～黒褐色壤土が埋め戻されている。K P-379と2基一対と考えられる。

炭化物の年代測定値は1290±30yrBP (No.6:IAAA-62020)の値が出ている。

出土遺物や遺構の形態、覆土から擦文時代の土坑と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器：1は甕の口縁部。8世紀代の擦文土器。

K P-379 (図Ⅲ-25、図版26)

位置・立地：P-68、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.33/1.22×0.81/0.64×0.27m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：Ⅲ層の精査で焼土とその周囲に黒色土のまとまりを確認した。西側に約50cm離れた長軸方向が並行してK P-378がある。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁の立ち上がりは丸みがある。覆土上部には、灰層を北側と中央部南側に検出した。覆土下半はバミスを含む黒褐色壤土で埋め戻されている。K P-378と2基一対と考えられる。

出土遺物や遺構の形態、覆土から擦文時代の土坑と考えられる。(谷島)

K P-380 (図Ⅲ-25・57、図版26・50)

位置・立地：Q-67、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.76/0.61×0.66/0.48×0.21m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は斜めに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土がみられ上半は自然堆積、下半は埋め戻されている。覆土上部からⅢ群b類土器と下部から礫が出土している。

土坑の形態や出土遺物、検出層位から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。

(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。器壁がやや薄いことから天神山式土器の可能性が高いと考えられる。

K P-381 (図Ⅲ-25・68、図版27・60)

位置・立地：R-61、調査区中央の氾濫原に面した標高43.7m付近に位置する。

規 模：0.48/0.40×-×0.26m 平面形：円形

確認・調査：段丘斜面のV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土が混合していることから、埋め戻しと考えられる。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。斜面下側の半分は崩落していた。覆土の下位から扁平な礫が、平坦面を下にして出土した。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：石器：1は軽石を用いた台石。

K P-383 (図Ⅲ-25、図版27)

位置・立地：X-70、調査区東側の段丘上の標高43.4m付近に位置する。

規 模：0.72/0.60×-×0.47m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は埋め戻しである。1層は全体に炭化物を含む。坑底はほぼ平坦で、壁は急角度もしくは垂直気味に立ち上がる。坑底と周辺を精査したが、遺体層や付属施設は見られなかった。全体の形状は、攪乱を受けているため、不明であるが、他の同様の土坑から、隅丸長方形の可能性が高いと考えられる。周辺の大きな溝状の攪乱のため、単独のものか、2基一対のものかは不明である。

時期は他の類似する土坑との比較から、縄文時代前期（8世紀）と考えられる。（佐藤）

K P-384 (図Ⅲ-25)

位置・立地：Z-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.70/0.60×0.54/0.45×0.08 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。（佐藤）

K P-385 (図Ⅲ-25)

位置・立地：b-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.86/0.63×0.64/0.35×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。（佐藤）

K P-386 (図Ⅲ-25・58・68、図版27～29・49・50・60)

位置・立地：Q-68・69、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.72/1.33×1.14/0.83×0.69m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は中央部に長円形の深さ約15cmのくぼみがある。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを持ち、急角度に立ち上がる。覆土の上部はT a-cを含む自然堆積である。覆土中位はバミスを含む黒色～黒褐色壤土が埋め戻されている。覆土下位との間に土器4個体と石器が出土し、この層には炭化物を多く含む。覆土下位は明赤褐～褐色の焼土が約10cmの厚さで埋められ中央部のくぼみも埋められていた。出土遺物や坑底の焼土、及び土層の堆積状況から土坑墓と考えられる。

炭化物の年代測定値は2570±30yrBP (N o.7: IAAA-62021) の値が出ている。

出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑墓である。（谷島）

掲載遺物：土器：1は小形の深鉢。胴部はやや丸みがあり、口縁部はほぼ直立する。口縁部下には焼成前に穿孔した前後1対の貫通孔がある。口縁部は沈線文で施文され、口唇部外面角には棒状工具による刻み。頸部には連続する指頭圧痕がある。地文は撫糸文で、条が直線的に均一に施文されている。また、結束部の綾線文が4条1組で連続することから4本巻きの可能性がある。この原体はK P-397の双口土器の底部外面の地文と同一である可能性がある（K P-397参照）。

2は小形の深鉢。平らで大きめの底部から立ち上がり、口縁部はやや内湾する。口縁部下には前後1対の貫通孔がある。1つは焼成前の穿孔であるが、1つは焼成後に加工されている。焼成後に加工されている貫通孔は、焼成前穿孔の貫通孔よりもやや大きい。また周辺に補修孔の痕跡はない。これらのことから、焼成前に穿孔していた孔が焼き上げの段階で一部が埋まったため、同じ位置にさらに広げて貫通孔が開けられた可能性を考えられる。口唇部外面角には棒状工具による刻み。地文はLR縄文。

3は壺。4～5本程度の櫛歯状工具を束ねた細い沈線文で文様が施文される。体部は、指などでより帯状の浮文状にし、クランク状の文様を描き、その周囲に櫛歯状工具による刺突列を連続して施文している。地文は1の土器と同じであるが、綾線文はみられない。

4は深鉢の口縁部。口唇部外面角に指頭による押圧。破片は口縁部から底部までほぼ1個体分あると考えられるが、細かい破片が多く、接合できなかった。

石器：1は黒曜石の石鏃で有茎凸基のもの。2は黒曜石のスクレイパーで打点の傍に原石面が残っている。3は棒状礫の安山岩を使用した凹石で片面に使用痕みられる。

KP-387 (図Ⅲ-26)

位置・立地：b-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.75/0.57×0.69/0.50×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-388 (図Ⅲ-26)

位置・立地：b-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.85/0.70×0.80/0.65×0.10m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-389 (図Ⅲ-26・68、図版29・61)

位置・立地：X-71、調査区東側の段丘上の標高43.4m付近に位置する。

規 模：1.04/0.52×-×0.61m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土1層は自然堆積、それ以下は埋め戻しである。坑底はやや丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。南側は坑底近くまで攪乱を受けている。攪乱を受けていない部分では段状になる。4層から礫が出土した。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：石器：1は安山岩のたたき石で半分が割れている。裏面には灰色に被熱した痕がみられる。

KP-390 (図Ⅲ-26)

位置・立地：Y-71、：調査区東側の段丘上の標高43.1m付近に位置する。

規 模：0.58/0.37×0.54/0.28×0.22m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-391 (図III-26)

位置・立地：Y・Z-71、調査区東側の段丘上の標高43.1m付近に位置する。

規 模：0.56/0.41×0.54/0.36×0.13m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-392 (図III-26)

位置・立地：Z-71、調査区東側の段丘上の標高43.1m付近に位置する。

規 模：0.92/0.74×0.47/0.34×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-393 (図III-26)

位置・立地：c-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.84/0.70×0.77/0.59×0.18m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-394 (図III-26)

位置・立地：c-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.90/0.76×0.83/0.62×0.17m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-395 (図III-27)

位置・立地：c-70、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.50/0.37×0.42/0.33×0.11m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-396 (図Ⅲ-27、図版29)

位置・立地：R-67、段丘崖から約18m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.50/0.29×0.49/0.32×0.22m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～黒褐色壤土が埋め戻され、壁に沿って黄褐色土の崩落土がみられる。覆土中位からⅢ群b類の土器片が出土している。

土坑の形態や出土遺物、検出層位から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時代の土坑である。

(谷島)

KP-397 (図Ⅲ-27・59～61・68、図版30～33・50～53・61)

位置・立地：R-69、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.78/0.54××0.32m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下の黒色土で検出された。楕円形を呈し、坑底は丸みがある。掘り込みはV層に達する。北側の壁上部は攪乱により壊されている。土壌検出面より上位にKF-142が位置する。

堆積は上部に黒色土があり、下は暗褐色土の埋め戻した土がみられる。

出土した遺物は土製品2点、土器5点、石斧の計8点である。

1の石斧は上部の黒色土からほぼ水平に出土したが、他は下の埋め戻された暗褐色土から出土している。

6の手形付土製品は手と手首部分に分かれて出土している。手の部分は把手付双口土器の片側の口に掛かって指先を上部に文様を施した面を表にして出土している。中指の折れ口は把手付双口土器の口縁部に接している。手首部分は土坑の壁際から斜めになっている。

7の足形付土製品は坑底よりやや上で、足形の付いた面を上、指先が斜め上方になって出土している。

5の把手付双口土器は坑底から横倒しになり、ひび割れた状態で出土している。

1の壺は割れて上下にやや潰れた状態で、斜めになって出土している。底部の中心の空隙は破損している。この部分の破片は、この土坑からは得られなかった。

小形の鉢は2点出土しそのうち1点の3は、坑底の把手付双口土器の両口縁の間から口縁部に接して割れて出土している。他の1点の2は壁際から横向きで出土している。

4の小形浅鉢は坑底から裏返して出土している。ヒビは若干入っているが完形で出土した。

覆土の堆積状態や遺物の出土状況から墓塚と考えられる。

覆土の炭化物の年代測定値は2550±30yrBP (No.8:IAAA-62022)、同じく土器内の炭化物で2870±30yrBP (No.9:IAAA-62023)の値が出ている。

出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時代の土坑墓である。

(谷島)

掲載遺物：土器：1は壺である。上面観は楕円形である。突起は4個で、2組の対称なものである。底部は欠損しており、焼成後に穿孔している。長軸方向の一方の円錐形の突起と小さな円盤状の貼付の一部は欠損しているが、出土時もこのようであり、埋められた時には欠失していたと考えられる。長軸方向の突起は、半円形のをを中心に、左右に円錐形のもの、さらにその外側に半円形のものがある。外側の半円形の突起は、内面では小さな円盤状のものの貼付である。その下には円盤状の貼付が2個みられる。円錐形の突起の頂部と内面の小さな円盤状の貼付の中心には、竹管状工具による円形の刺突がある。外側の円盤状の貼付の中心には、それぞれ円形の貫通孔がある。短軸方向の突起は、

半円形のものを中心に、左右に円盤状のものがある。突起及び口唇部はRL縄文による縄線文で施文し、刻みと沈線文がみられる。口縁部は、指などでより長方形の浮文状にした後、少なくとも7本程度の櫛歯状工具を束ねたものの刺突列を連続して施文し、その後、縦の沈線を間隔を開けて4～5本配している。さらに、口唇部を除く、その周囲を竹管状工具による刺突で囲んでいる。体部は、指などでより帯状の浮文状にし、クランク状の文様を描いた後、同様に施文している。楕円形の底部外面はRL縄文が施される。

2は小形の深鉢である。突起は、正面はなだらかで幅広の半円形、背面はそれよりは低いなだらかで幅広の半円形のものである。正面の突起には2個1組の円形の貫通孔がある。口縁部指などによる無文で、横道する沈線文とその上にみられる刺突列で区画し、底から下の胴部はやや縦走ぎみのRL斜行縄文を施文している。

3は小形の深鉢で、無文である。上面観はひし形に近い。突起は4個で、小形の山形のものである。正面と背面には円形の貫通孔がある。突起の口唇部には頂部を中心に3つの刻み、突起の間の口唇部外面には刻みがある。外面は指などで、内面はへら状工具によるなである。

4は小形の浅鉢である。前側に大きめの突起があり、2個1組の円形の貫通孔がある。

5は把手付双口土器。双口部分の中央には、ブリッジ状の扁平な把手がある。把手には沈線文と竹管状工具による刺突がある。把手の下には2個1組の円形の貫通孔がある。口縁部には小さな山形突起があり、口唇部外面角には棒状工具による刻みがある。棒状工具は、幅から推定すると、刺突で用いている竹管状工具の可能性が高い。双口部分のそれぞれの外面には、指などでより周囲より凹ませた、凹文が施文され、その周囲は竹管状工具による刺突で縁取られている。凹文は、十字形を3方に、凸字形を把手の下に、楕円形をその間に配している。地文は、体部はLR縄文、底部外面は燃糸文の2種が用いられている。燃糸文は、条が直線的に均一に施文されている。結束部の縦線文はみられない。この原体は、遺跡内ではほかに、隣接するKP-386の1の深鉢の地文に見られるだけである。それらを拡大鏡で詳細に観察したところ、条間の幅・節の大きさが一致したことから、まったく同一の原体が別々の個体の施文に用いられている可能性を指摘しておく（KP-386参照）。このことから、KP-386とKP-397の土器は、同時に製作された可能性が高い。

6は手形付土製品である。全体の形状から、手首から指先までを表現していると考えられる。外形は、手首部は上部がやや丸みのある隅丸の長方形である。手形部分は、親指部分は丸みで表現し独立していないが、他の指はへら状の工具で一本一本を独立して表現している。手首部には縦長の貫通孔がみられる。紐擦れの痕跡はみられない。手甲側を外面（図左）、手形の押圧のある側を内面（図右）として記述する。外面は太めの沈線文で手形部分の下側と上腕部が縁取られ、その後半截竹管状工具による刺突が方向をそろえて全面に充填される。内面は、上腕部が太めの沈線文で縁取られ、半截竹管状工具による刺突が方向をそろえて施文される。手形部分は、親指側の位置と指の各関節のふくらみが明瞭に観察できることから、右手の手甲側を押圧している。大きさから、一般的な乳幼児のものを想定することが出来る。指先部分には半截竹管状工具による刺突がある。手首部の外側には棒状工具による刻みがある。刻みの幅から、棒状工具は、刺突で用いられている半截竹管状工具の可能性が高い。断面形状は、全体に内面側に緩やかに湾曲している。特に手形部分は手甲側を押圧していることから凹み、各指部分も一本一本が凹んでいる。板状の形状を作り、加工していったと考えられる。

7は足形付土製品である。全体の形状は隅丸の長方形で、この時期の土器に多くみられる浅鉢形にも類似する。沈線表現のある側を外面（図左）、足形の押圧のある側を内面（図右）として記述する。外面は沈線文で円形と縦横の直線が組み合わされ、周囲は縁取りしている。沈線間にはその後半截

竹管状工具による刺突が方向をそろえて全面に充填される。刺突が潰れていることから、外面の施文後に足形を押圧したと考えられる。沈線文を全体としてみると、こけし形の形状であり、円形部分を頭部、それから下を上半身、横線の直線は、肋骨及び胸部と見ることが出来る。また、頭部に目や鼻などの具体的な顔面表現がみられないのは、乳幼児のため、人性を表現していないからではないかと考えられる。内面は、足裏を押圧している。あまり明瞭ではないが、土踏まず側と推定される部分の形状と親指側の形状から、左足のものであると考えられる。そのように考えた場合、小指側（図右下右端）が長めであるが、押圧時にずれたため、再度押し直したものと考えられる。大きさからは一般的な乳幼児のものを想定することが出来る。上縁には棒状工具による刻みがある。刻みの幅から、棒状工具は、刺突で用いられている半截竹管状工具の可能性が高い。断面形状は内湾し、足形部分は一段凹んでいる。浅鉢状の形状を作り、加工していったと考えられる。6の手形付土製品と7の足形付土製品を一組のものとして考えると、足形付土製品の外面の沈線文で表現している上半身、手形付土製品の右手、足形付土製品の内面の左足裏があることから、一人の乳幼児の姿を表現していると考えられる。1～7の胎土は肉眼観察から同一と判断した。

石器：1は覆土上部から出土した石斧で泥岩を使用し打ち欠きにより成形している。刃部は潰れ鈍角になっている。表面から裏面にかけて被熱によりやや赤く変色している。

KP-398 (図Ⅲ-28、図版33)

位置・立地：R-69、段丘崖から約22m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.70/0.50×0.69/0.59×0.23m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下の精査で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土が埋め戻されている。

出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑と考えられる。(谷島)

KP-399 (図Ⅲ-28・62、図版33・54)

位置・立地：S・T-66、段丘崖から約18m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.69/0.56×0.64/0.54×0.18m 平面形：円形

確認・調査：IV層の精査で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土が埋め戻されている。

出土遺物から縄文時代後期後葉、IV群c類土器の時期の土坑と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。地文は条の整ったRL・L羽状縄文。堂林式土器。

KP-400 (図Ⅲ-28、図版34)

位置・立地：T-66、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.74/0.86×0.72/0.94×0.30m 平面形：円形

確認・調査：IV層の精査で焼土を確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は坑底部が広く丸みを帯びてオーバーハングするフラスコ状ビットである。覆土は炭化物質とバミスを含み、3層に埋め戻されている。覆土中位は焼土があり、それを挟んで覆土上位と下位に黒褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑と考えられる。(谷島)

KP-401 (図III-28)

位置・立地：T-66、段丘崖から約18m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.60/0.44×0.52/0.40×0.17m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ東側がやや高く傾斜している。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土が埋め戻されている。

出土遺物から擦文時代の土坑と考えられる。 (谷島)

KP-402 (図III-28)

位置・立地：T-66・67、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.56/0.28×0.53/0.34×0.21m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸く中央部の南東側が低くなっている。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びている。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や土坑の形態、周囲の出土遺物から縄文時代晩期頃のものと思われる。 (谷島)

KP-403 (図III-28、図版34)

位置・立地：b-69、調査区東側の段丘上の標高43.2m付近に位置する。

規 模：0.70/0.52×0.67/0.46×0.25m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-404 (図III-28)

位置・立地：T-68、段丘崖から約28m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.65/0.52×0.55/0.46×0.16m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む暗褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。 (谷島)

KP-405 (図III-28)

位置・立地：T-64、段丘崖から約13m離れた調査区北側の緩斜面に位置する。

規 模：0.94/0.72×0.66/0.28×0.27m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は半円筒状に掘り込まれている。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒～暗褐色壤土が埋め戻されている。

出土遺物や検出層位、土坑の形態から縄文時代後期前葉、IV群 a 類土器の時代の土坑と考えられる。 (谷島)

KP-406 (図Ⅲ-28・62、図版54)

位置・立地：c-73、調査区東側の段丘上の標高43.1m付近に位置する。

規 模：1.00/0.77×-×0.17m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。西半は調査区外のため未調査である。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。一部に太目の沈線文とLR+RL結束第1種原体による施文が施される。柏木川式土器。

KP-411 (図Ⅲ-28)

位置・立地：U・V-33、調査区南端の段丘上の標高45.5m付近に位置する。

規 模：1.44/1.00×1.11/0.51×0.26m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。他と比べて大型である。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-412 (図Ⅲ-29)

位置・立地：S-70、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.62/0.26×0.48/0.23×0.26m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸いボール状を呈する。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒色～暗褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。(谷島)

KP-413 (図Ⅲ-29)

位置・立地：S-70、段丘崖から約23m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.61/0.32×0.54/0.24×0.27m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸いボール状を呈する。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒色～褐色壤土が埋め戻されている。

出土遺物や土坑の形態から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期と考えられる。(谷島)

KP-415 (図Ⅲ-29・62・68、図版34・54・61)

位置・立地：Q-66、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.23/0.32×0.90/0.46×0.38m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底は中央部から北側がくぼんでいる。掘り込みはV層に達する。覆土上部は焼土が覆い、覆土中位には東側から中央部に向かって低く傾斜する炭化物の層がみられる。覆土下位は暗褐色～にぶい黄褐色シルト質壤土が埋め戻されている。遺物は中央部からやや北側に出土し、覆土の上位から下位までばらつきがある。

炭化物の年代測定値は1620±30yrBP (No.10:IAAA-62024)の値が出ている。

出土遺物や土坑の形態から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部。指頭圧痕のみられる縦位の貼付けがある。タンネットウL式土器。

石器；1はたたき石で断面三角形の棒状礫の安山岩を使用し、下端にたたき痕がみられる。

KP-416 (図Ⅲ-29)

位置・立地：Q-66、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.64/0.45×0.60/0.38×0.18m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～黒褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。 (谷島)

KP-417 (図Ⅲ-29・62、図版・54)

位置・立地：Q・R-68、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.79/0.35×0.66/0.30×0.22m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸いボール状を呈する。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒褐色～褐色壤土が自然堆積している。

出土遺物や土坑の形態から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。 (谷島)

掲載遺物：土器；1は鉢の口縁部。口縁部に段状になる沈線文とレンズ状浮文がある。大洞系土器で、タンネットウL式土器。

KP-418 (図Ⅲ-29)

位置・立地：Q-68、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.53/0.32×0.48/0.24×0.13m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦である。掘り込みはV層に達する。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐色～にぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。 (谷島)

KP-419 (図Ⅲ-29)

位置・立地：P・Q-68、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.46/0.21×0.40/0.20×0.25m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸いボール状を呈する。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒褐色～褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。 (谷島)

KP-420 (図Ⅲ-29)

位置・立地：P・Q-68、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.64/0.34×0.61/0.36×0.27m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸いボール状を呈し北東側がやや深い。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒褐色～にぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。 (谷島)

KP-421 (図Ⅲ-29)

位置・立地：P-68、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.54/0.37×0.47/0.23×0.17m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦で西側がやや深い。壁は丸みを帯びて立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色～褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や土坑の形態から縄文時代晩期頃のものと思われる。(谷島)

KP-422 (図Ⅲ-30、図版34)

位置・立地：Q-69、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.72/0.35×0.67/0.30×0.17m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸みを帯び皿状を呈する。掘り込みはV層に達する。覆土はバミスを含む黒褐色～暗褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-423 (図Ⅲ-30・62、図版34・54)

位置・立地：S-71、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.70/0.30×0.60/0.26×0.20m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸みを帯び南側がやや深い。掘り込みはV層に達する。覆土は炭化物とバミスを含む黒褐色～褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の突起部。竹管状工具による沈線文。萩ヶ岡3式土器。

KP-424 (図Ⅲ-30・68、図版61)

位置・立地：T-70、段丘崖から約31m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.73/0.54×0.64/0.44×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層に達し、壁の立ち上がりは丸みを帯び浅い皿状を呈する。覆土は上部に炭化物が混じり全てにバミスを含む黒褐色～褐色壤土が自然堆積している。

検出層位や土坑の形態から縄文時代中期頃の土坑と思われる。(谷島)

掲載遺物：石器：1は黒曜石のスクレイパーで、刃部は急角度である。

KP-425 (図Ⅲ-30・62、図版35・54)

位置・立地：U-69・70、段丘崖から約34m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.42/2.16×1.92/1.64×0.36m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。長軸が約2.4mを測る大型の土坑である。坑底はほぼ平坦でV層に達し、壁の立ち上がりは丸みを帯び急角度である。坑底の西側はSP-17により壊されている。覆土上位は黒色土のブロックが中央にあり、それ以下はバミスを含む暗褐色～ぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。土器片が坑底の中央部から出土し、南西側の壁際から土器底部が出土している。

土坑の形態や出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期のものである。(谷島)

掲載遺物：土器；1は小形の深鉢。やや緩やかな山形の突起で、突起下にくちばし状の貼付けがある。天神山式土器と考えるが、萩ヶ岡3式土器の可能性もある。

KP-426 (図Ⅲ-30、図版35)

位置・立地：U-70、段丘崖から約35m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.35/0.47×0.89/0.35×0.42m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸みを帯びるが中央に盛り上がりがある。掘り込みはV層に達する。覆土は炭化物とバミスを含む黒～褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や移行の形態から縄文時代中期～後期の土坑と思われる。(谷島)

KP-427 (図Ⅲ-30、図版35)

位置・立地：P-53、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.62/0.40×0.58/0.40×0.28m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-428 (図Ⅲ-30、図版35)

位置・立地：Q-53、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.52/0.40×0.46/0.21×0.30m 平面形：楕円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は西側が少し凹み、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-429 (図Ⅲ-30、図版35)

位置・立地：Q-53・54、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上の標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.65/0.41×0.64/0.41×0.37m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は北側に傾斜し、やや丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-430 (図Ⅲ-31、図版36)

位置・立地：R-63、段丘崖から約4m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.74/0.50×0.42/0.36×0.21m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸みを帯びた半円筒状を呈し、V層に達する。覆土はバミスを含む黒褐～暗褐色壤土が埋め戻されている。

検出層位や遺構の形態、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-431 (図Ⅲ-31、図版36)

位置・立地：O-73、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.61/0.50×0.60/0.48×0.61m 平面形：円形

確認・調査：KH-8の覆土中で検出した。坑底は平坦でV層を深く掘り込み、やや丸みを持って壁が立ち上がる。壁は中央部がややくびれて狭くなる。覆土はバミスを含む黒褐色から下位の覆土6でにぶい黄褐色土がみられ、覆土3と5に炭化物が混入し埋め戻されている。

縄文中期前葉のKH-8の覆土から構築され、土坑の形態や覆土の堆積状況から縄文時代後期頃と考えられる。(谷島)

KP-432 (図Ⅲ-31)

位置・立地：O-72、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.47/0.30×-×0.17m 平面形：円形?

確認・調査：KH-8の覆土で検出した。坑底は平坦でV層に達し、やや丸みを持って壁が立ち上がる。覆土は黒～黒褐色シルト質壤土が埋め戻されている。

縄文中期前葉のKH-8の覆土から構築され、また土坑の形態や覆土の堆積状況から縄文時代晚期頃と考えられる。(谷島)

KP-433 (図Ⅲ-31・62、図版36・54)

位置・立地：O-72、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.72/0.54×0.50/0.33×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：KH-8の覆土で検出した。坑底は舟底型を呈しV層に達し、丸みを持って壁が立ち上がる。覆土は黒～褐色シルト質壤土が埋め戻されている。出土した土器は構築のさいに壊したKH-8の床面遺物を混入したものと考えられる。

縄文中期前葉のKH-8の覆土から構築され、また土坑の形態や覆土の堆積状況から縄文時代後期頃と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の突起部～胴部。山形の突起で、口縁部断面形は三角である。口唇部に縄による刻みがある。萩ヶ岡3式土器。

KP-434 (図Ⅲ-31・62・68、図版36・54・61)

位置・立地：R-56、調査区南西側の標高43.7m付近に位置する。

規 模：1.23/1.00×-×0.56m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘斜面のV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は西側でやや凹むがほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。斜面下側の半分は崩落していた。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部。口唇部外面角に縦の刻みがあり、その下に沈線文。I Oの突瘤文がある。堂林式土器。

KP-435 (図Ⅲ-31、図版36)

位置・立地：U-75、段丘崖から約46m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.26/1.16×0.22/0.07×0.33m 平面形：長円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸みを帯びた溝状を呈し、Ⅴ層に達する。覆土はバミスを含む黒褐～暗褐色壤土が自然堆積している。長さ約1.25m、深さ約40cmと小形だが、形態は小形のTビットである。

遺構の形態から縄文時代中～後期頃のものと思われる。(谷島)

KP-437 (図Ⅲ-31)

位置・立地：Z-73、調査区東側の標高42.9m付近に位置する

規 横：0.47/0.32×0.43/0.32×0.12m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているⅣ層で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-438 (図Ⅲ-31、図版37)

位置・立地：Z・a-73、調査区東側の標高42.8m付近に位置する

規 横：0.50/0.34×0.50/0.33×0.10m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているⅣ層で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-439 (図Ⅲ-31・62、図版37・54)

位置・立地：Q-74、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 横：0.64/0.53×0.53/0.38×0.13m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦で東側がやや浅くⅤ層に達する。壁はやや丸みを持って立ち上がる。覆土は暗褐色壤土が埋め戻されている。坑底の東半分ⅠV群c類の一括土器が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、Ⅴ群c類土器の時期の土坑である。(谷島)
 掲載遺物：土器：1は深鉢の口縁部。口唇部に指頭による押圧。タンネットウL式土器。
 石器：1は黒曜石の石鏃で剥片の周囲を浅く調整し木葉形にしている。

KP-440 (図Ⅲ-32)

位置・立地：V-46、調査区南側の標高44.8m付近に位置する。

規 横：0.55/0.34×0.47/0.28×0.12m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているⅤ層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-441 (図Ⅲ-32)

位置・立地：U・V-46、調査区南側の標高44.8m付近に位置する。

規 横：0.58/0.36×0.50/0.35×0.13m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているⅤ層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積

である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-442 (図Ⅲ-32)

位置・立地：U・V-50、調査区南側中央の標高44.5m付近に位置する。

規 模：0.80/0.60×0.66/0.51×0.16m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-443 (図Ⅲ-32)

位置・立地：T-49、調査区南側中央の標高44.7m付近に位置する。

規 模：1.10/0.81×0.80/0.52×0.17m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-444 (図Ⅲ-32)

位置・立地：S-47、調査区南側中央の標高44.8m付近に位置する

規 模：1.04/0.90×0.64/0.52×0.17m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-445 (図Ⅲ-32)

位置・立地：S-46、調査区南側中央の標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.40/0.28×0.31/0.22×0.10m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。小形の土坑で、隣接して同規模のKP-446がある。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-446 (図Ⅲ-32)

位置・立地：S-46、調査区南側中央の標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.50/0.36×0.29/0.19×0.08m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。小形の土坑で、隣接して同規模のKP-445がある。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-447 (図Ⅲ-32)

位置・立地：S-46、調査区南側中央の標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.57/0.40×0.44/0.29×0.13m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-448 (図Ⅲ-32)

位置・立地：S-46、調査区南側中央の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.42/0.23×0.38/0.24×0.15m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-449 (図Ⅲ-32)

位置・立地：T-47、調査区南西側の標高44.8m付近に位置する。

規 模：0.51/0.39×0.49/0.38×0.15m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-450 (図Ⅲ-32)

位置・立地：U-45、調査区南側の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.67/0.61×0.58/0.46×0.08m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。極浅い土坑で、覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-451 (図Ⅲ-32)

位置・立地：U-45、調査区南側の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.50/0.40×0.38/0.21×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は東側が凹むがほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-452 (図Ⅲ-33)

位置・立地：T-44、調査区南側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.54/0.40×0.48/0.32×0.11m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は東側が凹むがほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-453 (図Ⅲ-33)

位置・立地：T-43、調査区南側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.62/0.52×0.47/0.38×0.10m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-454 (図Ⅲ-33、図版37)

位置・立地：T-43、調査区南側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.82/0.63×0.82/0.60×0.35m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は丸みがあり、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-455 (図Ⅲ-33)

位置・立地：V-43、調査区南側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：1.02/0.86×0.81/0.58×0.14m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-456 (図Ⅲ-33)

位置・立地：U-43、調査区南側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.66/0.48×0.64/0.48×0.17m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は東側が凹むがほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-457 (図Ⅲ-33、図版37)

位置・立地：R-44・45、調査区南西側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.66/0.47×0.59/0.38×0.20m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-458 (図Ⅲ-33、図版37)

位置・立地：R-44、調査区南西側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.73/0.61×0.60/0.44×0.15m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-459 (図III-33)

位置・立地：R-44、調査区南西側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.62/0.53×0.44/0.36×0.15m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-460 (図III-33、図版38)

位置・立地：R-44、調査区南西側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.75/0.62×0.68/0.54×0.21m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-461 (図III-33)

位置・立地：R-43・44、調査区南西側の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.60/0.51×0.54/0.42×0.11m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-462 (図III-34、図版38)

位置・立地：R-43、調査区南西側の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.84/0.72×0.72/0.58×0.18m 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-463 (図III-34)

位置・立地：V-42、調査区南側の標高45.2m付近に位置する。

規 模：0.77/0.57×0.68/0.54×0.16m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KP-464 (図Ⅲ-34)

位置・立地：V・W-40、調査区南側の標高45.3m付近に位置する。

規 模：0.63/0.52×0.50/0.42×0.10m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-465 (図Ⅲ-34)

位置・立地：V-40、調査区南側の標高45.3m付近に位置する。

規 模：0.50/0.43×0.50/0.41×0.14m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底は平坦で中央が凹み、壁はなだらかに立ち上がる。遺構内の覆土と中央の凹みは同一である。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-466 (図Ⅲ-34)

位置・立地：V-43、調査区南側の標高45.3m付近に位置する。

規 模：0.44/0.27×0.41/0.27×0.18m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、暗褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はやや丸みがあり、壁はなだらかに立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-467 (図Ⅲ-34)

位置・立地：V-44、調査区南側の標高45.1m付近に位置する。

規 模：0.56/0.43×0.56/0.42×0.20m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

時期は周辺の土坑との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KP-468 (図Ⅲ-34・68、図版38・61)

位置・立地：U-72、段丘崖から約35m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.33/1.01×0.98/0.60×0.29m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、緩やかに壁が立ち上がる。覆土は黒～黄褐色壤土が自然堆積している。南側の隅から石斧が出土している。

遺構の形態から縄文時代中～後期頃のものと思われる。 (谷島)

掲載遺物：石器；1は石斧で泥岩を使用し打ち欠きにより成形している。刃部は潰れ鈍角になっている。未製品の可能性もある。

KP-469 (図Ⅲ-34・69、図版38・61)

位置・立地：Q-75、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.42/0.28×0.39/0.27×0.21m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は丸みを持って立ち上がる。覆土はバミスを含む黒～黒褐色壤土が自然堆積している。覆土下半の中央部から遺物がややまとまり出土している。

遺構の形態や出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。 (谷島)

掲載遺物：石器：1は黒曜石のUフレイクで両側辺に使用痕がみられる。2は安山岩のたたき石で下端に使用痕がみられる。

KP-470 (図Ⅲ-34)

位置・立地：X-75、段丘崖から約57m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.28/1.03×1.08/0.64×0.21m 平面形：不整楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、緩やかに壁が立ち上がる。覆土の上半は黒～黒褐色壤土が自然堆積し、下半は黄褐色壤土が埋め戻されている。北側の覆土上部からⅢ群b類土器片が出土している。

出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。 (谷島)

KP-471 (図Ⅲ-34)

位置・立地：Q-75、段丘崖から約27m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.35/0.17×0.35/0.17×0.20m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はV層に達し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は炭化物とバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻された小形の土坑である。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期頃の土坑と思われる。 (谷島)

KP-472 (図Ⅲ-35・62、図版38・54)

位置・立地：R-75、段丘崖から約30m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.04/1.20×1.71/1.02×0.48m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒～明黄褐色壤土とバミスを含まない黒褐色壤土が埋め戻されている。大型の土坑である。土器片が土坑中央部南側の覆土上位と下位から出土し、炭化物が中央部西側の覆土下位から検出されている。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑と考えられる。

(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。原体は付加条第2種(軸不明)。東釧路IV式土器。

KP-473 (図Ⅲ-35、図版38)

位置・立地：S-74、段丘崖から約32m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.30/0.67×1.24/0.78×0.51m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上

がるボール状を呈する。覆土はバミスを含む黒～灰黄褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-474 (図Ⅲ-35)

位置・立地：S-74、段丘崖から約32m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.88/0.52×0.71/0.37×0.16m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色壤土と壁から坑底部に沿っては褐色壤土が埋め戻されている。覆土上部から礫が出土している。

遺構の形態や覆土から縄文時代中期～後期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-475 (図Ⅲ-35、図版39)

位置・立地：L・M-75、調査区北側の氾濫原に近い段丘上、標高43.9m付近に位置する。

規 模：3.03/2.92×0.57/0.18×1.00m 平面形：溝状

確認・調査：削平を受けているV層中で、黄褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。4層には炭化物、5層は焼土がみられるが、層境が明瞭なため、流れ込んだものと考えられる。坑底はほぼ平坦で、壁は坑底から垂直に立ち上がり、V層部分から上方では崩落のため少し開き、漏斗のTビットである。

時期は形態から、縄文時代中～後期と考えられる。(佐藤)

KP-476 (図Ⅲ-36)

位置・立地：V-73、段丘崖から約44m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.98/0.52×0.76/0.46×0.22m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土上半は黒～暗褐色砂壤土、覆土下半は褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中期～後期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-477 (図Ⅲ-36、図版39)

位置・立地：T-75、段丘崖から約40m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.50/1.22×0.82/0.54×0.29m 平面形：楕円形

確認・調査：V層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒～灰黄褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中期～後期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-478 (図Ⅲ-36、図版39)

位置・立地：R-76・77、段丘崖から約37m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.51/1.05×0.97/0.76×0.21m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はやや凹凸がありV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐～にぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。KP-479と重複しているが接点の大半は攪乱が入り土層断面に表れていない。観察の結果、KP-479に壊されKP-478の土

坑が古い。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群 b 類土器の時代の土坑である。(谷島)

KP-479 (図Ⅲ-36、図版39)

位置・立地：R-76・77、段丘崖から約36m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.86/0.63×-×0.20m 平面形：楕円形？

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや凹凸がありⅤ層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒～黒褐色壤土が埋め戻されている。KP-478と重複しているが接点の大半は攪乱が入り土層断面に表っていない。観察の結果、KP-478を壊しておりKP-479の土坑が新しい。

遺構の形態や覆土から縄文時代後期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-480 (図Ⅲ-36)

位置・立地：T・U-72・73、段丘崖から約35m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.15/1.02×1.06×0.86×0.19m 平面形：円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや凹凸がありⅤ層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土上半の黒色壤土は自然堆積し、下半の黒褐色壤土は埋め戻されている。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群 b 類土器の時代の土坑である。(谷島)

KP-481 (図Ⅲ-36)

位置・立地：X-75、段丘崖から約55m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.88/0.38×0.84×0.34×0.24m 平面形：円形

確認・調査：Ⅴ層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸みがありⅤ層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がるボール状である。覆土はバミスを含む黒褐色とにぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。土器片1点が覆土上部から出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群 b 類土器の時代の土坑である。(谷島)

KP-482 (図Ⅲ-36・68、図版40・62)

位置・立地：N-70、段丘崖から約5m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.36/0.23×0.35/0.24×0.23m 平面形：円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でⅤ層を掘り込み、壁は丸みを持って立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色壤土が埋め戻されている。覆土上部から礫が立って出土している。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～後期頃の小形土坑と思われる。(谷島)

掲載遺物：石器：1は扁平な安山岩礫の周囲を打ち欠いた扁平打製器。

KP-483 (図Ⅲ-36、図版40)

位置・立地：N-71・72、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.08/0.89×0.64/0.42×0.19m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は舟底型を呈しⅤ層に達し、丸みを持って壁

が立ち上がる。覆土は部分的に炭化物とバミスを含む黒～暗褐色壤土が埋め戻されている。土器片が東側の坑底部から出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群 b 類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-484 (図Ⅲ-37、図版40)

位置・立地：R-77、段丘崖から約36m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.74/0.45×0.56/0.32×0.17m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅳ層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は舟底型を呈しⅤ層に達し、丸みを持って壁が立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐～にぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～後期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-485 (図Ⅲ-37・62・69、図版40・54・62)

位置・立地：I-77、段丘崖から約2m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.28/0.87×1.27/0.99×0.18m 平面形：円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でⅤ層を掘り込み、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、Ⅴ群 c 類土器の時期の土坑と考えられる。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。原体は付加条第2種(軸不明)。東銅路Ⅳ式土器。

石器：1は断面三角形の安山岩を使用したすり石で幅の狭いすり面が下辺にみられる。両端は破損している。

KP-486 (図Ⅲ-37、図版40)

位置・立地：Q-68、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.52/0.34×-×0.17m 平面形：楕円形？

確認・調査：Ⅳ層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は舟底型を呈すると思われるⅤ層に達し、丸みを持って壁が立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻されている。北側は土坑KP-386に壊されている。

遺構の形態や覆土の他、縄文時代晩期後葉の土坑KP-386との重複関係で、それより古い縄文時代中～後期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-487 (図Ⅲ-37、図版40)

位置・立地：P-75、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.78/0.18×0.72/0.15×0.34m 平面形：不整形円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くⅤ層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がるボール状である。覆土は黒～褐色シルト質壤土が自然堆積している。遺物は覆土上部から出土している。

遺構の形態や出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群 b 類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-488 (図Ⅲ-37)

位置・立地：O-P-75、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.68/0.26×0.62/0.22×0.28m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がるボール状である。覆土は黒～褐色シルト質壤土が自然堆積している。遺物は覆土の上～中位から出土している。

遺構の形態や出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-489 (図Ⅲ-37)

位置・立地：N-77、段丘崖から約22m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.44/0.33×0.44/0.29×0.15m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや凹凸がありV層に達し、壁は丸みを持って立ち上がる。覆土はパミスを含む黒色壤土が埋め戻されている。遺物は覆土の中位から出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-490 (図Ⅲ-37・62、図版41・54)

位置・立地：I-77、段丘崖から約3m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.63/0.37×0.63/0.39×0.37m 平面形：円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒～褐色シルト質壤土が埋め戻されている。遺物は覆土の上～中位からV群c類の一括土器が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢。ゆるやかな半月形の突起。沈線文で文様を施す。口縁部と胴部との境に凹線文がある。タンネットウL式土器。

KP-491 (図Ⅲ-37・63、図版・55)

位置・立地：I-77、段丘崖から約1m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.20/0.97×-×0.16m 平面形：円形？

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。北側は調査範囲のクリアランスにより残している。坑底はほぼ平坦だが地形に沿って西側が低くV層を掘り込む。壁は丸みをもって緩やかに立ち上がる。覆土は黒～暗褐色壤土が埋め戻されている。土坑中央、覆土の中位からV群c類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢の口縁部。口唇部は縄文回転押圧。タンネットウL式。

KP-492 (図Ⅲ-37)

位置・立地：I-77、段丘崖の縁、調査区北側に位置する。

規 模：0.62/0.47×0.56/0.41×0.11m 平面形：円形

確認・調査：Ⅳ層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色壤土が埋め戻されている。土坑中央、覆土の中位からV群c類の土器片が

出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-493 (図Ⅲ-38、図版41)

位置・立地：P-75、段丘崖から約26m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.76/0.62×0.72/0.56×0.20m 平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層下で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は丸みをもって緩やかに立ち上がる。覆土は黒～褐色シルト質壤土が埋め戻されている。土坑の北半、覆土の中心からV群c類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-494 (図Ⅲ-38)

位置・立地：O-76、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.62/0.32×0.54/0.27×0.15m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-495 (図Ⅲ-38、図版41)

位置・立地：N・O-77、段丘崖から約23m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.03/0.91×0.96/0.74×0.51m 平面形：不整形円形

確認・調査：Ⅳ層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は丸みをもって緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色壤土が埋め戻されている。土坑の南側、覆土の上位からⅢ群b類とV群c類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑と考えられる。(谷島)

KP-496 (図Ⅲ-38)

位置・立地：O-75、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.80/0.65×-×0.18m 平面形：楕円形?

確認・調査：V層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は丸みをもって緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色壤土が埋め戻されている。東側は攪乱により壊されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-497 (図Ⅲ-38)

位置・立地：O-74、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.58/0.41×0.46/0.29×0.25m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅳ層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒～褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-498 (図Ⅲ-38)

位置・立地：N-72、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.50/0.32×0.42/0.27×0.10m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色壤土が埋め戻されている。土坑の南側、覆土の上位からフレイクが出土している。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-499 (図Ⅲ-38)

位置・立地：N-72、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.57/0.35×0.42/0.25×0.12m 平面形：楕円形

確認・調査：確認・調査：IV層で灰黄褐色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は灰黄褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-500 (図Ⅲ-38)

位置・立地：L-73、段丘崖から約2m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.87/0.26×0.72/0.36×0.31m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はパミスを含む黒褐色と黄褐色壤土が埋め戻されている。土坑の西側、覆土の上位からⅢ群b類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-501 (図Ⅲ-38)

位置・立地：N-74、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.46/0.30×0.45/0.34×0.13m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はパミスを含む黒褐色と褐色壤土が埋め戻されている。土坑の北側、覆土の上位から礫片が出土している。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-502 (図Ⅲ-38・63、図版41・55)

位置・立地：P-71、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.64/0.57×0.56/0.44×0.47m 平面形：隅丸方形

確認・調査：KH-8の覆土で検出した。坑底はKH-8の床を掘り抜き段がある。壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。覆土はパミス含む黒色と褐色壤土が埋め戻されている。遺物は覆土の中位からV群b類の一括土器が出土している。

遺構の形態や覆土の他、縄文中期前葉のKH-8を壊して構築されていることからそれよりも新しく、また土坑の形態や覆土の堆積状況、出土遺物から縄文時代晩期中葉、V群b類土器の時期の土坑である。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢。口縁部下で内湾し、口縁部は短く外反する。大洞C₁～C₂式相当のタンネットウL式土器。

KP-503 (図Ⅲ-39)

位置・立地：M・N-72・73、段丘崖から約6m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.56/0.32×0.50/0.29×0.14m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-504 (図Ⅲ-39)

位置・立地：N-73、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.42/0.26×0.42/0.24×0.14m 平面形：円形

確認・調査：確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻されている。土坑の東側、覆土の上位から礫が出土している。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-505 (図Ⅲ-39、図版42)

位置・立地：P-75、段丘崖から約24m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.73/0.46×0.70/0.48×0.13m 平面形：円形

確認・調査：確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻されている。東側はKP-514が壁の立ち上がりから上を壊している。覆土からV群c類土器とフレイク・礫が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時代の土坑である。(谷島)

KP-506 (図Ⅲ-39、図版42)

位置・立地：P-75、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.62/0.43×0.61/0.45×0.24m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒色とバミスを含むにぶい黄褐色壤土が埋め戻されている。覆土上半にV群c類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時代の土坑である。(谷島)

KP-507 (図Ⅲ-39)

位置・立地：N-70、段丘崖から約4m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.78/0.56×0.66/0.49×0.23m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はやや丸くV層を掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒色と褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-508 (図Ⅲ-39、図版42)

位置・立地：O-70、段丘崖から約5m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.93/1.56×1.70/1.33×0.20m 平面形：円形

確認・調査：IV層でふい黄褐色のまとまりを確認した。長軸が約2mの大型の土坑。坑底はほぼ平坦でV層を掘り込み、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。覆土はふい黄褐色と黄褐色壤土が埋め戻されている。北東側の壁際からV群c類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代晩期後葉、V群c類土器の時期の土坑である。(谷島)

KP-509 (図Ⅲ-39)

位置・立地：P-69、段丘崖から約12m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.71/0.32×0.64/0.30×0.28m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くボール状を呈しV層に掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒〜バミスを含むふい黄褐色と灰黄褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中〜晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-510 (図Ⅲ-39、図版42)

位置・立地：O-68、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.76/0.62×0.67/0.44×0.25m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層に掘り込み、壁は丸みを持ち緩やかに立ち上がる。覆土はバミスを含む黒褐色壤土が埋め戻されている。東側の覆土中位からI群b-4類の土器片が出土している。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代早期後葉、I群b-4類土器の時期の土坑と考えられる。(谷島)

KP-511 (図Ⅲ-39、図版42)

位置・立地：O-68、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.90/1.76×1.70/1.52×0.16m 平面形：円形

確認・調査：IV層で褐色土のまとまりを確認した。長軸が約2mの大型の土坑。坑底はほぼ平坦でV層に掘り込み、壁は丸みを持って緩やかに立ち上がる。覆土はバミス少量含む褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中〜晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-512 (図Ⅲ-40)

位置・立地：O-75、段丘崖から約22m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.40/0.17×0.39/0.17×0.12m 平面形：円形

確認・調査：IV層で灰黄褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層に掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる小形の土坑。覆土はバミスを含む灰黄褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中〜晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-513 (図Ⅲ-40、図版42)

位置・立地：M-74、段丘崖から約6m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.27/1.15×0.68/0.54×0.52m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底はほぼ平坦でV層を約40cm掘り込み、壁の立ち上がりは丸みを持ち垂直に立ち上がる。覆土は黒色とバミスを含む暗褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

KP-514 (図Ⅲ-40)

位置・立地：P-75、段丘崖から約24m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.28/0.10×0.26/0.10×0.11m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層に掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。小形の土坑である。覆土は黒色壤土が埋め戻されている。西側はKP-514の壁を壊している。

遺構の重複関係から縄文時代晩期後葉のKP-505より新しいものと思われる。(谷島)

KP-515 (図Ⅲ-40)

位置・立地：Q-64、段丘縁、調査区北側に位置する。

規 模：0.67/0.51×0.66/0.40×0.27m 平面形：不正楕円形

確認・調査：IV層で黒色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層に掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土はバミス少量含む黒色と暗褐色壤土が埋め戻されている。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

(3) 小ピット

SP-6 (図Ⅲ-40、図版43)

位置・立地：Q-53、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上、標高44.6m付近に位置する。

規 模：0.36/0.20×0.33/0.19×0.44m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はほぼ直線的である。南側に85°傾斜する縦長の掘り込みで、坑底面は傾斜に対してほぼ垂直である。周辺の土坑に関連する柱穴と考えられる。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期と考えられる。(佐藤)

SP-7 (図Ⅲ-40、図版43)

位置・立地：S-46、調査区南西側の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.33/0.21×0.30/0.19×0.19m 平面形：円形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているIV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。規模から、小ピットと考えられる。他の周辺の土坑に関連する柱穴の可能性が高い。SP-7・13～15は近接する。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期と考えられる。(佐藤)

SP-8 (図Ⅲ-40、図版43)

位置・立地：R-54・55、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上、標高44.4m付近に位置する。

規 模：0.31/0.17×0.27/0.14×0.14m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。規模から、小ピットと考えられる。他の周辺の土坑に関連する柱穴の可能性が高い。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期と考えられる。(佐藤)

SP-9 (図Ⅲ-40)

位置・立地：R-66、段丘崖から約3m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.42/0.27×-×0.19m 平面形：円形？

確認・調査：IV層で暗褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層に掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は焼土と混合している。

遺構の形態や覆土から縄文時代中～晩期頃の土坑と思われる。(谷島)

SP-10 (図Ⅲ-40、図版43)

位置・立地：S-70、段丘崖から約28m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.38/0.18×0.33×0.18×0.21m 平面形：円形

確認・調査：IV層で黒褐色土のまとまりを確認した。坑底は丸くV層に掘り込み、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土は黒褐色土でバミスを含む。柱穴跡と考えられ、SP-10～12が関連する可能性がある。

遺構の形態や覆土から縄文時代中期後半の土坑と思われる。(谷島)

SP-11 (図Ⅲ-40・63、図版43・55)

位置・立地：S-70、段丘崖から約29m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.40/0.27×0.32/0.18×0.16m 平面形：楕円形

確認・調査：IV層の黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はV層を掘り込み丸く、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土は黒褐色土でバミスを含む。柱穴跡と考えられ、SP-10～12が関連する可能性がある。

遺構の形態や覆土、出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の柱穴痕である。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢の底部。原体系はL R + R L 結束第1種。天神山式土器。

SP-12 (図Ⅲ-40、図版43)

位置・立地：S-71、段丘崖から約23m離れた調査区北側に位置する。

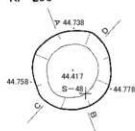
規 模：0.40/0.24×0.37/0.18×0.28m 平面形：円形

確認・調査：IV層の黒褐色土のまとまりを確認した。坑底はV層を掘り込み丸く、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土は黒褐色土でバミスを含む。柱穴跡と考えられ、SP-10～12が関連する可能性がある。

覆土や出土遺物から縄文時代中期後半、Ⅲ群b類土器の時期の柱穴痕である。(谷島)

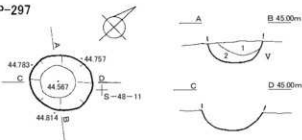
KP-296



KP-296

- 1:10102/1 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ
 2:10102/2 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V
 3:10102/3 砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V

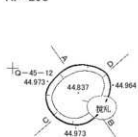
KP-297



KP-297

- 1:10102/1 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ
 2:10104/3 におい、砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V

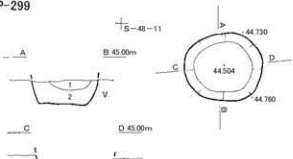
KP-298



KP-298

- 1:10102/1 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ
 2:10102/3 砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、炭化物微量混、Ⅱ+V

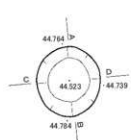
KP-299



KP-299

- 1:10102/1 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ
 2:10104/3 におい、砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V

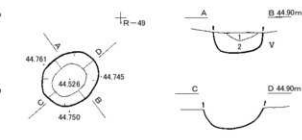
KP-300



KP-300

- 1:10102/2 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V
 2:10104/3 におい、砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V

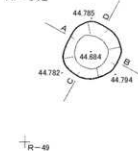
KP-301



KP-301

- 1:10102/2 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V
 2:10104/3 におい、砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V

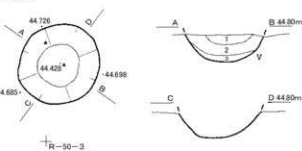
KP-302



KP-302

- 1:10102/3 砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V

KP-303



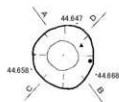
KP-303

- 1:10102/1 基、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V
 2:10102/3 砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V
 3:10102/4 砂礫、堰上、船中、堅密底敷、パリス少量含む、Ⅱ+V



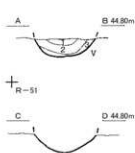
図 III-12 KP-296~303

KP-304

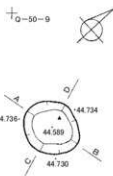


KP-304

- 1: 10792/1 黒、礫土、粘中、堅密度軟、目
- 2: 10792/2 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V
- 3: 10794/4 黒、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V

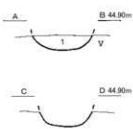


KP-305



KP-305

- 1: 10792/3 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V

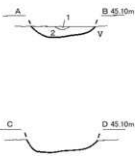


KP-306



KP-306

- 1: 10792/3 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目
- 2: 10793/4 砂泥、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、炭化物埋込、目

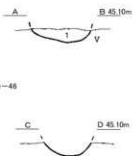


KP-307

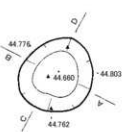


KP-307

- 1: 10792/3 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V

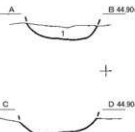


KP-308

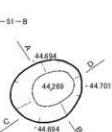


KP-308

- 1: 10792/1 黒、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V

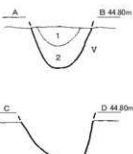


KP-309

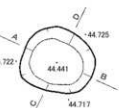


KP-309

- 1: 10792/3 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス少量を含む、目>V
- 2: 10793/2 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリスを含む、目<V

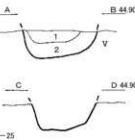


KP-310

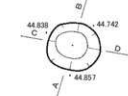


KP-310

- 1: 10792/1 黒、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V
- 2: 10793/4 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V

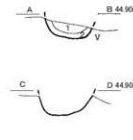


KP-311



KP-311

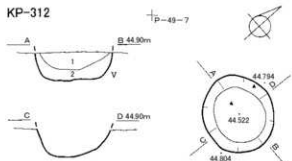
- 1: 10792/3 黒砂、礫土、粘中、堅密度軟、パリス少量を含む、目>V
- 2: 10793/4 砂泥、礫土、粘中、堅密度軟、パリス層を含む、目>V



0 1m +P-50

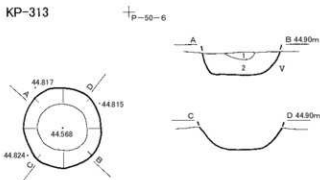
図 III-13 KP-304~311

KP-312



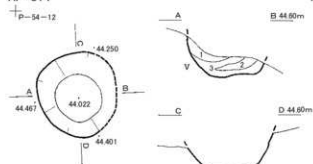
KP-312
 1:10/32/1 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ>V
 2:10/34/2 灰泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ | V

KP-313



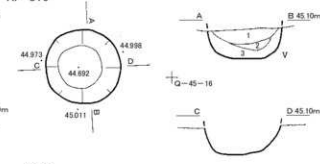
KP-313
 1:10/32/3 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ>V
 2:10/33/4 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ+V

KP-314



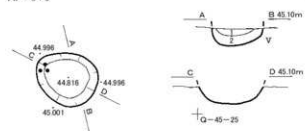
KP-314
 1:10/32/1 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ
 2:10/32/2 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ>V
 3:10/34/4 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス多量合む、Ⅱ+V

KP-315



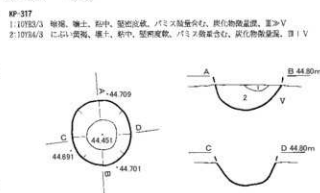
KP-315
 1:10/32/1 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス合む、Ⅱ>V
 2:10/32/3 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス多量合む、Ⅱ<V
 3:10/33/4 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス多量合む、Ⅱ+V

KP-316



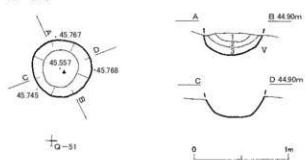
KP-316
 1:10/32/2 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、Ⅱ
 2:10/33/3 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、炭化物微量混、Ⅱ>V

KP-317



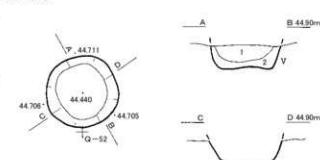
KP-317
 1:10/33/3 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、炭化物微量混、Ⅱ>V
 2:10/34/3 白い灰泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、炭化物微量混、Ⅱ | V

KP-318



KP-318
 1:10/32/1 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、Ⅱ
 2:10/32/2 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス多量合む、Ⅱ>V
 3:10/33/4 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス多量合む、Ⅱ+V

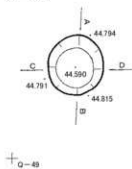
KP-319



KP-319
 1:10/32/1 黒泥、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ>V
 2:10/33/4 砂礫、礫土、粘中、堅固底敷、パリス敷き合む、Ⅱ>V

図 III-14 KP-312~319

KP-320



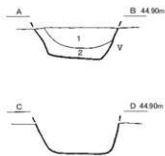
- KP-320
 1:10182/1 黒土、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 2:10182/3 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス少量含む、Ⅱ+V

KP-321

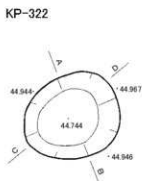


- KP-321
 1:10182/1 黒土、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 2:10182/3 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス少量含む、Ⅱ+V

Q-50

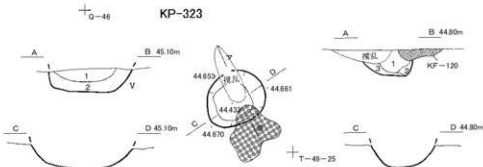


KP-322



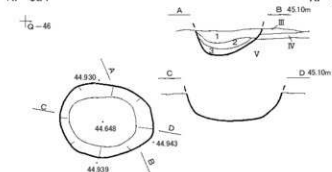
- KP-322
 1:10182/2 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、Ⅲ
 2:10182/3 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、炭化物混、Ⅲ>V

KP-323



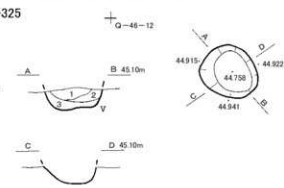
- KP-323
 1:10182/1 黒土、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 2:10182/4 粘粘、礫土、粘中、笠巻成層、Ⅱ+V
 3:10182/3 1.6%有機質、礫土、粘中、笠巻成層、Ⅲ>V

KP-324



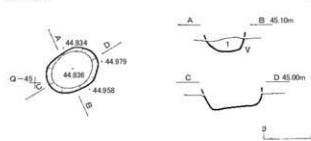
- KP-324
 1:10182/2 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 3:10182/3 粘粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 3:10182/4 1.5%有機質、礫土、粘中、笠巻成層、パリス含む、Ⅱ<V

KP-325



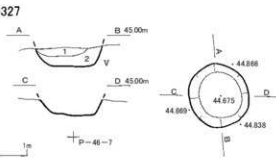
- KP-325
 1:10182/2 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 2:10182/2 粘粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ>V
 3:10182/4 粘粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅱ+V

KP-326



- KP-326
 1:10182/3 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス微量含む、Ⅲ

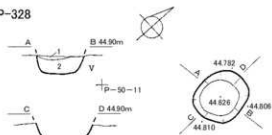
KP-327



- KP-327
 1:10182/2 黒粘、礫土、粘中、笠巻成層、パリス少量含む、Ⅱ>V
 2:10182/3 1.5%有機質、礫土、粘中、笠巻成層、パリス少量含む、Ⅲ+V

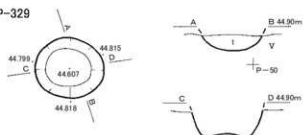
図 III-15 KP-320~327

KP-328



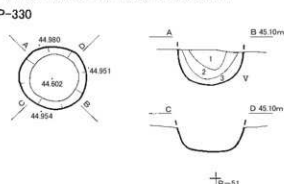
- KP-328
 1: 10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 2: 10YR3/4 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$

KP-329



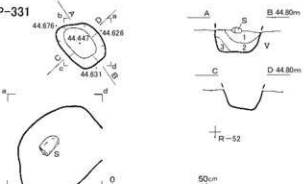
- KP-329
 1: 10YR4/3 灰い黄褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、炭化物微量混、 $\beta > V$

KP-330



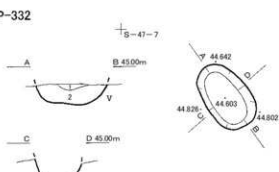
- KP-330
 1: 10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 2: 10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 3: 10YR3/3 灰い黄褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス含む、 $\beta < V$

KP-331



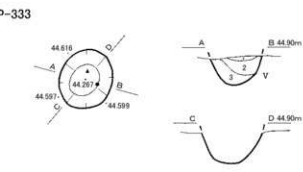
- KP-331
 1: 10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 2: 10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、炭化物微量混、 $\beta > V$
 3: 10YR5/3 灰褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、炭化物微量混、 $\beta < V$

KP-332



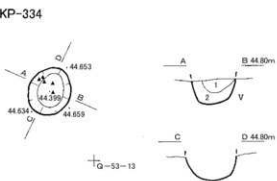
- KP-332
 1: 10YR2/1 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 2: 10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$

KP-333



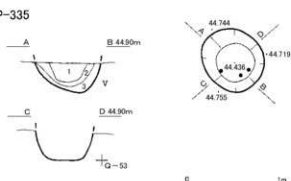
- KP-333
 1: 10YR2/1 黒、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 2: 10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 3: 10YR5/2 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$

KP-334



- KP-334
 1: 10YR2/1 黒、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 2: 10YR2/1 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$

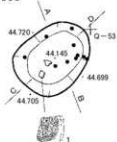
KP-335



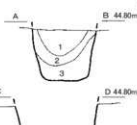
- KP-335
 1: 10YR2/1 黒、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 3: 10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$
 3: 10YR3/4 黒褐、壤土、粘中、堅密成塊、パミス微量含む、 $\beta > V$

図 III - 16 K P - 328 ~ 335

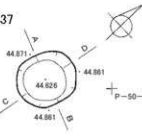
KP-336



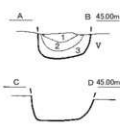
- KP-336
 1:10Y2/1 瓦、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 2:10Y3/2 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 3:10Y3/3 砂礫、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス合心、Ⅱ>V



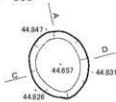
KP-337



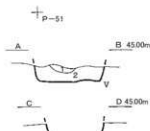
- KP-337
 1:10Y2/2 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 2:10Y2/3 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 3:10Y3/3 砂礫、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V



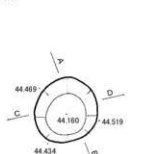
KP-338



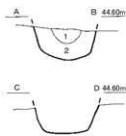
- KP-338
 1:10Y2/1 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 2:10Y2/3 砂礫、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V



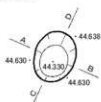
KP-339



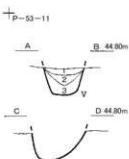
- KP-339
 1:10Y2/1 黒、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 2:10Y2/3 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V



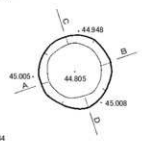
KP-340



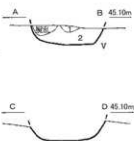
- KP-340
 1:10Y2/1 黒、埴土、粘中、埴曲成敷、Ⅱ
 2:10Y3/1 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 3:10Y3/2 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス少量合心、Ⅱ>V



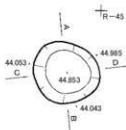
KP-341



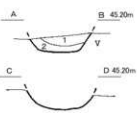
- KP-341
 1:10Y2/1 黒、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス少量合心、Ⅱ>V
 2:10Y4/4 黒、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス少量合心、Ⅱ>V



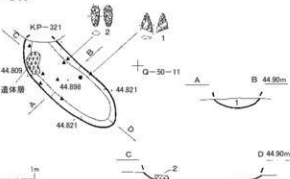
KP-342



- KP-342
 1:10Y2/2 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 2:10Y4/4 黒、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス少量合心、Ⅱ>V



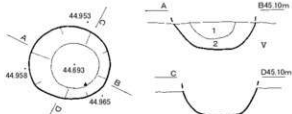
KP-343



- KP-343
 1:10Y2/3 黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V
 2:10Y4/2 灰黒褐、埴土、粘中、埴曲成敷、バミス敷合心、Ⅱ>V

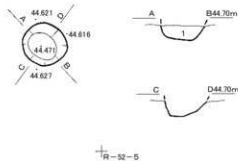
図III-17 KP-336~343

KP-344 \perp R-46-6



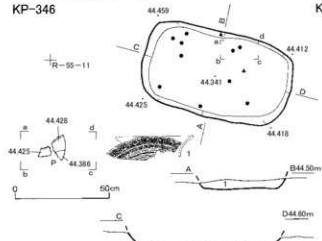
KP-344
1:10782/1 黒、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目>V
2:10782/2 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、炭化動物遺体、目>V

KP-345



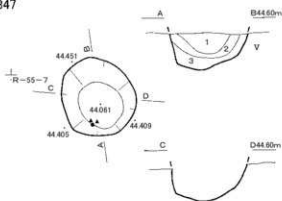
KP-345
1:10794/4 黒、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目-V

KP-346



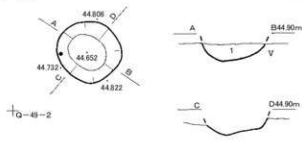
KP-346
1:10782/2 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目>V

KP-347



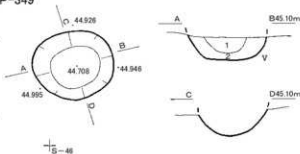
KP-347
1:10782/1 黒、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目>V
2:10782/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目>V
3:10783/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目-V

KP-348



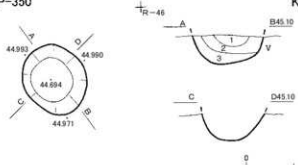
KP-348
1:10782/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス少量含む、目>V

KP-349



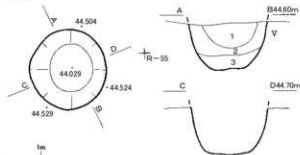
KP-349
1:10782/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス少量含む、目>V
2:10783/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス少量含む、目>V

KP-350



KP-350
1:10782/1 黒、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目>V
2:10782/4 粘粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、炭化動物遺体、目>V
3:10784/4 黒、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目<V

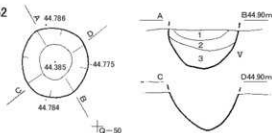
KP-351



KP-351
1:10782/1 黒、埴土、粘中、堅密度軟、パミス微量含む、目>V
2:10782/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス少量含む、目>V
3:10782/3 黒粘、埴土、粘中、堅密度軟、パミス少量含む、目>V

図 III-18 KP-344~351

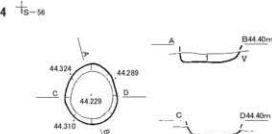
KP-352



KP-352

- 1:10152/1 灰、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ
2:10153/2 黒炭、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V
3:10153/3 粘泥、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V

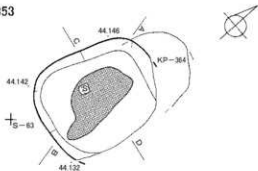
KP-354



KP-354

- 1:10153/3 粘泥、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V

KP-353



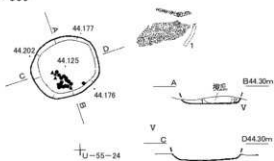
KP-353

- 1:5324/4 赤灰、礫土、粘泥、堅硬成軟、礫土
2:2:5325/2 粘泥層、礫土、粘泥、堅硬成軟、粘土
3:7:5321/7/1 灰、礫土、粘中、堅硬成軟
4:7:5322/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬成軟、パミス5%、5~10mm



焼土

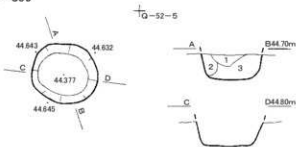
KP-355



KP-355

- 1:10153/4 粘泥、礫土、粘中、堅硬成軟、Ⅱ+V
2:10153/3 粘泥、礫土、粘中、堅硬成軟、Ⅱ+V

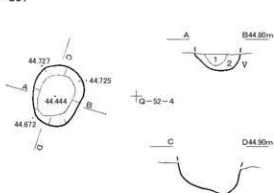
KP-356



KP-356

- 1:10152/1 灰、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V
2:10152/4 粘泥、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V
3:10152/3 粘泥、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V

KP-357



KP-357

- 1:10152/1 灰、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V
2:10152/1 黒炭、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V

KP-358

- 1:10152/1 灰、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む
2:10152/3 黒炭、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、灰化粉砕層、Ⅱ+V
3:10154/6 灰、礫土、粘中、堅硬成軟、パミス少量含む、Ⅱ+V

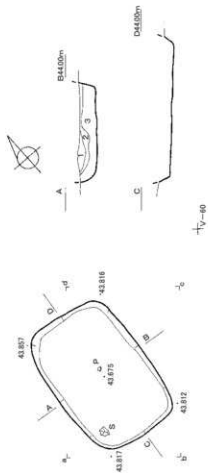
KP-358



焼土

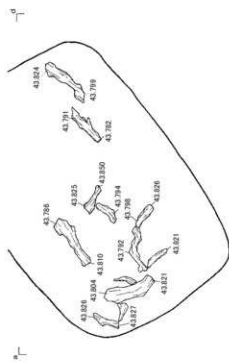
図 III-19 KP-352~358

KP-359

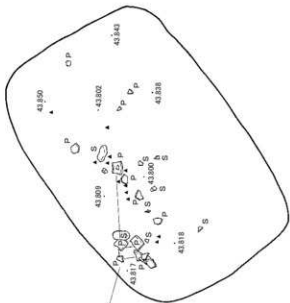
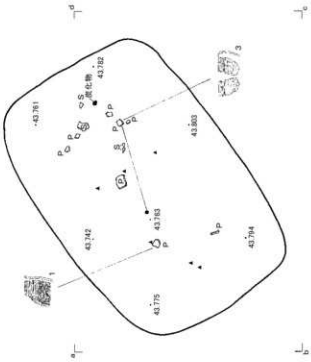
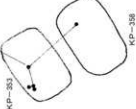


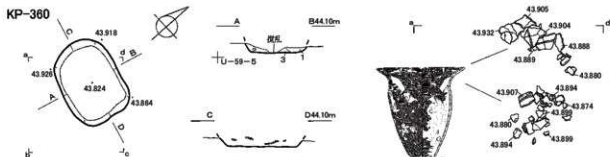
KP-359
 1:1000 土
 2:1000 土
 3:1000 土

1:1000 土
 2:1000 土
 3:1000 土



図III-21 KP-359



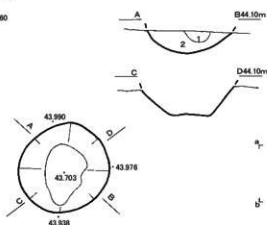


KP-360

- 1:10183/1 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、目>V
- 2:10183/2 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、目I V
- 3:10185/6 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、目

KP-361

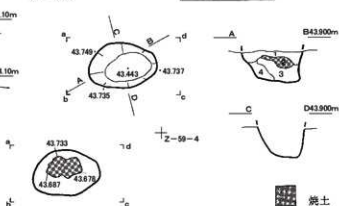
T-80



KP-361

- 1:10183/3 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目<V
- 2:10182/1 灰、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、V

KP-362

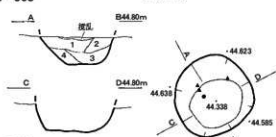


KP-362

- 1:10182/2 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目<V
- 2:6184/4 におい・粘中、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目上
- 3:10183/3 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、灰化物少量含む、目<V
- 4:10182/2 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、目<V

KP-363

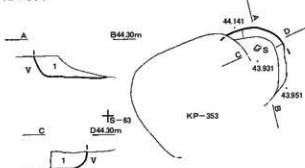
TG-52-10



KP-363

- 1:10183/2 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目>V
- 2:10182/2 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目+V
- 3:10182/2 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目>V
- 4:10183/4 灰層、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、目<V

KP-364

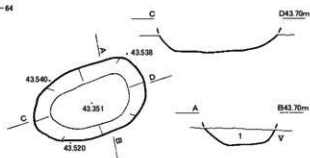


KP-364

- 1:7.502/1 灰、礫土、粘中、堅硬皮膜、φ1mmパミス含む

KP-366

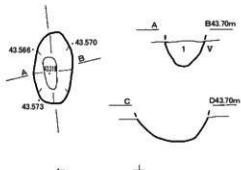
TZ-64



KP-366

- 1:10184/3 におい・粘中、礫土、粘中、堅硬皮膜、パミス少量含む、灰化物少量含む、目<V

KP-367



KP-367

- 1:10182/1 灰、礫土、粘中、堅硬皮膜、目

図 III - 22 K P - 360 ~ 364 ・ 366 ・ 367

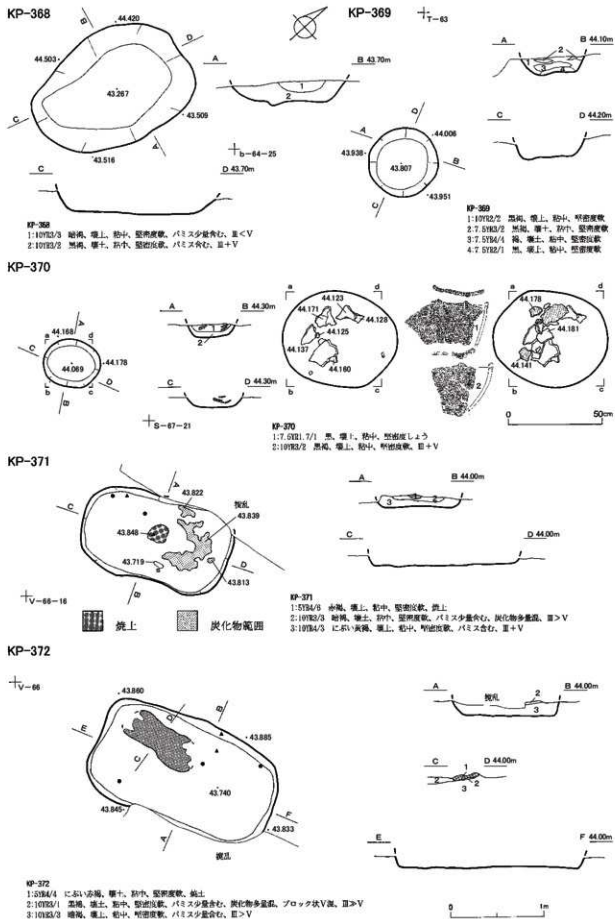
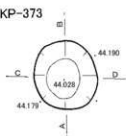


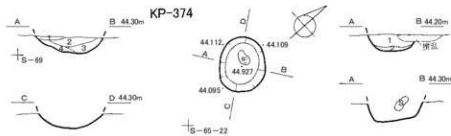
図 III-23 KP-368~372

KP-373



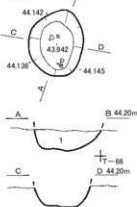
KP-373
 1: 5/181/7/1 黒、礫十、粘河、明礬皮膜、パミス少量含む、目
 2: 7/3781/7/1 黒、礫十、粘河、明礬皮膜、パミス少量含む、目>V
 3: 7/5183/3 黒、礫十、粘河、明礬皮膜、パミス少量含む、目+V
 4: 10/23/3 黒、礫十、粘河、明礬皮膜、パミス少量含む、目<V

KP-374



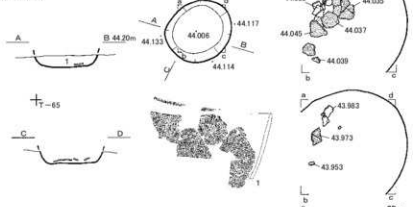
KP-374
 1: 10/22/2 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む、目>V
 2: 10/24/4 黒、礫十、粘中、明礬皮膜、パミス少量含む、目<V

KP-375



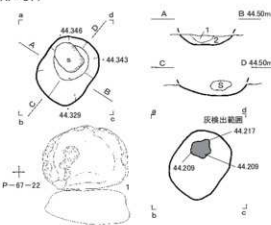
KP-375
 1: 10/23/2 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む、目>V

KP-376



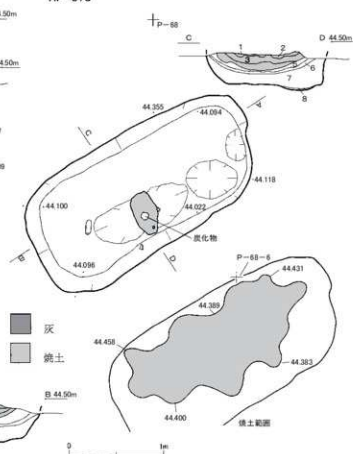
KP-376
 1: 10/23/2 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、黄褐色ブロック状、目+V

KP-377



KP-377
 1: 10/21/7/1 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む、目
 2: 10/22/3 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む、目>V

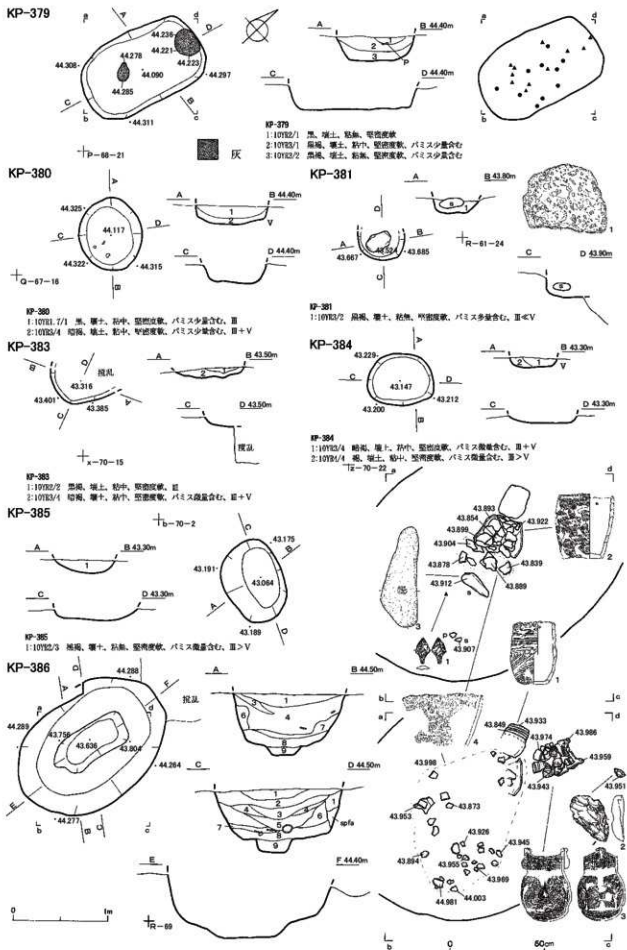
KP-378



■ 灰
 ■ 黄土

KP-378
 1: 5/181/7/1 黒、礫十、粘中、明礬皮膜、黄土
 2: 5/232/2 暗褐色、礫十、粘中、炭褐色膜、黄土
 3: 7/5181/7/1 黒、礫十、粘中、明礬皮膜、黄土
 4: 10/21/7/1 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む、炭化物膜
 5: 10/21/7/1 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む、炭化物膜
 6: 10/22/2 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む
 7: 10/22/2 黒、礫十、粘中、炭褐色膜、パミス少量含む
 8: 7/5184/6 黒、礫十、粘中、炭褐色膜

図III-24 KP-373~378



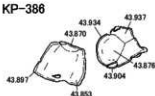
図Ⅲ-25 KP-379~381・383~386

KP-386

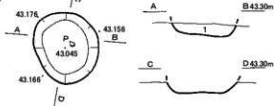
- 1:10YR2/1 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Ba+Ca含む
- 2:10YR2/1 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少、5cmφ未満
- 3:10YR2/1 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少、5~10cmφ
- 4:10YR1/7/1 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少、5cmφ
- 5:10YR1/7/1 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少、5cmφ未満
- 6:10YR2/2 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、暗褐色アロク含む
- 7:10YR2/2 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、炭化物含む、黒色土+礫土
- 8:5YR5/8 暗赤褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少含む、黄土
- 9:7.5YR4/4 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少含む、黄土



KP-386



KP-387

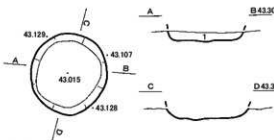


KP-387

- 1:10YR3/3 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少含む、黒+V

KP-388

±b-70-8

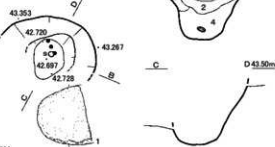


KP-388

- 1:10YR4/4 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少含む、黒+V

KP-389

±x-71

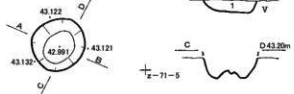


KP-389

- 1:10YR2/1 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ微量含む、黒
- 2:10YR3/3 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ微量含む、炭化物微量、黒+V
- 3:10YR4/4 黒、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少含む、炭化物微量、黒<V
- 4:10YR4/2 暗赤黄褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ含む、炭化物微量、黒+V

KP-390

±z-71-5

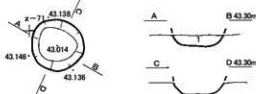


KP-390

- 1:10YR3/4 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ含む、黒+V

KP-391

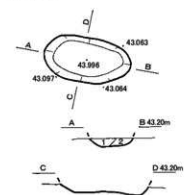
±z-71



KP-391

- 1:10YR3/3 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ微量含む、黒+V

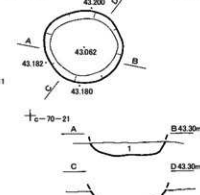
KP-392



KP-392

- 1:10YR3/3 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ少含む、黒+V
- 2:10YR4/2 暗赤黄褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ含む、黒+V

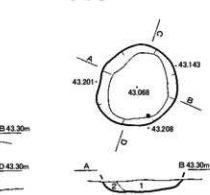
KP-393



KP-393

- 1:10YR3/4 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ微量含む、黒+V

KP-394

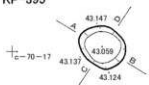


KP-394

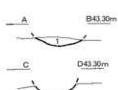
- 1:10YR3/4 暗褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ微量含む、黒+V
- 2:10YR4/4 暗赤黄褐、礫土、粘中、堅硬皮状、Baミ微量含む、黒+V

図三-26 KP-386遺物出土状況・KP-387~394

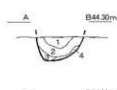
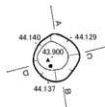
KP-395



+C-70-17



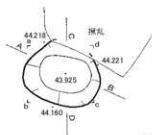
KP-396



KP-395

1:10/23/3 砂礫、礫土、粘土、堅硬底版、パミス多数含む、目>V

KP-397



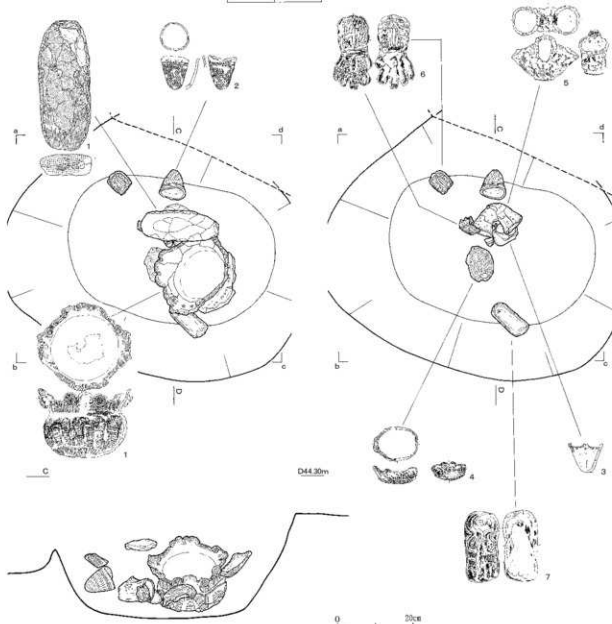
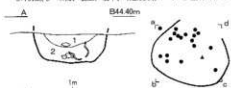
+R-60-16

KP-396

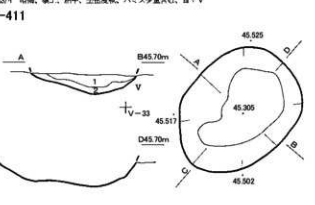
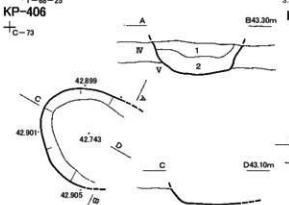
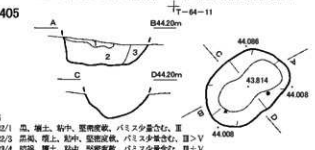
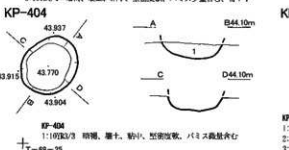
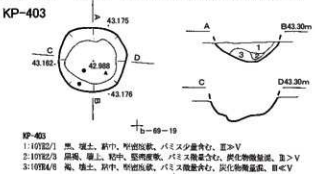
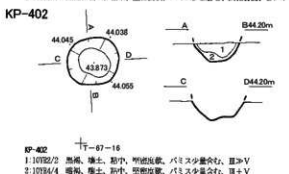
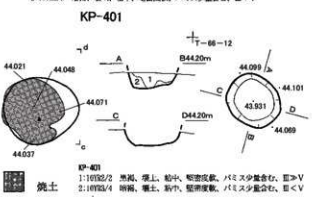
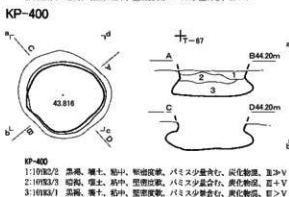
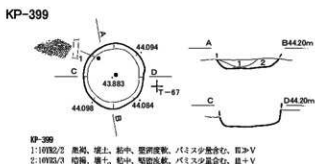
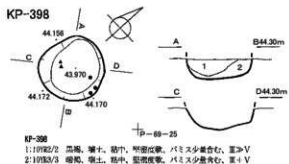
1:10/21/1 黒、礫土、粘土、堅硬底版、パミス少量含む、目
2:10/22/2 赤褐、礫土、粘土、堅硬底版、パミス少量含む、目>V
3:10/23/2 黒褐、礫土、粘土、堅硬底版、パミス少量含む、目+V
4:10/25/6 黄褐、礫土、粘土、堅硬底版、パミス含む、目<V

KP-397

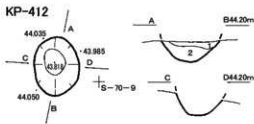
1:10/22/1 黒、礫土、粘土、堅硬底版、パミス多数含む、目>V
2:10/23/3 砂礫、礫土、粘土、堅硬底版、パミス少量含む、目+V



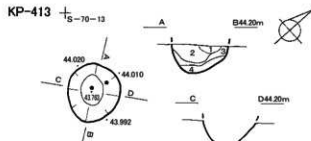
図III-27 KP-395~397



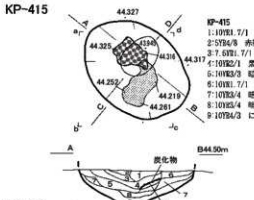
図Ⅲ-28 KP-398~406・411



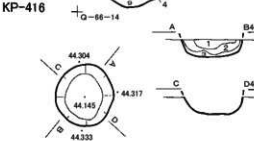
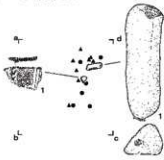
- KP-412**
 1:10YK2/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 2:10YK3/3 暗褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、炭化範囲、Ⅲ+V



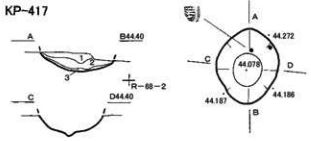
- KP-413**
 1:10YK2/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ
 2:10YK2/2 黒褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 3:10YK3/3 暗褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V
 4:10YK4/6 褐、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ<V



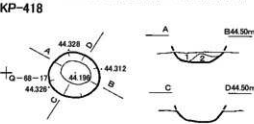
- KP-415**
 1:10YK1/7/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ
 2:5YK4/8 赤褐色、シルト質礫土、粘中、堅硬底版、礫土
 3:7.6YK1/7/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ
 4:10YK2/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 5:10YK3/3 暗褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V
 6:10YK1/7/1 黒、シルト質礫土、粘中、堅硬底版
 7:10YK3/4 暗褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ<V
 8:10YK3/4 暗褐色、シルト質礫土、粘中、堅硬底版
 9:10YK4/3 に近い黄褐色、シルト質礫土、粘中、堅硬底版



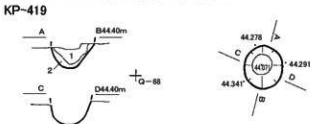
- KP-416**
 1:10YK1/7/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ
 2:10YK2/2 黒褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 3:10YK3/4 暗褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ<V



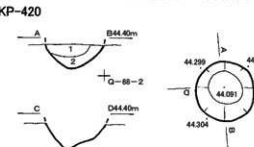
- KP-417**
 1:10YK2/2 黒褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 2:10YK3/3 暗褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 3:10YK4/4 褐、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V



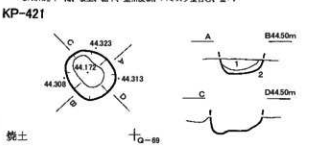
- KP-418**
 1:10YK3/2 黒褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 2:10YK4/3 に近い黄褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V



- KP-419**
 1:10YK2/2 黒褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 2:10YK4/4 褐、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V



- KP-420**
 1:10YK2/2 黒褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ>V
 2:10YK3/4 に近い黄褐色、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V

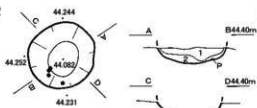


- KP-421**
 1:10YK2/1 黒、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ
 2:10YK4/4 褐、礫土、粘中、堅硬底版、バミス少量含む、Ⅲ+V



図III-29 KP-412・413・415~421

KP-422

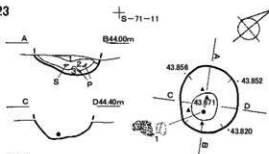


KP-422

- 1:10YR2/2 黒褐、壤土、粘土、堅硬成塊、パリス少量含む、目
- 2:10YR3/3 暗褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V

↑R-09-2

KP-423

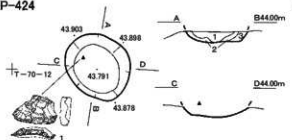


KP-423

- 1:10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、炭化物混、目>V
- 2:10YR2/1 黒、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、炭化物混、目
- 3:10YR4/4 褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目 I V

↑G-71-11

KP-424

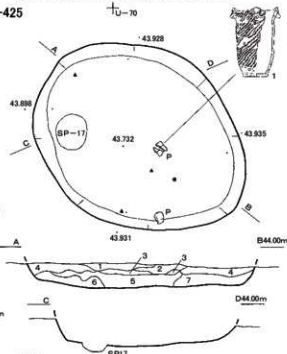


KP-424

- 1:10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、炭化物少量混、目>V
- 2:10YR3/3 暗褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 3:10YR1/8 高、壤土、粘中、硬成塊、パリス少量含む、目<V

↑T-70-12

KP-425

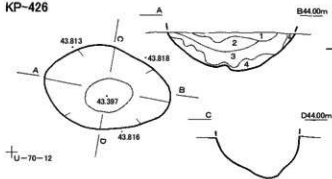


KP-425

- 1:Y1.5/0 高、黒土、粘中、堅硬成塊、ブロック
- 2:10YR3/3 暗褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 3:10YR1/8 褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 4:10YR4/3 に近い黄褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス含む、目+V
- 5:10YR5/4 に近い黄褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 6:10YR5/4 に近い黄褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 7:10YR4/4 高、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス含む、目>V

↑U-70-12

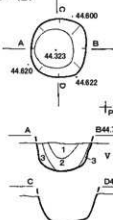
KP-426



KP-426

- 1:10YR1 7/1 高、黒土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、炭化物少量混、目
- 2:10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、炭化物少量混、目>V
- 3:10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、炭化物少量混、目>V
- 4:10YR4/4 高、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目-V

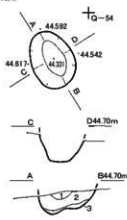
KP-427



KP-427

- 1:10YR2/1 高、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目
- 2:10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 3:10YR3/3 暗褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V

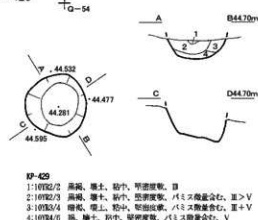
KP-428



KP-428

- 1:10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、目
- 2:10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 3:10YR4/6 高、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V

KP-429



KP-429

- 1:10YR2/2 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、目
- 2:10YR2/3 黒褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目>V
- 3:10YR3/3 暗褐、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目+V
- 4:10YR4/6 高、壤土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、目

図 III - 30 KP-422~429

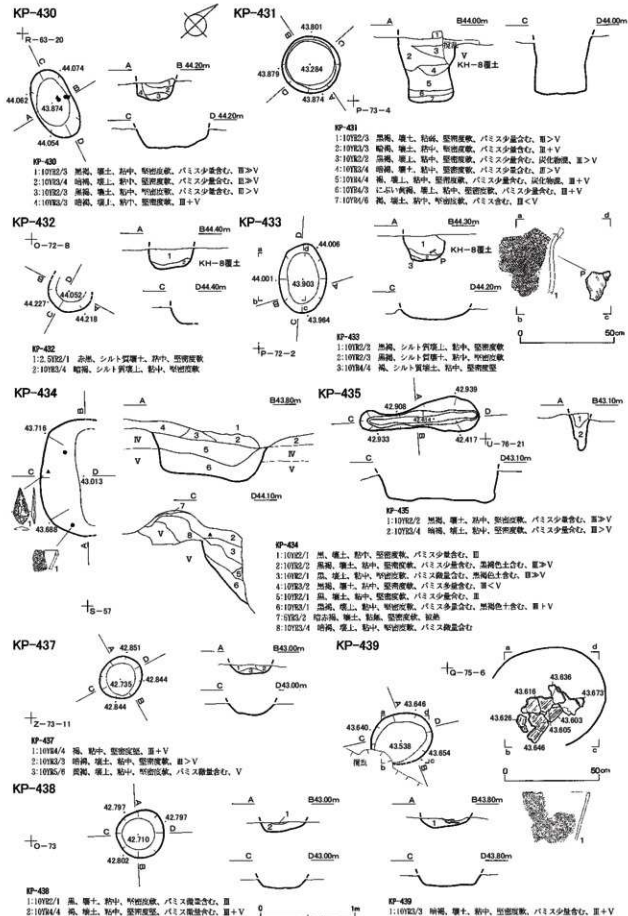
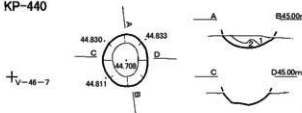


図 III-31 KP-430~435・437~439

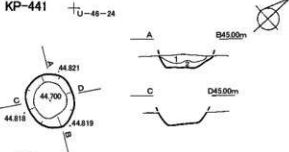
KP-440



KP-440

1:10193/2 黒褐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス少量含む、黒色土を状状に凝、目Ⅴ
2:10194/4 腐、礫七、砂中、堅密度軟、パミス少量含む、V

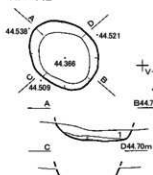
KP-441



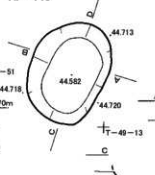
KP-441

1:10193/2 黒褐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス少量含む、黒褐色土混、目Ⅴ
2:10194/3 におい黄褐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス含む、V

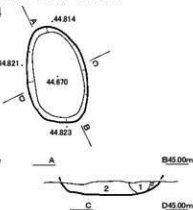
KP-442



KP-443



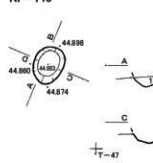
KP-444



KP-442

1:10194/4 腐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス少量含む、黒色土混、目Ⅴ
2:10195/5 腐、礫七、砂中、堅密度軟、パミス含む、V

KP-445



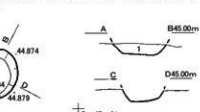
KP-446



KP-444

1:10193/1 黒褐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス少量含む、目Ⅴ
2:10194/3 におい黄褐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス含む、黒褐色土混、目Ⅴ

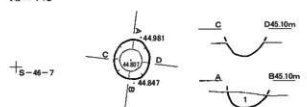
KP-447



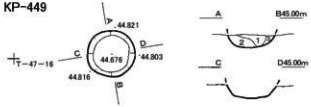
KP-445

1:10194/3 におい黄褐、礫十、砂中、堅密度軟、黒褐色土混
2:10195/5 腐、礫十、砂中、堅密度軟、黒褐色土混

KP-448



KP-449



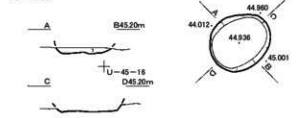
KP-448

1:10193/2 黒褐、礫十、砂中、堅密度軟、黄褐色土混に凝

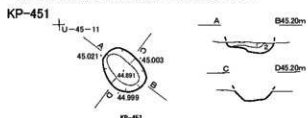
KP-449

1:10193/1 黒褐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス少量含む
2:10194/4 腐、礫十、砂中、堅密度軟
3:10195/5 腐、礫十、砂中、堅密度軟、パミス少量含む、黄褐色土混

KP-450



KP-451



KP-450

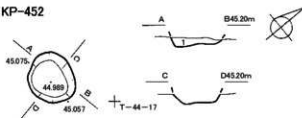
1:10194/3 におい黄褐、礫十、砂中、堅密度軟

KP-451

1:10193/1 黒褐、礫十、砂中、堅密度軟
2:10194/4 腐、礫十、砂中、堅密度軟、黄褐色土混

図 III - 32 KP - 440 ~ 451

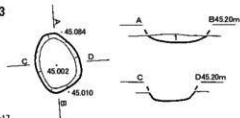
KP-452



KP-452

1:10/84/2 灰黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む、明黄褐色1粉状炭

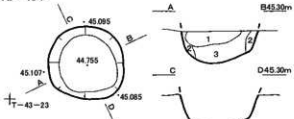
KP-453



KP-453

1:10/84/3 濃い黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む、黄灰色土層

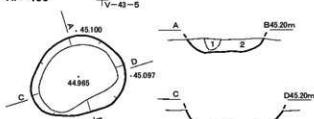
KP-454



KP-454

1:10/82/1 黒、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む
2:10/86/3 黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む
3:10/84/2 灰黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス含む

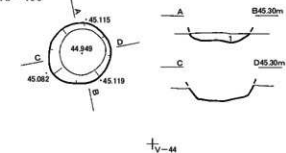
KP-455



KP-455

1:10/82/1 黒、礫土、砂中、堅密度軟
2:10/84/2 灰黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む、黄褐色土層

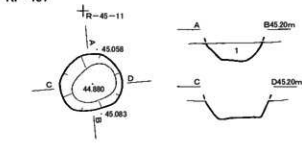
KP-456



KP-456

1:10/83/2 黒、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む

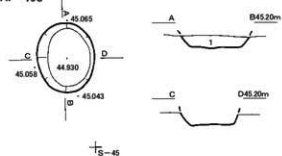
KP-457



KP-457

1:10/83/1 黒、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む

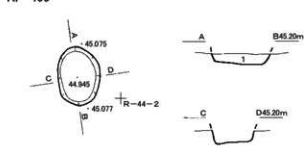
KP-458



KP-458

1:10/83/2 黒、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む、黒色土・黄褐色土層

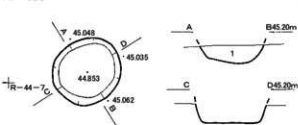
KP-459



KP-459

1:10/83/1 黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む、黒色土・褐色土層

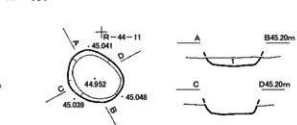
KP-460



KP-460

1:10/84/2 灰黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス含む

KP-461



KP-461

1:10/84/3 濃い黄緑、礫土、砂中、堅密度軟、パリス少量含む

図 III-33 KP-452~461

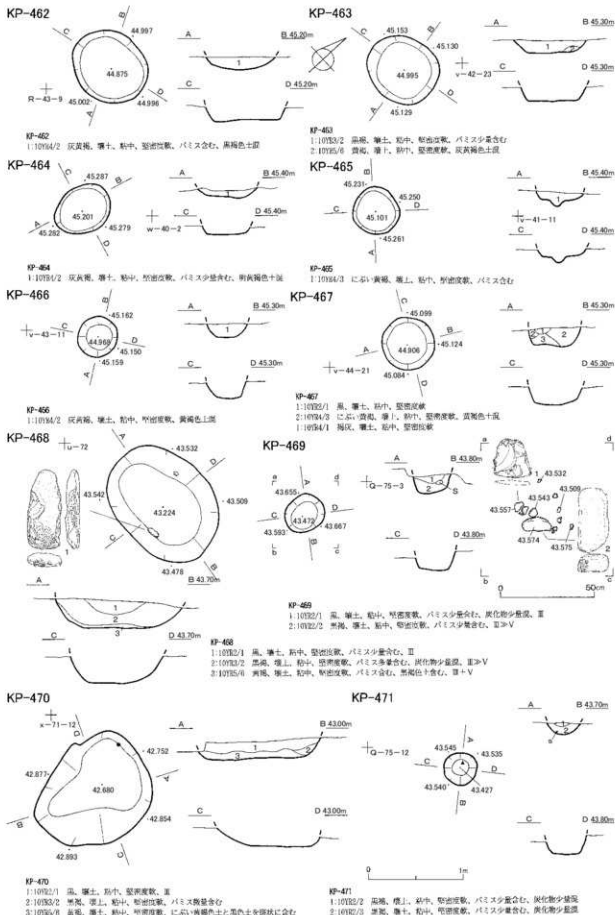
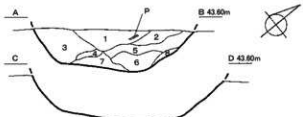
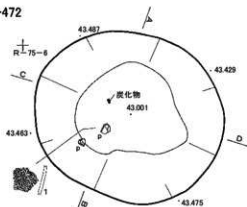


図 III - 34 K P - 462 ~ 471

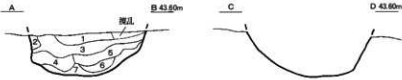
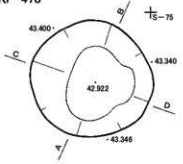
KP-472



KP-472

- 1:10192/1 黒、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス塊を含む、Ⅲ
- 2:10193/1 黒粘、礫土、粘中、堅硬成壤、灰黄褐色土層、Ⅲ>V
- 3:10192/2 黒粘、礫土、粘中、硬成壤、パリス少量含む、褐色土層、Ⅲ+V
- 4:10193/2 黒粘、礫土、粘中、硬成壤、に赤い黄褐色土層、Ⅲ+V
- 5:10195/4 に赤い黄粘、礫土、粘中、硬成壤、パリス少量含む、に赤い黄褐色土層、Ⅲ<V
- 6:10194/2 灰黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む、黄褐色土層、Ⅲ+V
- 7:10195/6 黒粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む、Ⅲ<V
- 8:10196/0 明黄粘、礫土、粘中、硬成壤、パリス少量含む、に赤い黄褐色土層、Ⅲ<V

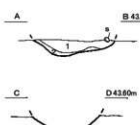
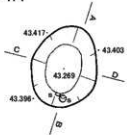
KP-473



KP-473

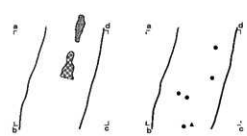
- 1:10192/1 黒、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス塊を含む、Ⅲ
- 2:10195/6 灰粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス含む、V
- 3:10194/2 灰黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス含む
- 4:10193/2 黒粘、礫土、粘中、硬成壤、パリス塊を含む
- 5:10192/2 黒粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む
- 6:10194/2 灰黄粘、礫土、粘中、硬成壤、黄褐色土と赤褐色土の境界に面
- 7:10194/4 黒、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス含む

KP-474

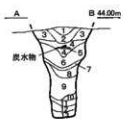
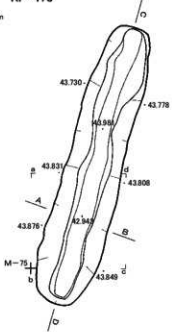


KP-474

- 1:10193/2 黒粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む、Ⅲ>V
- 2:10194/4 黒、礫土、粘中、堅硬成壤、黒褐色土層、Ⅲ+V

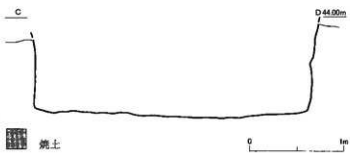


KP-475



KP-475

- 1:10195/6 黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む、黒褐色土層
- 2:10193/1 黒粘、礫土、粘中、堅硬成壤
- 3:10194/4 黒、礫土、粘中、硬成壤、パリス塊を含む
- 4:10193/2 黒粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む
- 5:7.10195/6 明粘、礫土、粘中、硬成壤しよう
- 6:10195/4 に赤い黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む
- 7:10192/1 黒粘、礫土、粘中、硬成壤、Ⅲ
- 8:10195/4 に赤い黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、ほぼ全部がパリス
- 9:10194/1 明粘、礫土、粘中、硬成壤、パリス含む、Ⅲ区
- 10:10194/3 に赤い黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、ほぼ全部がパリス
- 11:10194/2 灰黄粘、礫土、粘中、堅硬成壤、パリス少量含む、ⅢI V
- 12:10195/4 に赤い黄粘、礫土、粘中、硬成壤、パリス含む
- 13:10192/1 黒、礫土、粘中、堅硬成壤、Ⅲ



図III-35 KP-472~475

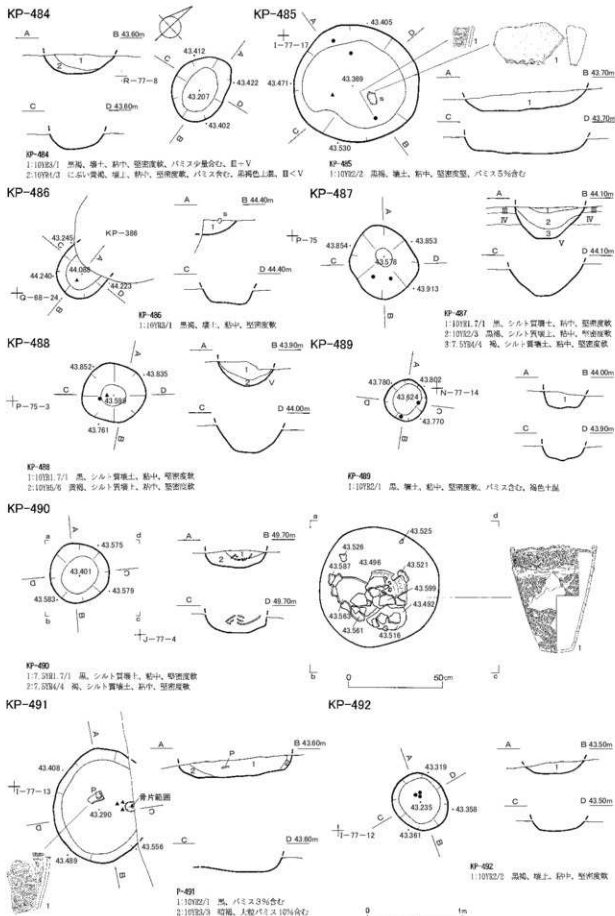


図 III-37 K P-484~492

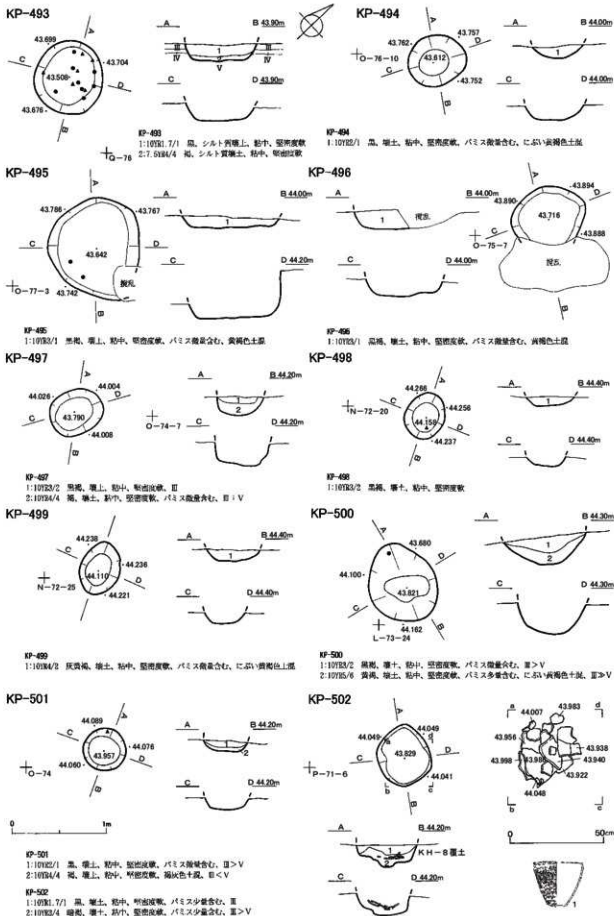


図 III - 38 K P - 493 ~ 502

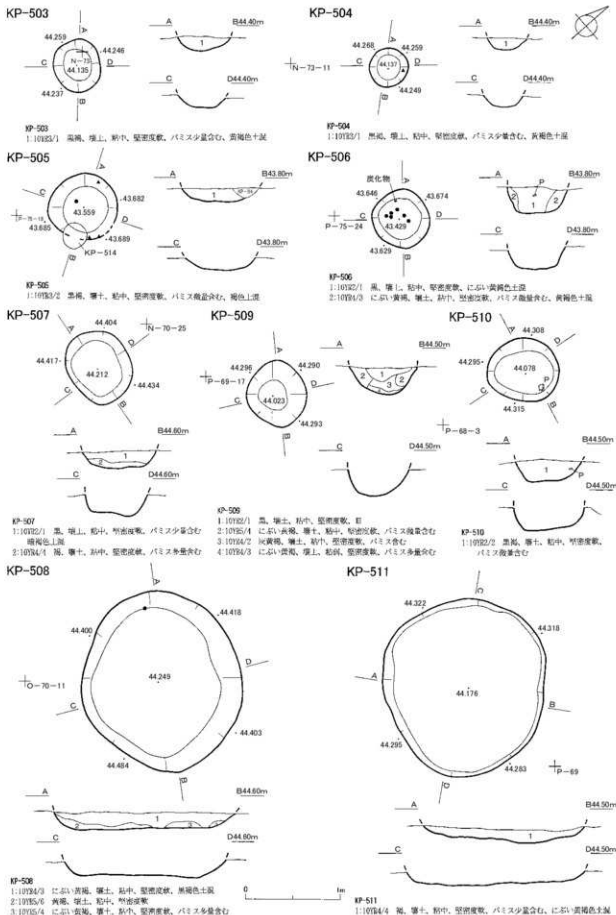
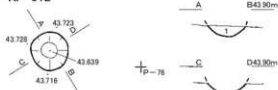


図 III-39 KP-503~511

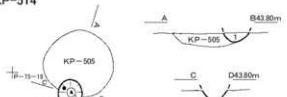
KP-512



KP-512

1:10784/2 灰濁層、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、黄褐色土質

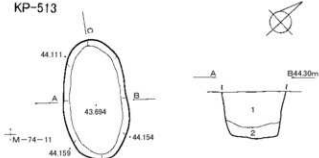
KP-514



KP-514

1:10182/1 黒、礫土、粘中、堅硬成塊

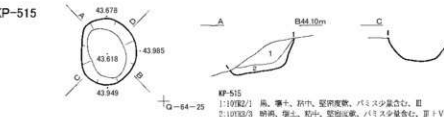
KP-513



KP-513

1:10182/4 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、大粒パリス10%含む
2:10222/1 黒、礫土、粘中、堅硬成塊

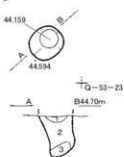
KP-515



KP-515

1:10182/1 黒、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ
2:10182/2 砂濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V

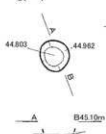
SP-6



SP-6

1:10182/1 黒、礫土、粘中、堅硬成塊、Ⅱ
2:10182/2 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、Ⅱ+V
3:10182/2 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、Ⅱ

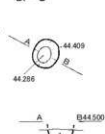
SP-7



SP-7

1:10182/2 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V

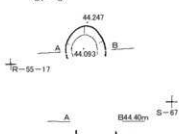
SP-8



SP-8

1:10182/3 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ
2:10182/3 砂濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V

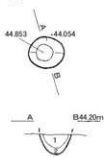
SP-9



SP-9

1:10182/3 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ
2:10182/3 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、Ⅱ+V

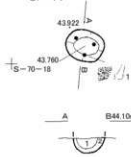
SP-10



SP-10

1:10182/3 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ
2:10184/3 濃い灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V

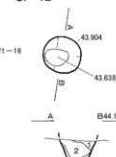
SP-11



SP-11

1:10182/2 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ
2:10184/3 濃い灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V

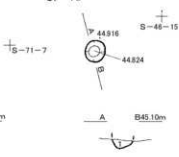
SP-12



SP-12

1:10182/2 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V
2:10182/3 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ
3:10184/4 灰濁、礫土、粘中、堅硬成塊、パリス少量含む、Ⅱ+V

SP-13



SP-13

1:10182/1 黒、礫土、粘中、堅硬成塊

図Ⅲ-40 KP-512~515・SP-6~13

SP-13 (図III-40)

位置・立地：S-46、調査区南側中央の段丘上、標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.23/0.12×0.21/0.12×0.12m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。規模から、小ピットと考えられる。他の周辺の土坑に関連する柱穴の可能性が高い。SP-7・13~15は近接する。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中~晩期と考えられる。(佐藤)

SP-14 (図III-42)

位置・立地：S-46、調査区南西側の段丘上、標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.29/0.16×0.27/0.16×0.15m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。規模から、小ピットと考えられる。他の周辺の土坑に関連する柱穴の可能性が高い。SP-7・13~15は近接する。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中~晩期と考えられる。(佐藤)

SP-15 (図III-42)

位置・立地：S-46、調査区南西側の段丘上、標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.22/0.10×0.21/0.09×0.12m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。規模から、小ピットと考えられる。他の周辺の土坑に関連する柱穴の可能性が高い。SP-7・13~15は近接する。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中~晩期と考えられる。(佐藤)

SP-16 (図III-42)

位置・立地：T-44、調査区南側の段丘上、標高44.9m付近に位置する。

規 模：0.22/0.12×0.17/0.10×0.12m 平面形：円形

確認・調査：削平を受けているV層中で、黒褐色土のまとまりを確認した。覆土は自然堆積である。坑底はほぼ平坦で、壁はややなだらかに立ち上がる。規模から、小ピットと考えられる。他の周辺の土坑に関連する柱穴の可能性が高い。

時期は遺構の形態や覆土から縄文時代中~晩期と考えられる。(佐藤)

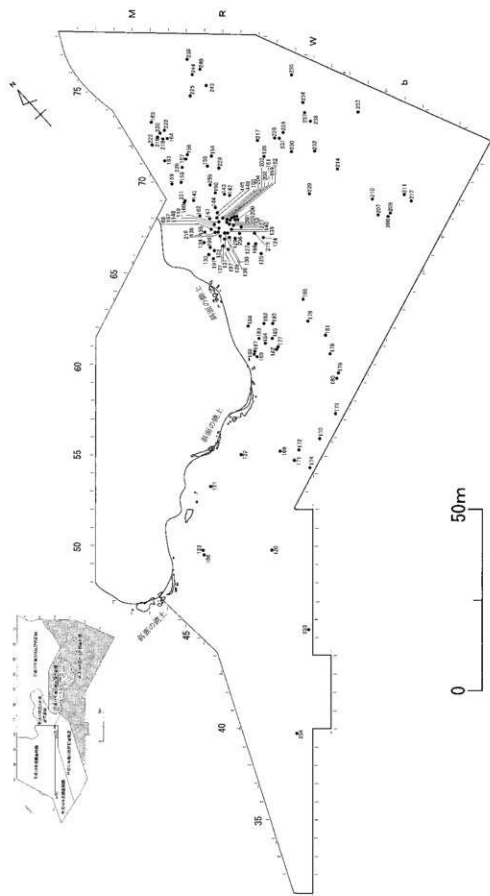
SP-17 (図III-42)

位置・立地：U-69、段丘崖から約34m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.38/0.19×0.32/0.18×0.33m 平面形：楕円形

確認・調査：KP-425の覆土で検出された。坑底は土坑の底を掘り抜いている。

縄文時代中期後半のKP-425より新しい後~晩期後半と思われる。(谷島)



図Ⅲ-41 焼土分布

(4)・(5) 焼土・炭化物

K F-120 (図III-42)

位置・立地：T-49、調査区南側中央の段丘上、標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.54×0.50×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：削平を受けているIV層中で、赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。K P-323の上部に形成されていることから、より新しい。K P-323との関係は不明である。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-121 (図III-42)

位置・立地：Q-53、調査区南西側の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.66×0.40×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：氾濫原に近い段丘上の、削平を受けているV層中で、明赤～赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。K P-334が至近にあるが、関係は不明である。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-122 (図III-42)

位置・立地：R・S-54・55、調査区南西側の標高44.7m付近に位置する。

規 模：0.95×0.71×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：氾濫原に近い段丘上の、削平を受けているV層中の風倒木の堆積中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-123 (図III-42)

位置・立地：P・Q-49、調査区南西側の氾濫原に近い段丘上に位置する。

規 模：0.57×0.37×0.11m 平面形：不整形

確認・調査：削平を受けているV層中の風倒木の堆積中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-124 (図III-42、図版44)

位置・立地：T-66・67、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.10×1.62×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からⅢ群b類・Ⅳ群c類・Ⅴ群c類土器・フレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉Ⅴ群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-125 (図III-42・69、図版62)

位置・立地：S・T-66・67、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.90×1.78×0.16m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。東側は攪乱で壊されている。焼土からV群c類土器・石鐵・フレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

掲載遺物：石器；1は黒曜石製の菱形を呈する石鐵で、中央に自然貫通孔がみられる。

K F-126 (図Ⅲ-43・63、図版55)

位置・立地：T-71、段丘崖から約30m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.14×1.08×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からV群c類土器・フレイクが出土している。焼土中からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器の時期の焼土である。 (谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢の口縁部。口唇部は縄文回転押圧。原体はLR+RL結束第1種。天神山式土器。

K F-127 (図Ⅲ-43・69、図版62)

位置・立地：S-66、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.56×0.86×0.17m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類・V群c類土器、石鐵・フレイク、土製品、礫・礫片が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器の時期の焼土である。 (谷島)

掲載遺物：石器；1は黒曜石製の石鐵で有茎凸基のもの。被熱により表面は発泡している。

K F-128 (図Ⅲ-43)

位置・立地：R-66、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.62×0.30×0.05：m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。 (谷島)

K F-129 (図Ⅲ-43)

位置・立地：R-66、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.68×0.57×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類、焼土上からV群c類土器、礫片が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

K F-130 (図Ⅲ-43)

位置・立地：R-66、段丘崖から約14m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.55×0.31×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からフレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-131 (図Ⅲ-43・63・69、図版44・55・62)

位置・立地：Q・R-66、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.48×0.79×0.21m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類・V群c類土器、石鎌・スクレイパー・Rフレイク・フレイク・礫・礫片が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器；土器：1は深鉢の口縁部。沈線文で文様を施文する。口縁部と胴部との境に凹線文がある。タンネットウシ式土器。

石器；1・2は黒曜石製の石鎌で有茎凸基のもの。2の尖頭部は薄く再調整している。3は黒曜石製のスクレイパーで両側面に刃部がみられる。被熱により表面は発泡している。

K F-132 (図Ⅲ-43)

位置・立地：Q-66、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.84×0.26×0.11m 平面形：長い不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で2カ所に分かれた焼土を検出した。焼土中からI群b-4類・V群c類土器、北海道式石冠、礫が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-133 (図Ⅲ-43・63・69、図版55・62)

位置・立地：Q-65・66、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.98×0.26×0.10m 平面形：S字状の不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土上からI群b-4類・V群c類土器、スクレイパー・フレイク、礫片が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢の胴部。中茶路式土器。

石器；1は小形の黒曜石原石を周囲から打ち欠いた核石器で、一部に細かな使用痕のみられることからスクレイパーやピエス・エスキューなどと考えられる。

K F-134 (図Ⅲ-43)

位置・立地：P・Q-66、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.58×0.40×0.08m 平面形：長い不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で3カ所に分かれた焼土を検出した。焼土からI群b-4類・Ⅲ群b類・V群c類土器、フレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-135 (図Ⅲ-44)

位置・立地：P・Q-66・67、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.24×0.64×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で5ヵ所に分かれた焼土を検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-136 (図Ⅲ-44)

位置・立地：Q-67、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.52×0.21×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で2ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土上からV群c類土器、フレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-137 (図Ⅲ-44)

位置・立地：Q・R-66・67、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.86×0.34×0.11m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で3ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土上からV群c類土器、フレイク・礫が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-138 (図Ⅲ-44・63、図版55)

位置・立地：R-67、段丘崖から約14m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.08×0.54×0.14m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土上からV群c類・Ⅶ群土器、礫片が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から擦文時代に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器：1は甕の口縁部。口縁部下に横走沈線文。8世紀代の擦文土器。

K F-139 (図Ⅲ-44)

位置・立地：R-67、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.70×0.29×0.15m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-140 (図Ⅲ-44)

位置・立地：R-67、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.46×0.21×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からⅢ群b類土器、フレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。 (谷島)

K F-141 (図Ⅲ-44・69、図版44・62)

位置・立地：P-68、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.64×0.42×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で5ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土からⅢ群b類・V群c類・Ⅶ群土器、北海道式石冠、土製品、礫・礫片が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から擦文時代に伴うものである。 (谷島)

掲載遺物：石器；1は安山岩を素材とした北海道式石冠ですり面から中央のくびれ部分にかけた破片。すり面にたたき痕のくぼみがみられる。

K F-142 (図Ⅲ-44)

位置・立地：R-69、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.52×0.33×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土より下のⅢ層からK P-397が検出されている。

焼土からV群c類土器、フレイクが出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

K F-143 (図Ⅲ-44・69、図版62)

位置・立地：R-69、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.59×0.50×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土上からⅢ群b類・V群c類土器、U・Rフレイク、フレイクが出土している。特にフレイクは上面の全体から出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

掲載遺物：石器；1は黒曜石のRフレイクで被熱により表面は発泡している。

K F-144 (図Ⅲ-44)

位置・立地：Q-68、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.02×0.28×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：直径20mの範囲で焼土が密集している所で、Ⅲ層精査により検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

KF-145 (図Ⅲ-44)

位置・立地：Q-68、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.31×0.25×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で3ヵ所に分かれた焼土を検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の出土遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。 (谷島)

KF-146 (図Ⅲ-44)

位置・立地：Q-67・68、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.53×0.29×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で6ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土からⅢ群b類・V群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

KF-147 (図Ⅲ-45)

位置・立地：Q-67・68、段丘崖から約14m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.36×0.26×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で6ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土からⅢ群b類・V群c類土器、礫が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

KF-148 (図Ⅲ-45)

位置・立地：Q-67、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.54×0.26×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で7ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土上からⅢ群b類・V群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。 (谷島)

KF-149 (図Ⅲ-45)

位置・立地：Q・R-67、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.05×0.45×0.15m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で2ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土中からⅦ群土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から擦文時代に伴うものである。 (谷島)

KF-150 (図Ⅲ-45)

位置・立地：Q・R-67・68、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.22×0.22×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で5ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土中からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-151 (図III-45・69、図版63)

位置・立地：R-67・68、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.11×0.44×0.13m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で3ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土上からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：石器：1は安山岩を素材とした台石。裏面は灰色に変色し、一部に黒色物質が付着している。

KF-152 (図III-45・69、図版63)

位置・立地：R-68、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.47×0.39×0.17m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で3ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土中からV群a類土器が出土している。石皿は焼土の中央部から出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期前葉V群a類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：石器：1は軽石を素材とした小形の石皿。甲羅状に加工されているが、使用痕はみられない。

KF-153 (図III-45)

位置・立地：R-67、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.69×0.16×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。(谷島)

KF-154 (図III-45)

位置・立地：Q-71、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.56×0.27×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。南西側は攪乱で壊されている。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-155 (図III-46)

位置・立地：Q-70、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.61×0.33×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅳ層上面の精査で検出した。上面の一部は攪乱を受けている。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-156 (図Ⅲ-46)

位置・立地：P-71、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.67×0.55×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。焼土中からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-157 (図Ⅲ-46)

位置・立地：O-71、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.65×0.28×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層上位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-158 (図Ⅲ-46・63、図版55)

位置・立地：O-69・70、段丘崖から約6m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.85×0.40×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢の突起部。小さな山形の突起部。突起部に円形の貼付けがある。天神山式土器。

K F-159 (図Ⅲ-46)

位置・立地：O-69、段丘崖から約3m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.66×0.37×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-160 (図Ⅲ-46・69、図版44・62・63)

位置・立地：O-68、段丘崖から約5m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.34×1.06×0.16m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で2ヵ所に分かれた焼土を検出した。下位のIV層からK F-221が検出されているが同一焼土の上下であった可能性がある。焼土上からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：石器；1は黒曜石を素材としたスクレイパーで一側辺に刃部加工が施され、表面に原石面

が残る。2は凝灰岩を素材とした板状の砥石で両面に使用痕がみられる。

K F-162 (図Ⅲ-46)

位置・立地：P-68、段丘崖から約11m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.24×0.20×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層上位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-163 (図Ⅲ-46)

位置・立地：N-71、段丘崖から約5m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.49×0.33×0.11m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-164 (図Ⅲ-46)

位置・立地：N・O-72、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.67×0.34×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土からⅦ群土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から擦文時代に伴うものである。(谷島)

K F-165 (図Ⅲ-46)

位置・立地：N-73、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.60×0.44×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土上からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。(谷島)

K F-166 (図Ⅲ-46)

位置・立地：P・Q-49、調査区南西側の氾濫原に近い標高44.8m付近に位置する。

規 模：1.10×0.45×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：削平を受けているV層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。K P-308に壊されていることからより古い。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-167 (図Ⅲ-46)

位置・立地：Q・R-67、段丘崖から約16m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.16×0.44×0.13m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で2ヵ所に分かれた焼土を検出した。南側に攪乱があり一部壊されている。焼土上からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-168 (図Ⅲ-46)

位置・立地：Q-67、段丘崖から約14m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.79×0.40×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で3ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土からIV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-169 (図Ⅲ-47)

位置・立地：U-55、調査区中央の標高44.3m付近に位置する。

規 模：0.68×0.50×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、明赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。K P-355が周辺にあるが、関係は不明である。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-170 (図Ⅲ-47)

位置・立地：W-55・56、調査区中央の標高44.2m付近に位置する。

規 模：1.02×0.84×0.14m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、明赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-171 (図Ⅲ-47)

位置・立地：U・V-54、調査区中央の標高44.3m付近に位置する。

規 模：0.49×0.36×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、にぶい赤褐色土の広がりを確認した。炭化物を微量に含んでいる。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。K P-355が周辺にあるが、関係は不明である。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-172 (図Ⅲ-47)

位置・立地：V-55、調査区中央の標高44.2m付近に位置する。

規 模：0.47×0.40×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、明赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-173 (図Ⅲ-47、図版45)

位置・立地：X-57、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：1.17×0.91×0.13m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の土坑・焼土から、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-174 (図Ⅲ-47)

位置・立地：V-54、調査区中央の標高44.3m付近に位置する。

規 模：0.34×0.26×0.04m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、にぶい赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-176 (図Ⅲ-47)

位置・立地：W・X-60、調査区中央の標高43.8m付近に位置する。

規 模：0.68×0.40×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、暗〜にぶい赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-177 (図Ⅲ-47)

位置・立地：T・U-60・61、調査区中央の標高44.3m付近に位置する。

規 模：0.62×0.46×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-178 (図Ⅲ-47)

位置・立地：V-62、調査区中央の標高43.8m付近に位置する。

規 模：0.81×0.70×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-179 (図Ⅲ-47)

位置・立地：W-59、調査区中央の標高43.8m付近に位置する。

規 模：0.84×0.83×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土から、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-180 (図Ⅲ-47)

位置・立地：X-59、調査区中央の標高43.8m付近に位置する。

規 模：1.14×0.57×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-181 (図Ⅲ-47)

位置・立地：W-61、調査区中央の標高43.8m付近に位置する。

規 模：0.44×0.32×0.22m 平面形：不整形

確認・調査：調査区中央の段丘上の、削平を受けているⅤ層中で、黒褐～暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-182 (図Ⅲ-47)

位置・立地：S・T-60 標高44.1m付近に位置する。

規 模：0.57×0.42×0.04m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、暗褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-183 (図Ⅲ-47)

位置・立地：S・T-61、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.62×0.36×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-184 (図Ⅲ-48)

位置・立地：T-61、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.67×0.59×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅤ層中で、褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-185 (図Ⅲ-48)

位置・立地：T-61、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.64×-×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅤ層中で、褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。粒状のベンガラが出土した。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-186 (図Ⅲ-48)

位置・立地：S-62、調査区北側の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.47×-×0.04m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、黒褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-187 (図Ⅲ-48・63、図版55)

位置・立地：S-60、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.48×0.47×0.04m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、極暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。近接して土器がまとめて出土した。

時期は近接して出土した土器から、縄文時代後期後葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：土器；1は深鉢の底部。無文である。底部がやや凹む。堂林式土器。

K F-188 (図Ⅲ-48)

位置・立地：S-60、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.60×0.51×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、暗褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-189 (図Ⅲ-48)

位置・立地：S-60、調査区中央の標高44.1m付近に位置する。

規 模：0.44×0.20×0.03m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、黒褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-190 (図Ⅲ-48)

位置・立地：Q-69、段丘崖から約14m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.51×0.43m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

KF-191 (図Ⅲ-48)

位置・立地：Q-65、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.50×0.63×0.07 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。焼土上からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。 (谷島)

KF-192 (図Ⅲ-48)

位置・立地：T-62、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.58×0.38×0.05 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。 (谷島)

KF-193 (図Ⅲ-48)

位置・立地：T-62、調査区中央の標高44.0m付近に位置する。

規 模：0.63×0.50×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、暗褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KF-195 (図Ⅲ-48)

位置・立地：V-63、調査区北側の標高43.8m付近に位置する。

規 模：0.26×0.17m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

KF-196 (図Ⅲ-48)

位置・立地：Q-66、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.90×0.45×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。焼土上からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。 (谷島)

KF-197 (図Ⅲ-48)

位置・立地：R-66、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.35×0.28×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：V層上位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-198 (図Ⅲ-48)

位置・立地：S-66、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.50×0.40×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代早～中期頃と思われる。(谷島)

K F-199 (図Ⅲ-48)

位置・立地：R-68、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.92×0.30×0.07m 平面形：長円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類・V群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

炭化物の年代測定値は3600±30yrBP (No.11:IAAA-62025)の値が出ている。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-200 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.53×0.18×0.13 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-201 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.01×0.14×0.12 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-202 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約19m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.67×0.22×0.10 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。焼土中からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。(谷島)

K F-203 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約18m離れた調査区北側に位置する。

規 横：0.38×0.26×0.07 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。焼土中からⅢ群 b 類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群 b 類土器の時期の焼土である。 (谷島)

K F-204 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約18m離れた調査区北側に位置する。

規 横：0.92×0.38×0.12 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。焼土中からⅢ群 b 類土器が出土している。焼土の東端にはフレイクチップの集中がみられる。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群 b 類土器の時期の焼土である。 (谷島)

K F-205 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約19m離れた調査区北側に位置する。

規 横：0.78×0.36×0.10 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層中位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。 (谷島)

K F-206 (図Ⅲ-49)

位置・立地：R-67、段丘崖から約21m離れた調査区北側に位置する。

規 横：0.68×0.56×0.13 平面形：不整形

確認・調査：Ⅳ層の精査で検出した。焼土上からⅤ群 c 類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉Ⅴ群 c 類土器に伴うものである。 (谷島)

K F-207 (図Ⅲ-49)

位置・立地：Z-68、調査区東側の標高m付近に位置する。

規 横：0.37×0.34×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅤ層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

K F-208 (図Ⅲ-49)

位置・立地：a-68、調査区東側の標高43.5m付近に位置する。

規 横：0.51×0.30×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅤ層中で、にぶい赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

K F-209 (図Ⅲ-49)

位置・立地：a-68、調査区東側の標高43.4m付近に位置する。

規 模：0.63×0.38×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

K F-210 (図Ⅲ-49)

位置・立地：Z-68・69、調査区東側の標高43.4m付近に位置する。

規 模：0.44×0.21×0.03m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

K F-211 (図Ⅲ-49)

位置・立地：a・b-69、調査区東側の標高43.3m付近に位置する。

規 模：0.46×0.44×0.12m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

K F-212 (図Ⅲ-49)

位置・立地：b-68・69、調査区東側の標高43.5m付近に位置する。

規 模：0.46×0.18×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、暗赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。 (佐藤)

K F-214 (図Ⅲ-49)

位置・立地：X-70、調査区東側の標高43.4m付近に位置する。

規 模：-×0.26m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、にぶい赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。K P-383に壊されていることから、より新しい。

時期はK P-383に壊されていることから、縄文時代晩期後葉以前と考えられる。 (佐藤)

K F-215 (図Ⅲ-49)

位置・立地：S-67、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.71×0.52×0.07 平面形：楕円形

確認・調査：IV層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えら

れる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-216 (図Ⅲ-50)

位置・立地：Q-67、段丘崖から約15m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.41×0.41×0.10 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で2ヵ所に分かれた焼土を検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-217 (図Ⅲ-50)

位置・立地：S-72、段丘崖から約30m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.83×0.70×0.13m 平面形：隅丸三角形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。南側は攪乱で壊されている。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-218 (図Ⅲ-50)

位置・立地：N-72、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.60×0.50×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-219 (図Ⅲ-50)

位置・立地：N-72、段丘崖から約7m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.50×0.36×0.08m 平面形：隅丸長方形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。南側は攪乱で壊されている。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-220 (図Ⅲ-50)

位置・立地：N-72、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.64×0.48×0.07m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-221 (図Ⅲ-50)

位置・立地：O-68、段丘崖から約5m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.65×0.36×0.04m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で2ヵ所に分かれた焼土を検出した。検出位置からKF-160の下半部の可能性がある。焼土上からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-222 (図Ⅲ-50)

位置・立地：N-72、段丘崖から約9m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.84×0.75×0.15m 平面形：隅丸台形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。焼土からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期の焼土である。(谷島)

KF-223 (図Ⅲ-50)

位置・立地：N-71・72、段丘崖から約4m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.77×0.56×0.13m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

KF-224 (図Ⅲ-50)

位置・立地：U-72、段丘崖から約37m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.85×-×0.11 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。西側は攪乱で壊されている。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-225 (図Ⅲ-50)

位置・立地：P-74、段丘崖から約20m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.73×-×0.12 平面形：隅丸長方形

確認・調査：東西両側は攪乱され残った細長いⅢ層下位から検出した。東側は壊されている。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-226 (図Ⅲ-50)

位置・立地：O-70、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.68×0.48×0.10m 平面形：楕円形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-227 (図Ⅲ-50)

位置・立地：R・S-67、段丘崖から約22m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.36×0.26×0.03m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-228 (図Ⅲ-50)

位置・立地：Q-70、段丘崖から約17m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.40×0.26×0.04m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-229 (図Ⅲ-50)

位置・立地：V-69、段丘崖から約42m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.69×0.30×0.08m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-230 (図Ⅲ-51)

位置・立地：U-71、段丘崖から約37m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.67×0.36×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位から検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-231 (図Ⅲ-51)

位置・立地：U-72、段丘崖から約35m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.74×-×0.08 平面形：隅丸長方形

確認・調査：確認・調査：Ⅲ層下位から検出した。東側は攪乱により壊されている。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-232 (図Ⅲ-51)

位置・立地：V・W-71、段丘崖から約44m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.60×-×0.09m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位から検出した。東側は攪乱により壊されている。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

K F-234 (図III-51)

位置・立地：V-74、段丘崖から約46m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.07×0.60×0.04m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位から2ヵ所に分かれた焼土を検出した。焼土中からⅢ群b類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時代の焼土である。(谷島)

K F-235 (図III-51)

位置・立地：U-75・76、段丘崖から約47m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.10×0.40×0.09m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。焼土直下から小形TピットK P-435が検出されている。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物からK P-435より新しい縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K F-236 (図III-51)

位置・立地：T-72、段丘崖から約34m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.52×-×0.10 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。北側の一部に攪乱がみられ壊されている。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-237 (図III-51)

位置・立地：V-73、段丘崖から約45m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.77×0.56×0.08m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-238 (図III-51)

位置・立地：V-73、段丘崖から約46m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.04×0.57×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

K F-239 (図III-51・63、図版55)

位置・立地：P・O-76、段丘崖から約25m離れた調査区北側に位置する。

規 模：平面形：不明

確認・調査：攪乱を受けた層からブロック状に検出した。原位置は保たれているものと思われるが形状は不明である。焼土からV群c類土器が出土している。

出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器；1は鉢の口縁部。幅の広い深めの沈線文。内外面は丁寧に磨かれている。2は深鉢または鉢の底部。1～2はタンネットウL式土器。

KF-240 (図Ⅲ-51)

位置・立地：P-75・76、段丘崖から約27m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.38×-×0.10m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層から検出した。北側半分は攪乱により壊されている。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-243 (図Ⅲ-52)

位置・立地：Q-75、段丘崖から約26m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.64×0.50×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層から検出した。焼土からV群c類土器が出土している。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

KF-244 (図Ⅲ-52)

位置・立地：P-75、段丘崖から約29m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.38×0.25×0.06m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。南側は攪乱で壊されている。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代中～晩期と思われる。(谷島)

KF-252 (図Ⅲ-52)

位置・立地：Y-73、調査区東側の標高43.0m付近に位置する。

規 模：0.61×0.38×0.05m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、黒褐～明赤褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

KF-253 (図Ⅲ-52)

位置・立地：V-45、調査区南側の標高45.0m付近に位置する。

規 模：0.76×0.50×0.08m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているV層中で、褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-254 (図Ⅲ-52)

位置・立地：V-39、調査区東側の標高45.3m付近に位置する。

規 模：0.81×0.54×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：段丘上の、削平を受けているⅢ層中で、褐灰～明褐色土の広がりを確認した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

時期は周辺の焼土との類似から判断して、縄文時代晩期後葉と考えられる。(佐藤)

K F-259 (図Ⅲ-52)

位置・立地：Q-69、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.75×0.38×0.07m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅳ層の精査で検出した。層界が漸移的であることから、その場で焚かれたものと考えられる。

検出層位や周囲の遺物から縄文時代早～中期と思われる。(谷島)

斜面の焼土 (図Ⅲ-53、図版45)

位置・立地：M・N-46・47、O-47～49、O・P-51、P-52・54、P・Q-55、Q-56・57・63・64、R-56・57、S-57～60、段丘崖の斜面に位置する。

規 模：9.2×2.7×0.2m、4.1×1.6×0.2m、10.7×1.4×0.2m、12.3×3.3×0.2m、7.6×2.5×0.2m 平面形：不整形

確認・調査：段丘崖の調査でⅢ層中位から検出した。焼土は等高線に沿って細長い範囲のものがあるが、大きく5ヶ所に分布している。これらは段丘崖がやや内湾する地形で検出されている。段丘上の焼土を斜面に廃棄したと考えられるが遺物は出土していない。焼土はやや粘性があり柔らかく、層界が明瞭である。P・Q-55区付近では、Ⅲ層黒色土を挟み2枚認められる部分がある。このことから焼土はここで焚かれたと考えられない。

斜面の焼土の場合、酸化鉄の場合があるが、ここでは黒色土の中に夾在することや、湧水の跡がなかった。また、氾濫原の河道跡の斜面部から検出された盤状の酸化鉄とは明らかに異なることから焼土と判断した。

段丘上の北側で焼土が密集して分布する位置とは離れていることから直接の関連性は無いものと考えられる。ただし、耕作で削平された部分に焼土があった可能性もあり一概には関連が無いとはいえない。

検出層位から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

K C-1 (図Ⅲ-54、図版45)

位置・立地：O-71、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.36×0.18 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。枝材の炭化である。

検出層位や周囲の遺構・遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。(谷島)

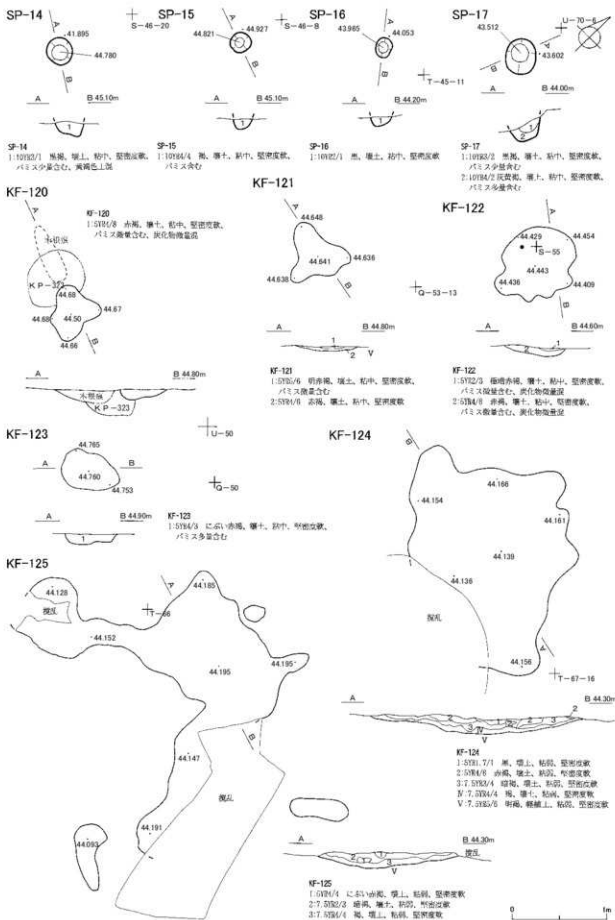


図 Ⅲ-42 SP-14~17・KF-120~125

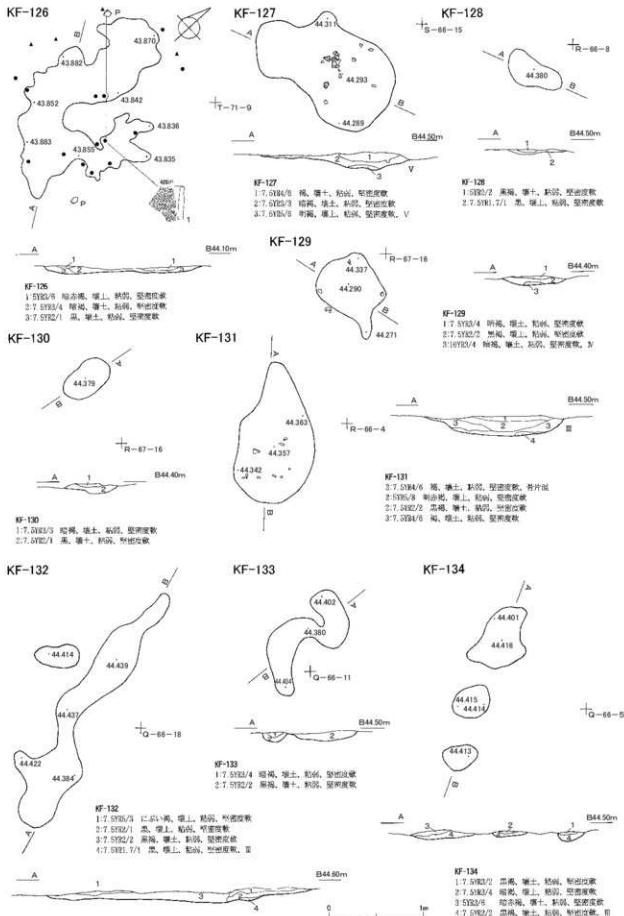
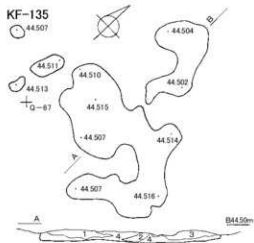


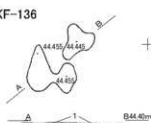
図 III-43 K F-126~134

KF-135



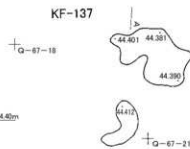
- KF-135
 1: 5YR3/6 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 2: 5YR2/3 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 3: 5YR2/4 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 4: 5YR1.7/1 黒、壤土、粘質、粘成皮狀、Ⅱ

KF-136



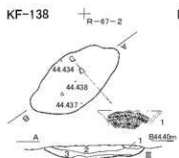
- KF-136
 1: 5YR2/2 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 2: 7.5YR2/3 暗褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 3: 7.5YR2/3 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀

KF-137



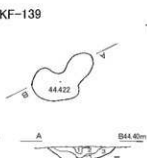
- KF-137
 1: 7.5YR2/1 暗、壤土、粘質、粘成皮狀
 2: 5YR2/2 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 3: 7.5YR1.7/1 暗、壤土、粘質、粘成皮狀

KF-138



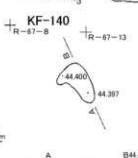
- KF-138
 1: 7.5YR3/2 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 2: 5YR4/8 赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 3: 7.5YR2/2 暗褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 4: 7.5YR4/4 暗、壤土、粘質、粘成皮狀

KF-139



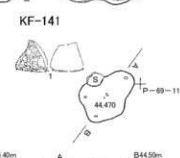
- KF-139
 1: 7.5YR1.7/1 暗、壤土、粘質、粘成皮狀
 2: 7.5YR2/2 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 3: 7.5YR1.7/1 暗、壤土、粘質、粘成皮狀、Ⅱ

KF-140



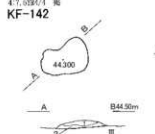
- KF-140
 1: 7.5YR2/3 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 2: 7.5YR2/3 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 3: 7.5YR2/2 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊

KF-141



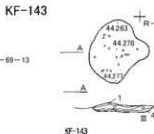
- KF-141
 1: 5YR3/4 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 2: 7.5YR2/2 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊

KF-142



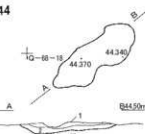
- KF-142
 1: 5YR3/2 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 2: 7.5YR1.7/1 暗、壤土、粘質、粘成皮狀、Ⅱ

KF-143



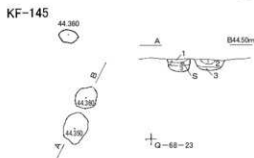
- KF-143
 1: 7.5YR4/4 暗、壤土、粘質、堅硬成塊、フレイク状
 2: 5YR4/6 赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 3: 7.5YR3/3 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 4: Ⅱ

KF-144



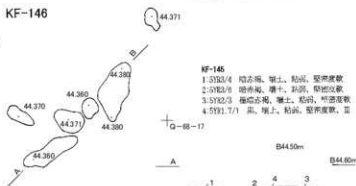
- KF-144
 1: 5YR3/4 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 2: 7.5YR3/4 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀

KF-145



- KF-145
 1: 5YR3/4 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 2: 7.5YR2/2 暗褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 3: 7.5YR4/4 暗、壤土、粘質、粘成皮狀、Ⅱ

KF-146



- KF-146
 1: 5YR3/4 暗赤褐、壤土、粘質、堅硬成塊
 2: 5YR3/6 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 3: 5YR2/3 暗赤褐、壤土、粘質、粘成皮狀
 4: 5YR1.7/1 暗、壤土、粘質、堅硬成塊、Ⅱ

図Ⅲ-44 KF-135~146

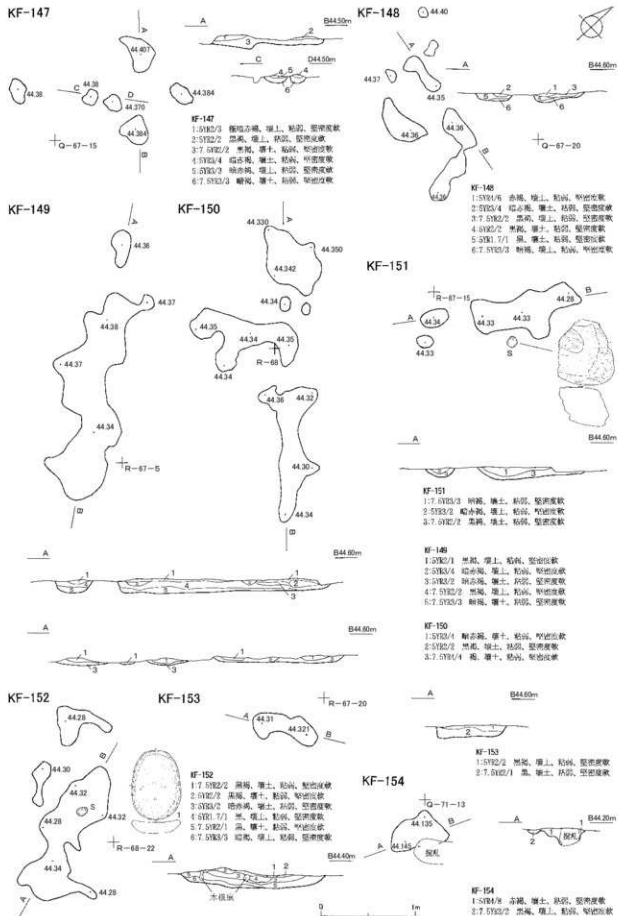
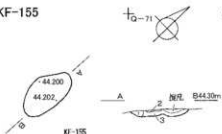


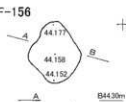
図 III-45 K F - 147 ~ 154

KF-155



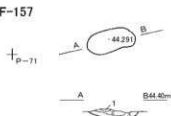
KF-155
1: 5182/2 黒炭、礫十、粘泥、堅硬底敷
2: 5184/4 炭、礫土、粘泥、堅硬底敷、礫土
3: 5183/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-156



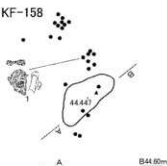
KF-156
1: 5184/6 赤炭、礫十、粘泥、堅硬底敷
2: 5185/6 明礬、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-157



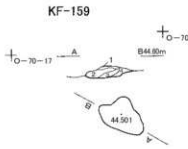
KF-157
1: 5182/1 炭、礫十、粘泥、堅硬底敷
2: 5183/2 暗赤褐、礫土、粘泥、堅硬底敷
3: 5181/7/1 炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-158



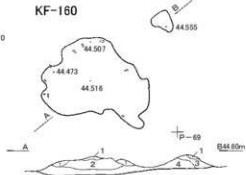
KF-158
1: 10182/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5183/4 炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-159



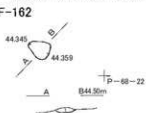
KF-159
1: 10182/3 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5184/4 炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
3: 10182/2 暗赤、礫十、粘泥、堅硬底敷
4: 10182/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-160



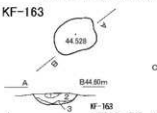
KF-160
1: 5183/2 赤炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5183/4 暗赤、礫土、粘泥、堅硬底敷
3: 10182/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
4: 10182/3 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-162



KF-162
1: 5182/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-163



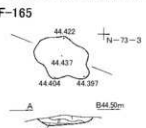
KF-163
1: 5182/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5182/1 炭、礫十、粘泥、堅硬底敷
3: 5183/3 暗赤、礫十、粘泥、堅硬底敷

KF-164



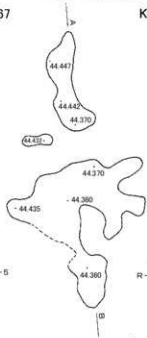
KF-164
1: 5183/2 暗赤褐、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5183/4 暗赤、礫土、粘泥、堅硬底敷
3: 5182/2 黒炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
4: 5181/7/1 炭、礫土、粘泥、堅硬底敷

KF-165



KF-165
1: 5183/4 暗赤褐、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5182/2 暗赤褐、礫十、粘泥、堅硬底敷
3: 5183/2 黒炭、礫十、粘泥、堅硬底敷

KF-167



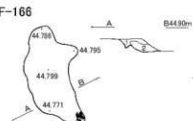
KF-167
1: 5182/2 暗赤褐、礫土、粘泥、堅硬底敷
2: 5182/1 炭、礫十、粘泥、堅硬底敷
3: 5182/2 暗赤、礫十、粘泥、堅硬底敷
4: 5182/2 暗赤、礫十、粘泥、堅硬底敷
5: 5182/2 暗赤、礫十、粘泥、堅硬底敷

KF-168



KF-168
1: 5183/4 暗赤褐、礫十、粘泥、堅硬底敷
2: 5183/2 暗赤褐、礫十、粘泥、堅硬底敷
3: 5182/1 炭、礫土、粘泥、堅硬底敷
4: 5182/2 黒炭、礫十、粘泥、堅硬底敷
5: 5182/2 黒炭、礫十、粘泥、堅硬底敷

KF-166



KF-166
1: 5183/2 暗赤褐、礫土、粘泥、堅硬底敷。
P/2 土少量含む。炭化物質
2: 5184/6 赤炭、礫土、粘泥、堅硬底敷。
P/3 土少量含む

図 III-46 K F - 155 ~ 160 ・ 162 ~ 168

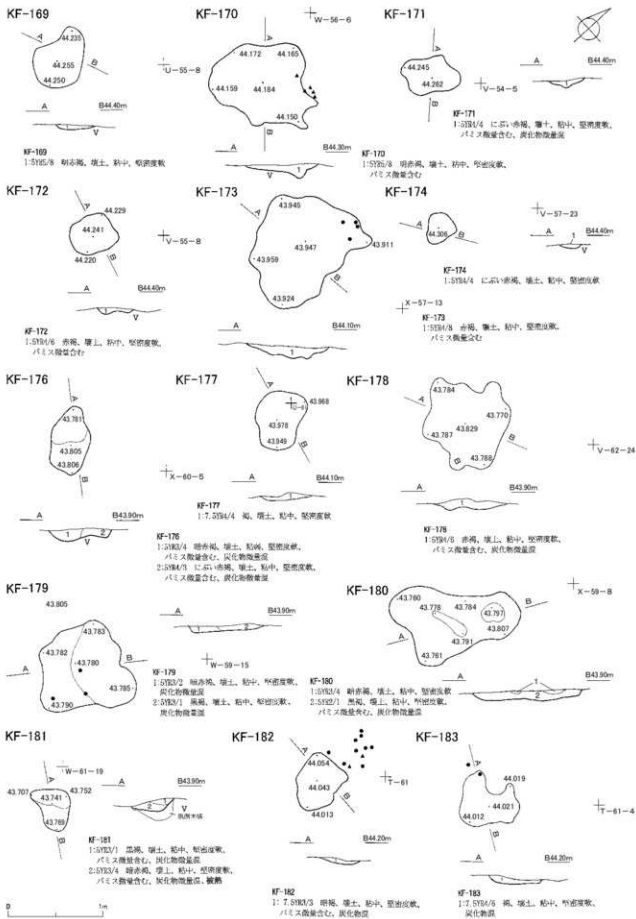


図 III-47 K F - 169 ~ 174 · 176 ~ 183

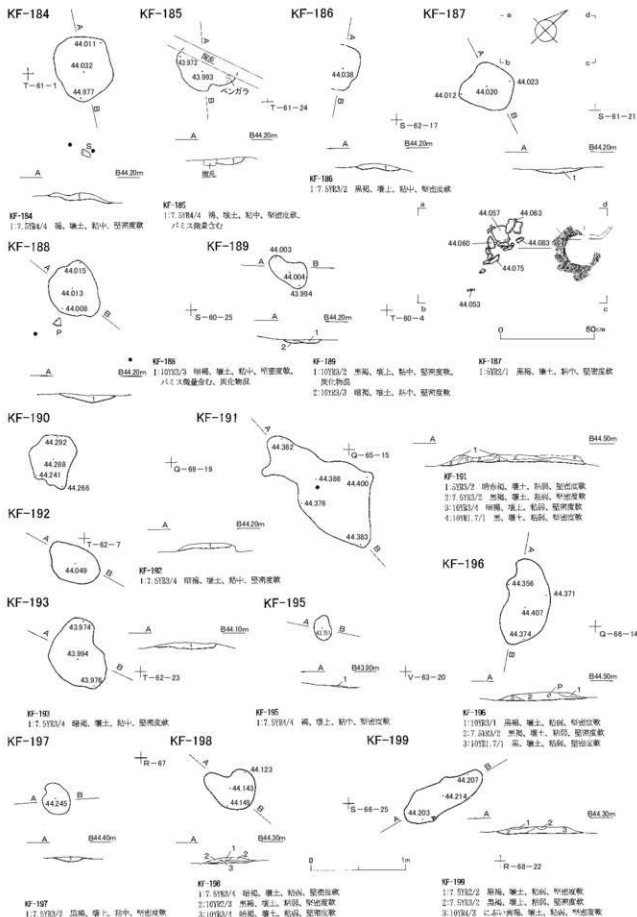
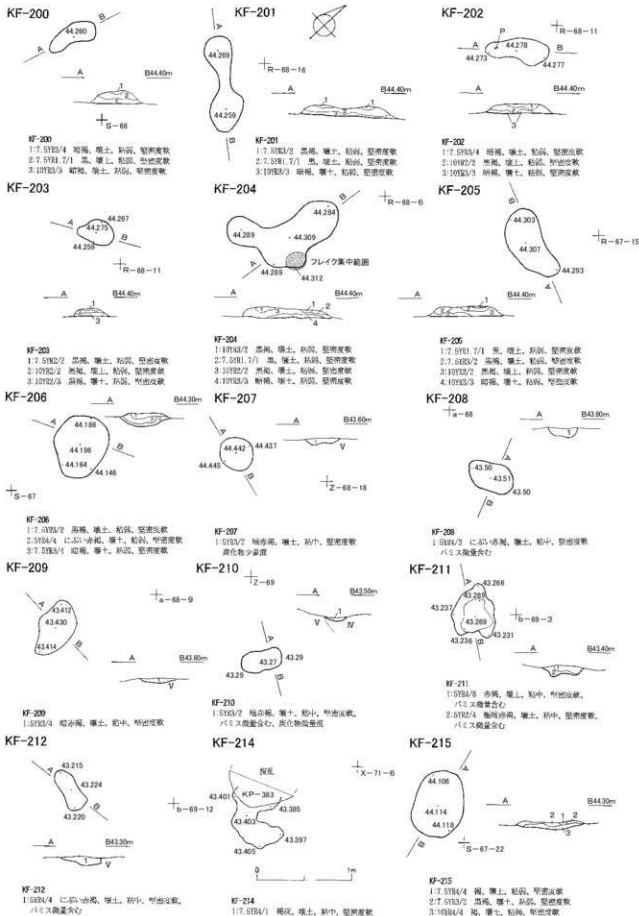


図 III-48 KF-184~193・195~199



図III-49 KF-200~212・214・215

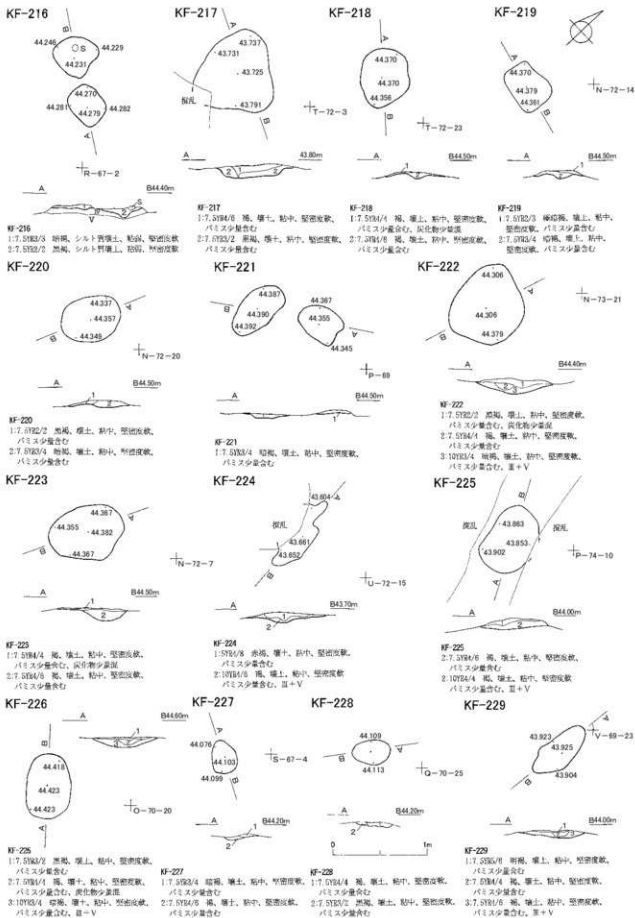
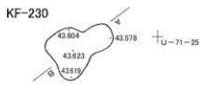
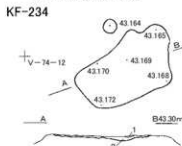


図 III-50 KF-216~229



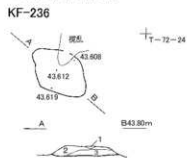
KF-230

1:7.5184/4 礫、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混
2:7.5182/2 礫地、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混



KF-234

1:7.5182/1 礫、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混、目
2:7.5182/2 黒地、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混



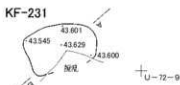
KF-236

1:5182/2 黒地、礫土、粘質、堅固成壤、
炭化物少量混、目>V
2:7.5182/2 礫地、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混、目>V
3:7.5182/3 礫地、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混、目>V



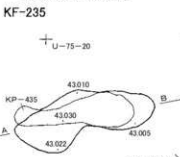
KF-239

1:7.5184/4 礫、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混

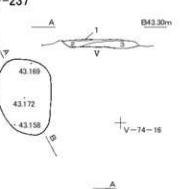


KF-231

1:7.5182/4 礫地、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混
2:7.5182/2 黒地、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混

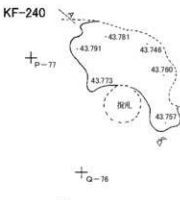


KF-237



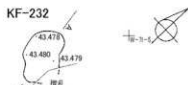
KF-237

1:7.5181.7/1 黒、礫土、粘質、堅固成壤、
炭化物少量混、目>V
2:7.5182/2 黒地、礫土、粘質、堅固成壤、
炭化物少量混、目>V
3:10182/3 黒地、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、目>V



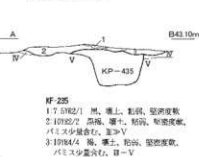
KF-240

1:5181.7/1 黒、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、目
2:5182/3 粘土、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む
3:10182/2 礫地、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、目>V
4:10184/4 礫、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、目<V

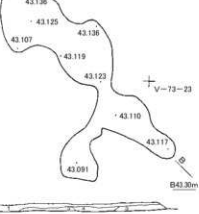


KF-232

1:7.5184/4 礫、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混
2:10184/4 礫、礫土、砂中、堅固成壤、
パミス少量含む、目>V



KF-238

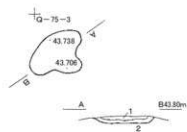


KF-238

1:7.5182/2 黒地、礫土、粘質、堅固成壤、
炭化物少量混、目>V
2:10182/3 礫地、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、目<V
3:10184/4 礫、礫土、粘質、堅固成壤、
パミス少量含む、炭化物少量混、目<V

図 III-51 K F - 230 ~ 232 • 234 ~ 240

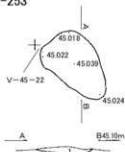
KF-243



KF-243

- 1: 7.5Y8/4 褐、礫十、粘質、堅硬皮膜、
パヒス少量含む、黄土
- 2: 7.5Y8/3 暗褐、礫十、粘質、堅硬皮膜、
パヒス少量含む、黄土
- 3: 10Y2/3 黄褐、礫十、粘質、堅硬皮膜、
パヒス少量含む、砂>V

KF-253

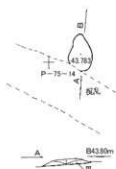


KF-253

- 1: 7.5Y8/6 褐、礫十、粘中、堅硬皮膜、
黒褐色土流



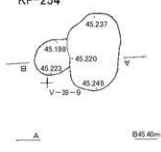
KF-244



KF-244

- 1: 7.5Y8/3 暗褐、礫十、粘中、堅硬皮膜、
パヒス少量含む

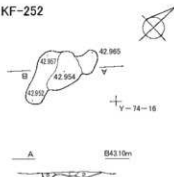
KF-254



KF-254

- 1: 7.5Y8/1 黄、礫十、粘中、堅硬皮膜、
パヒス少量含む、黒化粘土
- 2: 7.5Y6/6 明褐、礫十、粘中、堅硬皮膜

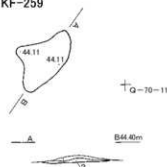
KF-252



KF-252

- 1: 5Y8/1 黄褐、礫十、粘中、堅硬皮膜
- 2: 5Y8/9 暗赤褐、礫十、粘質、堅硬皮膜、
パヒス少量含む

KF-259



KF-259

- 1: 7.5Y8/4 黄、礫十、粘中、堅硬皮膜、
パヒス少量含む
- 2: 10Y8/4 褐、礫十、粘中、堅硬皮膜、
パヒス少量含む

図III-52 KF-243・244・252~254・259

(6) フレイク・チップ集中

FC-2 (図Ⅲ-54・64、図版56)

位置・立地：S-71、段丘崖から約26m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.70×0.40×0.07m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。パミスを含む黒褐色土と共にフレイク・チップが出土している。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期のものである。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。原体は付加条2種(軸不明)。東釧路IV式土器。

FC-3 (図Ⅲ-54)

位置・立地：S-63、段丘崖から約10m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.65×0.36×0.25 平面形：隅丸方形

確認・調査：Ⅲ層の精査で検出した。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器の時期のものである。(谷島)

FC-4 (図Ⅲ-54・64、図版56)

位置・立地：T-71、段丘崖から約13m離れた調査区北側に位置する。

規 模：1.01×0.55×0.11m 平面形：不整楕円形

確認・調査：Ⅲ層下位の精査で検出した。パミスを含む黒褐色土と共にフレイク・チップが出土している。北側は攪乱を受けている。

検出層位や出土遺物から縄文時代中期前半Ⅲ群a類土器の時期のものである。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の突起部。大きな台形状の突起。幅の広い貼付けがあり、貼付け上はヘラ状工具による刻み。萩ヶ岡3式土器。

(7) 遺物集中

遺物集中-1 (図Ⅲ-54・64・70、図版46・56・63)

位置・立地：Q-66・67、段丘崖から約8m離れた調査区北側に位置する。

規 模：2.72×2.40m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層で検出した。周囲に焼土が多数分布するところに位置する。

129個の方割礫が主体を占め大半に被熱による変色がみられる。Ⅲ群b類・V群c類土器や北海道式石冠・石皿・フレイク・礫などが同時に出土している。

検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器：1は深鉢の胴部。沈線文と貼付けがある。天神山式土器。

石器：1は軽石を使用した石皿で半分に割れた後も使用している。

(8) 土器集中

土器集中-28 (図Ⅲ-54・64、図版46・56)

位置・立地：P-74、段丘崖から約14m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.45×0.40 平面形：不裂形

確認・調査：IV層の調査でⅢ群b類の胴部から底部にかけて一括土器が出土した。

検出層位や出土した遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器に伴うものである。(谷島)

掲載遺物：土器；1は深鉢の胴部から底部。原体はLR+RL結束第1種。天神山式土器。

土器集中-31（図Ⅲ-54・64、図版46・56）

位置・立地：V-75、段丘崖から約45m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.80×0.65 平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層からの自然な落ち込みでⅢ群b類の土器片多数が出土した。

検出層位や出土した遺物から縄文時代中期後半Ⅲ群b類土器に伴うものである。（谷島）

掲載遺物：土器；1は深鉢の口縁部。ノの字状の貼付けがある。2は深鉢の底部。原体はLR+RL結束第1種。1～2は天神山式土器。

土器集中-32（図Ⅲ-54・65、図版46・56）

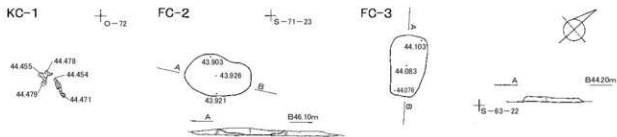
位置・立地：O-69、段丘崖から約1m離れた調査区北側に位置する。

規 模：0.30×0.28m 平面形：不整形

確認・調査：Ⅳ層の調査でV群c類の胴部から底部にかけた一括土器が出土した。

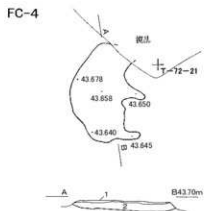
検出層位や出土した遺物から縄文時代晩期後葉V群c類土器に伴うものである。（谷島）

掲載遺物：土器；1は浅鉢。正面には台形状の突起部がある。タンネットウL式土器。



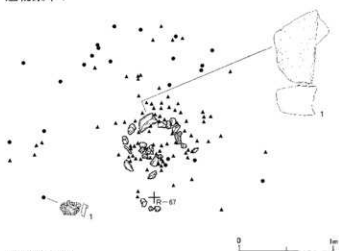
FC-2
1: 10Y2/2 炭屑、礫十、粘中、空腔炭粒、パミス少量含む、Ⅲ>V
2: 10Y5/4 腐植、礫上、粘中、空腔炭粒、パミス多量含む

FC-3
1: 1:7.6Y2.7/1 炭、礫十、粘泥、軽微炭粒、Ⅲ

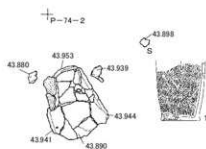


FC-4
1: 10Y2/3 炭屑、礫十、粘中、空腔炭粒、パミス少量含む、Ⅲ>V
2: 10Y3/4 腐植、礫上、粘中、空腔炭粒、パミス多量含む、Ⅲ+V

遺物集中1



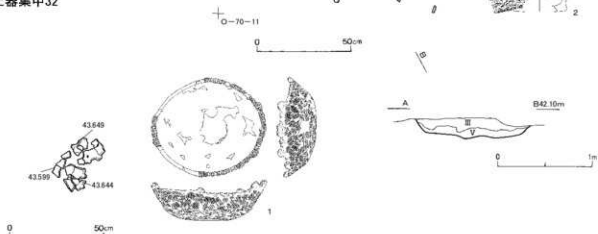
土器集中28



土器集中31

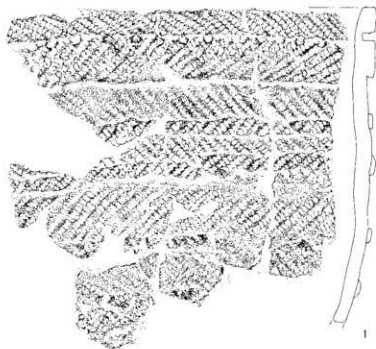


土器集中32

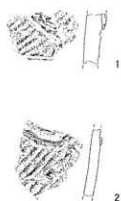


図Ⅲ-54 KC-1・FC-2~4・遺物集中1・土器集中28・31・32

KH-5



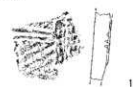
KH-6



KH-8



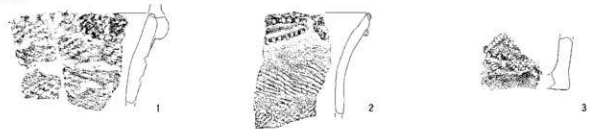
KH-9



KH-10

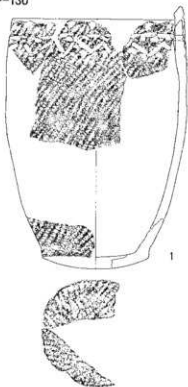


KH-11



図III-55 遺構出土の土器(1)

KP-130



KP-331



KP-336



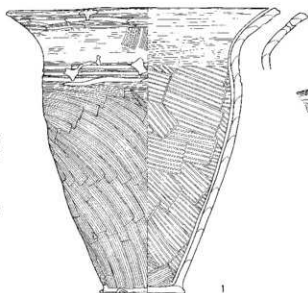
KP-346



KP-353



KP-358

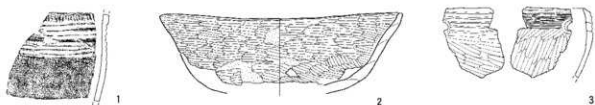


KP-355



図Ⅲ-56 遺構出土の土器(2)

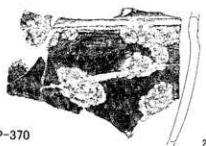
KP-359



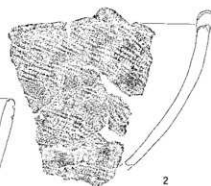
KP-360



KP-370



KP-376



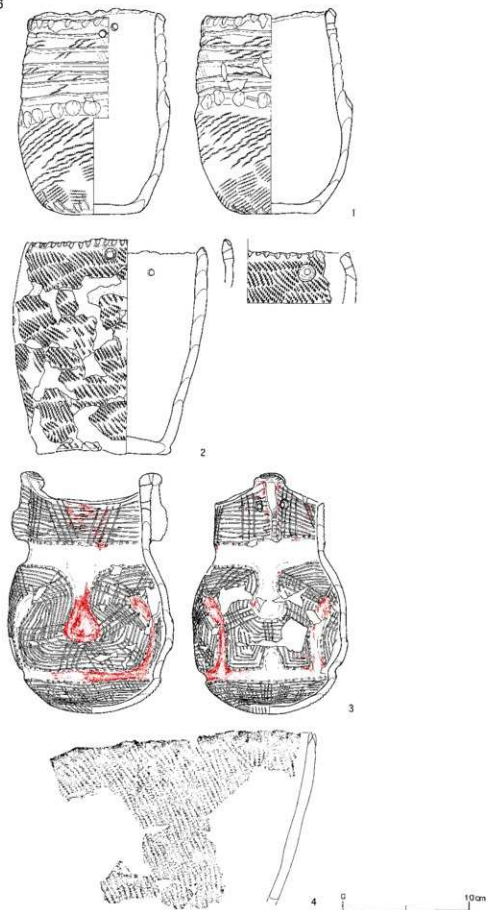
KP-380



0 10cm

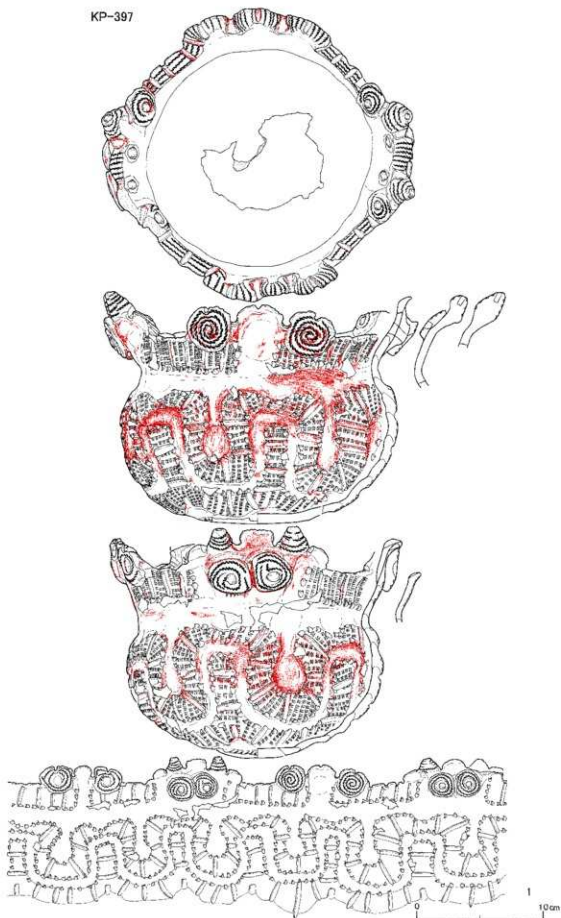
図III-57 遺構出土の土器(3)

KP-386



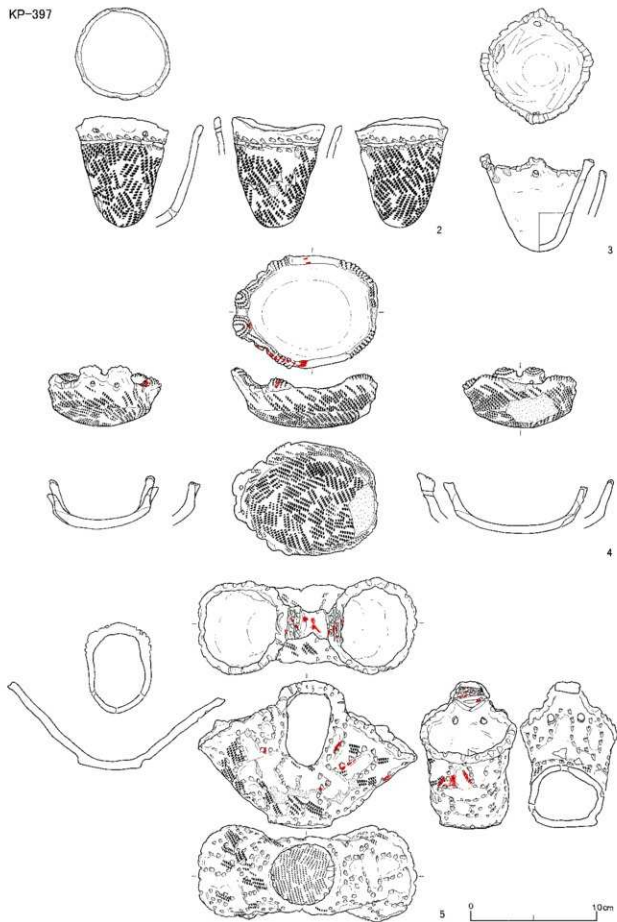
図Ⅲ-58 遺構出土の土器(4)

KP-397



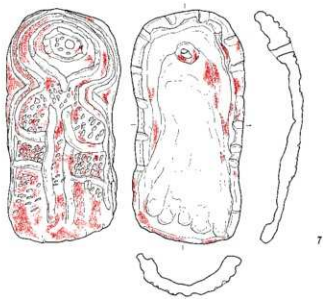
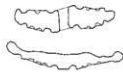
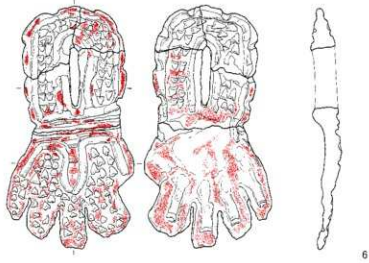
図III-59 遺構出土の土器(5)

KP-397



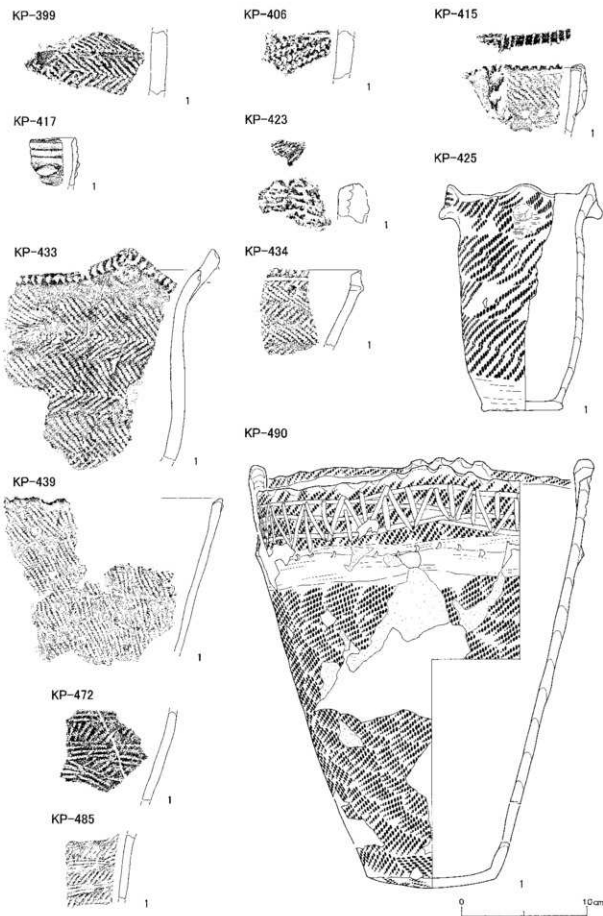
図Ⅲ-60 遺構出土の土器(6)

KP-397

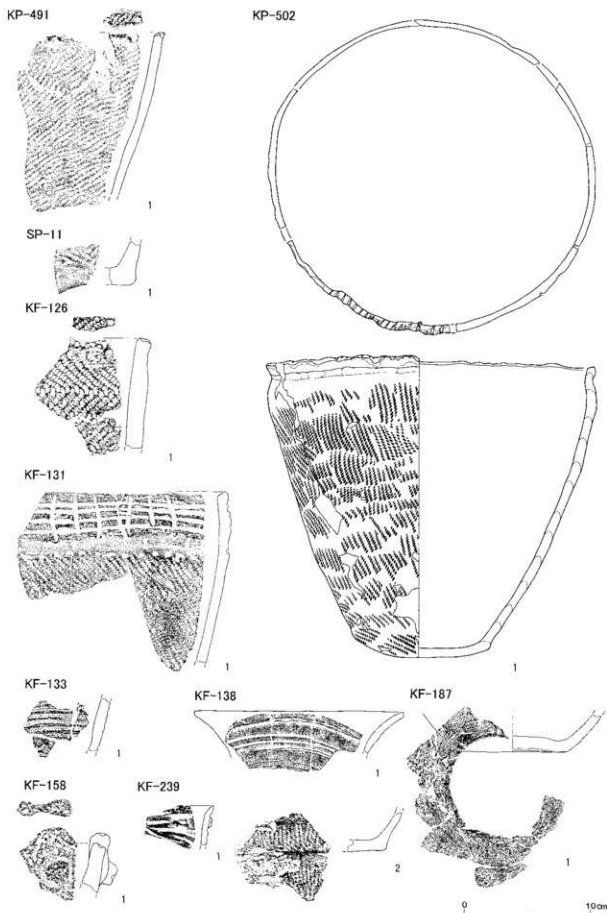


0 10cm

図III-61 遺構出土の土器(7)



図Ⅲ-62 遺構出土の土器(8)

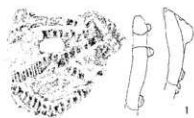


図III-63 遺構出土の土器(9)

FC-2



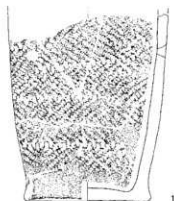
FC-4



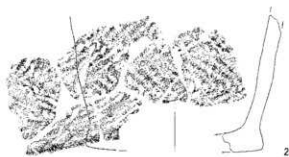
遺物集中1



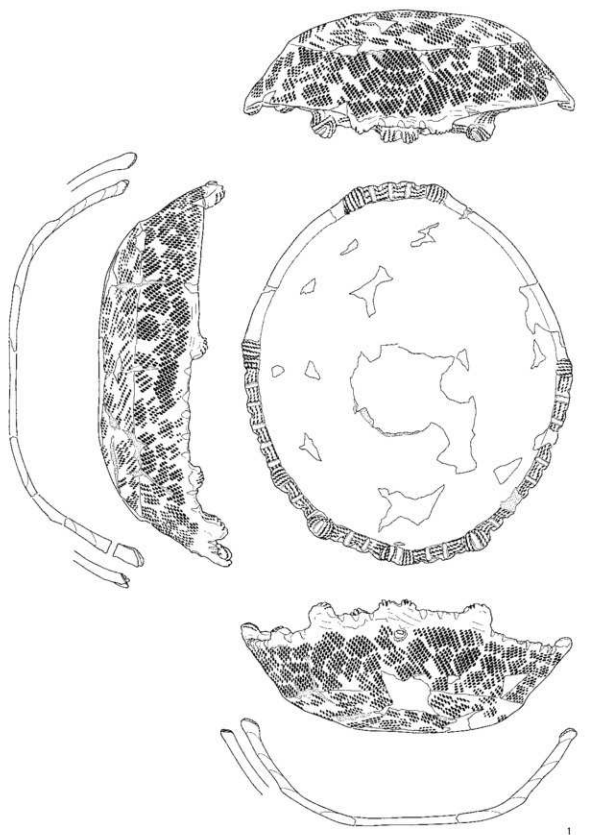
土器集中28



土器集中31

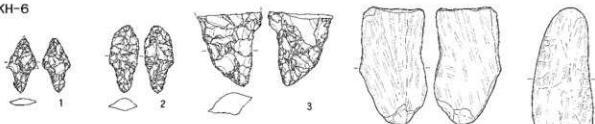


図Ⅲ-64 遺構出土の土器10

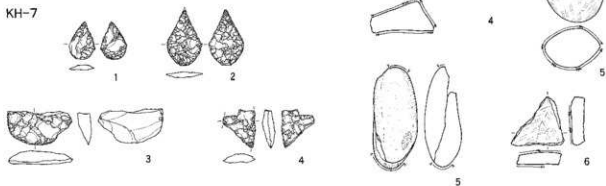


図III-65 遺構出土の土器(1)

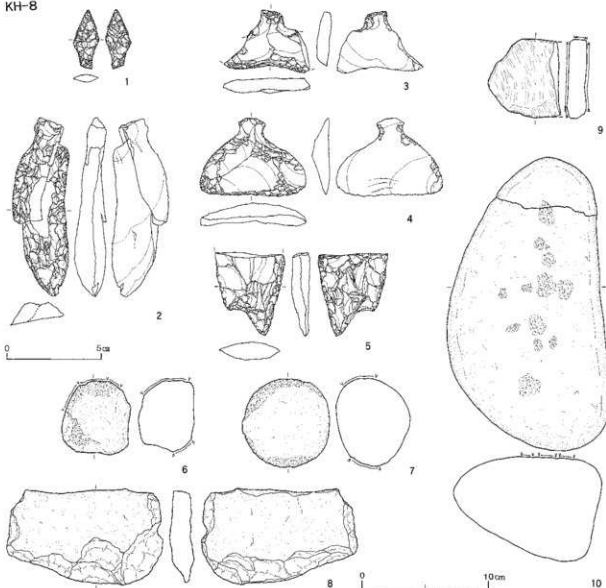
KH-6



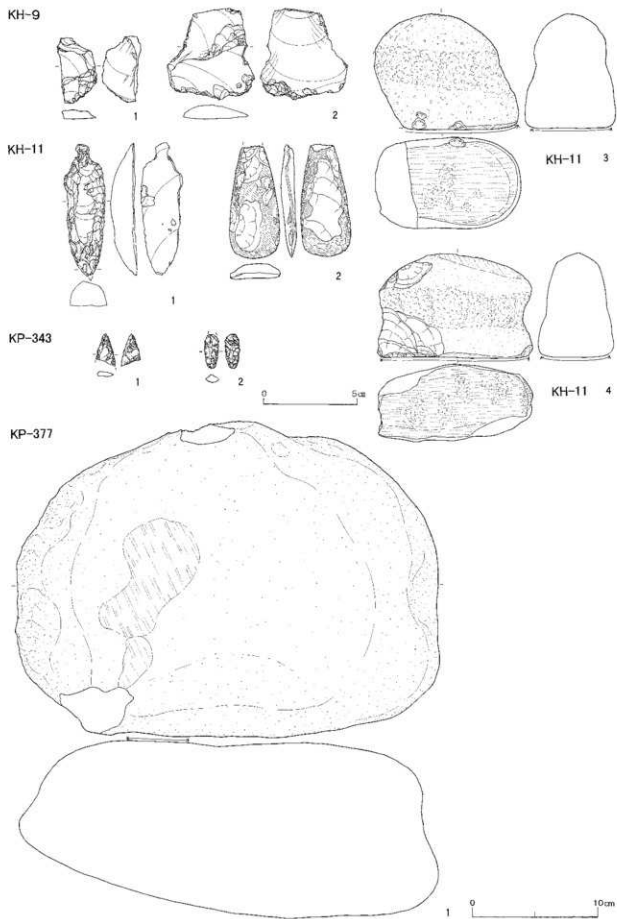
KH-7



KH-8

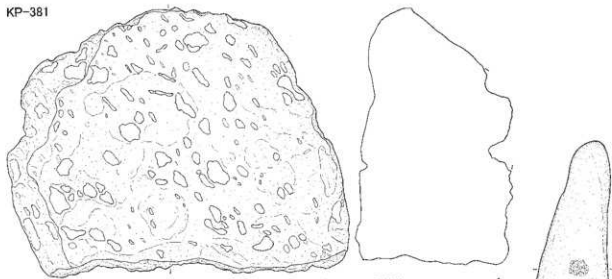


図III-66 遺構出土の石器(1)



図III-67 遺構出土の石器(2)

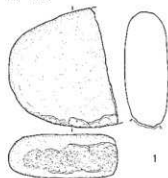
KP-381



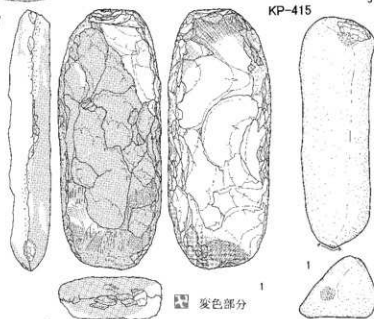
KP-386



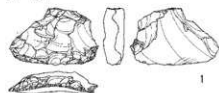
KP-389



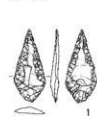
KP-397



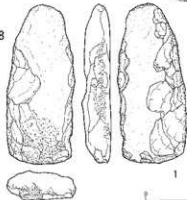
KP-424



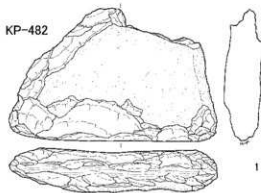
KP-434



KP-468



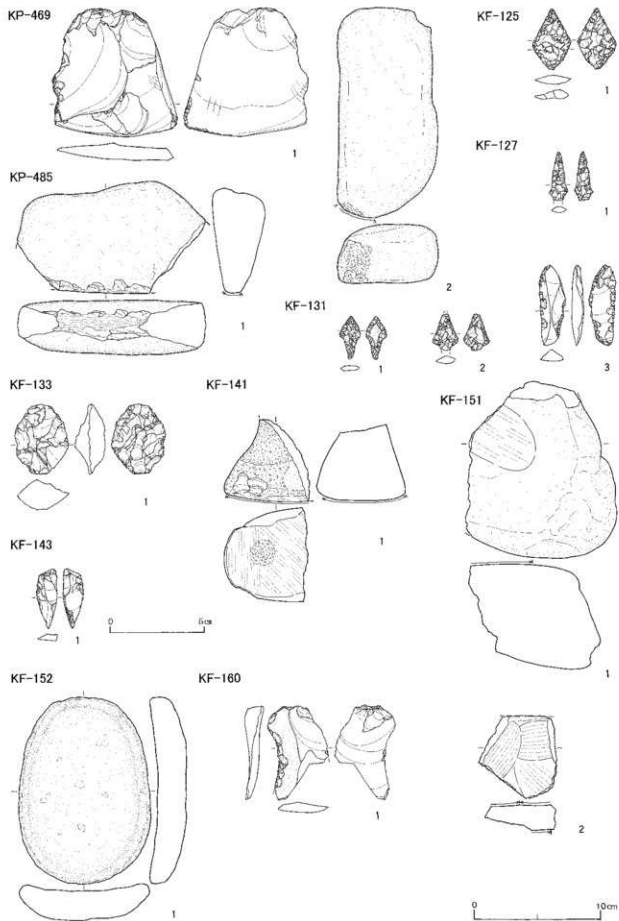
KP-482



0 5cm

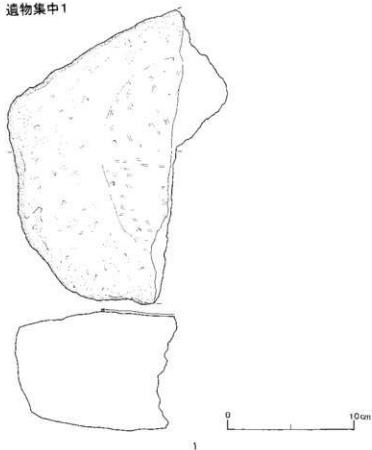
0 5cm

図III-68 遺構出土の石器(3)



図III-69 遺構出土の石器(4)

遺物集中1



図Ⅲ-70 遺構出土の石器(5)

2 包含層の遺物

(1) 土器 (図Ⅲ-71~82、図版66~73)

報告する土器は平成17年度調査のA・C地区と平成18年度のE地区出土の土器である。包含層の土器は41,320点出土している。内訳は、I群土器207点、II群土器1,148点、III群土器8,502点、IV群土器1,524点、V群土器28,582点、VI群土器12点、VII群土器1,338点、不明6点、土製品1点である。

I群土器 (1~2)

1~2はI群b-4類土器。

1は深鉢の口縁部。半截竹管状工具による刺突が巡る。2は胴部。1~2は東釧路IV式土器。

II群土器 (3)

3はII群b類土器

3は深鉢の口縁部。口唇部は角張り、外傾する。3は静内中野式土器。

III群土器 (4~23)

4~15はIII群a類土器。

4~14は深鉢の突起部及び口縁部。15は深鉢の胴部。4~15は萩ヶ岡2式~3式土器。

16~23はIII群b類土器。

16は深鉢。突起部は欠損している。RL+LR結束第2種。17は深鉢の突起部から口縁部。18~20は深鉢の口縁部。口縁部は三角形に肥厚し、口縁部下に外側からの円形刺突文。21は胴部。22~23は底部。16~17・21~23は天神山式土器。18~20は北筒式土器。

IV群土器 (24~27)

24~26はIV群a類土器。

24~26は深鉢の口縁部。口縁部は角張り、折返し口縁である。24は口縁部下に外側からの円形刺突文があり、胴部には扁平な幅の広い貼付けがある。24~26は余市式土器。

27はIV群b類土器。

27は深鉢の突起部から口縁部。突起はやや幅の広い山形。口縁部はIOの突瘤文と沈線文があり、口唇部外面の沈線文との間に刻みがある。27は髭淵式土器。

V群土器 (28~43)

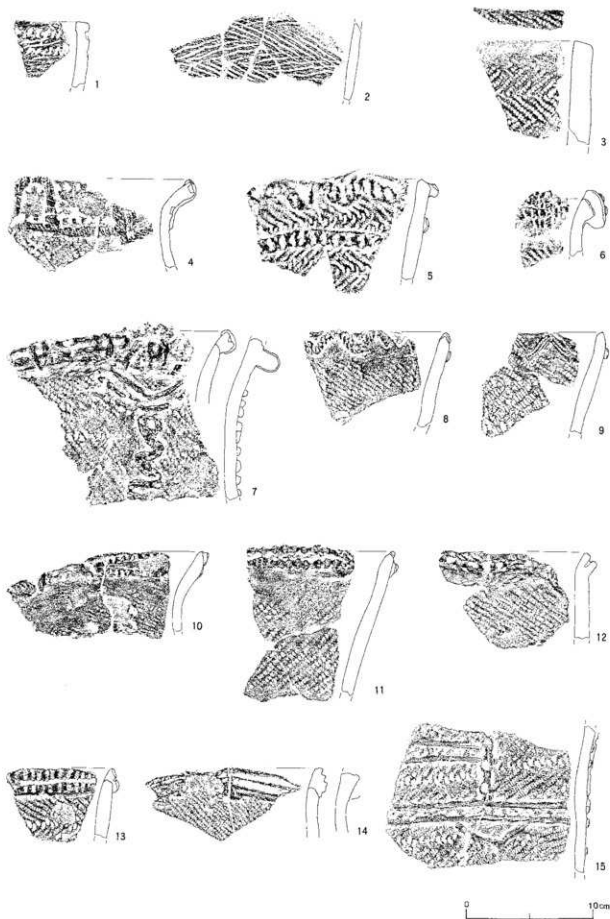
28~43はV群c類土器。遺構出土の土器ではV群b類土器が出土しているが、包含層出土土器では区別出来なかった。

28~32は深鉢。

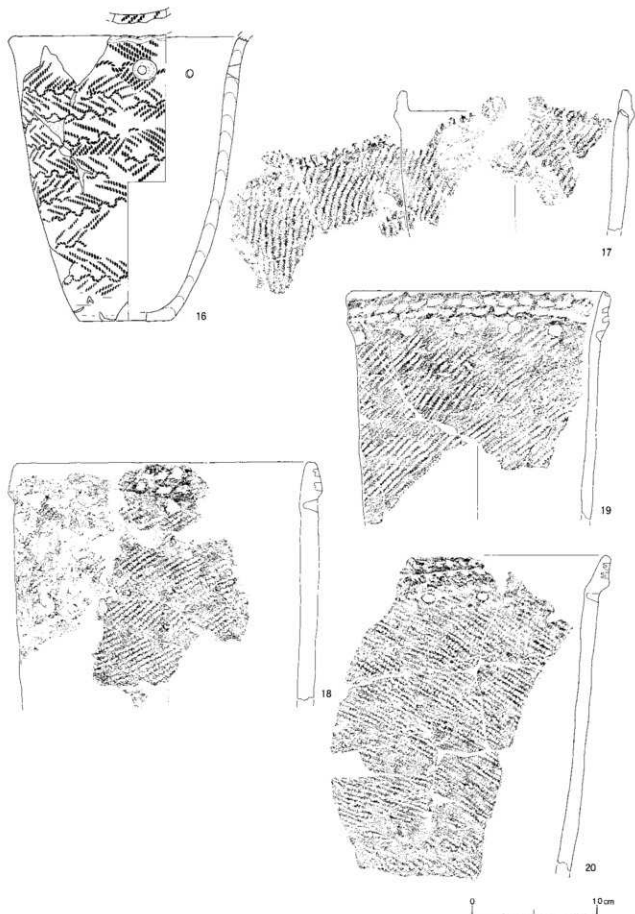
33~38は浅鉢。34は全面に沈線文を施文している。

39~40は鉢。39の口縁部は条痕により調整している。40は幅の広い深めの沈線文で浮文状にしている。内外面は丁寧に磨かれている。

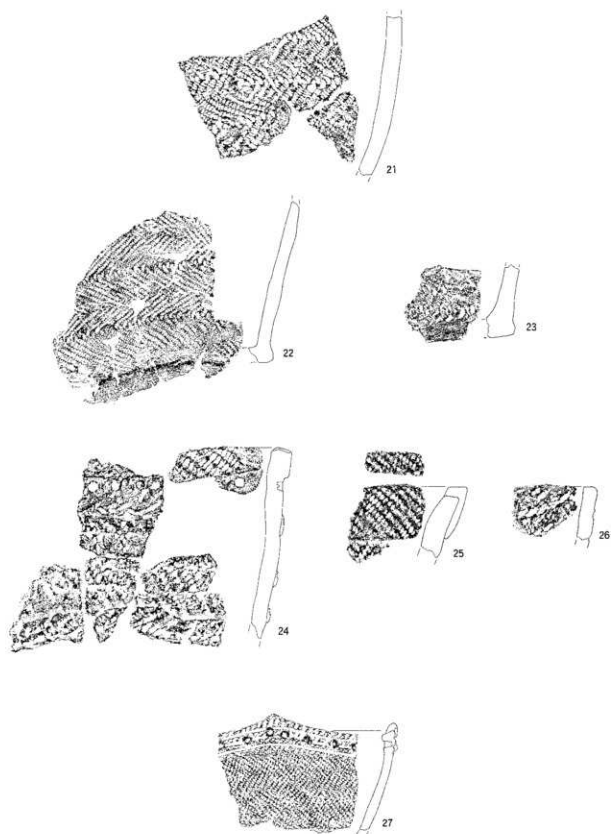
41~43は壺。いずれも大型である。



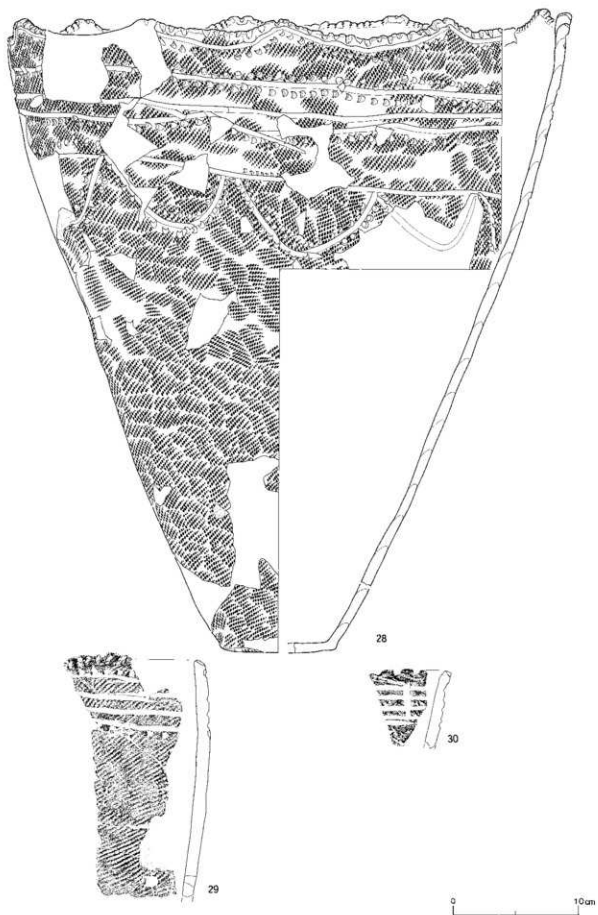
図Ⅲ-71 包含層出土の土器(1)



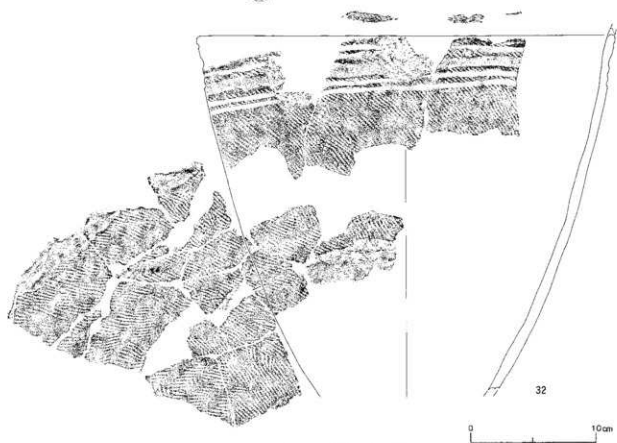
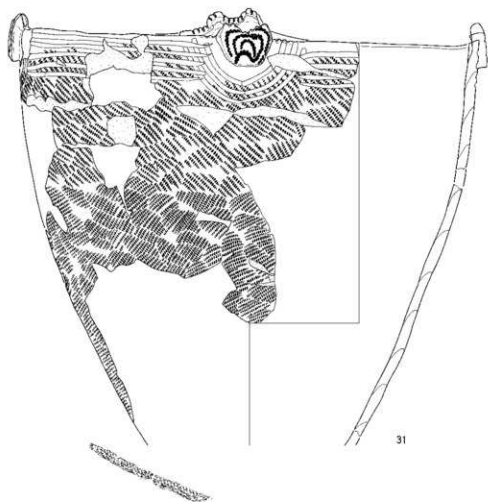
図III-72 包含層出土の土器(2)



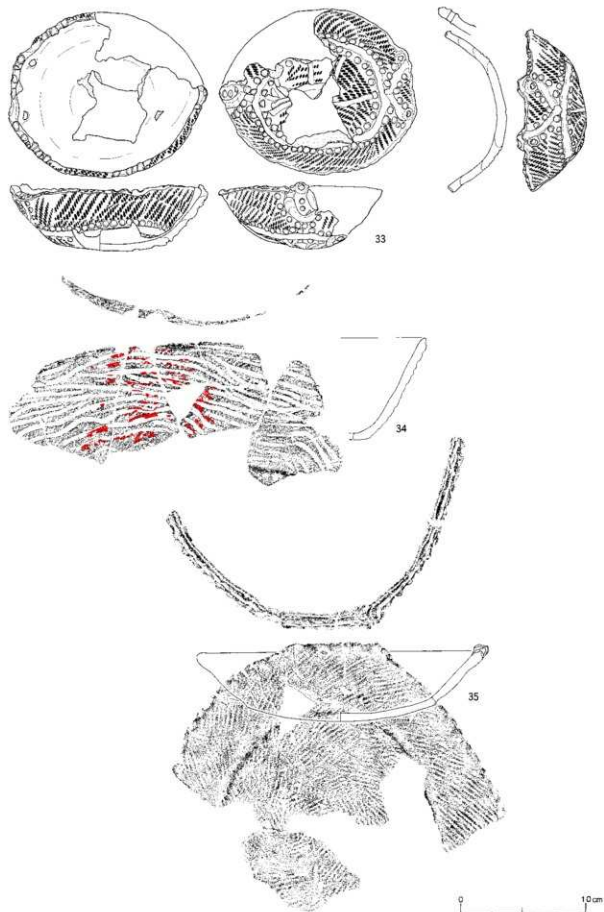
図Ⅲ-73 包含層出土の土器(3)



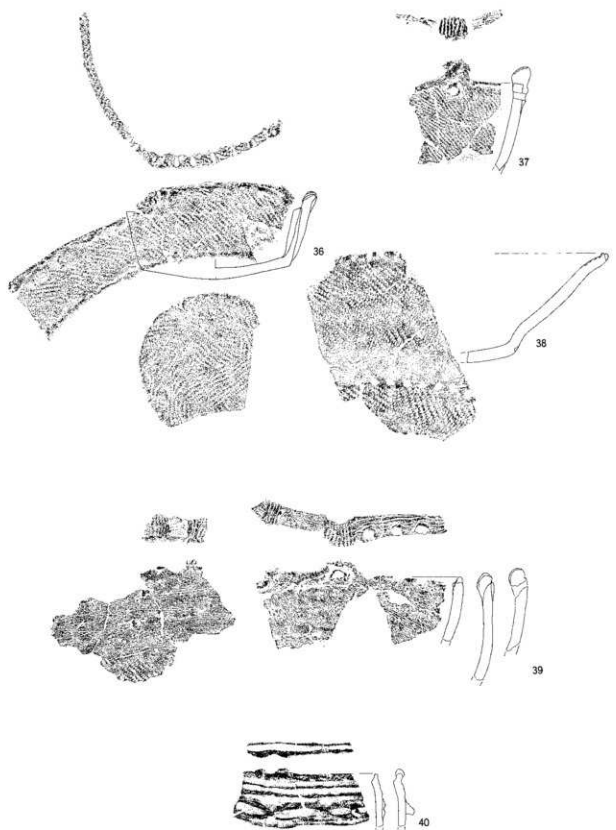
図III-74 包含層出土の土器(4)



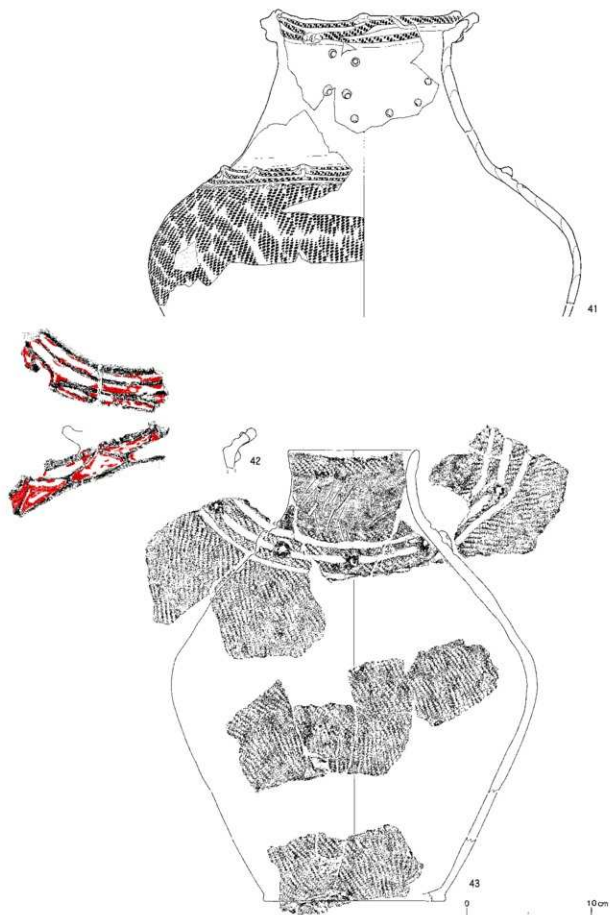
図Ⅲ-75 包含層出土の土器(5)



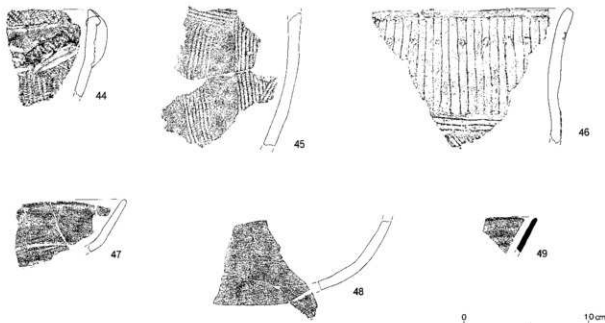
図III-76 包含層出土の土器(6)



図Ⅲ-77 包含層出土の土器(7)



図III-78 包含層出土の土器(8)



図III-79 包含層出土の土器(9)

VI群土器 (44~46)

44は口縁部。口縁部断面が三角形になり、口縁部に扁平な貼付けと沈線文がある。地文は縦走している。型式及び時期は不明であるが、縦走する地文と沈線文から、縄文時代の土器と考えられる。

45は体部。带状縄文による地文。器壁が薄いことから後北C₁-D式土器と考えられる。

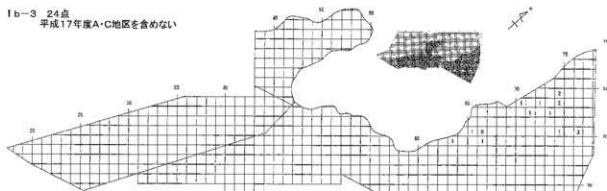
46はやや外反しながら長く伸びる口縁部。口縁部に微隆起線文による文様帯がある。北大I式土器。

VII群土器 (47~49)

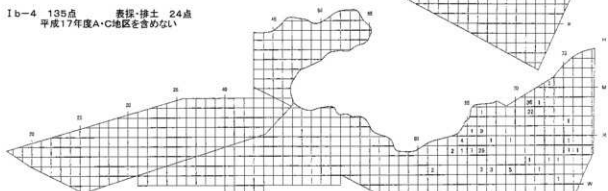
47~48は撥文土器。47は小型の坏の口縁部から体部。体部に沈線文が巡る。48は大型で丸みのある坏の体部。47~48は8世紀代である。

49は須恵器。坏の口縁部。良く精製された胎土で、密である。色調は灰青色である。これらの特徴は五所川原産と異なっていると考えられるが、産地は不明である。攪乱からの出土で、遺跡内からはこの1点のみの出土である。(佐藤)

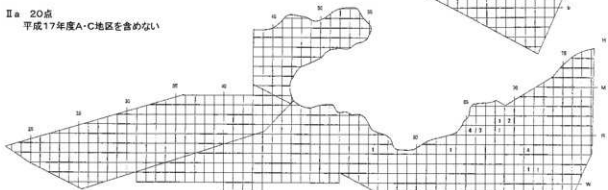
I b-3 24点
平成17年度A・C地区を含めない



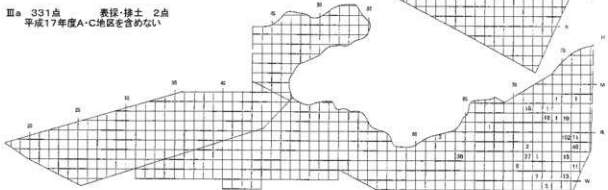
I b-4 135点 表掘・挿土 24点
平成17年度A・C地区を含めない



II a 20点
平成17年度A・C地区を含めない



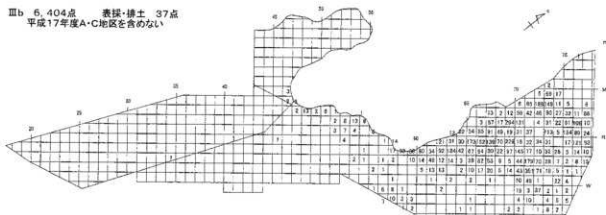
III a 331点 表掘・挿土 2点
平成17年度A・C地区を含めない



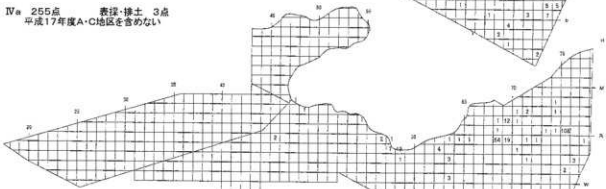
0 50m

図III-80 包含層出土土器の分布(1)

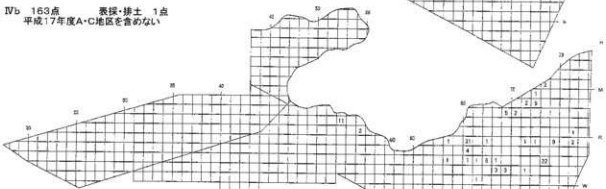
Ⅲb 6,404点 表探・埴土 37点
平成17年度A・C地区を含めない



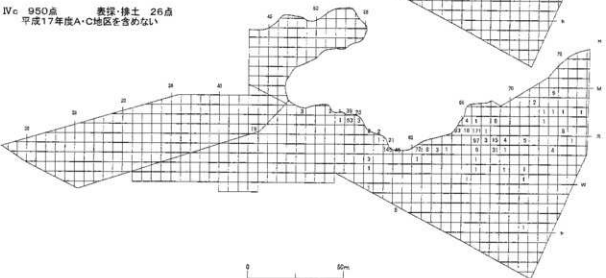
Ⅳa 255点 表探・埴土 3点
平成17年度A・C地区を含めない



Ⅳb 163点 表探・埴土 1点
平成17年度A・C地区を含めない



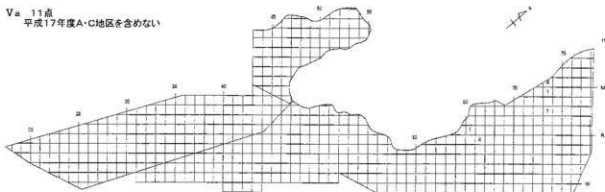
Ⅳc 950点 表探・埴土 26点
平成17年度A・C地区を含めない



0 50m

図Ⅲ-81 包含層出土土器の分布(2)

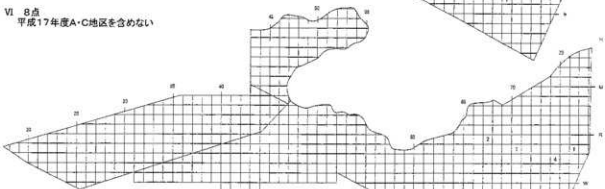
Va 11点
平成17年度A・C地区を含めない



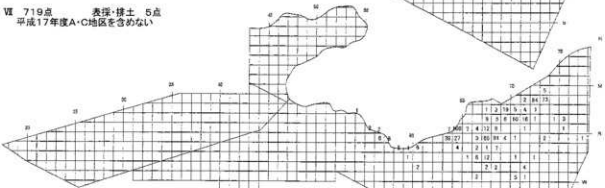
Vc 2,592点 表探・検土 12点
平成17年度A・C地区を含めない



VI 8点
平成17年度A・C地区を含めない



VII 719点 表探・検土 5点
平成17年度A・C地区を含めない



0 30m

図III-82 包含層出土土器の分布(3)

(2) 石器 (図Ⅲ-83~90、図版74~76)

報告する石器は平成17年度調査のA・C地区と平成18年度調査のE地区出土の石器である。

包含層の石器は10,655点出土している。石鏃が178点、石槍またはナイフが21点、石錐が28点、つまみ付きナイフが32点、スクレイパーが308点、石斧が83点、石斧片が71点、たたき石が81点、凹石が7点、すり石が18点、扁平打製石器が1点、北海道式石冠が26点、石錘が2点、砥石が42点、石鋸が2点、台石・石皿が11点、Uフレイクが460点、Rフレイクが166点、両面調整石器が4点、ピエス・エス・キークが6点、石核が49点、フレイクが5,794点、原石が20点、礫・礫片が3,639点、石製品が6点である。

石材

使用された石材は剥片石器類では黒曜石が最も多く80%あり、次に頁岩が約19%である。頁岩中には堆積の縞模様が見られる縞頁岩と呼ばれる頁岩を含む。これは漁川上流で採取されたものといわれ、スクレイパーなどの素材に使われている。他にメノウ、チャート、珪岩、ガラス質安山岩などが使用されている。

石鏃は全点が黒曜石を素材にしている。石槍またはナイフは黒曜石と頁岩がほぼ半数ずつである。石錐は57%が黒曜石を使用し頁岩が32%、メノウが10%である。つまみ付きナイフは頁岩を84%使用し、黒曜石は12.5%、メノウが3%である。スクレイパーは黒曜石を82%、頁岩を16%使用している。フレイク類は黒曜石が80%、頁岩が19%、他にメノウ、チャート、珪岩、ガラス質安山岩などを合わせ1%出土している。

礫石器は安山岩の使用が多く他に砂岩、泥岩、凝灰岩、溶結凝灰岩、軽石などが使用されている。

石斧や石斧片は泥岩が82%と多く、他に片岩13%、砂岩、安山岩なども使用されている。

剥片石器の石材に黒曜石が多用されている。縞頁岩は頁岩などに比べ石器よりフレイクの比率が高い。

石斧は成品の数に比べ制作時の打ち欠き破片が少ないことが挙げられる。

本遺跡出土の石器の特徴として石鏃・スクレイパー・石斧が多い。また、道央部では少ない扁平打製石器が包含層から出土している。

分布

石器全体の分布傾向は西側の段丘が張り出すA地区で、遺構の分布状態と出土傾向が一致する。調査範囲の北側は包含層の残りがため出土遺物も多い。東側と中央からやや南側は包含層が耕作により失われているため出土遺物はわずかである。

石鏃は西側のA地区が特に多くまとまって出土し、北側はやや広い範囲に散在している。石槍またはナイフは北側と西側が散在し、南西側にややまとまりがみられる。石錐は北東から南西に点在し西側で散在する。つまみ付きナイフは石槍またはナイフと同じ傾向を示している。スクレイパーは西側でまとまって多数出土する他、北側と南西側で散在する。石斧・石斧片は北側と西側、南西側で散在するが、石斧と石斧片の比率は北側で石斧片が多く、西と南西側で石斧が多い。たたき石は西側でややまとまるほか、北側から中央部の段丘崖側、南西部に散在する。凹石は北側に点在する。すり石は北側と西側に点在する。北海道式石冠は北側と中央部、南西部に点在する。砥石はたたき石と同様な分布を示す。台石・石皿は中央部のやや北東側と西側にみられる。Uフレイクは北側から中央部に散在する。Rフレイクは西側に多く分布し、北側に散在するとともに中央部から南西側に点在する。石

核はたたき石と同じ分布を示す。フレイクは西側が最も多く、北側はS-71区付近を中心に広い範囲で多量に分布する。また南西側もまとまりがある。中央部は散在する。礫・礫片はフレイクと似た分布を示すが、北側のR-72区付近が出土していないためドーナツ状の分布を示す。

石鏃 (図Ⅲ-84-1~12)

石鏃は三角形のもの(1~3)、有茎のもの(4~10)、木葉形や菱形のもの(11・12)に細分される。1は三角形の平基のもので、両側辺の調整がやや荒く基部の中央部に厚みがあることから有茎の石鏃が破損した後、三角形の石鏃として再利用した可能性がある。2・3は三角形の凹基のもので、2は両側辺の中央部が張り出しホームベース状のやや五角形を呈する。3は基部の挟りが深い。4~8は有茎凸基のものである。9・10は有茎平基のものである。

11は菱形のもの。12は木葉形のもの。

石槍またはナイフ (図Ⅲ-84-13~15)

13は下半部が欠損しているため形態が不明なもの。14・15は無茎のもの。

石錐 (図Ⅲ-84-16~19)

16は石錐で剥片に刺突部を作り出している。17~19は棒状のもので両端に使用痕が残る。18は稜の磨滅が著しい。

つまみ付きナイフ (図Ⅲ-84-20~29)

20~23は片面加工のつまみ付きナイフ。21は裏面に調整が入るが形態から片面加工に入れている。22・23は片面全面加工のもの。23はつまみ部の幅が広い形態である。24・25は裏面の一侧辺にも刃部加工の施されたもの。26・27は両面加工のつまみ付きナイフで下端は尖頭状の加工が施されている。28・29は横形のつまみ付きナイフである。

スクレイパー (図Ⅲ-85-30~33)

30・31は縦長剥片を使用したもので、30は三角形を呈する。31は縦長剥片を斜めに使用し側縁に刃部をもつもの。32はバルブ部分を使用し斜めの下辺の両面に刃部加工を施している。原石面を一部に残している。33は両面加工のスクレイパーで裏面の下半部は使用痕が残るが加工されていない。

石斧 (図Ⅲ-85-34~40)

34は石斧の破片の一端に刃部加工を施した小型のもの。34~37は打ち欠きにより形が整えられた後、研磨によって整形されている。34は擦切りの痕跡が残り、片刃に加工されている。打ち剥しの一部に研磨痕がみられ、小型、または、凸状の機能部を有する砥石の使用が推定される。38~40はベッキングにより整形された後、部分的に磨かれたもの。39・40は片刃に加工されている。

たたき石 (図Ⅲ-85-41)

41は扁平な礫を素材とした凹石で片面に使用痕がみられるほか、上下両端にたたき痕がみられる。

すり石 (図Ⅲ-85-42~44)

42は扁平な礫を使用し、すり面の幅が狭いもの。43・44は断面が三角形の礫の稜を磨ったすり石である。

扁平打製石器 (図Ⅲ-85-45)

45は扁平な礫の周囲が打ち欠かれているが、すり面の使用した痕跡は無い。

北海道式石冠 (図Ⅲ-85-46・47)

46・47は共に左側が欠損している。46のすり面は裏面側に傾き、斜めに使用していることが判る。

砥石 (図Ⅲ-85-48・49)

48は楕円礫の両面を使用し磨りくぼんでいる。表面の磨りくぼみの中に、溝状の細いすり痕が2筋みられる。

石鋸 (図Ⅲ-85-50)

50は三角形の扁平な礫を素材に2辺をU字~V字状の機能部としている。石鋸は他にP-30区から1点出土している。

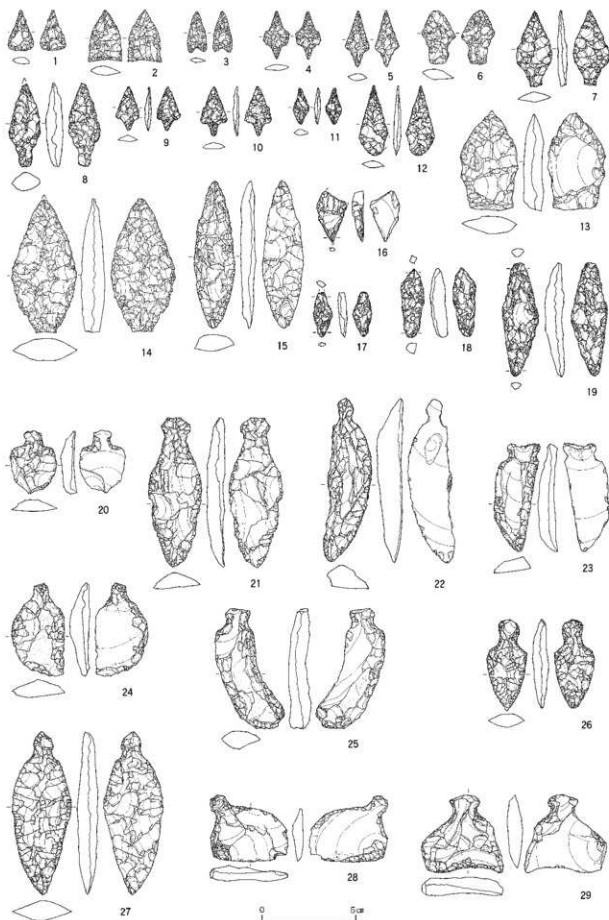
石錘 (図Ⅲ-85-51・52)

石錘は2点出土している。51は台形の扁平な礫の2辺を打ち欠いた石錘である。52は扁平に打ち割った礫の1辺に打ち欠きが見られる、破損した石錘である。

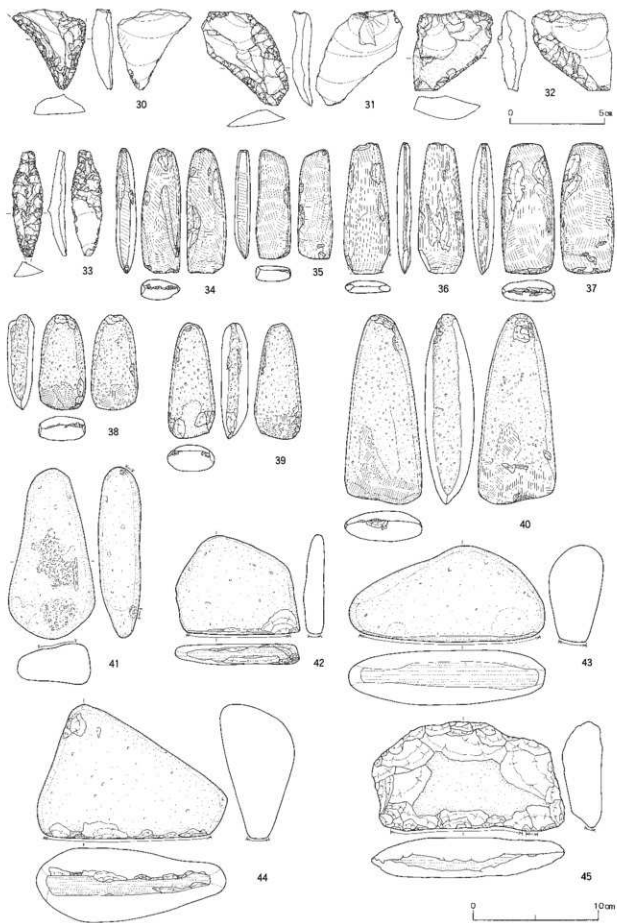
石製品 (図Ⅲ-85-53~57)

53は勾玉状に加工された石製品。54は垂飾。全周を研磨している。表面の穴の両横に水平と右上がりの斜め方向に溝状の加工が見られるが、後に再加工されているようである。

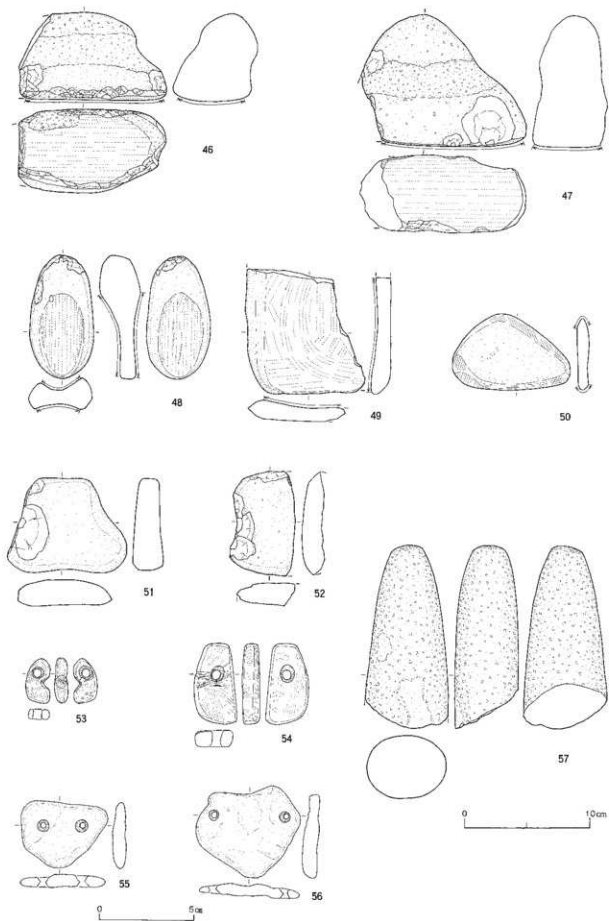
55・56は扁平な礫の長軸上に離れて穴のあけられた帯止め状の石製品。穿孔の他に加工はみられない。57は石棒の端部破片。ベッキングにより成形されている。石製品は他にI-50区で1点出土している。
(谷島)



図Ⅲ-83 包含層出土の石器(1)

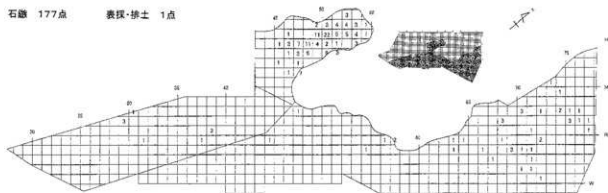


図Ⅲ-84 包含層出土の石器(2)

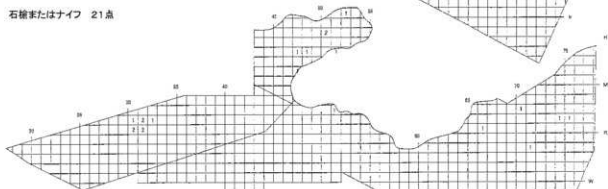


図III-85 包含層出土の石器(3)

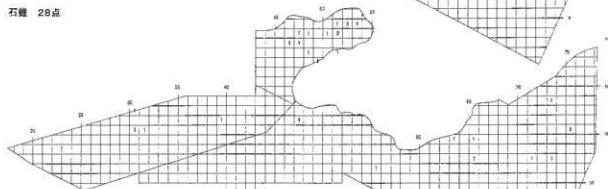
石鏝 177点 表採・埴土 1点



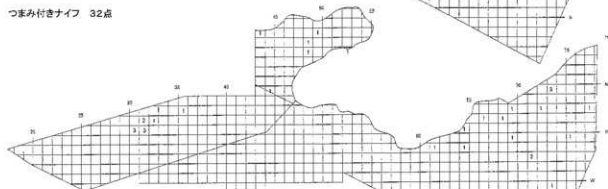
石槍またはナイフ 21点



石鏝 28点



つまみ付きナイフ 32点

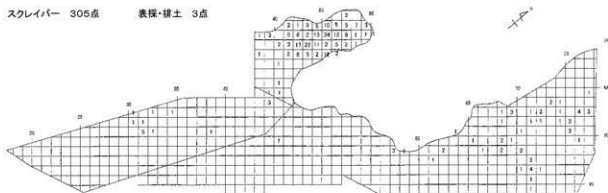


0 30m

図Ⅲ-86 包含層出土石器の分布(1)

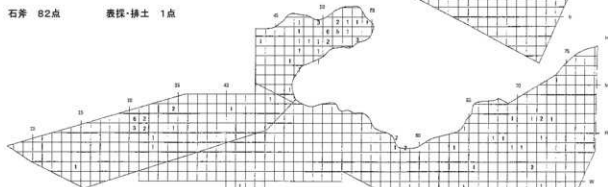
スクレイパー 305点

表探・検土 3点



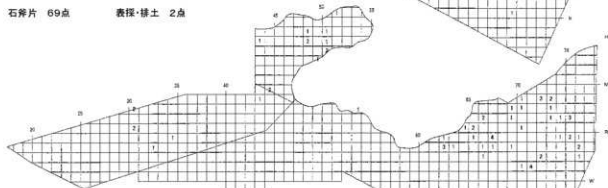
石斧 82点

表探・検土 1点

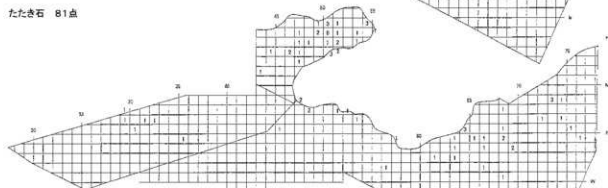


石斧片 69点

表探・検土 2点



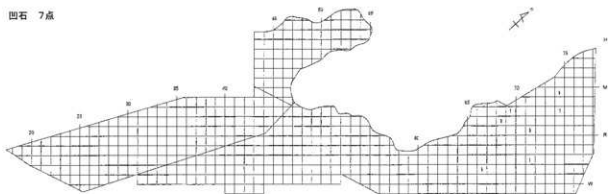
たたき石 81点



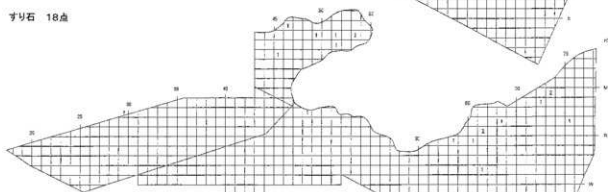
0 30m

図III-87 包含層出土石器の分布(2)

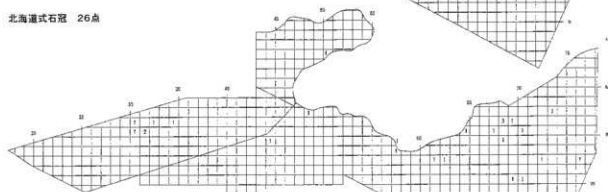
凹石 7点



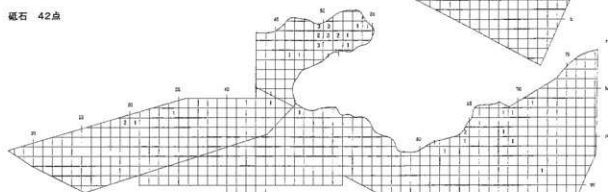
すり石 18点



北海道式石冠 26点



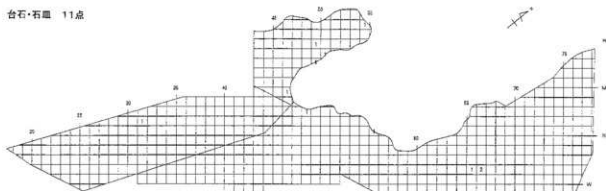
砥石 42点



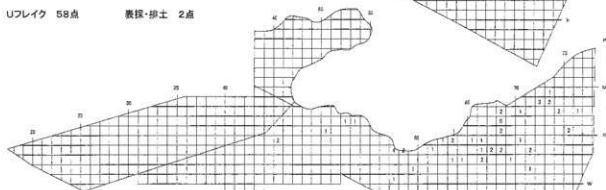
0 50m

図Ⅲ-88 包含層出土石器の分布(3)

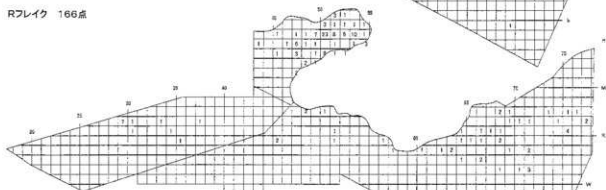
台石・石皿 11点



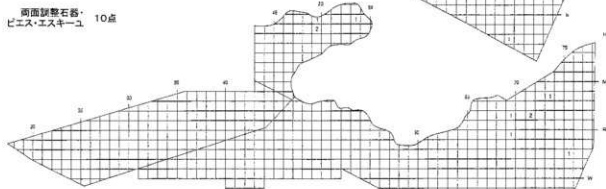
Uフレイク 58点 表探・挿土 2点



Rフレイク 166点



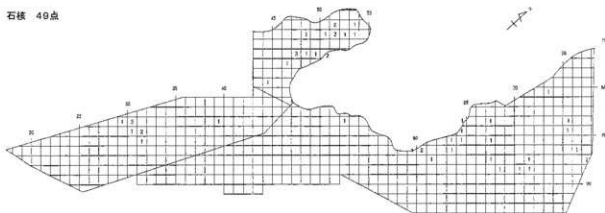
両面調整石器・
ピエス・エスキーユ 10点



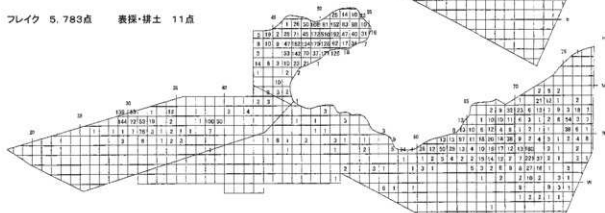
0 50m

図III-89 包含層出土石器の分布(4)

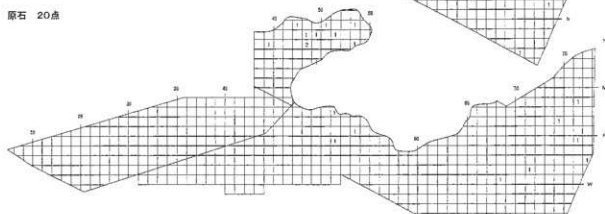
石核 49点



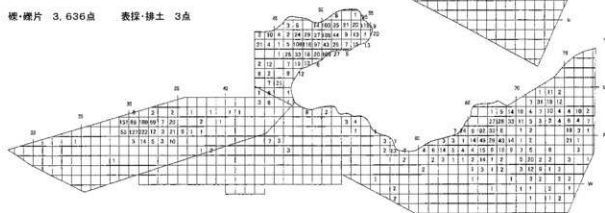
フレイク 5,783点 表採・排土 11点



原石 20点

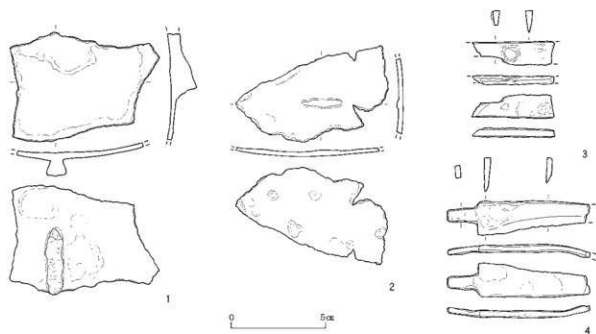


核・燧片 3,636点 表採・排土 3点



0 50m

図Ⅲ-90 包含層出土石器の分布⑤



図III-91 包含層出土の鉄製品

(3) 鉄製品 (図III-91、図版77)

1～2は鉄鍋の底部。1は一字溝口である。2は1に比べて若干薄い。3～4は刀子。3は基部が幅広である。4は先端に向かい磨耗が著しい。
(佐藤)

表Ⅲ-1 遺構規模一覧

遺構名	棟図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸 (m) 短軸 (m) 軸 (m) 深さ (m) (確認/底) × (確認/底) × (厚さ)	切り合い関係 その他
KH 5	図Ⅲ-2	2	R・S-45	IV	縄文時代後期中部	不整形凹形	$(3.10 / 3.10) \times (2.82 / 2.82) \times$	床面のみ
		3・4	T・U-63・64		縄文時代中期後半			
KH 7	図Ⅲ-4	4・5	R-64・65	IV	縄文時代中期前半	隅丸方形	$(4.48 / 4.48) \times (3.55 / 4.10) \times 0.22$	
		6・7	O・P-70~71 Q-70~72		縄文時代中期後半			
KH 9	図Ⅲ-10	8	V・W-42・43	V	縄文時代中期前半	凹形	$(2.15 / 2.44) \times (2.38 / 2.26) \times 0.16$	
		9	V・W-41		縄文時代中期後半			
KH 11	図Ⅲ-11	10	O-77	Ⅲ	縄文時代中期後半	楕円形?	$(2.74 / 2.34) \times (---) \times 0.22$	
		KP 296	R・S-47・48		縄文時代晩期後葉			
KP 297	図Ⅲ-12	11	Q-45	V	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.65 / 0.36) \times (0.58 / 0.34) \times 0.22$	
KP 298				V	縄文時代晩期後葉	楕円形	$(0.70 / 0.58) \times (0.58 / 0.44) \times 0.17$	
KP 299				S-48	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.82 / 0.62) \times (0.72 / 0.52) \times 0.27$	
KP 300				S-48	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.75 / 0.46) \times (0.68 / 0.44) \times 0.23$	
KP 301				R-48	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.62 / 0.38) \times (0.52 / 0.29) \times 0.23$	
KP 302				Q-49	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.60 / 0.34) \times (0.57 / 0.35) \times 0.10$	
KP 303	Q-50	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.87 / 0.44) \times (0.84 / 0.42) \times 0.28$				
KP 304	Q-50	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.67 / 0.30) \times (0.64 / 0.33) \times 0.21$				
KP 305	Q-50	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.63 / 0.45) \times (0.57 / 0.39) \times 0.16$				
KP 306	図Ⅲ-13	12	P-44・45	V	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.74 / 0.50) \times (0.64 / 0.46) \times 0.14$	
KP 307				V	縄文時代晩期後葉	楕円形	$(0.63 / 0.43) \times (0.48 / 0.30) \times 0.15$	
KP 308				V	縄文時代晩期後葉	楕円形	$(0.83 / 0.50) \times (0.76 / 0.46) \times 0.18$	
KP 309				Q-51	縄文時代晩期後葉	楕円形	$(0.78 / 0.45) \times (0.64 / 0.33) \times 0.44$	
KP 310				P-51	縄文時代晩期後葉	楕円形	$(0.76 / 0.57) \times (0.68 / 0.46) \times 0.30$	
KP 311				O-50	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.56 / 0.34) \times (0.52 / 0.28) \times 0.21$	
KP 312	図Ⅲ-14	12	P-49	V	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.82 / 0.60) \times (0.75 / 0.52) \times 0.30$	
KP 313				V	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.86 / 0.53) \times (0.86 / 0.50) \times 0.24$	
KP 314				P-54	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.90 / 0.50) \times (---) \times 0.49$	
KP 315				Q-44	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.79 / 0.46) \times (0.79 / 0.45) \times 0.31$	
KP 316				Q-45	縄文時代晩期後葉	楕円形	$(0.67 / 0.47) \times (0.56 / 0.40) \times 0.19$	
KP 317				R-50	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.68 / 0.32) \times (0.62 / 0.31) \times 0.25$	
KP 318	13	13	P-50・51	V	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.63 / 0.37) \times (0.62 / 0.38) \times 0.20$	
KP 319				P-51・52	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.77 / 0.52) \times (0.74 / 0.55) \times 0.29$	
KP 320				P-49	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.64 / 0.42) \times (0.59 / 0.39) \times 0.23$	
KP 321				Q-49	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.93 / 0.63) \times (0.89 / 0.60) \times 0.33$	KP-343より新しい
KP 322	図Ⅲ-15	14	Q-45	V	縄文時代晩期後葉	凹形	$(1.04 / 0.70) \times (0.90 / 0.55) \times 0.27$	
KP 323				T-49	縄文時代晩期後葉	凹形	$(0.65 / 0.38) \times (0.52 / 0.36) \times 0.26$	KF-120より古い

遺構名	棟図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸(m)短軸(m)深さ(m)厚さ	切り合い関係 その他
K P 324	図III-15		Q-46	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.60 / 0.72) × (0.77 / 0.54) × 0.30	
K P 325			Q-46	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.60 / 0.46) × (0.56 / 0.36) × 0.19	
K P 326			P・Q-45	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.58 / 0.46) × (0.42 / 0.37) × 0.18	
K P 327			P-46	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.68 / 0.48) × (0.63 / 0.45) × 0.18	
K P 328			P-50	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.54 / 0.40) × (0.53 / 0.38) × 0.18	
K P 329			O・P-49	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.72 / 0.48) × (0.61 / 0.38) × 0.28	
K P 330			O-50	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.71 / 0.50) × (0.69 / 0.50) × 0.28	
K P 331			Q-51	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.50 / 0.36) × (0.4 / 0.24) × 0.21	
K P 332			S-47	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.75 / 0.59) × (0.48 / 0.31) × 0.24	
K P 333			Q-52	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.64 / 0.35) × (0.56 / 0.29) × 0.35	
K P 334	Q-53	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.52 / 0.36) × (0.46 / 0.26) × 0.30			
K P 335	P-53	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.69 / 0.40) × (0.61 / 0.39) × 0.32			
K P 336	P・Q-52	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.85 / 0.63) × (0.65 / 0.44) × 0.61			
K P 337	O・P-50	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.66 / 0.44) × (0.62 / 0.43) × 0.26			
K P 338	P-50	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.72 / 0.57) × (0.61 / 0.45) × 0.19			
K P 339	R-54・55	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.71 / 0.44) × (0.66 / 0.42) × 0.31			
K P 340	Q-52	IV	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.55 / 0.34) × (0.43 / 0.28) × 0.32			
K P 341	Q-44	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.78 / 0.58) × (0.76 / 0.56) × 0.20			
K P 342	R-44	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.72 / 0.49) × (0.65 / 0.44) × 0.22			
K P 343	Q-49	V	縄文時代晩期後葉	溝状	(1.22 / 1.06) × (0.46 / 0.33) × 0.12			
K P 344	R-45・46	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.85 / 0.50) × (0.78 / 0.48) × 0.29	K P-321より古い		
K P 345	Q-52	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.46 / 0.33) × (0.44 / 0.26) × 0.17			
K P 346	R-55	V	縄文時代前期 (8世紀)	隅丸長方形	(1.58 / 1.45) × (0.92 / 0.80) × 0.19			
K P 347	R-55	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.83 / 0.50) × (0.77 / 0.46) × 0.41			
K P 348	P-49	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.68 / 0.43) × (0.64 / 0.34) × 0.17			
K P 349	R-45・46	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.85 / 0.54) × (0.73 / 0.44) × 0.33			
K P 350	R-45	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.76 / 0.46) × (0.66 / 0.42) × 0.28			
K P 351	Q・R-54	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.84 / 0.49) × (0.8 / 0.46) × 0.52			
K P 352	P-49	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.76 / 0.36) × (0.72 / 0.35) × 0.41			
K P 353	R・S-63	III	縄文時代	隅丸長方形?	(1.36 / 1.12) × (1.08 / -) × 0.25	覆土上部の樫土K P-364を切る		
K P 354	S-56	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.64 / 0.49) × (0.54 / 0.46) × 0.10			
K P 355	U-55	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.72 / 0.60) × (0.63 / 0.53) × 0.07			
K P 356	Q-52	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.70 / 0.53) × (0.62 / 0.43) × 0.26			
K P 357	P・Q-52	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.66 / 0.45) × (0.53 / 0.36) × 0.33			
K P 358	17・18・19 U・V-59	V	縄文時代前期 (8世紀)	隅丸長方形	(1.65 / 1.48) × (1.06 / 0.87) × 0.19			
K P 359	17・19・20 U-59	V	縄文時代前期 (8世紀)	隅丸長方形	(1.53 / 1.43) × (1.03 / 0.91) × 0.19			

遺構名	納区番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸(m)短軸(m)深さ(m)	切り合い関係 その他
K P 360	図Ⅲ-22	17・20・21	T・U-59	V	縄文時代前期(8世紀)	隅丸長方形	(0.87/0.74) × (0.64/0.55) × 0.19	
K P 361			Y-60	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.96/0.50) × (0.89/0.47) × 0.32	
K P 362			Y-59	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.71/0.47) × (0.52/0.37) × 0.33	純土有り
K P 363			Q-52・53	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.82/0.57) × (0.80/0.48) × 0.30	
K P 364			R-63	Ⅲ	縄文時代中期後半	隅丸方形?	(0.78/0.68) × (—/—) × 0.22	K P-353に切られる
K P 366			Z-64	V	縄文時代早期	楕円形	(1.24/0.86) × (0.75/0.46) × 0.18	
K P 367	図Ⅲ-23	22	a-63	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.74/0.34) × (0.40/0.14) × 0.26	
K P 368			b-64	V	縄文時代早期	楕円形	(1.69/1.34) × (1.20/0.76) × 0.25	
K P 369			T-62・63	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.73/0.54) × (0.72/0.54) × 0.26	
K P 370			S-66	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.58/0.50) × (0.49/0.36) × 0.21	西側に覆乱
K P 371			V-66	V	縄文時代前期(8世紀)	隅丸長方形	(1.58/1.52) × (0.94/0.81) × 0.12	
K P 372			V-66	V	縄文時代前期(8世紀)	隅丸長方形	(1.98/1.88) × (1.12/1.04) × 0.15	
K P 373	図Ⅲ-24	24	R・S-68	Ⅲ下	縄文時代晩期	楕円形	(0.73/0.43) × (0.65/0.34) × 0.15	
K P 374			S-66	Ⅳ上	縄文時代晩期	楕円形	(0.58/0.43) × (0.48/0.34) × 0.19	
K P 375			S-65	V	縄文時代中期後半	楕円形	(0.71/0.46) × (0.58/0.36) × 0.23	
K P 376			S-65	V	縄文時代早期後葉	楕円形	(0.70/0.53) × (0.62/0.47) × 0.30	
K P 377			P-67	Ⅳ	縄文時代晩期後葉	隅丸長方形	(0.71/0.39) × (0.56/0.34) × 0.13	
K P 378			P-67・68	Ⅳ	縄文時代晩期後葉	隅丸長方形	(2.62/2.37) × (1.25/0.96) × 0.36	
K P 379	図Ⅲ-25	25・26	Q-67	Ⅲ	縄文時代	隅丸長方形	(1.33/1.22) × (1.81/0.64) × 0.27	
K P 380			Q-67	Ⅳ	縄文時代	円形	(0.76/0.61) × (0.66/0.48) × 0.21	
K P 381			R-61	V	縄文時代中期後半	円形	(0.48/0.40) × (—/—) × 0.26	
K P 383			X-70	V	縄文時代前期(8世紀)	隅丸長方形	(0.72/0.60) × (—/—) × 0.47	K F-21Hを切る
K P 384			Z-70	V	縄文時代晩期後葉	隅丸長方形	(0.70/0.60) × (0.54/0.45) × 0.08	
K P 385			b-70	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.86/0.63) × (0.64/0.35) × 0.12	
K P 386	図Ⅲ-26	27~29	Q-68・69	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.72/1.33) × (1.14/0.83) × 0.69	
K P 387			b-70	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.75/0.57) × (0.69/0.5) × 0.12	
K P 388			b-70	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.85/0.70) × (0.80/0.65) × 0.10	
K P 389			X-71	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.04/0.52) × (—/—) × 0.61	
K P 390			Y・Z-71	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.56/0.41) × (0.54/0.36) × 0.13	
K P 391			Z-71	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.92/0.74) × (0.47/0.34) × 0.12	
K P 392	図Ⅲ-27	29	c-70	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.84/0.70) × (0.77/0.59) × 0.18	
K P 393			c-70	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.90/0.76) × (0.83/0.62) × 0.17	
K P 394			c-70	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.50/0.37) × (0.42/0.33) × 0.11	
K P 395			R-67	Ⅳ	縄文時代中期後半	楕円形	(0.50/0.29) × (0.49/0.32) × 0.22	
K P 396			R-69	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.78/0.54) × (—/—) × 0.32	
K P 398			R-69	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	円形	(0.70/0.50) × (0.69/0.59) × 0.23	
K P 399	図Ⅲ-28	33	S・T-66	Ⅳ	縄文時代晩期後葉	(0.69/0.56) × (0.64/0.54) × 0.18		

遺構名	棟図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸 (m) 短軸 (m) 深さ (m) 底 × (確認/底) × (厚さ)	切り合い関係 その他
K P 400		34	T-66	IV	縄文時代晩期後葉	円形	(0.74 / 0.86) × (0.72 / 0.94) × 0.30	
K P 401			T-66	IV	縄文時代	円形	(0.60 / 0.44) × (0.52 / 0.40) × 0.17	
K P 402			T-66・67	IV	縄文時代晩期	円形	(0.56 / 0.28) × (0.53 / 0.34) × 0.21	
K P 403	図 III-28		b-69	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.70 / 0.52) × (0.67 / 0.46) × 0.25	
K P 404			T-68	IV	縄文時代晩期	円形	(0.65 / 0.52) × (0.55 / 0.46) × 0.16	
K P 405			T-64	IV	縄文時代後期前葉	楕円形	(0.94 / 0.72) × (0.66 / 0.28) × 0.27	
K P 406		c-73	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.00 / 0.77) × (— / —) × 0.17		
K P 411		U・V-33	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.44 / 1.00) × (1.11 / 0.51) × 0.26		
K P 412		S-70	IV	縄文時代晩期	楕円形	(0.62 / 0.26) × (0.48 / 0.23) × 0.26		
K P 413		S-70	IV	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.61 / 0.32) × (0.54 / 0.24) × 0.27		
K P 415		Q-66	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.23 / 0.32) × (0.90 / 0.46) × 0.38		
K P 416		Q-66	Ⅲ下	縄文時代晩期	円形	(0.64 / 0.46) × (0.60 / 0.38) × 0.18		
K P 417	図 III-29	Q・R-68	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.79 / 0.35) × (0.66 / 0.30) × 0.22		
K P 418		Q-68	Ⅲ下	縄文時代晩期	円形	(0.53 / 0.32) × (0.48 / 0.24) × 0.13		
K P 419		P・Q-68	Ⅲ下	縄文時代晩期	円形	(0.46 / 0.21) × (0.40 / 0.20) × 0.25		
K P 420		P・Q-68	Ⅲ下	縄文時代晩期	円形	(0.64 / 0.34) × (0.61 / 0.36) × 0.27		
K P 421		P-68	Ⅲ下	縄文時代晩期	円形	(0.54 / 0.37) × (0.47 / 0.23) × 0.17		
K P 422		Q-69	Ⅲ下	縄文時代中期後半	円形	(0.72 / 0.35) × (0.67 / 0.30) × 0.17		
K P 423	S-71	Ⅲ下	縄文時代中期後半	楕円形	(0.70 / 0.30) × (0.60 / 0.26) × 0.20			
K P 424	T-70	Ⅲ下	縄文時代中期	楕円形	(0.73 / 0.54) × (0.64 / 0.44) × 0.12			
K P 425	U-69・70	Ⅲ下	縄文時代中期後半	楕円形	(2.42 / 2.16) × (1.92 / 1.64) × 0.36			
K P 426	U-70	Ⅲ下	縄文時代中期後期	楕円形	(1.35 / 0.47) × (0.89 / 0.35) × 0.42			
K P 427	P-53	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.62 / 0.40) × (0.58 / 0.40) × 0.28			
K P 428	Q-53	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.52 / 0.40) × (0.46 / 0.21) × 0.30			
K P 429	Q-53・54	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.65 / 0.41) × (0.64 / 0.41) × 0.37			
K P 430	R-63	IV	縄文時代中期後半	楕円形	(0.74 / 0.50) × (0.42 / 0.36) × 0.21			
K P 431	O-73	Ⅲ上柱	縄文時代後期	円形	(0.61 / 0.50) × (0.60 / 0.48) × 0.61	KH-8 覆土から切る		
K P 432	O-72	Ⅲ上柱	縄文時代後期	円形?	(0.47 / 0.30) × (— / —) × 0.17	KH-8 覆土から切る		
K P 433	O-72	Ⅲ上柱	縄文時代後期	楕円形	(1.23 / 1.00) × (0.5 / 0.33) × 0.12	KH-8 覆土から切る		
K P 434	V中	図 III-31	V中	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.23 / 1.00) × (— / —) × 0.56	K F-26の下の小段ピット	
K P 435	U-75		Ⅲ下	縄文時代中～後期	長円形	(1.26 / 1.16) × (0.22 / 0.07) × 0.33		
K P 437	Z-73		IV	縄文時代晩期後葉	円形	(0.47 / 0.32) × (0.43 / 0.32) × 0.12		
K P 438	Z・a-73		IV	縄文時代晩期後葉	円形	(0.50 / 0.34) × (0.50 / 0.33) × 0.10		
K P 439	Q-74	IV	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.64 / 0.53) × (0.53 / 0.38) × 0.13			
K P 440	V-46	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.55 / 0.34) × (0.47 / 0.28) × 0.12			
K P 441	U・V-46	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.58 / 0.36) × (0.50 / 0.35) × 0.13			
K P 442	U・V-50	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.80 / 0.60) × (0.66 / 0.51) × 0.16			
K P 443	T-49	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.10 / 0.81) × (0.80 / 0.52) × 0.17			

遺構名	棟図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸(m)短軸(m)深さ(m)	切り合い関係 その他
K P 444			S-47	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.04 / 0.90) × (0.64 / 0.52) × 0.17	
K P 445			S-46	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.40 / 0.28) × (0.31 / 0.22) × 0.10	
K P 446			S-46	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.50 / 0.36) × (0.29 / 0.19) × 0.08	
K P 447			S-46	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.57 / 0.40) × (0.44 / 0.29) × 0.13	
K P 448	図Ⅲ-32		S-46	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.42 / 0.23) × (0.38 / 0.24) × 0.15	
K P 449			T-47	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.51 / 0.39) × (0.49 / 0.38) × 0.15	
K P 450			U-45	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.67 / 0.61) × (0.58 / 0.46) × 0.08	
K P 451			U-45	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.50 / 0.40) × (0.38 / 0.21) × 0.12	
K P 452			T-44	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.54 / 0.40) × (0.48 / 0.32) × 0.11	
K P 453			T-43	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.62 / 0.52) × (0.47 / 0.38) × 0.10	
K P 454	37		T-43	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.82 / 0.63) × (0.82 / 0.60) × 0.35	
K P 455			V-43	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(1.02 / 0.86) × (0.81 / 0.58) × 0.14	
K P 456			U-43	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.66 / 0.48) × (0.64 / 0.48) × 0.17	
K P 457	37		R-44・45	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.66 / 0.47) × (0.59 / 0.38) × 0.20	
K P 458			R-44	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.73 / 0.61) × (0.60 / 0.44) × 0.15	
K P 459			R-44	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.62 / 0.53) × (0.44 / 0.36) × 0.15	
K P 460			R-44	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.75 / 0.62) × (0.68 / 0.54) × 0.21	
K P 461			R-43・44	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.60 / 0.51) × (0.54 / 0.42) × 0.11	
K P 462	38		R-43	V	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.84 / 0.72) × (0.72 / 0.58) × 0.18	
K P 463			V-42	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.77 / 0.57) × (0.68 / 0.54) × 0.16	
K P 464			V・W-40	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.63 / 0.52) × (0.50 / 0.42) × 0.10	
K P 465			V-40	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.50 / 0.43) × (0.50 / 0.41) × 0.14	
K P 466			V-43	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.44 / 0.27) × (0.41 / 0.27) × 0.18	
K P 467			V-44	V	縄文時代晩期後葉	円形	(0.56 / 0.43) × (0.56 / 0.42) × 0.20	
K P 468			U-72	IV	縄文時代中～後期	楕円形	(1.33 / 1.01) × (0.98 / 0.60) × 0.29	
K P 469	38		Q-75	IV	縄文時代晩期後葉	円形	(0.42 / 0.28) × (0.39 / 0.27) × 0.21	
K P 470			X-75	IV	縄文時代中期後半	不整形円形	(1.28 / 1.03) × (1.08 / 0.64) × 0.21	
K P 471			Q-75	IV	縄文時代晩期	円形	(0.35 / 0.17) × (0.35 / 0.17) × 0.20	
K P 472			R-75	IV	縄文時代晩期	円形	(2.04 / 1.20) × (1.71 / 1.02) × 0.48	
K P 473	38		S-74	IV	縄文時代晩期	円形	(1.30 / 0.67) × (1.24 / 0.78) × 0.51	
K P 474	図Ⅲ-35		S-74	IV	縄文時代中～後期	楕円形	(0.88 / 0.52) × (0.71 / 0.37) × 0.16	
K P 475	39		L・M-75	V	縄文時代中～後期	溝状	(3.03 / 2.92) × (0.57 / 0.18) × 1.00	Tビレット
K P 476			V-73	IV	縄文時代中～後期	楕円形	(0.98 / 0.52) × (0.76 / 0.46) × 0.22	
K P 477			T-75	IV	縄文時代中～後期	楕円形	(1.50 / 1.22) × (0.82 / 0.54) × 0.29	
K P 478	39		R-76・77	IV	縄文時代中期後半	楕円形	(1.51 / 1.05) × (0.97 / 0.76) × 0.21	K P 479に切られる
K P 479			R-76・77	IV	縄文時代後期	楕円形?	(0.86 / 0.63) × (--- / ---) × 0.30	K P 478を切る
K P 480			T・U-72・73	IV	縄文時代中期後半	円形	(1.15 / 1.02) × (1.06 / 0.86) × 0.19	
K P 481			X-75	V	縄文時代中期後半	円形	(0.88 / 0.38) × (0.84 / 0.34) × 0.24	

遺構名	納区番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸 (m) 短軸 (m) 深さ (m) (確認/底) × (確認/底) × (厚さ)	切り合い関係 その他
K P 482	図Ⅲ-36	40	N-70	IV	縄文時代中～後期	円形	(0.35 / 0.23) × (0.35 / 0.24) × 0.23	
K P 483			N-71・72	IV	縄文時代中期後半	楕円形	(1.08 / 0.89) × (0.64 / 0.42) × 0.19	
K P 484			R-77	IV	縄文時代中～後期	楕円形	(0.74 / 0.45) × (0.56 / 0.32) × 0.17	
K P 485			I-77	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(1.28 / 0.87) × (1.27 / 0.99) × 0.18	
K P 486			Q-68	IV	縄文時代中～後期	楕円形?	(0.52 / 0.34) × (— / —) × 0.17	K P-386に切られる
K P 487			P-75	Ⅲ下	縄文時代中期後半	不整形円形	(0.78 / 0.18) × (0.72 / 0.15) × 0.34	
K P 488			O・P-75	Ⅲ下	縄文時代晚期後葉	不整形円形	(0.68 / 0.26) × (0.62 / 0.22) × 0.28	
K P 489	N-77	Ⅲ下	縄文時代晚期後葉	円形	(0.44 / 0.33) × (0.44 / 0.29) × 0.15			
K P 490	I-77	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(0.63 / 0.37) × (0.63 / 0.39) × 0.37			
K P 491	I-77	IV	縄文時代晚期後葉	円形?	(1.20 / 0.97) × (— / —) × 0.16			
K P 492	I-77	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(0.62 / 0.47) × (0.56 / 0.41) × 0.11			
K P 493	P-75	Ⅲ下	縄文時代晚期後葉	円形	(0.76 / 0.62) × (0.72 / 0.56) × 0.2			
K P 494	O-76	IV	縄文時代晩期	楕円形	(0.62 / 0.32) × (0.54 / 0.27) × 0.15			
K P 495	O・N-77	IV	縄文時代晩期後葉	不整形円形	(1.03 / 0.91) × (0.96 / 0.74) × 0.51			
K P 496	O-75	V	縄文時代晩期	楕円形?	(0.80 / 0.65) × (— / —) × 0.18	東側階段で壊される		
K P 497	O-74	IV	縄文時代晩期	楕円形	(0.58 / 0.41) × (0.46 / 0.29) × 0.25			
K P 498	N-72	IV	縄文時代中～晩期	楕円形	(0.50 / 0.32) × (0.42 / 0.27) × 0.10	K P-499の西		
K P 499	N-72	IV	縄文時代中～晩期	楕円形	(0.57 / 0.35) × (0.42 / 0.25) × 0.12	K P-498の東		
K P 500	L-73	IV	縄文時代中期後半	楕円形	(0.87 / 0.26) × (0.72 / 0.36) × 0.31	崖際		
K P 501	N-74	IV	縄文時代中～晩期	円形	(0.46 / 0.30) × (0.45 / 0.34) × 0.13			
K P 502	P-71	Ⅲ上	縄文時代晩期中葉	隅丸方形	(0.64 / 0.57) × (0.56 / 0.44) × 0.47	K H-8床を切る		
K P 503	M・N-72・73	IV	縄文時代中～晩期	円形	(0.56 / 0.32) × (0.50 / 0.29) × 0.14			
K P 504	N-73	IV	縄文時代中～晩期	円形	(0.42 / 0.26) × (0.42 / 0.24) × 0.14			
K P 505	P-75	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(0.73 / 0.46) × (0.70 / 0.48) × 0.13			
K P 506	P-75	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(0.62 / 0.43) × (0.61 / 0.45) × 0.24			
K P 507	N-70	IV	縄文時代中～晩期	楕円形	(0.78 / 0.56) × (0.66 / 0.49) × 0.23			
K P 508	O-70	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(1.93 / 1.56) × (1.70 / 1.33) × 0.20			
K P 509	P-69	IV	縄文時代中～晩期	円形	(0.71 / 0.32) × (0.64 / 0.30) × 0.28			
K P 510	O-68	IV	縄文時代早期後葉	楕円形	(0.76 / 0.62) × (0.67 / 0.44) × 0.25			
K P 511	O-68	IV	縄文時代中～晩期	楕円形	(1.90 / 1.76) × (1.70 / 1.52) × 0.16			
K P 512	O-75	IV	縄文時代中～晩期	円形	(0.40 / 0.17) × (0.39 / 0.17) × 0.12			
K P 513	M-74	IV	縄文時代中～晩期	楕円形	(1.27 / 1.15) × (0.68 / 0.54) × 0.52			
K P 514	P-75	IV	縄文時代晚期後葉	円形	(0.28 / 0.10) × (0.26 / 0.10) × 0.11	K P 505に切られる		
K P 515	Q-64	IV	縄文時代中～晩期	不整形円形	(0.67 / 0.51) × (0.66 / 0.40) × 0.27	斜面		
S P 6	Q-63	V	縄文時代中～晩期	円形	(0.36 / 0.20) × (0.33 / 0.19) × 0.44			
S P 7	S-46	IV	縄文時代中～晩期	円形	(0.33 / 0.21) × (0.3 / 0.19) × 0.19	S P-7・13～15区接		
S P 8	R-54・55	V	縄文時代中～晩期	円形	(0.31 / 0.17) × (0.27 / 0.14) × 0.14			
S P 9	R-66	IV	縄文時代中～晩期	円形?	(0.42 / 0.27) × (— / —) × 0.19			

遺構名	補図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸(m)短軸(m)深さ(m)深さ	切り合い関係 その他
S P10	図Ⅲ-40	43	S-70	IV	縄文時代中期後半	円形	(0.38 / 0.18) × (0.33 / 0.18) × 0.21	
S P11			S-70	IV	縄文時代中期後半	楕円形	(0.40 / 0.27) × (0.32 / 0.18) × 0.16	
S P12			S-71	IV	縄文時代中期後半	円形	(0.40 / 0.24) × (0.37 / 0.18) × 0.28	
S P13			S-46	V	縄文時代中～晩期	円形	(0.23 / 0.12) × (0.21 / 0.12) × 0.12	S P-7・13～15前後
S P14			S-46	V	縄文時代中～晩期	円形	(0.29 / 0.16) × (0.27 / 0.16) × 0.15	S P-7・13～15前後
S P15			S-46	V	縄文時代中～晩期	円形	(0.22 / 0.10) × (0.21 / 0.09) × 0.12	S P-7・13～15前後
S P16	図Ⅲ-42		T-41	V	縄文時代中～晩期	円形	(0.22 / 0.12) × (0.17 / 0.10) × 0.12	
S P17		43	U-69	KP-425 Ⅲ	縄文時代後～晩期後半	楕円形	(0.38 / 0.19) × (0.32 / 0.18) × 0.53	K P-425覆土中、 これより新しい
K F120			T-49	IV	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.54 /) × (0.50 /) × 0.12	K P-324より新しい
K F121			Q-53	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.66 /) × (0.40 /) × 0.07	K P-324至近 風割木がらみ
K F122	図Ⅲ-42	44	R・S-54・55	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.95 /) × (0.71 /) × 0.08	
K F123			P・Q-67	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.57 /) × (0.37 /) × 0.11	
K F124			T-66・67	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(2.10 /) × (1.62 /) × 0.08	
K F125			S・T-66	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.90 /) × (1.78 /) × 0.16	
K F126			T-71	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.14 /) × (1.08 /) × 0.08	現乱?
K F127			S-66	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.56 /) × (0.86 /) × 0.17	
K F128	R-66	III	縄文時代中期後半	不整形	(0.62 /) × (0.30 /) × 0.05			
K F129	R-66	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.68 /) × (0.57 /) × 0.08			
K F130	R-66	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.55 /) × (0.31 /) × 0.09			
K F131	Q・R-66	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.48 /) × (0.79 /) × 0.21			
K F132	Q-66	III	縄文時代晩期後葉	長い不整形	(2.84 /) × (0.26 /) × 0.11			
K F133	P・Q-65・66	III	縄文時代晩期後葉	S字状の不整形	(0.98 /) × (0.26 /) × 0.10			
K F134	P・Q-66	III	縄文時代晩期後葉	長い不整形	(0.58 /) × (0.40 /) × 0.08			
K F135	P・Q-66・67	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.24 /) × (0.64 /) × 0.12			
K F136	Q-67	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.52 /) × (0.21 /) × 0.10			
K F137	Q・R-66・67	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.86 /) × (0.34 /) × 0.11			
K F138	R-67	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.08 /) × (0.54 /) × 0.14			
K F139	R-67	III	縄文時代中期後半	不整形	(0.70 /) × (0.29 /) × 0.15			
K F140	R-67	III	縄文時代中期後半	不整形	(0.46 /) × (0.21 /) × 0.08			
K F141	P-68	III	縄文時代	不整形	(0.64 /) × (0.42 /) × 0.09			
K F142	R-69	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.52 /) × (0.33 /) × 0.08			
K F143	R-69	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.59 /) × (0.50 /) × 0.08			
K F144	Q-68	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.02 /) × (0.28 /) × 0.09			
K F145	Q-68	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.31 /) × (0.25 /) × 0.12			
K F146	Q-67・68	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.53 /) × (0.29 /) × 0.07			
K F147	Q-67・68	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.36 /) × (0.26 /) × 0.12			
K F148	Q-67	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.54 /) × (0.26 /) × 0.08			

遺構名	棟図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸 (m) 短軸 (m) 深さ (m) (確認/底) × (確認/底) × (厚さ)	切り合い関係 その他
K F 149			Q・R-67	Ⅲ	縄文時代	不整形	(2.05 / /) × (0.45 / /) × 0.15	
K F 150			Q・R-67・68	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.22 / /) × (0.22 / /) × 0.07	
K F 151	図Ⅲ-45		R-67・68	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.11 / /) × (0.44 / /) × 0.13	
K F 152			R-68	Ⅲ	縄文時代晩期前半	不整形	(1.47 / /) × (0.39 / /) × 0.17	
K F 153			R-67	Ⅲ	縄文時代中期後半	不整形	(0.69 / /) × (0.16 / /) × 0.12	
K F 154			Q-71	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.56 / /) × (0.27 / /) × 0.10	
K F 155			Q-70	Ⅳ上 面	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.61 / /) × (0.33 / /) × 0.05	
K F 156			P-71	Ⅲ下 位	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.67 / /) × (0.55 / /) × 0.06	
K F 157			O-71	Ⅲ上 位	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.65 / /) × (0.28 / /) × 0.08	
K F 158			O-60・70	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.85 / /) × (0.4 / /) × 0.07	
K F 159			O-69	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.66 / /) × (0.37 / /) × 0.12	
K F 160	図Ⅲ-46	44	O-68	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.34 / /) × (1.06 / /) × 0.16	
K F 162				P-68	Ⅲ上 位	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.24 / /) × (0.20 / /) × 0.05
K F 163			N-71	Ⅲ	縄文時代後期後葉	不整形	(0.49 / /) × (0.33 / /) × 0.11	
K F 164			N・O-72	Ⅲ	縄文時代	不整形	(0.67 / /) × (0.34 / /) × 0.09	
K F 165			N-73	Ⅲ	縄文時代中期後半	不整形	(0.60 / /) × (0.44 / /) × 0.10	
K F 166			P・Q-49	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.10 / /) × (0.45 / /) × 0.12	K P-308より古い
K F 167			Q・R-67	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.16 / /) × (0.44 / /) × 0.13	
K F 168			Q-67	Ⅲ	縄文時代後期後葉	不整形	(0.79 / /) × (0.40 / /) × 0.10	
K F 169			U-55	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.68 / /) × (0.50 / /) × 0.05	
K F 170			W-55・56	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.02 / /) × (0.84 / /) × 0.14	
K F 171			U・V-54	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.49 / /) × (0.36 / /) × 0.08	
K F 172		45	V-55	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.47 / /) × (0.40 / /) × 0.07	
K F 173			X-57	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.17 / /) × (0.91 / /) × 0.13	
K F 174			V-54	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.34 / /) × (0.26 / /) × 0.04	
K F 176	図Ⅲ-47		W・X-60	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.68 / /) × (0.40 / /) × 0.12	
K F 177			T・U-60・61	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.62 / /) × (0.46 / /) × 0.07	
K F 178			V-62	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.81 / /) × (0.70 / /) × 0.10	
K F 179			W-59	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.84 / /) × (0.83 / /) × 0.06	
K F 180			X-59	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.14 / /) × (0.57 / /) × 0.10	
K F 181			W-61	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.44 / /) × (0.32 / /) × 0.22	
K F 182		S・T-60	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.57 / /) × (0.42 / /) × 0.04		
K F 183		S・T-61	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.62 / /) × (0.36 / /) × 0.08		
K F 184	図Ⅲ-48		T-61	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.67 / /) × (0.59 / /) × 0.07	

遺構名	補図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸 (確認/底) × (確認/底)	短軸 (m) × (確認/底)	深さ (m) × × × 厚さ	切り合い関係 その他	
K F 185	図Ⅲ-48		T-61	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.64 / /)	× (- / /)	× 0.06		
K F 186			S-62	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.47 / /)	× (- / /)	× 0.04		
K F 187			S-60	III	縄文時代後期後葉	不整形	(0.48 / /)	× (0.47 / /)	× 0.04		
K F 188			S-60	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.60 / /)	× (0.51 / /)	× 0.06		
K F 189			S-60	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.44 / /)	× (0.20 / /)	× 0.03		
K F 190			Q-69	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.51 / /)	× (0.43 / /)	× ×		覆乱 焼土ブロック
K F 191			Q-65	III	縄文時代中期後半	不整形	(1.50 / /)	× (0.63 / /)	× 0.07		
K F 192			T-62	II	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.58 / /)	× (0.38 / /)	× 0.05		
K F 193			T-62	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.63 / /)	× (0.50 / /)	× 0.06		
K F 195			V-63	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.26 / /)	× (0.17 / /)	×		
K F 196			Q-66	II	縄文時代中期後半	不整形	(0.90 / /)	× (0.45 / /)	× 0.09		
K F 197			R-66	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.35 / /)	× (0.28 / /)	× 0.05		
K F 198			S-66	II	縄文時代早~中期	不整形	(0.50 / /)	× (0.40 / /)	× 0.05		
K F 199			R-68	II	縄文時代晩期後葉	長凹形	(0.92 / /)	× (0.30 / /)	× 0.07		
K F 200			R-67	II	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.53 / /)	× (0.18 / /)	× 0.13		
K F 201			R-67	II	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.01 / /)	× (0.14 / /)	× 0.12		
K F 202			R-67	II	縄文時代中期後半	不整形	(0.67 / /)	× (0.22 / /)	× 0.10		
K F 203			R-67	II	縄文時代中期後半	不整形	(0.38 / /)	× (0.26 / /)	× 0.07		
K F 204			R-67	II	縄文時代中期後半	不整形	(0.92 / /)	× (0.38 / /)	× 0.12		フレイク集中
K F 205	R-67	II	縄文時代中~晩期	不整形	(0.78 / /)	× (0.36 / /)	× 0.10				
K F 206	R-67	IV	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.68 / /)	× (0.56 / /)	× 0.13				
K F 207	Z-68	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.37 / /)	× (0.34 / /)	× 0.06				
K F 208	a-68	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.51 / /)	× (0.30 / /)	× 0.08				
K F 209	a-68	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.63 / /)	× (0.38 / /)	× 0.05				
K F 210	a-68・69	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.44 / /)	× (0.21 / /)	× 0.03				
K F 211	a・b-68・69	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.46 / /)	× (0.44 / /)	× 0.12				
K F 212	b-68・69	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.46 / /)	× (0.18 / /)	× 0.09				
K F 214	X-70	V	縄文時代晩期後葉(周)	不整形	(- / /)	× (0.26 / /)	× ×		K P-3883に切られる		
K F 215	S-67	IV	縄文時代中~晩期	楕円形	(0.71 / /)	× (0.52 / /)	× 0.07				
K F 216	Q-67	II	縄文時代中~晩期	不整形	(0.41 / /)	× (0.41 / /)	× 0.10				
K F 217	S-72	II	縄文時代中~晩期	隅丸三角形	(0.83 / /)	× (0.70 / /)	× 0.13				
K F 218	N-72	II	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.60 / /)	× (0.50 / /)	× 0.06				
K F 219	N-72	II	縄文時代中~晩期	隅丸長方形	(0.50 / /)	× (0.36 / /)	× 0.08				
K F 220	N-72	II	縄文時代晩期後葉	楕円形	(0.64 / /)	× (0.48 / /)	× 0.07				
K F 221	O-68	III	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.65 / /)	× (0.36 / /)	× 0.04				
K F 222	N-72	II	縄文時代中期後半	隅丸台形	(0.84 / /)	× (0.75 / /)	× 0.15				
K F 223	N-71・72	II	縄文時代中~晩期	不整形凹形	(0.77 / /)	× (0.56 / /)	× 0.13				
K F 224	U-72	II	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.85 / /)	× (- / /)	× 0.11				

遺構名	棟図番号	図版番号	グリッド	層位	時期	平面形	長軸 (m) (確認/底)	短軸 (m) (確認/底)	深さ (m) (確認/底)	切り合い関係 その他
K F 225			P-74	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	隅丸長方形	(0.73 / /)	× (/ /)	×0.12	
K F 226			O-70	Ⅲ	縄文時代中～晩期	楕円形	(0.68 / /)	× (0.48 / /)	×0.10	
K F 227	図Ⅲ-50		R・S-57	Ⅲ下	縄文時代中～晩期	不整形凹形	(0.36 / /)	× (0.26 / /)	×0.03	
K F 228			Q-70	Ⅲ	縄文時代中～晩期	不整形凹形	(0.40 / /)	× (0.26 / /)	×0.04	
K F 229			V-69	Ⅲ下	縄文時代中～晩期	不整形凹形	(0.69 / /)	× (0.30 / /)	×0.08	
K F 230			U-71	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.67 / /)	× (0.36 / /)	×0.07	
K F 231			U-72	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	隅丸長方形	(0.74 / /)	× (/ /)	×0.08	
K F 232			V・W-71	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.60 / /)	× (/ /)	×0.09	
K F 234			U-74	Ⅲ下	縄文時代中期後半	不整形	(1.07 / /)	× (0.60 / /)	×0.04	
K F 235			U-75・76	Ⅲ下	縄文時代晩期後葉	不整形凹形	(1.10 / /)	× (0.40 / /)	×0.09	
K F 236	図Ⅲ-51		T-72	Ⅲ下	縄文時代中～晩期	不整形凹形	(0.52 / /)	× (/ /)	×0.10	
K F 237			V-73	Ⅲ下	縄文時代中～晩期	不整形凹形	(0.77 / /)	× (0.56 / /)	×0.08	
K F 238			V-73	Ⅲ下	縄文時代中～晩期	不整形	(2.04 / /)	× (0.57 / /)	×0.08	
K F 239			P・O-76	視乱層	縄文時代晩期後葉	不明	(/ /)	× (/ /)	×	
K F 240			P-75・76	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(1.38 / /)	× (/ /)	×0.10	
K F 243			Q-75	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.64 / /)	× (0.50 / /)	×0.08	
K F 244			P-75	Ⅲ下	縄文時代中～晩期	不整形	(0.38 / /)	× (0.25 / /)	×0.06	
K F 252			Y-73	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.61 / /)	× (0.38 / /)	×0.05	
K F 253	図Ⅲ-52		V-45	V	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.76 / /)	× (0.50 / /)	×0.08	
K F 254			V-39	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.81 / /)	× (0.54 / /)	×0.07	
K F 259			Q-69	Ⅳ	縄文時代早～中期	不整形	(0.75 / /)	× (0.38 / /)	×0.07	
			M・N-46・47、 O-47~49、O・ P-51、P-52・ 54、P・Q-55、 Q-56・57・63・ 64、R-56・57、 S-57~60	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(9.20 / /) (4.10 / /) (10.70 / /) (12.30 / /) (7.60 / /)	× (2.70 / /) × (1.60 / /) × (1.40 / /) × (3.30 / /) × (2.50 / /)	×0.20 ×0.20 ×0.20 ×0.20 ×0.20	
斜面の焼土	53	45			縄文時代晩期後葉	不整形				
K C 1	図Ⅲ-54	45	O-71	Ⅲ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.36 / /)	× (0.18 / /)	×	
F C 2	図Ⅲ-54		S-71	Ⅲ	縄文時代中期後半	不整形凹形	(0.70 / /)	× (0.40 / /)	×0.07	
F C 3	図Ⅲ-54		S-63	Ⅲ	縄文時代中期後半	隅丸方形	(0.65 / /)	× (0.36 / /)	×0.25	
F C 4	図Ⅲ-54		T-71	Ⅲ下	縄文時代中期後半	不整形凹形	(1.01 / /)	× (0.55 / /)	×0.11	
遺物集中1	図Ⅲ-54	46	P-66・67	Ⅳ	縄文時代晩期後葉	不整形	(2.72 / /)	× (2.40 / /)	×	
土器集中28			P-74	Ⅳ	縄文時代中期後半	不整形	(0.45 / /)	× (0.40 / /)	×	
土器集中31	図Ⅲ-54	46	V-75	Ⅲ	縄文時代中期後半	不整形	(0.80 / /)	× (0.65 / /)	×	
土器集中32			O-69	Ⅳ	縄文時代晩期後葉	不整形	(0.30 / /)	× (0.28 / /)	×	自然の落込み

表Ⅲ-2 遺構掲載土器一覧

神図番号	掲載番号	図版番号	出土遺構	層位	点取り番	点取号	点取数	分類	
図Ⅲ-55	1	47	KH-5	覆土	5	1	9	Ⅳa	
				覆土	5	9	5		
				覆土	8	3	1		
				覆土	9	1	1		
				覆土	10	1	1		
				覆土	11	1	1		
			1	KH-6	覆土	12	2	Ⅲa	
			覆土		41	1	1		
			覆土		18	1	1		
			覆土		71	1	1		
			覆土		68	1	1		
			覆土		18	1	1		
2	KH-8	覆土	—	—	Ⅲb				
覆土		—	—	—					
3	KH-9	覆土	26	—	Ⅲa				
覆土		31	1	1					
4	KH-10	覆土	31	1	Ⅲa				
覆土		9	3	1					
1	KH-11	覆土	18	2	Ⅲa				
覆土		7	1	1					
覆土		—	—	—					
図Ⅲ-56	1	48	K P-130	覆土	—	—	Ⅴc		
				Ⅲ	—	—		—	
				Ⅲ	—	—		—	
				覆土	7	1		1	
				覆土	9	1		1	
				覆土	8	1		1	
			2	K P-331	覆土	8	1	Ⅲb	
			覆土		8	1	1		
			覆土		12	1	1		
			1	K P-336	覆土	7	1	Ⅳc	
			覆土		8	3	3		
			2	K P-346	覆土	8	3	Ⅶ	
	覆土	—	—		—				
	3	K P-353	覆土上	—	—	Ⅶ			
	覆土		11	1	1				
	1	1	48	K P-355	覆土	12	1	Ⅳc	
					覆土	13	1		1
					覆土	13	1		1
					覆土	14	1		1
					覆土	15	1		1
					覆土	16	1		1
				1	K P-358	覆土	—	—	Ⅶ
				覆土		—	—	—	
				覆土		21	79	79	
覆土				21		1	1		
覆土				58		1	1		
覆土				13		1	1		
2	2	48	K P-359	覆土	31	1	Ⅶ		
				覆土	31	1		1	
				覆土	32	1		1	
				覆土	33	1		1	
				覆土	34	1		1	
				覆土	35	1		1	
			1	K P-358	覆土	36	1	Ⅶ	
			覆土		37	1	1		
			覆土		38	1	1		
			覆土		—	—	—		
			覆土		4	29	29		
			覆土		4	3	3		
3	3	48	K P-359	覆土	19	7	Ⅶ		
				覆土	45	1		1	
				覆土	52	1		1	
				覆土	—	—		—	
				覆土	—	—		—	
				覆土	—	—		—	
			1	K P-360	覆土	—	—	Ⅶ	
			覆土		—	—	—		
			覆土		—	—	—		
			覆土		—	—	—		
			覆土		—	—	—		
			覆土		—	—	—		
1	1	49	K P-370	覆土	10	4	Ⅴc		
				覆土	15	2		2	
				覆土	1	1		1	
				覆土	2	2		2	
				覆土	6	2		2	
				覆土	7	1		1	
			2	K P-376	覆土	—	—	Ⅳb-1	
			覆土		—	—	—		
			覆土		5	2	2		
			覆土		4	4	4		
			覆土		5	2	2		
			覆土		6	3	3		
1	1	49	K P-376	覆土	7	1	Ⅳb-1		
				覆土	8	3		3	
				覆土	14	2		2	
				覆土	15	1		1	
				覆土	15	1		1	
				覆土	16	1		1	

神図番号	掲載番号	図版番号	出土遺構	層位	点取り番	点取号	点取数	分類			
図Ⅲ-57	1	50	K P-378	覆土	—	—	Ⅰ				
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
			1	3	49	K P-386	覆土	3	2	Ⅴc	
							覆土	3	2		2
							覆土	32	6		6
							覆土	12	1		1
							覆土	13	1		1
							覆土	24	1		1
1	51	51	K P-397	覆土	26	41	Ⅴc				
				覆土	21	13		13			
				坑底	28	24		24			
				覆土	25	1		1			
				坑底	27	26		26			
				覆土	29	1		1			
			4	52	52	K P-397	覆土	23	1	Ⅴc	
							坑底	27	26		26
							覆土	29	1		1
							覆土	23	1		1
							覆土	22	1		1
							覆土	22	1		1
1	54	54	K P-425	覆土	35	1	Ⅲb				
				覆土	36	1		1			
				覆土	37	1		1			
				覆土	38	1		1			
				覆土	39	1		1			
				覆土	1	1		1			
			1	55	55	K P-433	覆土	1	1	Ⅲa	
							覆土	2	1		1
							覆土	3	1		1
							覆土	4	1		1
							覆土	5	1		1
							覆土	8	1		1
1	55	55	K P-433	覆土	10	2	Ⅲb				
				覆土	10	2		2			
				覆土	10	2		2			
				覆土	10	2		2			
				覆土	10	2		2			
				覆土	10	2		2			
			1	56	56	K P-433	覆土	1	1	Ⅲa	
							覆土	2	1		1
							覆土	3	1		1
							覆土	4	1		1
							覆土	5	1		1
							覆土	8	1		1
1	56	56	K P-434	覆土	2	1	Ⅲb				
				覆土	3	1		1			
				覆土	6	6		6			
				覆土	1	3		3			
				覆土	5	1		1			
				覆土	—	—		—			
			1	56	56	K P-485	覆土	—	—	Ⅴc	
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
1	56	56	K P-491	覆土	1	3	Ⅲb				
				覆土	1	3		3			
				覆土	39	9		9			
				覆土	2	1		1			
				覆土	4	1		1			
				覆土	14	1		1			
			1	56	56	K F-126	覆土	—	—	Ⅲb	
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
1	56	56	K F-131	焼土中	—	—	Ⅲc				
				焼土中	—	—		—			
				焼土中	—	—		—			
				焼土中	—	—		—			
				焼土中	—	—		—			
				焼土中	—	—		—			
			1	56	56	K F-133	焼土中	—	—	Ⅲb-1	
							焼土中	—	—		—
							焼土中	—	—		—
							焼土中	—	—		—
							焼土中	—	—		—
							焼土中	—	—		—
1	56	56	K F-138	焼土	—	—	Ⅳ				
				焼土	—	—		—			
				焼土	—	—		—			
				焼土	—	—		—			
				焼土	—	—		—			
				焼土	—	—		—			
			1	56	56	K F-158	焼土	25	1	Ⅲb	
							焼土	25	1		1
							焼土	—	—		—
							焼土	—	—		—
							焼土	—	—		—
							焼土	—	—		—
1	56	56	K F-187	覆土	—	—	Ⅳc				
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
				覆土	—	—		—			
			1	56	56	K F-239	覆土	—	—	Ⅴc	
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
							覆土	—	—		—
1	56	56	F C-2	遺物集中	—	—	Ⅲb-1				
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
			1	56	56	F C-4	遺物集中	81	1	Ⅲb	
							遺物集中	81	1		1
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
1	56	56	土器集中28	遺物集中	—	—	Ⅲb				
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
			1	56	56	土器集中31	遺物集中	—	—	Ⅲb	
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
1	56	56	土器集中32	遺物集中	—	—	Ⅴc				
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
				遺物集中	—	—		—			
			1	56	56	土器集中32	遺物集中	—	—	Ⅴc	
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—
							遺物集中	—	—		—

表III-3 遺構掲載石器一覧

採図番号	掲載 番号	図版 番号	遺構名	層位	取上 番号	遺物名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
図III-66	1		KH-6	覆土	10	石鏝	黒曜石	2.85	1.50	0.35	0.9	
	2		KH-6	覆土	31	石鏝	黒曜石	3.55	1.55	0.65	2.4	
	3		KH-6	覆土		スクレイパー	黒曜石	4.20	3.45	1.20	12.5	
	4		KH-6	覆土	44	砥石	砂岩	(19.30)	5.30	2.50	113.9	
	5		KH-6	覆土	25	砥石	泥岩	11.35	4.85	3.05	207.0	
	1		KH-7	覆土	22	石鏝	黒曜石	2.00	1.40	0.30	0.6	
	2		KH-7	覆土	26	石鏝	黒曜石	2.90	1.90	0.35	1.3	
	3	57	KH-7 フレイク集中	覆土	15	スクレイパー	頁岩	(1.85)	3.40	0.70	2.5	フレイク集中
	4		KH-7 フレイク集中	覆土	16	スクレイパー片	黒曜石	(2.05)	1.80	75.00	1.4	フレイク集中
	5		KH-7	覆土	12・21	たたき石	安山岩	8.00	3.45	2.90	92.9	2点接合
6		KH-7	覆土	25	砥石	砂岩	(3.85)	4.15	1.00	16.5	破片	
1		KH-8	覆土	26	石鏝	黒曜石	2.10	1.35	0.45	1.1		
2		KH-8	覆土	71・75	つまみ付きナイフ	頁岩	9.45	3.00	1.60	(32.1)	2点接合	
3		KH-8	覆土	21	つまみ付きナイフ	珪岩	3.40	4.55	0.80	8.2		
4		KH-8	覆土	23	つまみ付きナイフ	頁岩	4.10	5.60	1.25	17.9		
5	57	KH-8	覆土	14	スクレイパー	頁岩	(4.40)	3.70	1.00	15.0		
6		KH-8	覆土	1	たたき石	泥岩	5.85	5.45	4.50	238.9		
7		KH-8	覆土	80	たたき石	安山岩	6.90	6.90	5.80	393.9		
8		KH-8	覆土	28	扁平打製石器	安山岩	7.60	12.35	2.00	229.8		
9	58	KH-8	覆土	25	砥石	砂岩	6.30	5.75	1.60	71.8		
10		KH-8	覆土	31	台石	安山岩	23.00	12.90	8.30	3,540.0	2点接合	
図III-67	1		KH-9	覆土	23	スクレイパー片	黒曜石	3.44	2.08	0.57	3.7	
	2		KH-9	覆土	7	Rフレイク	黒曜石	4.80	5.60	0.77	14.7	
	1		KH-11	覆土	15	つまみ付きナイフ	頁岩	7.00	2.30	1.15	18.9	
	2		KH-11	覆土	12	石斧	片岩	8.80	3.90	0.92	49.2	
	3		KH-11	覆土	6	北海道式石冠片	安山岩	9.10	11.30	7.16	1,026.3	
	4	59	KH-11	覆土	19	北海道式石冠片	安山岩	8.55	12.20	5.96	851.1	
	1		KP-343	覆土	4	石鏝片	黒曜石	(1.75)	(1.05)	0.25	0.4	未製品破損で廃棄?
	2		KP-343	覆土	8	石鏝片	黒曜石	(1.85)	(0.80)	(0.40)	0.5	基部片
	1		KP-377	覆土	2	台石	安山岩	24.80	33.40	13.50	1,800.0	
	1		KP-381	覆土	1	台石	軽石				4,900.0	
図III-68	1		KP-386	覆土	46	石鏝	黒曜石	3.90	2.20	0.55	2.8	有茎凸基
	2		KP-386	覆土	31	スクレイパー	黒曜石	4.90	4.10	1.35	21.1	
	3		KP-386	覆土	42	凹石	安山岩	15.85	6.00	3.10	413.0	棒状
	1		KP-389	覆土	4	たたき石	安山岩	9.35	(8.60)	3.50	(409.2)	平分
	1		KP-397	覆土	17	石斧	泥岩	19.35	7.70	3.20	769.0	
	1	61	KP-415	覆土	3	たたき石	安山岩	18.25	6.05	5.00	651.4	棒状鏝
	1		KP-424	覆土	1	スクレイパー	黒曜石	3.00	4.70	1.03	15.0	
	1		KP-434	覆土	2	石鏝	黒曜石	3.88	1.69	0.39	1.7	木葉形
	1		KP-468	覆土	2	石斧未製品	泥岩	12.50	5.40	2.30	229.2	
	1	62	KP-482	覆土	1	扁平打製石器	安山岩	10.40	16.35	2.45	634.9	
図III-69	1		KP-469	覆土	1	Uフレイク	黒曜石	6.80	6.55	0.95	46.2	
	2	61	KP-469	覆土	4	たたき石	安山岩	16.50	8.00	4.60	1,106.9	
	1		KP-485	覆土	4	すり石	安山岩	8.80	(14.90)	4.30	687.8	
	1		KF-125	焼土中		石鏝	黒曜石	3.20	1.95	0.50	1.9	
	1		KF-127	焼土		石鏝	安山岩	(2.50)	0.95	0.32	(0.52)	有茎凸基
	1		KF-131	焼土中		石鏝	黒曜石	2.25	1.05	0.35	0.6	有茎凸基
	2	62	KF-131	焼土中		石鏝	黒曜石	(2.50)	0.95	0.32	(0.77)	有茎凸基
	3		KF-131	焼土		スクレイパー	黒曜石	4.15	1.40	0.60	3.0	
	1		KF-133	焼土		スクレイパー?	黒曜石	36.50	2.80	1.60	11.4	
	1		KF-141	焼土	9	北海道式石冠	安山岩	(6.50)	(6.70)	7.30	(311.5)	
図III-70	1		KF-143	焼土上		Rフレイク	黒曜石	3.10	1.05	0.55	1.2	
	1	63	KF-151	焼土上		台石	安山岩	(14.00)	(11.90)	8.30	(1,693.5)	
	1		KF-152	焼土上		石皿	軽石	14.70	10.50	2.90	346.4	小型
	1	62	KF-160	焼土上		スクレイパー	黒曜石	4.90	3.20	0.80	7.4	
	2		KF-160	焼土中		砥石	溶結凝灰岩	(6.50)	(6.20)	2.10	(97.2)	板状
	1	63	遺物集中1	Ⅲ層	47	石皿	溶結凝灰岩	23.20	(17.40)	9.40	3,250.0	

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧

遺構名	I b	I a	II a	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V a	V b	V c	Ⅵ	石罫 土器	つまみ付 ナイフ	スケレ イペー	Uフレ イク	Rフレ イク	フリ イク	石所 片	石所 未成品	石所 たたき	向石 すり石	扁平批 式砥石	合石	石田	原石	礫片	小計	
KH 5																	4										93		
KH5HP1							60																						
KH5HF1						6																							
KH 6	2	180	35				23										16						2		6	2	295		
KH6HP						34	13																		1				
KH 7						38											297				2			1		3	3	3108	
KH7HF																65													
フルイ鉢																													
KH 7																4		2	2678	14						1			
KH 8	107	2				6	14	1										80			2		1	1	1	1	9	2	966
KH8HP																													
KH8HF1																													
KH8HF2						1																							
KH8HF3						1																							
KH8HF4						5																							
KH8HF5						6																							
KH8HF6						14																							
KH8HF7						3												3											
KH8HF8						2											7												
KH8HF9																8													
KH8HF10						1										1													
フルイ鉢																	669												
KH 8			2																										
フルイ鉢																													
KH 9			97														100											200	
KH10			241	5												1	2	222								3	471		
KH11			30													1	5	1									2	78	
KH11HF						3												33											
K P 289																										1	1	1	
K P 302						1																							
K P 303																	1												
K P 304																										1	2		
K P 305																													
K P 306																										1	1	1	
K P 308																	1												
K P 309																													
K P 311																													
K P 312									4																				
K P 315																													
K P 316																													
K P 318																													
K P 321																											1	1	
																		2											2

遺構名	I b	I b	II a	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V a	V b	V c	VI	土器	石器	つまみけ ナイフ	スケレ イバー	Uフレ イタ	Rフレ イタ	フレイタ	石斧 片	石斧 系属品	たつき 石	印石	すり石	編年比 属 打撃刃 式砥石	石皿 砥石	石皿 砥石	磨片	小片		
K P 326							3																					3			
K P 331						10																						1	11		
K P 332							1																					1	2		
K P 334																		1											5		
K P 335							1																						3		
K P 336									17																				18		
K P 337																													1		
K P 343														2															12		
K P 344																													1		
K P 346									1		6	5																3	15		
K P 347																		1											1	3	
K P 348																													1	1	
K P 349																													1	15	
K P 353											1	9																	21		
K P 355									17																				1	21	
K P 356											2	132					1											162	1	363	
K P 358											4	30																	5	207	
K P 359																													5	179	
K P 360																													2	2	
K P 361																													2	6	
K P 363											3																		1	4	
K P 364																													1	4	
K P 370											56																		1	61	
K P 371											2	2																	1	9	
K P 372											10	1																	1	18	
K P 375																													1	5	
K P 376																													1	5	
K P 378											1																		74	74	
K P 377																													1	1	
K P 378											2	15																	1	21	
K P 379											3	5																	4	2	26
K P 380																													1	1	5
K P 381																													1	1	1
K P 385																													1	1	1
K P 386											325																		2	1	340
K P 387																													1	1	1
K P 389																													1	1	1
K P 394																													1	1	1
K P 398											2																		3	5	5
K P 397											109	9																		1	123
K P 398											3																		1	5	5
K P 399																													2	2	2
K P 400											3																		1	12	12
K P 401											8																		2	16	16

遺跡名	I b	I b	II a	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V a	V b	V c	VI	土器	石器	つまみ付 ナイフ	スケレ イバー	Uフレ イタ	Rフレ イタ	フレタ 石斧	石斧 片	石斧 系図品	たつき 石	印石	すり石	編年北 端 打跡湖 式砥石	石皿	原石	磨片	小片
K.P.403						2		1													1							4	
K.P.405						1														1									2
K.P.406											2																		1
K.P.410						2		11	1										1			1						2	
K.P.415										2																	9	25	2
K.P.417																													2
K.P.419																													1
K.P.422						5	1																					7	
K.P.423						7																				2	6	20	1
K.P.424														1															1
K.P.425						6																							12
K.P.430						11																							12
K.P.431																													1
K.P.433						2																							12
K.P.434																													182
K.P.435																													2
K.P.436																													4
K.P.439								2																					2
K.P.460						1																							1
K.P.468																													1
K.P.469																													2
K.P.470																													1
K.P.471																													1
K.P.472																													1
K.P.474																													1
K.P.475																													1
K.P.479						2																							1
K.P.479						9																							2
K.P.480						2																							2
K.P.481						1																							1
K.P.482																													1
K.P.483																													1
K.P.485						2																							1
K.P.485						1																							1
K.P.487																													1
K.P.487						2																							2
K.P.488																													2
K.P.488																													2
K.P.489																													2
K.P.490																													2
K.P.491																													2
K.P.492																													1
K.P.493																													5
K.P.495																													9
K.P.495						1																							6
K.P.495																													2
K.P.498																													1
K.P.498																													1
K.P.500																													1

遺構名	I b	I b	II a	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V a	V b	V c	VI	土器	石版	つまみ付 ナイフ	スケル イバー	Uフレ イタ	Rフレ イタ	フレイク	石斧 片	石斧 系属品	たつき 石	すり石	打製 石	編年比 式	石皿 石冠	石皿 原石	磨片	小片				
K.P.501																													1	1			
K.P.502											62																			62	1		
K.P.503																															1	1	
K.P.505											2																			1	1	6	
K.P.506											7																				7	1	
K.P.508											1																				1	1	
K.P.510																															1	1	
K.P.513											3																				3	3	
K.P.514											1																				1	1	
S.P.6																															0	0	
S.P.7																															0	0	
S.P.8																															0	0	
S.P.9																															0	0	
S.P.10																															0	0	
S.P.11																															9	9	
S.P.12																															6	6	
S.P.13																															0	0	
S.P.14																															0	0	
S.P.15																															0	0	
S.P.16																															0	0	
S.P.17																															0	0	
K.P.120																															1	1	
K.P.122											1																					1	1
K.P.124																																55	55
K.P.125											13																					18	18
K.F.126											17																					30	30
K.F.127											3																					7	7
K.F.128											34																					7	7
K.F.129											1																					1	1
K.F.130											3																					5	5
K.F.131																																1	1
K.F.132											6																					2	2
K.F.133											14																					115	115
K.F.134											11																					2	2
K.F.135											3																					3	3
K.F.136											6																					1	1
K.F.137											9																					17	17
K.F.138																																2	2
K.F.139											1																					6	6
K.F.140																																9	9
K.F.141											10																					1	1
K.F.142											3																					1	1
K.F.143											5																					3	3
K.F.144											3																					1	1
K.F.145											5																					1	1
K.F.146											1																					1	1
K.F.147											9																					3	3
K.F.148											1																					21	21

遺跡名	I b	I b	II a	III a	III b	III c	IV a	IV b	IV c	V a	V b	V c	VI	土器	石器	つまみ付 ナイフ	スケレ イバー	Uフレ イタ	Rフレ イタ	フレク イタ	石斧 片	石斧 系製品	たつき 石	すり石	編年比 属 打製湖 式砥石	石皿 砥石	石皿 砥石	石皿 砥石	小計
K.F.142												1								2								3	
K.F.143												37																	684
K.F.144	1						9					4						4										4	
K.F.146							2					4																4	
K.F.147							4					1																3	
K.F.148							1					1																2	
K.F.149							2					3																7	
K.F.150							2					2																4	
K.F.151							1					4																7	
K.F.152							2			6		5													1			1	
K.F.153							9																					20	
K.F.154												6																17	
K.F.155												1																6	
K.F.156												1																11	
K.F.158							21					8																12	
K.F.159												8																30	
K.F.160							9					289					1									1		336	
K.F.162																												0	
K.F.163																												2	
K.F.164																												16	
K.F.165							1					3																1	
K.F.166							2																					1	
K.F.167							2					12																26	
K.F.168																												1	
K.F.169																												1	
K.F.170																												4	
K.F.171																												3	
K.F.172																												2	
K.F.173																												1	
K.F.174																												1	
K.F.175																												1	
K.F.179																												7	
K.F.180																												1	
K.F.182																												13	
K.F.183																												6	
K.F.184												1																1	
K.F.185												1																3	
K.F.186																												9	
K.F.187																												45	
K.F.188																												3	
K.F.189																												3	
K.F.191																												7	
K.F.196																												1	
K.F.199												1																4	
K.F.200																												3	
K.F.202																												1	
K.F.203																												3	

遺構名	I b	I b	II a	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V a	V b	V c	VI	土器	石器	つまみ付 ナイフ	スケレ イバー	Uフレ イタ	Rフレ イタ	フレイク 石斧	石斧 片	石斧 系属品	たつき 石	すり石	打製石	編年比 属 打製石	石皿	原石	磨片	小片						
K.F.201				4							21																		25						
K.F.202									2																				3						
K.F.218									5		3																		8						
R.F.219																													0						
K.F.220																													5						
K.F.221											4																		12						
K.F.222				6																									9						
K.F.224									1																				3						
K.F.225									5																				10						
K.F.226																													1						
K.F.228																													1						
K.F.230				11							6																		36						
K.F.231											3																		6						
K.F.232											2																		3						
R.F.234											1																		3						
R.F.239							6																						10						
K.F.240									4																				4						
K.F.243	1							5																					17						
K.F.245						1					12																		21						
K.F.254																	1												2						
K.C.-1																													0						
F.C.-2						28												732											2						
F.C.-3						5												374											1						
F.C.-4						6												694											700						
遺物集																													729						
1											23																		172						
土器集																													196						
No.28						58																							58						
土器集																													1						
No.31						89																							90						
土器集																													21						
No.32																													21						
合計	0	24	144	4	729	578	97	23	113	6	62	1330	401	12	14	5	15	11	14	7491	2	24	1	7	1	1	2	7	6	4	2	2	319	196	11660

表Ⅲ-5 包含層掲載土器一覽

挿図番号	掲載番号	図版番号	出土地点	層位	点数	分類
図Ⅲ-71	1	66	Q-65	Ⅲ	1	1 b-3
	2		N-71	Ⅲ	6	1 b-4
	3		Q-65	Ⅲ	1	Ⅱ a
	4		P-73	Ⅲ	5	Ⅲ a
	5		S-62	Ⅲ	2	Ⅲ b
	6		R-69	Ⅲ	1	Ⅲ b
	7		P-30	Ⅲ	5	Ⅲ b
	8		V-72	Ⅲ	1	Ⅲ a
	9		U-71	攪乱	1	Ⅲ b
	10		U-71	Ⅲ	1	Ⅲ b
	11		O-77	Ⅲ	2	Ⅲ b
	12		P-30	Ⅲ	2	Ⅲ b
	13		Q-30	Ⅲ	1	Ⅲ b
	14		P-30	Ⅲ	2	Ⅲ b
	15		S-71	Ⅲ	2	Ⅲ a
図Ⅲ-72	16	67	P-30	Ⅲ	26	Ⅲ b
	17		W-72	Ⅲ	14	Ⅲ b
	18		G-51	Ⅲ	10	Ⅲ b
	19		F-53	Ⅲ	6	Ⅲ b
	20		F-52	Ⅲ	3	Ⅲ b
図Ⅲ-73	21	68	F-53	Ⅲ	5	Ⅲ b
	22		U-71	Ⅲ	3	Ⅲ b
	23		U-70	Ⅲ・下	11	Ⅲ b
	24		U-72	Ⅲ	1	Ⅲ b
	25		I-50	Ⅲ	6	Ⅳ a
	26		U-75	攪乱	1	Ⅳ a
	27		U-75	攪乱	1	Ⅳ a
図Ⅲ-74	28	69	P-52	Ⅲ	3	Ⅳ b-3
	29		H-49	Ⅲ	8	
	30		I-49	Ⅲ	3	V c
	31		I-50	Ⅲ	120	
図Ⅲ-75	32	70	O-48	Ⅲ	6	V c
	33		P-77	攪乱	1	V c
	34		F-53	Ⅲ b	1	
	35		F-59	Ⅲ b	2	
	36		G-52	Ⅲ b	2	V c
	37		H-52	Ⅲ	26	
	38		H-58	Ⅲ	1	
	39		I-52	Ⅲ	3	
図Ⅲ-76	40	71	I-50	Ⅲ	13	
	41		I-50	トレンチ	11	V c
	42		I-50	M1ベルト	2	
	43		I-51	M1ベルト	24	
	44		F-51	Ⅲ	6	V c
図Ⅲ-77	45	71	G-49	Ⅲ	1	
	46		G-49	Ⅲ b	6	V c
	47		G-51	Ⅲ	1	
	48		G-50	Ⅲ	12	V c
図Ⅲ-78	49	71	I-50	Ⅲ	4	V c
	50		O-70	Ⅲ	5	V c
	51		P-75	Ⅲ	3	V c
	52		E-54	Ⅳ	1	V c
図Ⅲ-79	53	73	F-54	Ⅲ	1	
	54		F-53	Ⅲ b	1	
	55		F-54	Ⅲ	7	V c
	56		H-49	Ⅲ	1	
	57		H-50	Ⅲ	2	
	58		G-49	Ⅲ	2	
	59		F-50	Ⅲ	2	V c
	60		I-50	Ⅲ	10	
	61		I-50	トレンチ	1	V c
	62		G-55	Ⅲ	3	
図Ⅲ-79	63	73	I-47	Ⅲ	1	Ⅵ
	64		S-76	攪乱	1	Ⅵ
	65		T-74	攪乱	1	Ⅵ
	66		R-67	Ⅲ	2	Ⅵ
	67		Q-64	Ⅲ	3	Ⅶ
	68		T-66	Ⅲ	1	Ⅶ
	69		T-66	攪乱	4	Ⅶ
70	U-68	攪乱	1	Ⅶ		

表Ⅲ-6 包含層掲載石器一覧

採掘番号	図版番号	調査区	層位	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
1		○-74	攪乱	石鏃	黒曜石	2.10	1.31	0.32	0.7	三角半基	
2		R-44	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.76	1.80	0.46	1.8	三角凹基	
3		G-50	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.15	1.05	0.25	0.5	三角凹基	
4		G-53	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.50	1.90	0.26	0.5	有茎凸基	
5		S-69	Ⅲ	石鏃	黒曜石	3.00	1.30	0.40	1.0	有茎凸基	
6		L-73	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.80	1.80	0.56	2.3	有茎凸基	
7		T-71	Ⅲ	石鏃	黒曜石	4.00	1.90	0.46	2.3	有茎凸基	
8		S-54	I	石鏃	黒曜石	4.40	1.15	0.87	4.9	有茎凸基	
9		S-71	I	石鏃	黒曜石	2.30	1.20	0.32	0.6	有茎半基	
10		P-75	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.60	1.40	0.28	0.7	有茎半基	
11		I-46	Ⅲ	石鏃	黒曜石	1.90	1.80	0.31	0.3	菱形	
12		R-57	Ⅲ	石鏃	黒曜石	3.70	1.55	0.34	1.3	木葉形	
13		O-51	Ⅲ	石槍	黒曜石	5.09	3.09	0.99	16.0		
14		Q-66	Ⅲ	石槍	黒曜石	7.00	3.40	1.15	25.0		
15	図Ⅲ-83	○-70	Ⅲ	石槍	頁岩	7.79	2.20	0.74	12.7		
16		N-73	Ⅲ	石鏃	頁岩	2.70	1.65	0.65	1.7		
17		R-65	Ⅲ	石鏃	黒曜石	2.35	1.00	0.50	0.9	棒状	
18		T-65	攪乱	石鏃	黒曜石	3.65	1.20	0.90	3.2	棒状	
19		T-73	Ⅲ	石鏃	頁岩	6.00	1.95	1.10	10.7	棒状	
20		S-61	攪乱	つまみ付ナイフ	頁岩	3.30	2.40	0.80	4.4	縦型幅広	
21		R-75	Ⅲ	つまみ付ナイフ	黒曜石	7.85	2.80	0.90	16.1	縦型	
22		N-73	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	8.60	2.50	1.25	22.1	縦型	
23		S-64	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	5.70	2.40	0.90	9.4	縦型	
24		○-72	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	4.90	2.80	1.05	11.0	縦型幅広片辺両面加工	
25		M-73	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	6.30	2.60	1.20	17.2	縦型片辺両面加工	
26		R-69	Ⅲ	つまみ付ナイフ	黒曜石	4.60	2.10	0.85	5.9	縦型両面加工	
27		Q-30	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	8.55	3.10	1.10	23.2	縦型両面加工	
28		○-77	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	3.55	4.10	0.75	8.3	横型	
29		U-71	Ⅲ	つまみ付ナイフ	頁岩	4.10	4.30	0.95	14.9	横型	
30		図Ⅲ-84	○-74	攪乱	スクレイパー	黒曜石	4.20	3.80	1.05	11.6	
31			P-68	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石	5.00	4.60	1.00	5.3	
32			V-71	Ⅲ	スクレイパー	頁岩	4.20	4.20	1.55	24.0	
33			S-70	Ⅲ	スクレイパー	黒曜石	5.50	1.60	1.00	5.3	
34			P-71	Ⅲ	石斧	泥岩	9.80	3.05	1.60	77.4	すり切りの痕あり
35			○-40	Ⅲ	石斧	緑色泥岩	8.60	2.70	1.20	51.1	
36			P-72	I	石斧	片岩	10.30	3.60	1.10	70.4	
37			R-68	Ⅲ	石斧	泥岩	10.30	4.15	1.80	138.2	
38			G-50	Ⅲ	石斧	泥岩	7.50	3.70	2.00	96.1	
39			K-47	Ⅲ	石斧	泥岩	9.10	3.65	2.10	105.8	
40			G-47	Ⅲ	石斧	泥岩	14.70	6.10	3.90	534.7	
41			M-74	Ⅲ	凹石	安山岩	13.40	6.80	3.35	426.8	
42	P-75		Ⅲ	すり石	安山岩	7.70	9.30	1.60	192.5		
43	N-72		Ⅲ	すり石	安山岩	7.60	15.40	4.30	686.3	断面三角形	
44	R-63	Ⅲ	すり石	安山岩	10.55	15.00	5.80	959.2	断面三角形		
45	P-31	Ⅲ	扁平打製石器	安山岩	8.30	14.60	3.10	590.2			
46	図Ⅲ-85	○-73	攪乱	北海道式石冠	砂岩	6.90	(11.50)	6.60	707.8		
47		T-72	Ⅲ	北海道式石冠	安山岩	10.30	(11.70)	6.00	1003.5		
48		Q-68	Ⅲ	砥石	砂岩	9.70	5.00	3.10	158.5		
49		R-69	Ⅲ	砥石	砂岩	9.70	8.70	1.50	190.8		
50		P-33	Ⅲ	石磨	砂岩	6.00	9.25	0.95	75.3		
51		U-71	攪乱	石鏃	安山岩	7.40	9.40	2.40	249.5		
52		Q-64	Ⅲ	石鏃片	安山岩	8.20	5.00	1.80	103.7		
53		H-47	I	石製品	カンラン岩	2.30	1.25	0.65	2.6		
54		H-48	Ⅲ	石製品	カンラン岩	4.20	2.25	0.90	16.0		
55		I-50	トレンチ	石製品	砂岩	3.50	4.60	0.75	11.1		
56		I-50	Ⅲ	石製品	砂岩	4.90	5.50	0.90	18.3		
57		E-54	Ⅲ	石棒	花崗岩	14.40	6.60	5.00	718.3		

IV 自然科学的分析

放射性炭素年代測定 (AMS測定) 柏木川 4 遺跡

順加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

柏木川 4 遺跡は、北海道恵庭市柏木町610ほか（北緯42° 53′ 14″、東経141° 33′ 16″）に位置する。遺跡は柏木川に面した河岸段丘上に立地する。

(2) 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

(3) 測定対象試料

測定対象試料は、KH11HF11炉から出土した炭化物 (No.1: IAAA-62015)、KP358覆土から出土した炭化物 (No.2: IAAA-62016)、KP359覆土から出土した炭化物 (No.3: IAAA-62017)、K P 371覆土から出土した炭化物 (No.4: IAAA-62018)、K P 372覆土から出土した炭化物 (No.5: IAAA-62019)、K P 378覆土から出土した炭化物 (No.6: IAAA-62020)、K P 386覆土から出土した種子 (No.7: IAAA-62021)、K P 397覆土から出土した炭化物 (No.8: IAAA-62022)、K P 397から出土した土器内の炭化物 (No.9: IAAA-62023)、K P 415覆土下から出土した炭化物 (No.10: IAAA-62024)、K P 199焼土から出土した炭化物 (No.11: IAAA-62025)、旧河道 I の 2 層から出土した種子 (No.12: IAAA-62026)、旧河道 I の 2 層から出土した木片 (No.13: IAAA-62027)、流路 A 堆積層から出土した木片 3 点 (No.14~16: IAAA-62028~62030)、合計16点である。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 0.001~1 N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°C で乾燥する。
- 3) 試料を酸化銅 1 g と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (還元) し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、3 MV タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9 SDH-2)

を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の炭素14濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として遡る放射性炭素年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。

複数回の測定値について、 χ^2 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。

- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。

$\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{As} - {}^{13}\text{A}_n) / {}^{13}\text{A}_n] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{As} - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、¹³As：試料炭素の¹³C濃度：⁽¹³C/¹²C)_sまたは⁽¹³C/¹³C)_s

¹³A_n：標準現代炭素の¹³C濃度：⁽¹³C/¹²C)_nまたは⁽¹³C/¹³C)_n

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の¹³C濃度（¹³As=¹³C/¹²C）を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に¹³C/¹²Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ （‰）であるとしたときの¹³C濃度（¹³As）に換算した上で計算した値である。（1）式の¹³C濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{13}\text{A}_s = {}^{13}\text{A}_n \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{13}\text{A}_s \text{として} {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{13}\text{A}_s \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{13}\text{A}_s \text{として} {}^{13}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_s - {}^{13}\text{A}_n) / {}^{13}\text{A}_n] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好でその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

¹³C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており、 $\Delta^{13}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{13}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{13}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{13}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代

(Conventional Radiocarbon Age; yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100)$$

- 5) ^{14}C 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。
- 6) 校正暦年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCalv3.10校正プログラム (Bronk Ransey1995 Bronk Ransey2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001) を使用した。

(7) 測定結果

KH11HF11炉の炭化物 (No.1: IAAA-62015) の ^{14}C 年代は $4490 \pm 40\text{yrBP}$ である。暦年校正年代 ($1\sigma = 68.2\%$) では、3340BC~3260BC (29.0%)・3250BC~3210BC (14.2%)・3190BC~3150BC (12.9%)・3130BC~3090BC (12.1%) であり、縄文時代中期前葉に相当する。

KP358覆土の炭化物 (No.2: IAAA-62016) が $1280 \pm 30\text{yrBP}$ 、KP359覆土の炭化物 (No.3: IAAA-62017) が $1270 \pm 30\text{yrBP}$ 、KP371覆土の炭化物 (No.4: IAAA-62018) が $1300 \pm 30\text{yrBP}$ 、KP372覆土の炭化物 (No.5: IAAA-62019) が $1340 \pm 30\text{yrBP}$ 、KP378覆土の炭化物 (No.6: IAAA-62020) が $1290 \pm 30\text{yrBP}$ の ^{14}C 年代である。暦年校正年代 (1σ) では、すべて650AD~775ADに含まれる。

KP386覆土の種子 (No.7: IAAA-62021) が $2570 \pm 30\text{yrBP}$ 、KP397覆土の炭化物 (No.8: IAAA-62022) が $2550 \pm 30\text{yrBP}$ の ^{14}C 年代である。暦年校正年代 (1σ) では、800BC~590BCに含まれ、縄文時代晩期後葉に相当する。KP397出土の土器内の炭化物 (No.9: IAAA-62023) の ^{14}C 年代は、 $2870 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年校正年代 (1σ) では、1120BC~1000BCであり、縄文時代晩期前葉に相当する。

KP415覆土下の炭化物 (No.10: IAAA-62024) の ^{14}C 年代は $1620 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年校正年代 (1σ) では、400AD~440AD (35.3%)・480AD~540AD (32.9%) である。

KF199焼土の炭化物 (No.11: IAAA-62025) の ^{14}C 年代は、 $3600 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年校正年代 (1σ) は、2020BC~1990BC (9.0%)・1980BC~1900BC (59.2%) であり、縄文時代後期前葉から中葉にかけての年代である。

旧河道 I の 2 層の種子 (No.12: IAAA-62026) の ^{14}C 年代が $3200 \pm 30\text{yrBP}$ 、木片 (No.13: IAAA-62027) の ^{14}C 年代が $3270 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年校正年代 (1σ) では、それぞれ1500BC~1440BC、1610BC~1570BC (29.2%)・1560BC~1500BC (39.0%) であり、縄文時代後期中葉から後葉にかけての年代である。流路 A 堆積層の木片 (No.14~16: IAAA-62028~62030) の ^{14}C 年代は、それぞれ 3080 ± 30 、 3270 ± 30 、 $3030 \pm 30\text{yrBP}$ である。No.15は、1610BC~1570BC (27.6%)・1560BC~1500BC (40.6%) の暦年校正年代 (1σ) であり、縄文時代後期中葉から後葉にかけての年代である。No.14・16は、1410BC~1220BCに含まれる暦年校正年代 (1σ) であり、縄文時代後期後葉に相当する。

化学処理および測定内容、炭素含有量などに問題は無く、遺構ごとの年代値が比較まとまっていることから、妥当な年代であると考えられる。

参考文献

Stuiver, M. and Polash, H. A. (1977) Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon, 19: 355-363.

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon*, 37 (2) 425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43 (2 A) 355-363.

Bronk Ramsey C., J. van der Plicht and B. Weninger (2001) 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 43 (2 A) 381-389.

Reimer et al. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP. *Radiocarbon* 46, 1029-1058.

表IV-1

IAA

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62015 #1511-1	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町610ほか 柏木川4遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：1	Libby Age (yrBP) : 4,490 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.33 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -428.1 ± 2.5 pMC (%) = 57.19 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -426.2 ± 2.4 pMC (%) = 57.38 ± 0.24 Age (yrBP) : 4,460 ± 30
IAAA-62016 #1511-2	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町610ほか 柏木川4遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：2	Libby Age (yrBP) : 1,280 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.09 ± 0.60 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -147.7 ± 3.0 pMC (%) = 85.23 ± 0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -146.1 ± 2.8 pMC (%) = 85.39 ± 0.28 Age (yrBP) : 1,270 ± 30
IAAA-62017 #1511-3	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町610ほか 柏木川4遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：3	Libby Age (yrBP) : 1,270 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.11 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -146.4 ± 3.0 pMC (%) = 85.36 ± 0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -146.6 ± 2.8 pMC (%) = 85.34 ± 0.28 Age (yrBP) : 1,270 ± 30
IAAA-62018 #1511-4	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町610ほか 柏木川4遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：4	Libby Age (yrBP) : 1,300 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.03 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -149.2 ± 3.0 pMC (%) = 85.08 ± 0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -147.5 ± 2.8 pMC (%) = 85.25 ± 0.28 Age (yrBP) : 1,280 ± 30
IAAA-62019 #1511-5	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町610ほか 柏木川4遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：5	Libby Age (yrBP) : 1,340 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -29.11 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -153.2 ± 3.1 pMC (%) = 84.68 ± 0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -160.4 ± 2.8 pMC (%) = 83.96 ± 0.28 Age (yrBP) : 1,400 ± 30

表IV-1

IAA

IAAA-62020	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：6	Libby Age (yrBP) : 1,290 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.39 ± 0.65 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -148.6 ± 2.9 pMC (%) = 85.14 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -149.2 ± 2.7 pMC (%) = 85.08 ± 0.27 Age (yrBP) : 1,300 ± 30
IAAA-62021	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：種子クルミ 試料名(番号)：7	Libby Age (yrBP) : 2,570 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.66 ± 0.65 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -274.0 ± 2.7 pMC (%) = 72.60 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -275.0 ± 2.6 pMC (%) = 72.50 ± 0.26 Age (yrBP) : 2,580 ± 30
IAAA-62022	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：8	Libby Age (yrBP) : 2,550 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.11 ± 0.66 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -272.0 ± 2.7 pMC (%) = 72.80 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -272.2 ± 2.5 pMC (%) = 72.78 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,550 ± 30
IAAA-62023	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：9	Libby Age (yrBP) : 2,870 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.30 ± 0.70 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -300.3 ± 2.7 pMC (%) = 69.97 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -302.2 ± 2.5 pMC (%) = 69.78 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,890 ± 30
IAAA-62024	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：10	Libby Age (yrBP) : 1,620 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.53 ± 0.61 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -182.4 ± 3.0 pMC (%) = 81.76 ± 0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -183.3 ± 2.8 pMC (%) = 81.67 ± 0.28 Age (yrBP) : 1,630 ± 30

IAA

IAAA-62025	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：11	Libby Age (yrBP) : 3,600 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.25 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -360.8 ± 2.4 pMC (%) = 63.92 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -361.2 ± 2.2 pMC (%) = 63.88 ± 0.22 Age (yrBP) : 3,600 ± 30
#1511-11		
IAAA-62026	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：一年草?種子 試料名(番号)：12	Libby Age (yrBP) : 3,200 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.04 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -328.9 ± 2.6 pMC (%) = 67.11 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -329.0 ± 2.4 pMC (%) = 67.10 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,200 ± 30
#1511-12		
IAAA-62027	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化木片 試料名(番号)：13	Libby Age (yrBP) : 3,270 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.16 ± 0.63 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -334.7 ± 2.6 pMC (%) = 66.53 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -334.9 ± 2.4 pMC (%) = 66.51 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,280 ± 30
#1511-13		
IAAA-62028	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：木片 試料名(番号)：14	Libby Age (yrBP) : 3,080 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.56 ± 0.63 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -318.7 ± 2.6 pMC (%) = 68.13 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -323.7 ± 2.4 pMC (%) = 67.63 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,140 ± 30
#1511-14		
IAAA-62029	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化木片 試料名(番号)：15	Libby Age (yrBP) : 3,270 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.66 ± 0.67 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -334.4 ± 2.6 pMC (%) = 66.56 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -335.3 ± 2.4 pMC (%) = 66.47 ± 0.24 Age (yrBP) : 3,280 ± 30
#1511-15		

IAA

IAAA-62030 #1511-16	試料採取場所：北海道恵庭市柏木町 610 ほか 柏木川 4 遺跡 試料形態：炭化木片 試料名(番号)：16	Libby Age (yrBP) : 3,030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.06 ± 0.70 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -314.1 ± 2.7 pMC (%) = 68.59 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -318.4 ± 2.5 pMC (%) = 68.16 ± 0.25 Age (yrBP) : 3,080 ± 30

参考

IAAA-62026に関しましては種子を処理し測定した結果になります。

表IV-2

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-62015	1	4489 ± 35
IAAA-62016	2	1283 ± 28
IAAA-62017	3	1271 ± 28
IAAA-62018	4	1297 ± 28
IAAA-62019	5	1336 ± 29
IAAA-62020	6	1291 ± 27
IAAA-62021	7	2571 ± 30
IAAA-62022	8	2550 ± 29
IAAA-62023	9	2869 ± 30
IAAA-62024	10	1618 ± 29
IAAA-62025	11	3595 ± 30
IAAA-62026	12	3204 ± 31
IAAA-62027	13	3273 ± 30
IAAA-62028	14	3082 ± 30
IAAA-62029	15	3269 ± 31
IAAA-62030	16	3028 ± 31

ここに記載する Libby Age (年代値) と誤差は下 1 桁を丸めない値です。

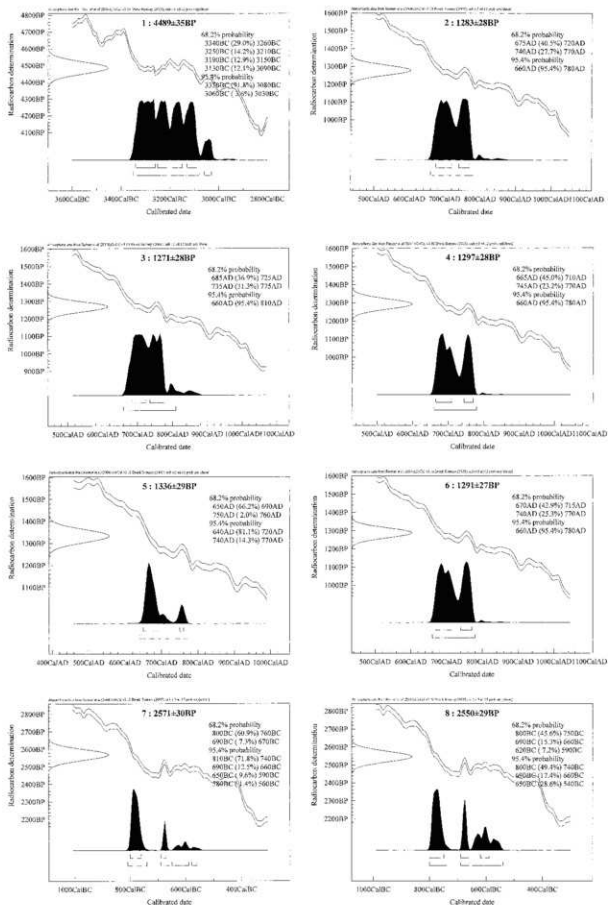
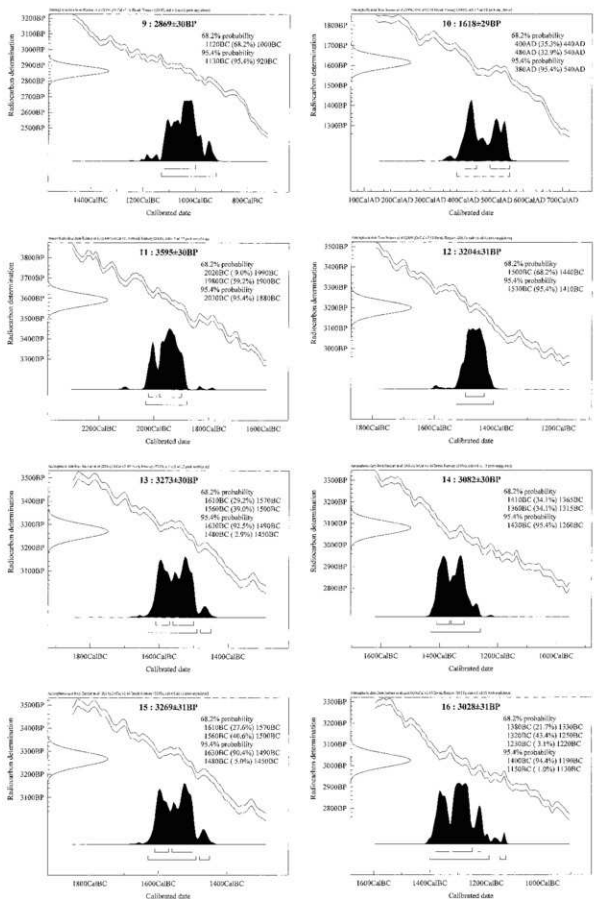


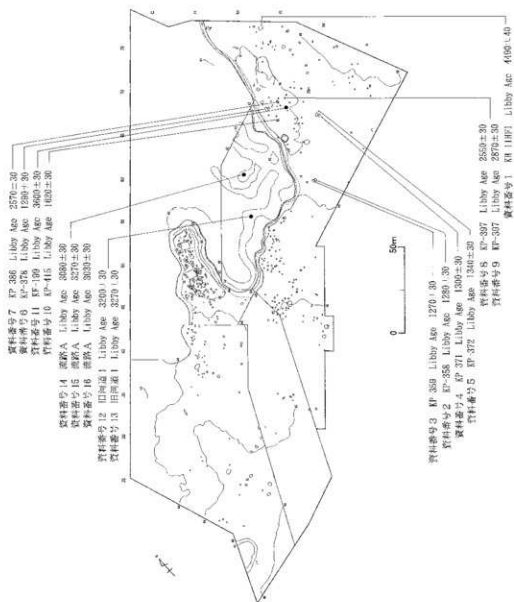
圖 IV - 1 曆年校正(1)



東京大学大学院 考古学・文化人類学系

図4-2 暦年較正(2)

試料番号	試料	出土地点	層位	Code No.	前処理	Libby Age (yrBP)	補正なし (yrBP)	$\delta^{13}C$ (‰) (加速器)	暦年校正入力用 (yrBP, $\pm 2\sigma$)	暦年校正 1σ (yrcalBP)	暦年校正 2σ (yrcalBP)
1	炭化物	KHHP1	炉	IAAA-62015	AAA	4480 \pm 40	4460 \pm 30	-23.33 \pm 0.64	4489 \pm 35	3340BC-3200BC(29.0%) 3250BC-3210BC(14.2%) 3190BC-3150BC(12.9%) 3130BC-3090BC(12.1%)	3550BC-3080BC(91.8%) 3060BC-3030BC(3.6%)
2	炭化物	KP358	覆土	IAAA-62016	AAA	1280 \pm 30	1270 \pm 30	-24.09 \pm 0.60	1283 \pm 28	675AD-720AD(40.5%) 740AD-770AD(27.7%)	660AD-780AD(95.4%)
3	炭化物	KP359	覆土	IAAA-62017	AAA	1270 \pm 30	1270 \pm 30	-25.11 \pm 0.64	1271 \pm 28	685AD-725AD(36.9%) 735AD-775AD(31.3%)	660AD-810AD(95.4%)
4	炭化物	KP371	覆土	IAAA-62018	AAA	1300 \pm 30	1280 \pm 30	-24.03 \pm 0.64	1297 \pm 28	665AD-710AD(45.0%) 745AD-770AD(23.2%)	660AD-780AD(95.4%)
5	炭化物	KP372	覆土	IAAA-62019	AAA	1340 \pm 30	1400 \pm 30	-29.11 \pm 0.64	1336 \pm 29	650AD-690AD(66.2%) 670AD-715AD(42.2%)	640AD-720AD(81.1%) 740AD-770AD(14.3%)
6	炭化物	KP378	覆土	IAAA-62020	AAA	1290 \pm 30	1300 \pm 30	-25.39 \pm 0.65	1291 \pm 27	740AD-770AD(25.3%)	660AD-780AD(95.4%)
7	種子 クルミ	KP386	覆土	IAAA-62021	AAA	2570 \pm 30	2580 \pm 30	-25.66 \pm 0.65	2571 \pm 30	800BC-760BC(60.9%) 690BC-660BC(12.5%) 650BC-590BC(9.6%) 580BC-560BC(1.4%)	810BC-740BC(71.8%) 690BC-660BC(12.5%) 650BC-590BC(9.6%) 580BC-560BC(1.4%)
8	炭化物	KP397	覆土	IAAA-62022	AAA	2550 \pm 30	2550 \pm 30	-25.11 \pm 0.66	2550 \pm 29	800BC-750BC(45.6%) 690BC-660BC(15.3%) 620BC-590BC(7.2%)	800BC-740BC(49.4%) 690BC-660BC(17.4%) 650BC-540BC(28.6%)
9	炭化物	KP397	土器内	IAAA-62023	AAA	2870 \pm 30	2880 \pm 30	-26.30 \pm 0.70	2869 \pm 30	1120BC-1000BC(68.2%)	1130BC-920BC(95.4%)
10	炭化物	KP415	覆土下	IAAA-62024	AAA	1620 \pm 30	1630 \pm 30	-25.53 \pm 0.61	1618 \pm 29	400AD-440AD(35.3%) 480AD-540AD(32.2%)	380AD-540AD(95.4%)
11	炭化物	KP199	焼土	IAAA-62025	AAA	3600 \pm 30	3600 \pm 30	-25.25 \pm 0.64	3695 \pm 30	2020BC-1990BC(9.0%) 1980BC-1900BC(59.2%)	2030BC-1880BC(95.4%)
12	種子	旧河道 I 2層(彩灰)	2層(彩灰)	IAAA-62026	AAA	3200 \pm 30	3230 \pm 30	-25.04 \pm 0.64	3204 \pm 31	1500BC-1440BC(68.2%)	1530BC-1410BC(95.4%)
13	炭化木片	旧河道 I 2層(彩灰)	2層(彩灰)	IAAA-62027	AAA	3270 \pm 30	3280 \pm 30	-25.16 \pm 0.63	3273 \pm 30	1610BC-1570BC(29.2%) 1560BC-1500BC(39.0%)	1630BC-1490BC(92.5%) 1480BC-1450BC(2.9%)
14	木片	流路A	堆積土	IAAA-62028	AAA	3080 \pm 30	3140 \pm 30	-28.56 \pm 0.63	3082 \pm 30	1410BC-1365BC(34.1%) 1360BC-1315BC(34.1%)	1430BC-1260BC(95.4%)
15	炭化木片	流路A	堆積土	IAAA-62029	AAA	3270 \pm 30	3280 \pm 30	-25.66 \pm 0.67	3269 \pm 31	1610BC-1570BC(27.6%) 1560BC-1500BC(40.6%)	1630BC-1490BC(90.4%) 1480BC-1450BC(5.0%)
16	炭化木片	流路A	堆積土	IAAA-62030	AAA	3030 \pm 30	3080 \pm 30	-28.06 \pm 0.70	3028 \pm 31	1380BC-1330BC(21.7%) 1320BC-1250BC(43.4%) 1230BC-1220BC(3.1%)	1400BC-1190BC(94.4%) 1150BC-1130BC(1.0%)



図IV-3 サンプル採取位置

柏木川4遺跡出土の足形付土製品の足形の持ちぬしの年齢推定

河内まき子

産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター

1. はじめに

柏木川4遺跡から足形付土製品（以下、土製品）と手形付土製品が出土している。このうち足形について、その足形の持ち主の年齢推定を試みた。

粘土で足の型を製作するときの体重のかけ方や粘土を足に押し付けるやり方によっては、残された足型の形状は足の寸法を測るときの姿勢での形状とはかなり異なるであろう。しかし、踵と親指先端の位置がはっきりすれば足長を推定することができ、足長と年齢に関する知見から年齢を推定することは可能だと考えた。そこで、(1)土製品の足の雌型から足長に相当する寸法を計測し、(2)この値から乾燥、焼成による収縮、計測時の姿勢や体重のかけ方による寸法の変化を考慮して生体での足長を推定し、(3)推定した足長から計測時の年齢を推定する。

足幅と年齢の関係は足長と年齢の関係ほど明瞭でなく、足長以外の現代人乳児のデータはほとんどないため、足長以外の寸法は考慮しなかった。同じ年齢ならば男児の方が女児よりも統計的に有意に足長が大きい、分布範囲は大幅に重なっているため、足長から性別を判断することは実際上不可能である。

手形は人間の手の形としては不自然なところが多く、しかも年齢と手の寸法の関係に関する情報が少ないため、検討の対象外とした。

2. 足型の寸法計測

土製品の表面の3次元形状を、vidid 910（コニカミノルタ製）で計測した。計測した形状データをGeomagic studio version 9.0（Raindrop geomagic社）に入力した。足の雌型の形状は図1に見るとおり上ひろがりになっており、親指先端から踵の後端部まで、周辺部の立ち上がった部分の上げになることなく、観察する事ができる。以下の手順で足長に相当する寸法を計測した：

- (1) 土製品の上面がほぼ水平になるように座標系を設定。図1の3つの×がXY平面に平行になるように座標系を変換した。これは、深さの計測を容易にするためである。
- (2) 形状データの表面上に、踵点（かかとの最も後方の点）と親指先端中央と思われる位置にデータ点を設定し（図1、●）、これらの点の座標値を取得した。かかとの後端部には孔があけられており、孔の周囲は縁どりがもりあがっているため、縁どりの下方に踵点を設定した。
- (3) (2)で取得した2つの計測点の間の直線距離として足長を計算した。

以上の方法で取得した足長は92.3mm、親指先端から親指の足底面までの深さは3.9mm、踵点から踵部の足底面までの深さは5.2mmであった。

vidid 910の計測精度は公称 $\pm 0.10 \sim 0.22$ mmである（<http://www.fuji.or.jp/h15/vidid910.pdf>）。なお、ノギスと同様に計測した足長は92.2mmであり（谷島由貴氏計測）、vididを用いた計測とほぼ同じ値であった。

つま先部の足長の計測点は、本来は親指の先端ではなく足先点である。足先点とは踵点から最も遠い位置にある指の先端で、親指または第二指の先端にある。この土製品では親指と第二指とはほぼ同程度にみえるが、ここではすべての分析において足先点として親指の先端を使った。理

由は、第二指の方が長い人は11-13%と少ないこと（鈴木他、1999）、親指先端の方が第二指先端よりも高いため雌型の深さの影響を大きく受けることによる。

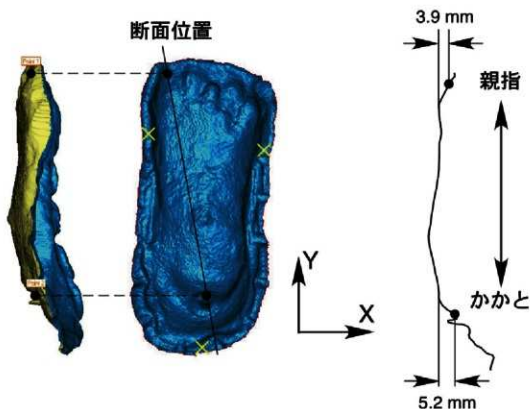


図1. 足形付土製品の三次元形状計測結果から足長を算出する。×：座標系決定のために設定した点；●：足先端、踵点。右図は足先端と踵点をとおりXY平面に直交する断面の図。

図1のとおり足の雌型の指の相対的な長さ関係が不自然であり（中指が最も短い）、指ごとに型をとったか、指によっては2度押しした可能性もある。底面はほぼたいらであるが、中央部がややくぼんでいる。踵部の後端部分には孔があけられており、その周辺部の縁取りがもりあがっているため、足の踵点の部分は型として残っていない。足型を正確にとるならば周辺部はほぼ垂直に立ち上がるので（図2参照）、もともと足底付近の型しかとらなかつたと考えられる。

以上のように、足形付土製品に残された足型は、もとの足の形状をそのまま残しているとは考えにくいので、計測した足長から子供の足の足長を推定するために、いくつかの要因による変化量を推定することにした。

3. 足形付土製品の足長を左右する要因

粘土板に残った跡から計測した足長と、生きている子供の足長を実測した値が一致しない原因として、以下の要因が考えられる：

1) 製作時

足型作成時の足の姿勢や（指が伸びているか）によっては、通常の生体計測で足長を測るときとは足の形状（姿勢）が異なる。

足の親指先端や踵点よりも低い位置までしか粘土が被っていない場合、その分足長は小さくなる。

2) 加工による変形

土製品の低面がたいらではなく、中央部に何かをおしつけたようなへこみがある。周辺部は棒でなぞったような線状のくぼみと模様がついている。また上開きの形状になっている。粘土がまだ柔らかいうちにこのような加工を加えたときに、足型形状も変形した可能性が高い。

3) 乾燥と焼成による収縮

製作時の土製品が正確に足形状を複製したものであったとしても、乾燥による収縮、焼成による収縮により、出来上がった土製品は実際の足よりも小さくなる。

上記の要因のうち加工による変形については推定のしようがないので、検討の対象外とした。乾燥と焼成による収縮、足型製作時の姿勢、粘土の高さの効果が足長にどの程度の影響を与えるかを以下に検討する。

4. 乾燥と焼成による足形付土製品の収縮量

表1に文献からとった粘土資料の収縮データを示す(財団法人北海道埋蔵文化財センター、平成12年度)。これは、棒状および板状のテストピースを作り、作成してから焼成するまでの収縮量を調べた結果である。この文献によると、乾燥した粘土板の焼成による収縮率は長さでせいぜい1mm、あるいは1%未満である。砂がまざっている方が収縮量は小さい。作成から乾燥までの収縮量の方が、乾燥から焼成までの収縮量よりも圧倒的に大きい。板状の資料では、長手方向の収縮率は9~14%である。脇田(1984)によるCL埴埴土を用いた実験では、乾燥による収縮が4.0%、焼成による収縮が1.04%、全収縮が5.0%であった。

後述の、テラコッタ粘土(はにわ粘土)(TAJIMI, MINONENDO Co. Ltd.)を使って試作した足型(図2)の長さ方向の乾燥による変化は表2のとおりであった。乾燥による収縮率は外形長径で8.1%、足長で6.8%であった。

以上から、乾燥と焼成による長さ方向の収縮は、最大で15%、最小で5%程度と考えられる。出土した資料の粘土には砂が約1割混入しているので、収縮量は表1の混土(10%)に近いと思われる。

粘土の乾燥と焼成による収縮だけを考えたとき、足形付土製品が作られた時点での足長は97.2(収縮率5%)~108.6(収縮率15%)mmとなる。収縮率が10%のときは102.6mmとなる。

表1. 粘土テストピースの収縮率。混土は砂を10%をまぜたもの
(財団法人北海道埋蔵文化財センター、平成12年度より)

資料	素材	サイズ (mm)			全収縮 (mm)			全収縮率 (%)		
		作成時	乾燥時	焼成時	長	幅	厚	長	幅	厚
棒状	粘土	100×10×10	88×9×9	87×9×9	13.0	1.0	1.0	13.0	10.0	10.0
	混土	100×10×10	91×9×9	91×9×9	9.0	1.0	1.0	9.0	10.0	10.0
板状	粘土	80×40×7	69×35×5	68×34×5	12.0	6.0	2.0	15.0	15.0	28.6
	混土	80×40×7	73×37×5	72×36×5	8.0	4.0	2.0	10.0	10.0	28.6

表2. 粘土製足型の乾燥による寸法変化 (単位: mm)

寸法	作成時	1日後	3日後	4日後	6日後
外形長径	130.0	120.0	119.5	119.5	119.5
足長	111.0	103.5	103.5	103.5	103.5

5. その他の誤差要因

3節で、足形付土製品に残された足型がその足の持ち主の足形状と異なる要因を列挙した。本節では足型と実際の足形状の関係を2つの方法で検討した。まず、0歳児1名の足を計測し、粘土で足の離型を作成することにより、正確に足の離型を作ろうとするとどのようなものができるかを調べ、出土した足形付土製品がどの程度正確に子供の足を反映しているかを検討した。第二では3～9歳の子供の足の形状データを用いて、踵点や親指先端より低いレベルの水平面で足を切断したときに足長がどの程度小さくなるかを検討した。

1) 形状変形

生後7ヶ月の女児1名を対象に、足型作成実験を行った。足型作成に先立ち、この女児の足長を7節の日本人の体格調査報告書の方法にしたがって計測した。母親が女児を抱き、右足を平らな机につけた状態で測った足長(足先点は親指の先端)は、111mmであった。足を宙に浮かし、足底をできるだけたいらにした状態で測った足長は107mmであった。両者の違いは主として指の伸び具合にある。これにより4mm(3.6%)の違いがあったことになる。

この女児の足型をテラコッタ粘土(TAJIMI, MINONENDO Co. Ltd.)で作成した。粘土を厚さ7～8mmの板状に伸ばして机の上に置き、そのうえに母親がだっこしたこどもの右足を乗せさせた。足の周囲の粘土を折り曲げて足に押しつける要領で、足型を作成した。作成時足型の足長は111mmであった(ノギスで計測)。

乾燥後の足長は103.5mmであった(ノギスで計測)。これをvidid 910で計測し、3節と同じ方法で足長を計測した(図2)。断面形状からわかるとおり、踵部は垂直に立ち上がっており、出土した土製品の踵部断面形状(図1)とはかなり異なる。

親指部分の足底から親指先端までの高さは4.4mm、かかと部足底から踵点までの高さは7.6mmであった。これも、とくにかかと部分の深さが、出土した土製品の場合(それぞれ3.9mm、5.2mm)よりも大きい。

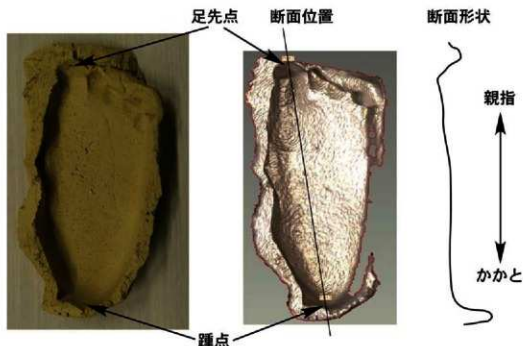


図2. 実験で作成した粘土足型（左）とvididによる足型の計測結果（中、右）。

2) 計測高さ足長の関係

図3はある3歳児の足形状の側面観である。もし土製品に残った足の離型の深さが親指先端の最突点よりも浅いか踵部の最突点よりも浅い場合は、離型から計測した足長は実際の足で計測した足長よりも小さくなる。出土した土製品に残った足の離型から計測した、親指先端から親指の足底面までの深さは3.8mm、踵点から踵部の足底面までの深さは5.2mmであった。足型の持ち主の親指先端と踵点の高さが上記寸法よりも大きかったならば、土製品から測った足長は実際よりも小さい。どの程度小さいかを推定するため、3～9歳の子供のデータを使って、足長と踵点の高さ、足長と親指先端の高さの関係を調べた。



図3 踵点、足先点の高さ（3歳児、足長：133mm、踵点高：13mm、親指先端高：5mm）

用いた資料は、計測時年齢が3～9歳の子供の右足を足部専用形状スキャナInfotool（アイウェアラボラトリ社製）で計測した形状データである。Infotoolの寸法計測結果は熟練者が手で計測した値と同等とみなすことができる（Kouchi and Mochimaru, 2001）。それぞれの被験者につき、3年間にわたり誕生日±3ヶ月の間に足の形状を計測した。計測開始時の年齢は、3歳または5歳または7歳である。

形状データから踵点と親指先端の最も前方に突出した点の座標値を求め、床面からの高さや足長を計算した。各年齢での平均値を分析に使い、足長から踵点高と親指先端高を推定する直線回帰式を求めた (Mac 版 Statview 使用)。

図4に得られた回帰直線を示す。前節で、乾燥と焼成による収縮を斟酌して推定した作成時の足長は97.2~108.6mmであった。この足長での平均的な親指先端高と踵点高を上記の回帰直線を使って外挿推定すると、それぞれ6mm程度、10~11mm程度となる。足形土板上に想定した親指先端の親指底面からの深さは3.8mm、想定した踵点のかかと底面からの深さはそれぞれ5.2mmであった。厚さ方向の収縮率は表1からは10~28%である。作成時の寸法を換算すると、それぞれ4.2~5.3mm、5.8~7.2mmで、実際の足の最突点よりもやや低い位置 (親指先端で1~2mm、踵点で5~6mm) に粘土の上縁があったことになる。

図3は3歳児29名 (男児15名、女児14名) のなかで最も足長が小さい例である。図3に見るとおり、親指先端はかなり湾曲が弱くほぼ鉛直なので、計測点が最突点より上下に2mm程度ずれても足長にはほとんど影響しないであろう。踵部の方は、最突点から5mmもずれば足長は小さくなるであろう。図3の例で、踵点と親指先端を使って計算した足長は135.2mmである。踵点より5mmほど下方の点、親指より3mmほど下方の点の座標値を取得し、これらの点を使って計算した足長は133.2mmであった。土製品で採取できた範囲が最突点よりもやや低かったとして、それによる足長の差はせいぜい2mm程度と推測できる。

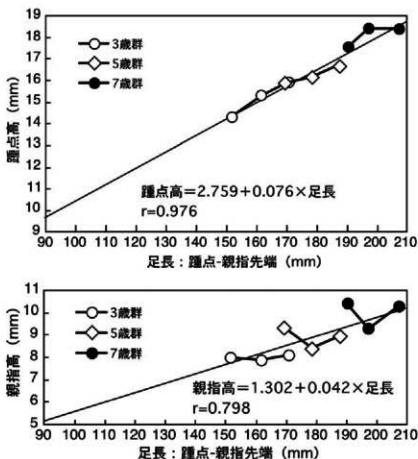


図4 足長から踵点高、親指先端高を推定する

6. 足長の推定

足形土板から計測された足長は92.3mmであった。これから計測時の足長を推定するために、4節、5節で以下の問題点とその影響量を検討した：

乾燥と焼成による収縮率：5～15%（4節）

計測時の姿勢（指の伸び具合）：4mm（3.6%）（5節（1））

最突点に達していなかった：2mm（1.5%）（5節（2））

これらの要因を考慮した修正値を表3に示す。足長の推定値は98.7～114.4mmで、最も影響の大きい乾燥・焼成による収縮率が10%に近いならば、104.2～108.0mm付近であったと思われる。

表3. 変形要因を考慮した修正足長（mm）

要因	乾燥、焼成による収縮					
	5%		10%		15%	
乾燥・焼成による収縮	97.2		102.6		108.6	
指の姿勢	まっすぐ	曲がり	まっすぐ	曲がり	まっすぐ	曲がり
	97.2	100.8	102.6	106.4	108.6	112.6
最突点より低かった	98.7	102.3	104.2	108.0	110.3	114.4

7. 比較資料

現在の青年男性の平均身長は171～172cmであるが（文部科学省、体力・運動能力調査報告書より）、縄文人男性では158～159cmである（河内、1992）。体格だけでなく成長速度にも差があったであろうことを考えると、現代人における足長と年齢の関係がそのまま縄文人に当てはまるとは考えにくい。しかし入手可能なデータは現代人のものしかないので、現代人の足長と年齢の関係に基づいて足形から年齢を推定することになる。

足長から年齢を推定するために使用できる日本人乳幼児の足長データには、以下の2つがある。

1) 通産省によるデータ（日本人の体格調査報告書、1984）

既製のサイズの基準作成のために計測されたデータで、乳幼児については0歳から3.5歳までの約5700名を計測している。足長は、触角計を用いて踵点と足先点の間の直線距離を測る（図5）。計測手順は以下のとおりである：被験者の両足の足底面を木箱につけさせ、両膝をかるく押さえる。触角計の左腕の先端を踵点（かかとの最も後方の点）に軽く当てて固定し、右腕の先端で足先点（足の最前部の点。第一指または第二指の先端）をみつけて計測する。足が宙にういた状態で測定しても大差ない値が得られる。ただし、補助者が足指をのばしてやる必要がある（体格調査委員会、1979）。



図5 日本人の体格調査における乳幼児の足長の測り方

2) 齊賀によるデータ (齊賀, 1992)

この調査では、4歳未満の乳幼児のべ581名の寸法データを計測している。定期健康診断のときに足底部写真を撮影し、写真から寸法を取得した。定期健康診断の目標年齢は4ヶ月、7ヶ月、12ヶ月、18ヶ月、27ヶ月、36ヶ月である。

計測は、足底部写真からの間接計測である。赤ん坊の足をビドスコープ（パテラ社）のガラス板の上につけさせ、スチールカメラで左右の足底部の写真を同時に撮影した。このとき同時にものさしを写した。0歳児は保護者が体を支え、補助者が足をガラス面におしつけて写真を撮影する（図6参照）。

撮影したネガをプロジェクタで1.4倍に拡大して投影し、同時に写しこんだものさしのめもりで長さの校正をし、デジタイザ（グラフテック社製クリスタライザαKC3300）で特徴点の座標値を入力し、座標値から足長を計算した。足長は、踵点（かかとの最も後方の点）から最も前方にある指の先端の点までの直線距離である。

ガラス面へのおさえつけの強さ、足裏への体重のかかり方による寸法の違いは、0.01～0.02%の範囲にあり、実用上無視することができることを確認した。

年齢群別の右足長には4ヶ月、7ヶ月、12ヶ月、18ヶ月群では統計的に有意な性差があり、男児の方が大きかった。しかし、図7に示す通り男女の足長分布は大きくオーバーラップしている。すなわち、足長だけから性別を判定することはできない。

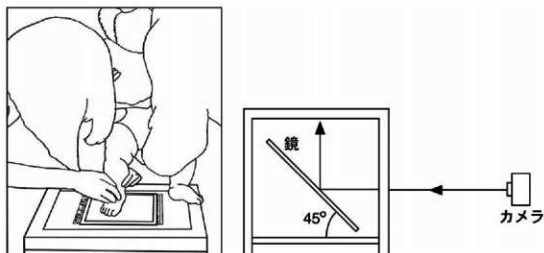


図6 ビンノコブによる乳幼児の足底写真の撮影

右足長 (mm)

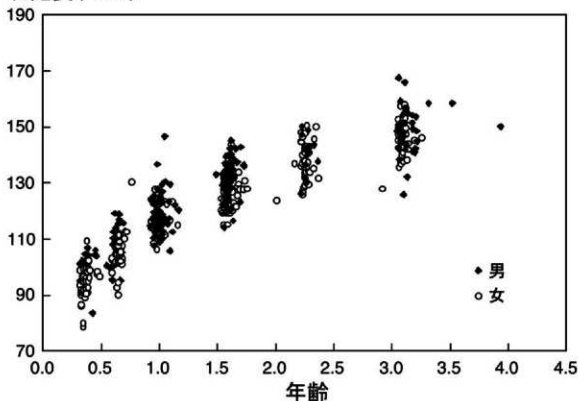


図7 年齢群別男女の足長の平均値と標準偏差 (齊賀、1992のデータより)。

図8に、通産省によるデータ(資料1)、齊賀によるデータ(資料2)の年齢群別平均値を示す。これら2資料は上記のとおり計測法が異なっている。2歳未満では資料2の方が平均値が大きい傾向がある。正確に同じ年齢で計測したわけではないので両者の差がどの程度か明確にはいえないが、資料2の方が3-4mm大きいようである。計測時期には約10年の差があるが、乳幼児の体格にはこの期間にほとんど時代変化がおきていないので(河内・持丸、2005)、2資料間の差は体重のかかり具合の差をふくんだ計測法、計測条件の違いによると思われる。

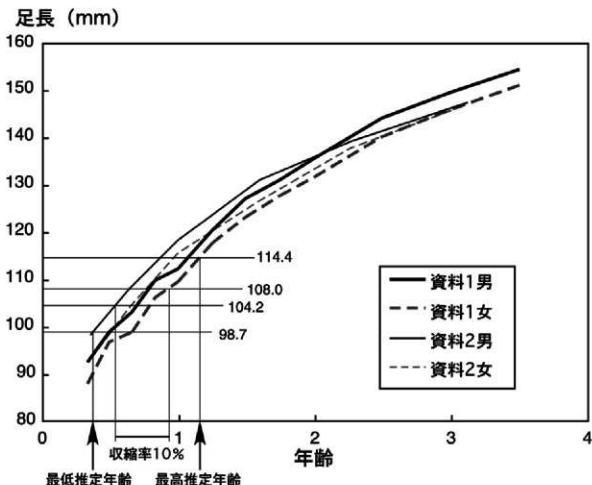


図8 年齢別足長平均値と推定年齢範囲。資料1：通商産業省工業技術院他（1984）；資料2：斉賀（1992）。

8. 年齢推定

6節で推定された足長は最小で98.7mm（収縮率5%、指まっすぐ）、最大で114.4mm（収縮率15%、指曲がり）であった。図8に示した各年齢での足長平均値とこの値を比べると、比較に用いる資料と性別により現代人の平均的足長としては4.6ヶ月～13.8ヶ月の範囲になる。乾燥・焼成による収縮率が10%だとすれば足長は104.2～108.0mmで、6.6ヶ月～11.1ヶ月の範囲になる。

成人身長之差にもかかわらず乳幼児期の足長とその成長パターンは現代人と大差がなかったとし、さらにこの子供が縄文時代人としてはほぼ平均的な体格ではほぼ平均的な成長過程をたどったと仮定すると、足長から判断したこの子供の年齢はおそらく1歳未満であったと思われる。

文献

- 河内まき子、1992：身長の地域差は何を意味するか。小山修三編、狩猟と漁労 日本文化の源流をさぐる。雄山閣。
- Kouchi, M. and M. Mochimaru, 2001: Development of a low cost foot-scanner for a custom shoe making system. Proceedings of the 5th Symposium of Footwear Biomechanics.
- 河内まき子・持丸正明、2005：乳幼児の人体寸法計測に関する調査と提言。http://www.dh.aist.go.jp/database/kids/index
- 齊賀香代子、1992：平成3年度修士論文 乳幼児期における足部寸法・輪郭形状の特徴と年齢変化。筑波大学体育研究科
- 鈴木隆雄・河内まき子・楠本綾乃・西澤哲・山崎信寿、1999：足の事典。朝倉書店。
- 体格調査委員会、1979：衣服寸法設定のための身体計測マニュアル。実施要領Ⅱ。乳幼児および幼児編。
- 通商産業省工業技術院・日本規格協会・JIS衣料サイズ推進協議会、1984：日本人の体格調査報告書-既製衣料の寸法基準作成のための-(1978年～1981年)。日本規格協会。
- 脇田宗孝、1984：巨大埴輪の製作における技法の考察とその焼成実験-メスリ山古墳出土特殊円筒埴輪-。考古学と自然科学、17：109-127。
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター、平成12年度：千歳市キウス4遺跡(8)F・G地区-北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書-

V まとめ

1 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は早期から晩期まで全時期をとおして検出されている。

竪穴住居跡11軒、土坑506基、焼土257カ所、その他、小ピット、炭化物や土器集中、フレイク集中などが検出されている。

時期の確実な遺構のうち平成17年度B地区および18年度D地区を除き、竪穴住居跡・土坑・焼土の分布を時期別に示す(図V-1・2)。ただし前期の遺構は平成16年度の調査範囲で竪穴住居跡が1軒、焼土5カ所、17年度のA地区で竪穴住居跡が1軒検出されたのみなので省略している。分布図に示した遺構数は、早期は土坑4基、中期は竪穴住居跡6軒・土坑34基・焼土34カ所、後期は竪穴住居跡1軒・土坑7基・焼土1カ所、晩期は土坑406基・焼土177カ所である。耕作により削平され消失した遺構や時期の明確ではない遺構もあり、総ての遺構を分布(図V-1・2)に示すことが出来なかった。

早期は土坑がO-68区、S-65区、Z-64区、b-64区の4カ所で北西-南東方向に点在する。土坑の形態は楕円形で大きさは0.7~1.7mで深さは20~30cmである。焼土は検出されていない。

中期は竪穴住居跡が北西の段丘崖の近くに4軒まとまる。そのうちKH-8は長軸が18m近い大型のプランである。また、南西側のW-41・42付近から2軒確認されている。土坑は中央部の段丘が岬状に突き出した部分から南側と、北東側の段丘崖付近から段丘奥に認められる。焼土は北東側の竪穴住居跡KH-7周辺のQ・R・S-65・66・67区の15m角内にまとまる群と、M-72・73区のKH-8の北西隣にまとまる群が竪穴住居跡に伴う焼土と考えられる。P-76区からV-69区にかけ、段丘崖と平行して南北方向に並ぶ焼土が認められる。中央部ではK-42区付近にまとまる群が認められる。土坑の形態は楕円形がやや多く、長軸0.7~1mが多い。深さは10~30cm程度である。

後期は竪穴住居跡が中央部のR・S-45区に1軒あるほか、土坑4基と焼土1カ所が北東側に散在する。

土坑の形態は楕円形が多く長軸が0.6~1.2mの大きさである。KP-336が0.6mと深い他は10~30cmである。

晩期の土坑は中央部の段丘が岬状に突き出した部分に最も多くまとまるほか、段丘崖の5~20m奥に4カ所のまとまり(H-32区付近、P・Q-50区付近、Q-44区付近、Q・R-67区付近)がみられ、段丘崖から離れて3カ所の小規模なまとまり(I-77区、S-34区付近、S-47区付近)がみられるほか、T~V-40~46区とZ~c-69~74区に散在する。また、P・Q-50区付近からV-42区にかけては段丘崖と直交して列状に分布を示すものがある。一つは南北方向に、もう一つはN-77区からS-74区にかけて南北方向に段丘崖と平行して小規模な列状に並ぶものである。焼土はQ・R-65~69区付近に最も多くまとまり、中央部の段丘が岬状に突き出した部分にまとまっているほか、N-72区からX-59区とO-76区からa-68区にかけて南北方向に平行して2列に並ぶ焼土列が認められる。焼土と土坑の分布は段丘が岬状に突き出した部分とQ・R-66~69区付近が重複することと南北方向に列状の分布を示す以外は分布傾向が異なる。土坑の形態は円形がやや多く56%で楕円形は39%である。長軸は50~80cmのものが多い(図V-4)。

手形付土製品、足形付土製品が出土した土坑KP-397(図V-3)について触れる。

KP-397は長軸80cm、深さ30cm程の小型の楕円形で、出土した遺物は手形付土製品、足形付土製

品、把手付双口土器、鉢型土器2点、浅鉢型土器2点、石斧の計8点である。石斧は上部の黒色土から出土したが、他は下の埋め戻された暗褐色土から出土している。石斧を除けば、これらの出土状況は、遺物が当初置かれた位置から中央に向かって圧力がかかり破損した状況と思われる。特に手形付土製品の中指が把手付双口土器の口縁部に土圧で押し付けられ折れた可能性が高い。小型鉢も把手付双口土器の口縁部の間から割れて出土している。これは中央部に置かれていた遺物が腐朽して空隙が出来、それを埋めるように土と副葬されていた土製品や土器が中央部へ動いたためと推定される。また、この土坑の時期は土器型式から縄文時代晩期後葉と特定される。

縄文時代晩期の土坑で遺物が副葬または埋納されたことが確実なものは1割程度である。これは石狩低地帯の晩期の遺跡と同様な傾向を示している。

KP-397とほぼ同時期と考えられるのがKP-386でKP-397の西側4mに位置する。この土坑墓は長軸が1.7m、深さ70cm程の大型の楕円形で、覆土上に堆積したⅢ層上位のTa-c火山灰が確認され、坑底に焼土が10cm程の厚さに埋められている。これはベンガラなどの敷かれた土坑墓と同様に赤が意識されていると推定される。この焼土層の上に小型の土器4個体が副葬されていた。

この2基の土坑墓から南西側は焼土が密集して分布することから、小規模な墓域を形成し墓に伴う祭祀が行われた可能性がある。

手形付土製品・足形付土製品

手形付土製品は単独のものもあるが、足形付土版の片面に手形が付けられ例もある。これまでに発見された手形のついたものは、手のひらが押されているが、本資料は手の甲が押され、指間が表現され、手の形状を呈している。

これまでに知られている足形付土製品は粘土板に浅い足形が付けられた楕円形の板状のものがほとんどである。今回出土した足形付土製品のように浅鉢状の立体的なものは、余市町入船遺跡出土の後期と考えられる資料のみである。

土製品の製作は、手形用には粘土を板状に、手形を採ったあと、指と指の間を切り込み、竹管状の工具で爪を表現している。足形付土製品の器形は在地の浅鉢型土器を意識しているようである。足形用には粘土の中央を窪ませて成形し、表面には手形と同様に沈線と刺突で文様が施されている。しかし、文様がつぶれているところがあることから、粘土を幼児の足に当て包み込むようにして採ったものと思われる。両方とも粘土を焼いたあとに全体を赤く塗ったと思われる。

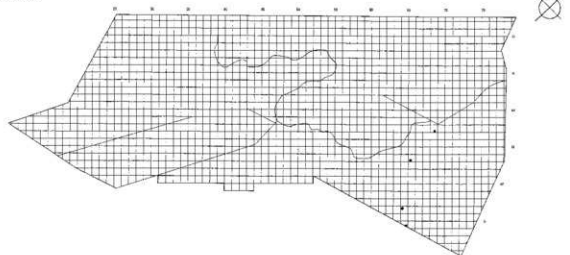
手形付土製品は全体が緩く湾曲した形状で、指付け根の関節部のふくらみがみられることなどから手の甲が押された可能性がある。札幌医科大学 松村博文氏にご教示いただいた。これについては手の平を押したとの見方も有るが、指の腹に半截竹管状工具で爪を思わせるかのごとき文様をつけるのは不自然であろう。

足形付土製品については、IV章で大きさから年齢推定を行い6.6ヶ月～11.1ヶ月の範囲で1歳未満という結果が得られている。

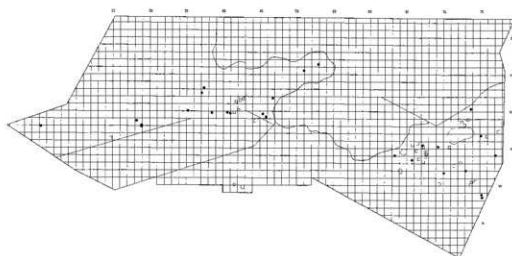
手形付土製品も大きさからみて幼児のものとして推定される。現段階では同一人物のものなのかは不明であるが、大きさや同一遺構から出土したことから、一人の幼児から同時に型取りして制作されたと考えることが妥当であろう。

この両土製品には、沈線と刺突で文様が施されている(図V-5)。刺青を表現したとするには幼児のものであることから、やや早すぎるように思われ、皮膚に書かれた化粧を表した可能性もある。この文様が何を表しているにしても、親の子に対する思いがこめられているのであろう。

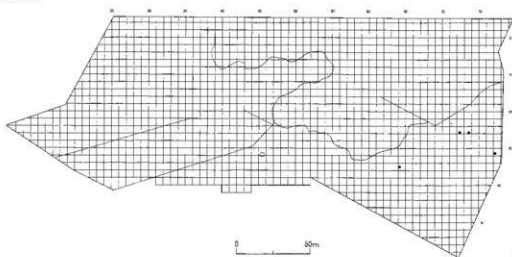
縄文時代早期



縄文時代中期



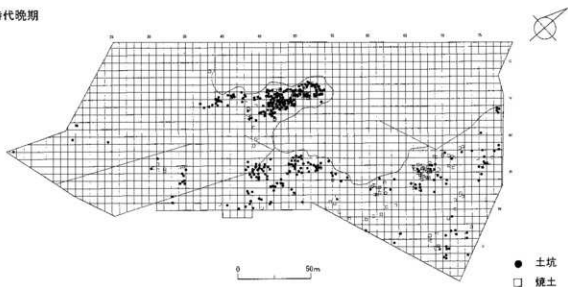
縄文時代後期



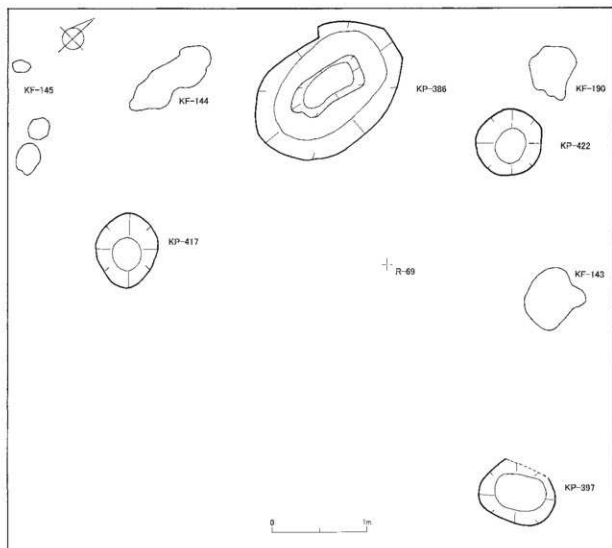
● 土坑
□ 焼土

図V-1 時期別遺構分布(1)

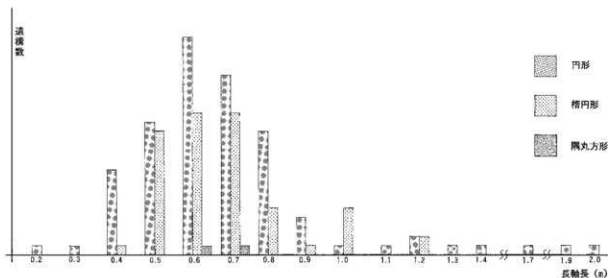
縄文時代晩期



図V-2 時期別遺構分布(2)



図V-3 KP-386とKP-397



図V-4 晩期土坑の大きさ分布



図V-5 手形付土製品・足形付土製品

手形付・足形付土製品は北海道から本州北部までの限られた地域に約50点が見つかっており、北海道内では早期のものが多く、本州北部では後期のものが多い。

今回出土した土製品の意義や特徴は、一つの遺構から、手形付・足形付土製品と把手付双口土器などがセットで出土した点である。また、手形付土製品・足形付土製品が縄文晩期まで作られ、副葬品として墓に入れられたことが明らかになった。

土坑の規模から推定すると子供の墓と思われる、親の子供への思いやりが感じられる遺構である。

足形付土製品の鑑定は独立行政法人産業総合研究所デジタルヒューマン研究センター河内まき子氏に協力をお願いし玉稿を頂いた。また、足形付土製品、手形付土製品について札幌医科大学解剖学第2講座 松村博文氏、余市町教育委員会 乾芳宏氏、函館市教育委員会 田原良信氏、阿部千春氏、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団 坪井睦美氏に御教示を頂いた。手形・足形の比較のため当センター調査員の柳瀬由佳から6ヶ月になる幼児の手形・足形を形取りし提供していただいた。感謝いたします。

(谷島)

2. 擦文時代について

3年間にわたる調査で、擦文時代の遺構は、竪穴住居跡、土坑、焼土が確認されている。遺物は、遺構と包含層から、土器、フレイク・分割礫(方割石)を含む礫などの石器が出土している。ここでは、遺構と土器についてまとめる。ただし、低地部分は次回の報告となるため、今回は主に台地部分について検討する。

(1) 遺構について

擦文時代の遺構は、主に台地部分である河岸段丘上に立地している(図VII-4)。擦文時代当時の柏木川は、ほぼ現在の流れと同じ流路であり、低地部分については、焼土が形成されていることから流水が増減があると考えられる。遺構の時期は、土器の年代観から判断するとすべて8世紀代と考えられる。

竪穴住居跡の2軒は、調査区の西側の、柏木川に向かい一部突き出ている狭い台地上にある。切り合い関係はないこと、外柱穴である住居構造を考慮しても十分な空間があることから、同時並存している場合と前後関係がある場合の両方の可能性がある。遺物は、甕・坏、フレイク・礫が出土している。

土坑は、11基確認されている。土坑の平面形は隅丸長方形7基(KP-346・358・359・371・372・378・379)、楕円形4基(KP-353・360・383・401)である。隅丸長方形の土坑での覆土の堆積状況は、削平の度合いにより異なるが、覆土中に炭化物を多く含んでいることが多く、埋め戻し土である。KP-358から出土したものとKP-359から出土した坏が接合している。遺物は、土器では甕・坏、石器ではフレイク・礫が出土している。

隅丸長方形の土坑7基のうち、KP-358とKP-359、KP-371とKP-372、KP-378とKP-379の6基の土坑はそれぞれ2基が長軸を同じく近接している。これらを2基一組のまとまりと考えると、3つのまとまりがあることになる。各まとまり同士は、20~25mほど離れている。それぞれの土坑の規模は1.6mほどで類似するが、KP-378は長軸長で2.6mを超える大型のものである。時期は、KP-358とKP-359では覆土出土の坏が両者で接合していることからほぼ同時に構築したと考えられ、他の2基一組のまとまりについても同様のものと推測している。長軸方向は、2基一組のまとまりではそろい、それぞれのまとまり同士では異なっていることから、各まとまり同士は、時期差を示している可能性がある。隅丸長方形の土坑は、①それぞれの平面形が隅丸長方形である、②覆土が埋め戻しである、③2基一組のまとまりでは長軸方向がそろうという特徴がある。KP-346については、周辺の耕作等による削平が坑底近くまで及んでいることから、近接してもう1基あった可能性がある。その場合、2基一組のまとまりは4つになる。

焼土は4基確認されている。調査区中央のやや北側で、低地部分に面した場所にある。明瞭なものはないがその場で焚かれたものと考えられる。また、確認数が少ないことから後世の削平による消失を考慮に入れても、利用頻度は少なかったと推定される。遺物は、土甕、フレイク・礫が出土している。

(2) 土器について

主に遺構から出土した土器について検討する。遺構は、前項でまとめた竪穴住居跡・土坑・焼土である。土器は、型式学的な特徴と須恵器との供伴例から8世紀代の土器と考える。器種は、甕・坏・碗・底部穿孔土器である。須恵器は1点のみ包含層から出土している。小破片であるため詳細は不明

であるが、土器断面の色調や胎土などの特徴から、青森県五所川原産ではないことがわかる。

以下に、器種ごとに、恵庭地域の各遺跡から出土した資料と比較してみる。

甕は、中型と大型のものがある。器形は、平底でやや三角形に張り出す底部から外傾して立ち上がり、肩部は弱く丸みを帯び、頸部は弱く内湾する。口縁部は外反しながら直線的に伸びるものである。文様は、口縁部と頸部に2～4条の段状の横走沈線文を離して施文しているものと口縁部から頸部まで密に施文するものがある。これらの段状の横走沈線文を持つ甕がH-2で供伴している。外面の調整は底部から肩部までは下方向からのハケメのものとミガキのものがある。頸部のうち2～4条の段状の横走沈線文を離して施文しているものでは、縦方向のハケメがみられるもの、縦方向のハケメ後横ナデのものとミガキのものがある。口縁部は横ナデしている。内面の調整は、下方向からのハケメのままのものが多く、頸部付近から上は横ナデのものが多い。口縁端部の形状は角形で、内外面の横ナデにより、中央部がくぼむものが多い。

坏は、口径15～20cm程度の中型のものとそれ以上の大型のものがある。器形は、外側の口縁部と体部の境に段や稜を持ち、平底風の丸底の底部から丸みを持って立ち上がり、そのまま外傾しながら直線的に開き、口縁部下でやや内湾気味になる。口縁端部はミガキにより角が取れた隅丸方形である。外面調整は丁寧なミガキによるものが多く、体部下半が細かなハケメのものもある。いくつかの細別器種に分かれると考えられるが、今回は検討できなかった。

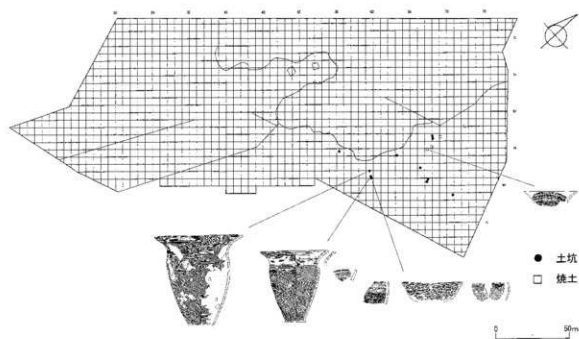
碗は、底部は不明であるが弱い丸底と考えられ、そこから丸みを持って立ち上がり、口縁部で内湾する。口縁端部は薄く先細りし、口縁部下に円孔を持つ。口径は不明であるが、破片の大きさから小型のものと考えられる。文様は内湾する口縁部に3条の段状の横走沈線文を施文している。この個体と同様のものは、茂漁7遺跡H-4（恵庭市教育委員会 2004）で出土している。茂漁7遺跡H-4出土のものは、実見したところ、円孔は一つではなく、対向してもう一つあることがわかった。

底部穿孔土器は、甕の底部を焼成後に意図的に打ち欠いたものである。これらと同様の特徴をもつ土器は、恵庭地域において堅穴住居跡に伴う形でまとまって出土しているものとして、中島松6遺跡の1・3・11住居址（恵庭市教育委員会 1988）、南島松4遺跡C地点の1・2・5号住居址（同 1991・1992）、茂漁7遺跡のH-4・5（同 2004）、カリンバ遺跡のSH-1（同 2003・2003・2004）がある。各遺跡の立地は、柏木川4遺跡を含めて中島松4遺跡・南島松5遺跡は柏木川流域、茂漁4遺跡は茂漁川流域、カリンバ3遺跡は旧カリンバ川と、当時のオサツター（長都沼）に流れ込む小河川沿いに位置している。

これらの出土例を器種に着目して比較してみると、各遺跡では壺（球胴甕）が伴っているが、本遺跡からは破片を含めて出土していない。反対に、底部穿孔土器は、他の遺跡では明確ではない。また、坏に口縁部が短い口径12～15cm程度の小型のものがみられる。

須恵器との供伴例としては、茂漁7遺跡H-4、中島松6遺跡1号住居跡・同3号住居跡で須恵器坏と出土している。

（佐藤）



図V-6 縄文時代の遺構分布

引用・参考文献

- 阿部千春 2002「垣ノ島A遺跡の足形付土版」考古学ジャーナル、No.490、ニューサイエンス社
- 横山英介 1990「擦文文化」ニューサイエンス社
- 恵庭市 1979「恵庭市史」
- 恵庭市教育委員会 1988「中島松6・7遺跡」
- 恵庭市教育委員会 1988「柏木川8遺跡 柏木川13遺跡」
- 恵庭市教育委員会 1989「中島松5遺跡A地点」
- 恵庭市教育委員会 1990「中島松5遺跡B地点 中島松7遺跡C地点」
- 恵庭市教育委員会 1990「柏木川11遺跡」
- 恵庭市教育委員会 1991「南島松1遺跡 南島松4遺跡」
- 恵庭市教育委員会 1992「中島松1遺跡 南島松4遺跡・南島松3遺跡 南島松2遺跡」
- 恵庭市教育委員会 1990「柏木川11遺跡(Ⅱ)」
- 恵庭市教育委員会 2003「柏木川13遺跡Ⅱ」
- 恵庭市教育委員会 2003「カリンバ3遺跡1」
- 恵庭市教育委員会 2003「カリンバ3遺跡2」
- 恵庭市教育委員会 2004「カリンバ3遺跡3」
- 恵庭市教育委員会 2004「柏木川7遺跡」
- 恵庭市教育委員会 2004「茂漁7遺跡 茂漁8遺跡」
- 恵庭市教育委員会 2005「柏木川13遺跡」
- 恵庭市教育委員会 2005「柏木川13遺跡(Ⅲ)」
- 余市町教育委員会 1999『入船遺跡における考古学的調査』
- 余市町教育委員会 1995「入船遺跡 手形付土版」『余市町の埋蔵文化財』No.24
- 余市町教育委員会 1997「入船遺跡 足形付土版」『余市町の埋蔵文化財』No.27
- 江別市教育委員会 1982「萩ヶ岡遺跡」
- 函館市教育委員会 2003「函館市 豊原4遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1992「八木B遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1993「八木A遺跡 ハマナス野遺跡」
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1997「八木A遺跡Ⅲ 八木C遺跡」
- 北海道埋蔵文化財センター 1982『ママチ遺跡』北埋調報9集
- 北海道埋蔵文化財センター 1987『千歳市 ママチ遺跡Ⅲ』北埋調報36集
- 北海道埋蔵文化財センター 1988『木古内町 新道4遺跡』北埋調報52集
- 北海道埋蔵文化財センター 2002『恵庭市 西島松5遺跡』北埋調報178集
- 北海道埋蔵文化財センター 2002『恵庭市 西島松9遺跡』北埋調報179集
- 北海道埋蔵文化財センター 2003『恵庭市 西島松5遺跡(2)』北埋調報194集
- 北海道埋蔵文化財センター 2004『恵庭市 西島松5遺跡(3)』北埋調報209集
- 北海道埋蔵文化財センター 2005『恵庭市 西島松5遺跡(4)』北埋調報224集
- 北海道埋蔵文化財センター 2003『恵庭市 柏木川13遺跡』北埋調報203集
- 北海道埋蔵文化財センター 2005『恵庭市 柏木川4遺跡・柏木川13遺跡(2)』北埋調報211集
- 北海道埋蔵文化財センター 2006『恵庭市 柏木川4遺跡(2)-A・C地区-』北埋調報229集

写真図版





調査前状況（平成16年撮影）SW→NE



平成18年度調査区 N→S

遺跡全景

図版 2



検出状況 SE→NW



HF-1 検出状況 S→N



HF-1 セクション E→W



HP-4 セクション S→N

KH-5



セクション SW-NE



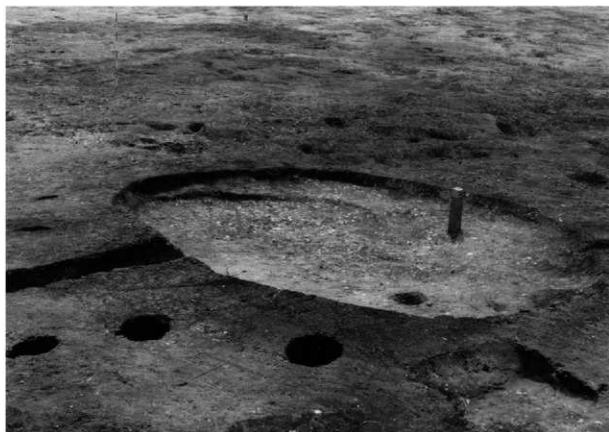
遺物出土状況 SW-NE



炭化物層・貼り床セクション SE-NW

KH-6(1)

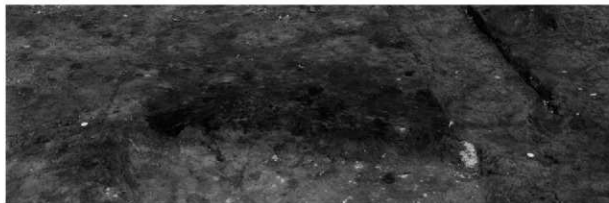
図版 4



KH-6 完掘 N→S



KH-7 セクション W→E



KH-7・HF-1 セクション W→E

KH-6(2)・KH-7(1)



遺物出土状況 S→N



完掘 E→W

KH-7(2)

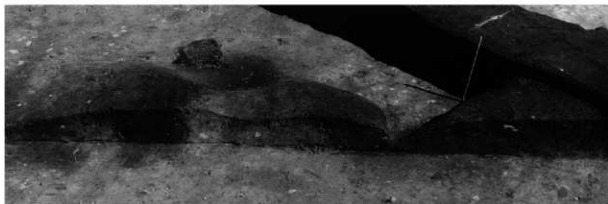
図版 6



北側セクション NE→SW



南側セクション NE→SW



HF-6セクション W→E

KH-8(1)



HP-1セクション S→N

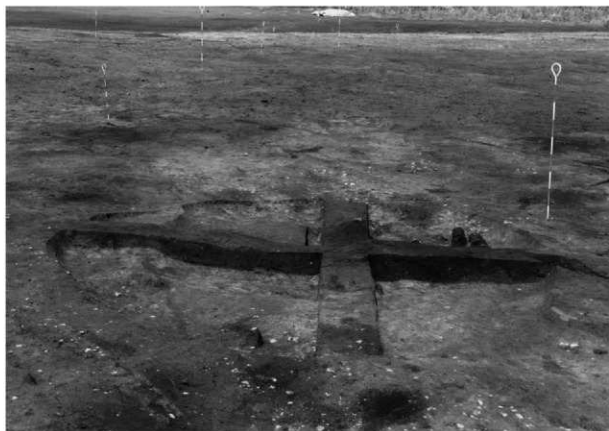


HP-2セクション SW→NE



完掘 NE→SW

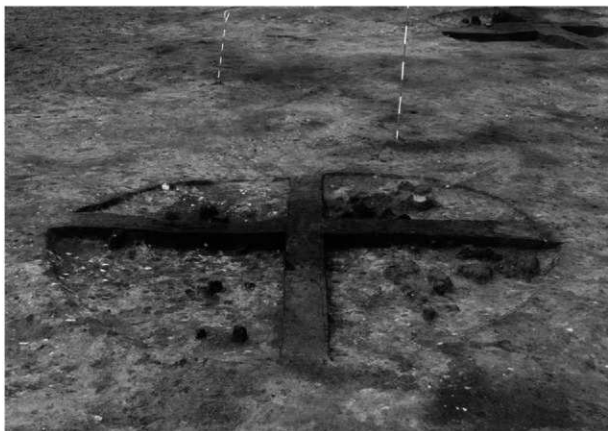
KH-8(2)



セクション E→W



遺物出土状況 E→W



セクション SW→NE



遺物出土状況 E→W

KH-10



セクション SE→NW



HP-1セクション S→N



HF-1セクション S→N



遺物出土状況 W→E



KP-296セクション S→N



KP-297セクション S→N



KP-298完掘 SW→NE



KP-299完掘 SW→NE



KP-300完掘 SW→NE

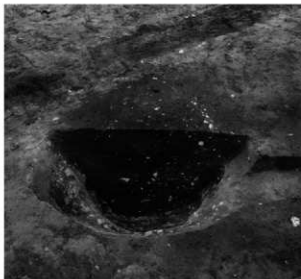


KP-301セクション S→N

土坑(1)



KP-303セクション SE→NW



KP-309セクション S→N



KP-312セクション SE→NW



KP-312完掘 SW→NE



KP-314完掘 SE→NW



KP-315セクション S→N



KP-322セクション S→N



KP-322完掘 W→E



KP-330セクション S→N



KP-330完掘 SE→NW



KP-331遺物出土状況 NE→SW



KP-334遺物出土状況 N→S



KP-335遺物出土状況 SW→NE



KP-336遺物出土状況 S→N



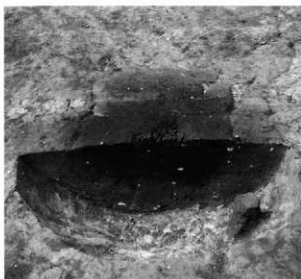
KP-337セクション S→N



KP-339セクション S→N



KP-340完掘 S→N



KP-344セクション SE→NW

土坑(5)



KP-346セクション N→S



KP-347セクション N→S



KP-346遺物出土状況 NE→SW



KP-349完掘 SW→NE



KP-351セクション S→N



KP-351完掘 S→N



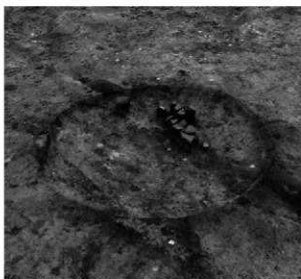
K P-352セクション S→N



K P-352完掘 W→E



K P-353完掘 E→W



K P-355遺物出土状況 W→E



K P-358(前)・359(中)・360(奥)確認状況 E→W



K P-358覆土2層上面焼土・炭化物検出状況 E→W

土坑(7)



KP-318セクション SE→NW



KP-319完掘 NE→SW



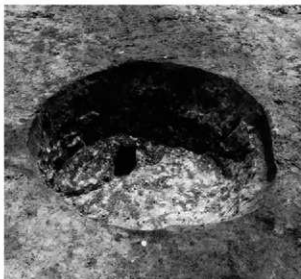
KP-320セクション S→N



KP-320完掘 SW→NE



KP-321セクション S→N



KP-321完掘 W→E

土坑(3)



KP-358覆土2層上面遺物出土状況 S→N



KP-358炭化材出土状況 E→W



KP-358遺物出土状況 E→W



KP-358調査風景 N→S



KP-358遺物出土状況 N→S



KP-358セクション S→N



KP-358完掘 N→S



KP-358(奥)・359(前)調査風景 W→E



KP-359覆土2層上面遺物出土状況 W→E



KP-359覆土2層上面遺物・焼土・炭化物検出状況 NE→SW

土坑(9)



K P-359覆土2層上面遺物出土状況 SE→NW



K P-359遺物出土状況 N→S



K P-359セクション S→N



K P-359完掘 N→S K P-358(前)・359(中)・360(奥)遺物出土状況 E→W
土坑(10)





KP-360覆土1層セクション E→W



KP-360遺物出土状況 S E→NW



KP-360調査風景 N→S



KP-360セクション E→W



KP-360完掘 W→E

土坑(11)



K P-361セクション S→N



K P-362覆土内焼土検出状況 N→S



K P-371(前)・372(奥)検出作業風景 SE→NW



K P-370遺物出土状況 E→W



K P-371覆土1層焼土セクション NE→SW
土坑(12)



KP-371炭化材出土状況 S→N



KP-371セクション SW→NE



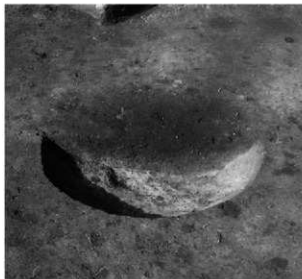
KP-372覆土1層焼土セクション NE→SW



KP-372セクション SW→NE



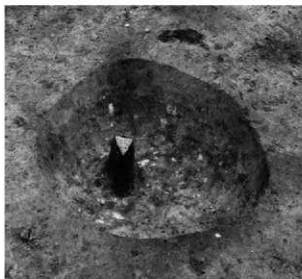
KP-371(左)・372(右)完掘 NE→SW



K P-373セクション SW→NE



K P-374遺物出土状況 E→W



K P-375遺物出土状況 S→N



K P-376遺物出土状況 N→S



K P-377遺物出土状況 E→W



K P-376遺物出土状況 E→W



K P-378覆土上位セクション W→E



K P-378覆土上位除去状況(手前K P-379) E→W



K P-378覆土下位セクション W→E

土坑(15)



KP-378覆土下位セクション S→N



KP-378完掘 N→S



KP-379セクション S→N



KP-379遺物出土状況 S→N



KP-379完掘(奥KP-378) E→W



KP-380遺物出土状況 SE→NW



K P-381遺物出土状況 N→S



K P-383セクション N→S



K P-386北側遺物出土状況 NE→SW



K P-386南側遺物出土状況 SW→NE



K P-386北側遺物出土状況 NW→SE



K P-386南セクション SE→NW



KP-386北セクション N→S



KP-386遺物出土状況 S→N

土坑(18)



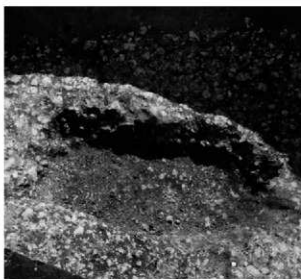
K P - 386遺物出土状況 N→S



K P - 386坑底焼土検出状況 N→S



K P - 386完掘 N→S



K P - 386坑底検出状況 W→E



K P - 389セクション SE→NW



K P - 396遺物出土状況 N→S



KP-397セクション S→N



KP-397遺物出土状況 W→E



KP-397遺物出土状況 SW-NE



KP-397遺物出土状況 N-S

土坑(21)



K P - 397手形付土製品出土状況 E→W



K P - 397把手付双口土器・小型深鉢出土状況 N→S



K P - 397足形付土製品出土状況 NW→SE



K P - 397鉢取り上げ後遺物出土状況 E→W

土坑(2)



KP-397遺物出土位置 NE→SW



KP-397把手付双口土器・小形鉢出土状況 S→N



KP-397完掘 NE→SW



KP-398完掘 NW→SE



KP-399完掘 N→S



KP-400完掘 NE→SW



KP-400断面 W→E



KP-403完掘 N→S



KP-415遺物・焼土・炭化物出土状況 S→N



KP-422セクション NW→SE



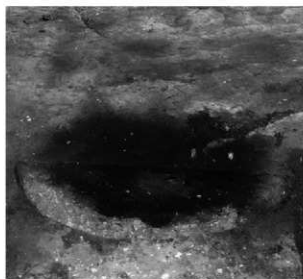
KP-423遺物出土状況 SW→NE



K P-425覆土上位遺物出土状況 E→W



K P-425遺物出土状況 W→E



K P-426セクション SE→NW



K P-427完掘 E→W



K P-428(右)・429(左)完掘 N→S



K P-430セクション N→S



K P-433検出状況 NW→SE



K P-431セクション N→S



K P-431完掘 NW→SE



K P-434セクション NE→SW



K P-435セクション S→N



KP-438完掘 W→E



KP-439遺物出土状況 NW→SE



KP-454セクション S→N



KP-454完掘 SE→NW



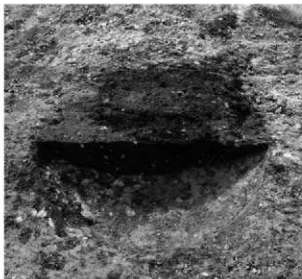
KP-457セクション S→N



KP-458遺物出土状況 SE→NW



KP-460セクション S→N



KP-462セクション NE→SW



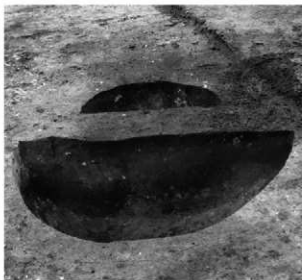
KP-468完掘 N→S



KP-469遺物出土状況 NW→SE



KP-472セクション SW→NE



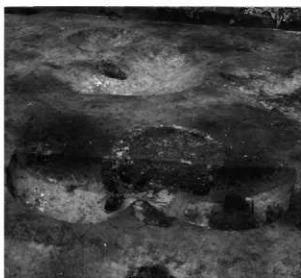
KP-473セクション NE→SW



K P-475セクション S→N



K P-477完掘 N→S



K P-478(右)・479(左)セクション SW→NE



K P-475完掘 S→N



K P-478(前)・479(奥)完掘 E→W



K P -482セクション SW→NE



K P -483完掘 W→E



K P -484完掘 W→E



K P -485遺物出土状況(奥K P -490) W→E



K P -486セクション W→E



K P -487遺物出土状況 N→S



KP-490セクション SW→NE



KP-490遺物出土状況 N→S



KP-493遺物出土状況 N→S



KP-495セクション SW→NE



KP-502遺物出土状況 1回目 N→S



KP-502遺物出土状況 2回目 N→S



K P-505セクション・K P-514確認状況(右) SW→NE



K P-506遺物出土状況 S→N



K P-508遺物出土状況 N→S



K P-510完掘 W→E



K P-511セクション SE→NW



K P-513セクション NW→SE



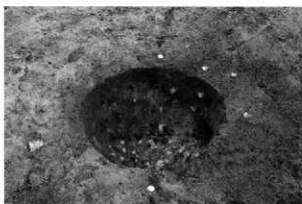
SP-6セクション E→W



SP-6完掘 SE→NW



SP-7セクション S→N



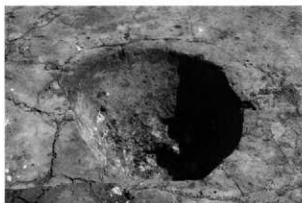
SP-8完掘 SW→NE



SP-10セクション S→N



SP-11完掘 SW→NE

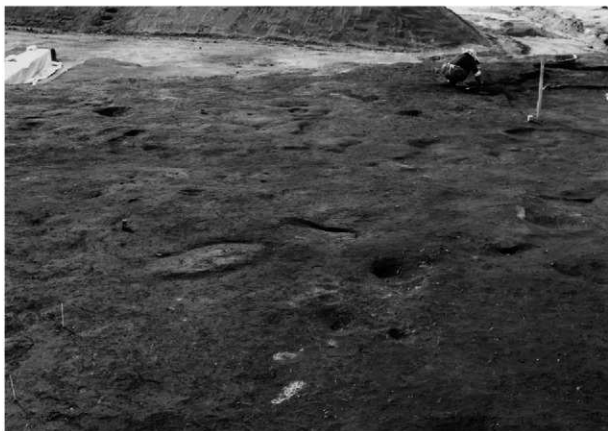


SP-12完掘 SW→NE

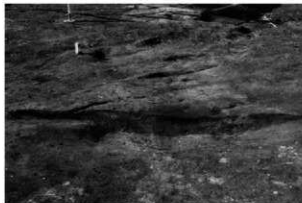


SP-17セクション W→E

小ピット



Q・R-67付近焼土群検出状況 SE→NW



KF-124セクション S→N



KF-131セクション SW→NE



KF-141検出状況 E→W



KF-160セクション E→W

焼土(1)



斜面部焼土検出状況(O-52付近) W→E



斜面部焼土検出状況(O-57付近) E→W



KF-173セクション E→W

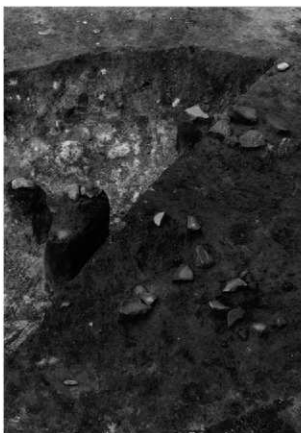


KC-1 検出状況 NE→SW

焼土(2)・炭化物



遺物集中1 検出状況 SE→NW



土器集中31検出状況 E→W



土器集中28検出状況 SW→NE



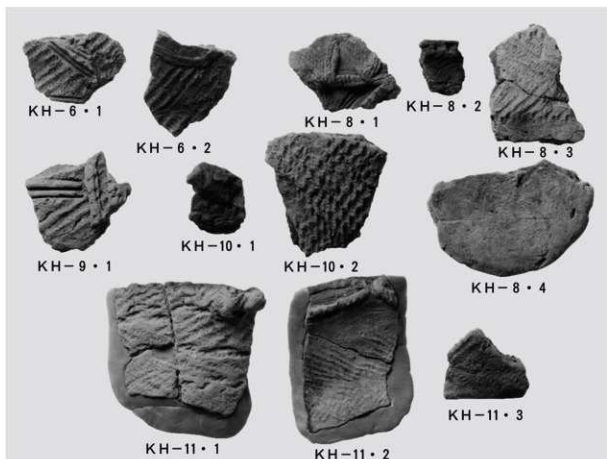
土器集中32検出状況 NW→SE

遺物集中1・土器集中



1

KH-5



KH-6・1

KH-6・2

KH-8・1

KH-8・2

KH-8・3

KH-9・1

KH-10・1

KH-10・2

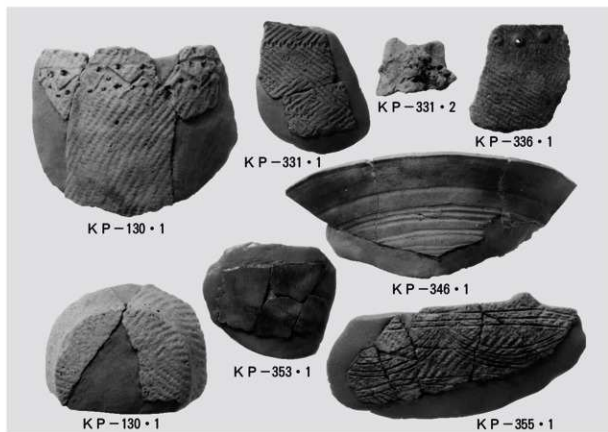
KH-8・4

KH-11・1

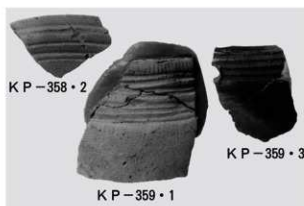
KH-11・2

KH-11・3

段丘上の遺構出土土器(1)



KP-358

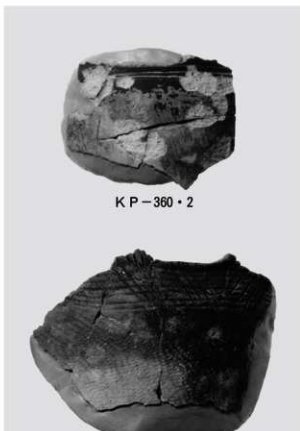


KP-359

段丘上の遺構出土土器(2)



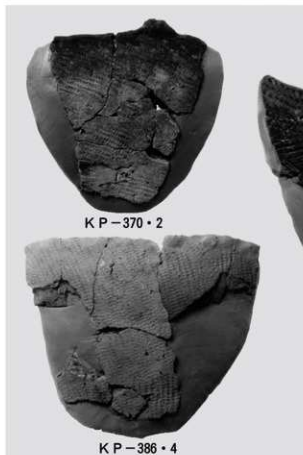
KP-360



KP-360・2



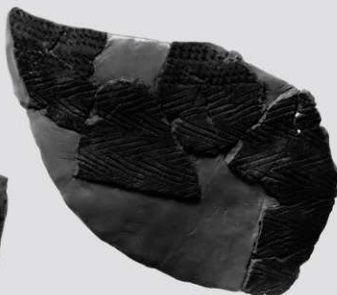
KP-370・1



KP-370・2



KP-386・4



KP-376・1

段丘上の遺構出土土器(3)



K P-378



K P-380



K P-386



K P-386



K P-386



K P-397



K P-386

段丘上の遺構出土土器(4)



1

K P - 397



2

K P - 397



3

K P - 397



K P - 397・1 底部(細部破片接合前)
段丘上の遺構出土土器(5)



K P - 397



K P - 397



K P - 397・4 底部



K P - 397



K P - 397

段丘上の遺構出土土器(6)



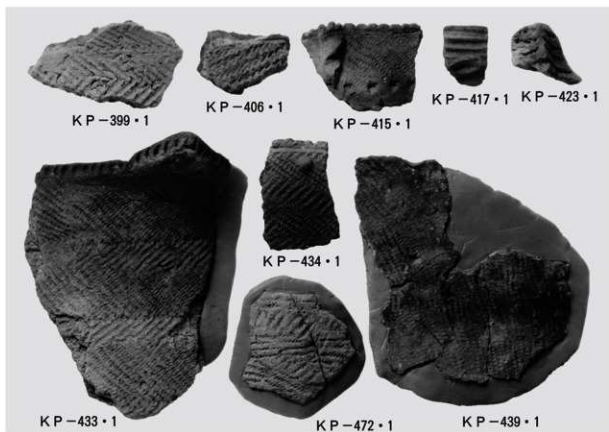
K P - 397 ・ 6



K P - 397 ・ 7

段丘上の遺構出土土器(7)

図版54



KP-425

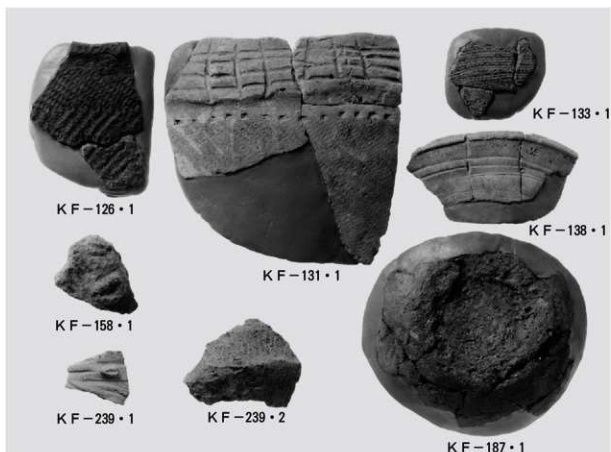


KP-485

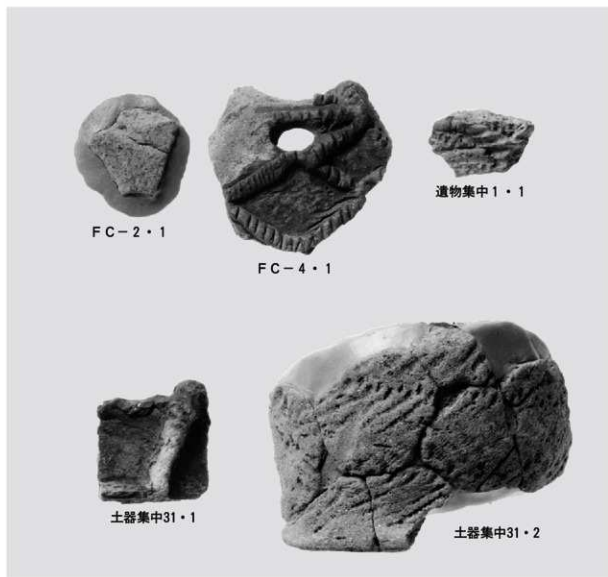


KP-490

段丘上の遺構出土土器(8)



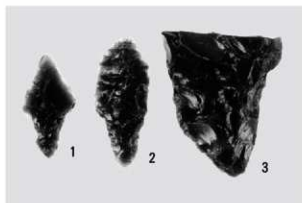
段丘上の遺構出土土器(9)



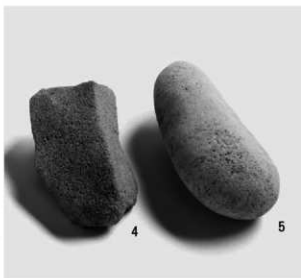
土器集中28

土器集中32

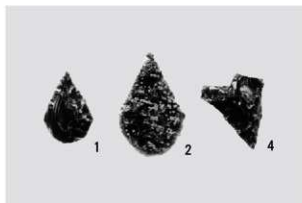
段丘上の遺構出土土器(10)



KH-6



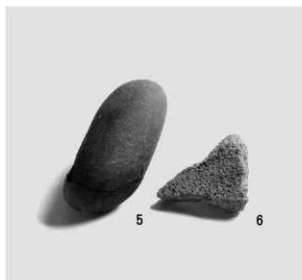
KH-6



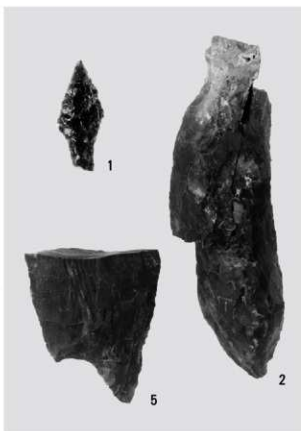
KH-7



KH-7

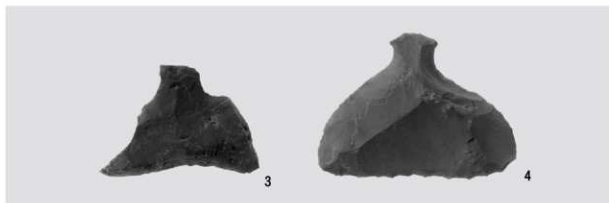


KH-7

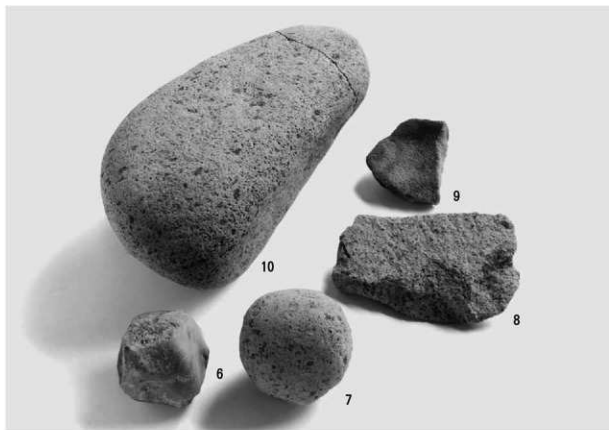


KH-8

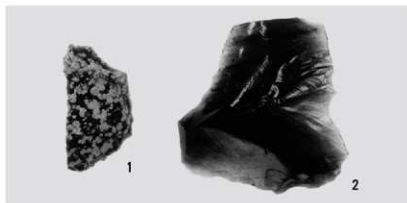
段丘上の遺構出土石器(1)



KH-8



KH-8



KH-9

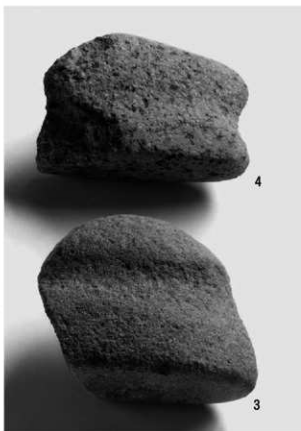
段丘上の遺構出土石器(2)



KH-11



KP-343



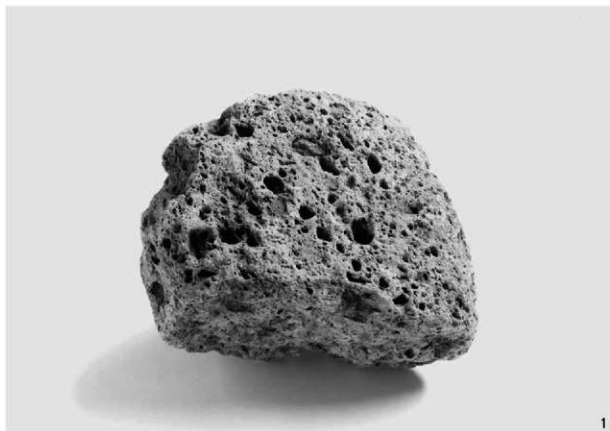
KH-11



1

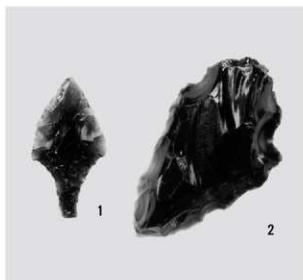
KP-377

段丘上の遺構出土石器(3)



1

K P-381



1

2

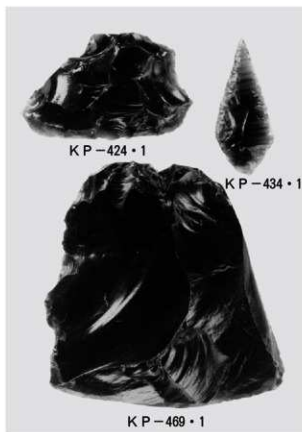
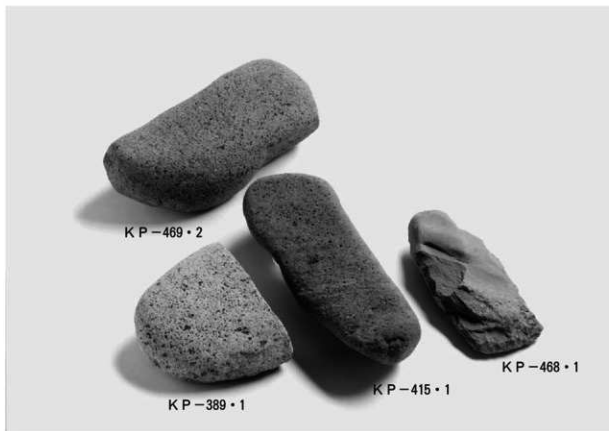
K P-386



3

K P-386

段丘上の遺構出土石器(4)

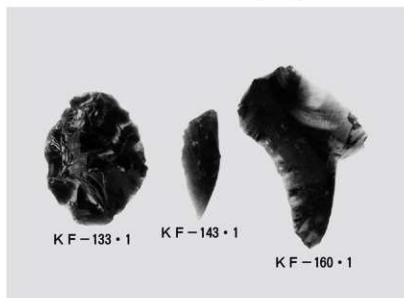
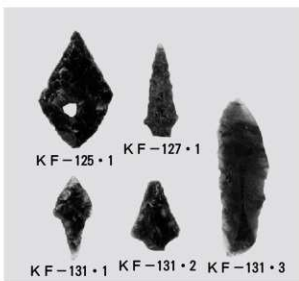


KP-397

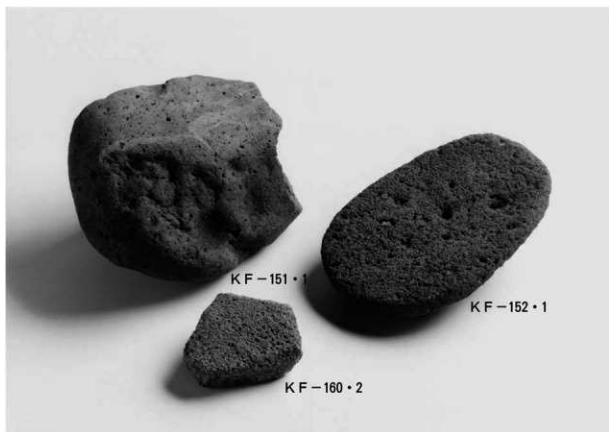
段丘上の遺構出土石器(5)



KF-141



段丘上の遺構出土石器(6)



段丘上の遺構出土石器(7)



調査風景 S→N



土坑調査風景(Q-53付近) E→W

段丘上の調査(1)

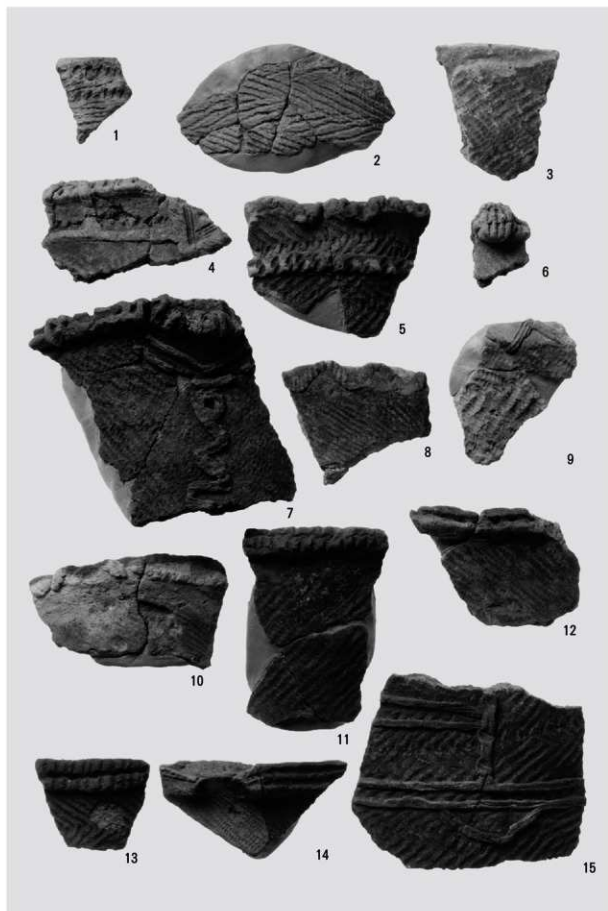


斜面部調査風景(焼土検出作業) N→S



第1トレンチ斜面部セクション W→E

段丘上の調査(2)



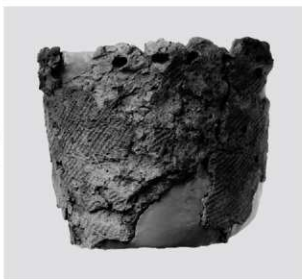
段丘上の包含層出土土器(1)



16



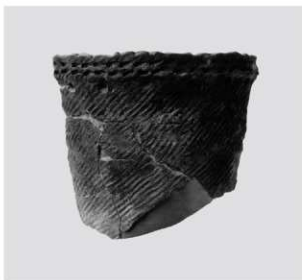
17



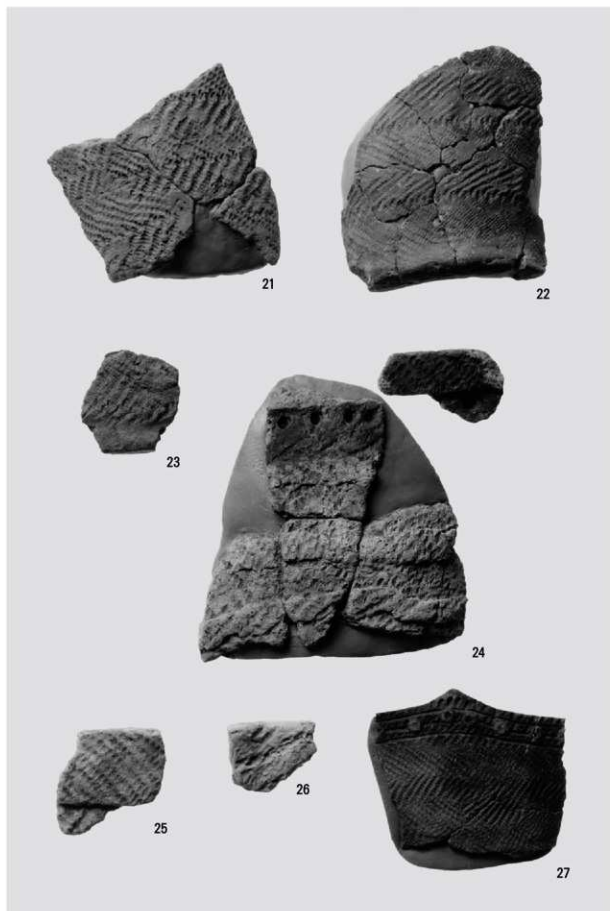
18



20



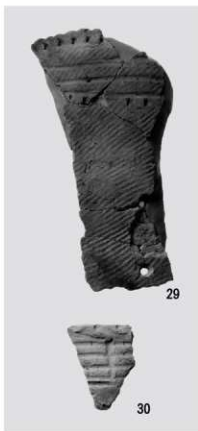
19



段丘上の包含層出土土器(3)



28



29

30



31

段丘上の包含層出土土器(4)



32



34



32



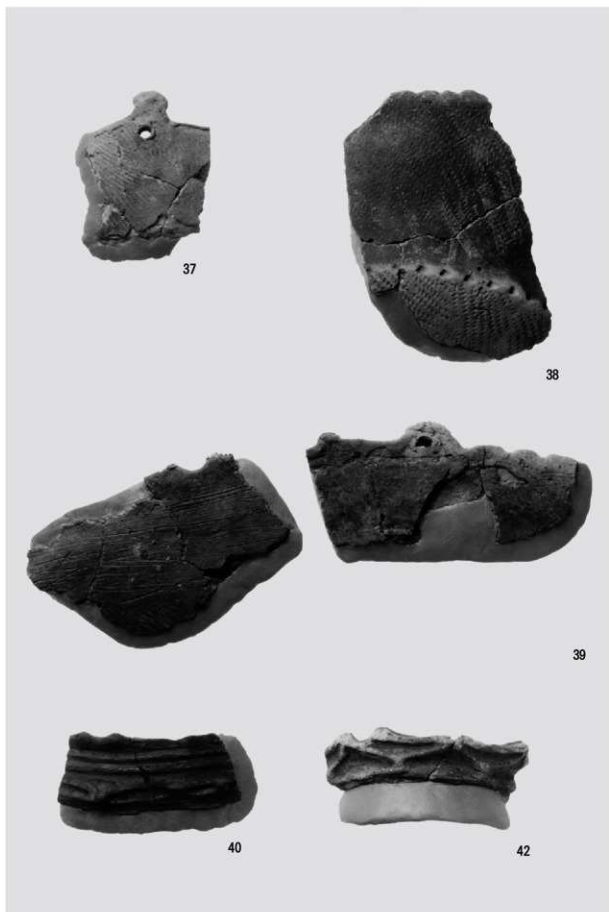
35



33



36



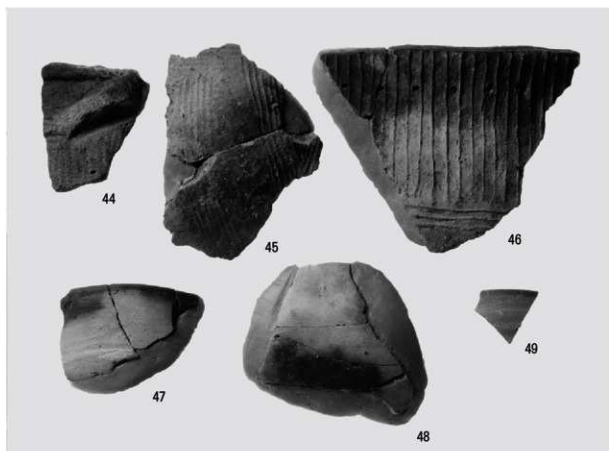
段丘上の包含層出土土器(6)



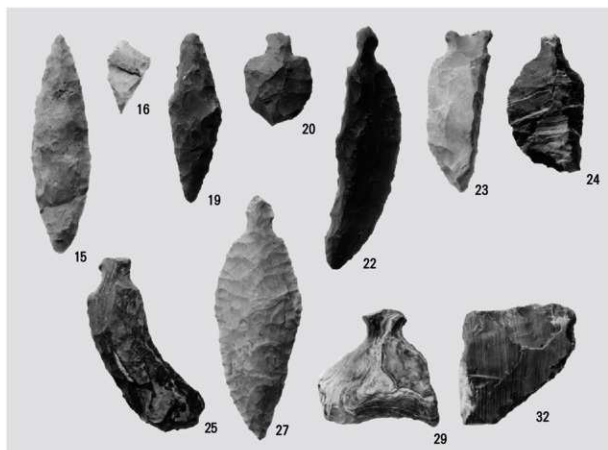
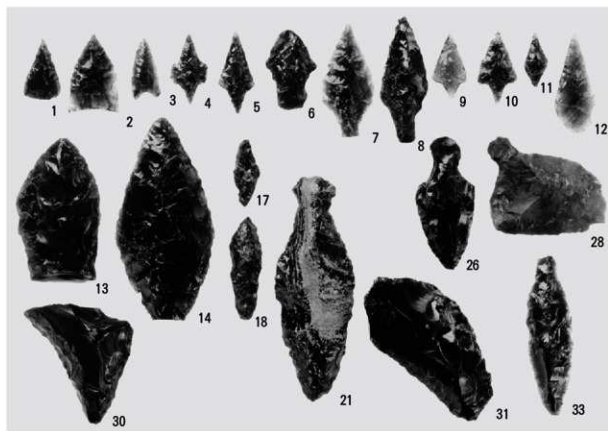
段丘上の包含層出土土器(7)



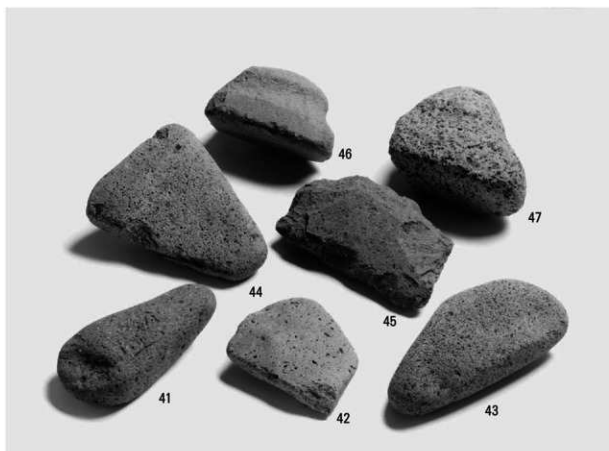
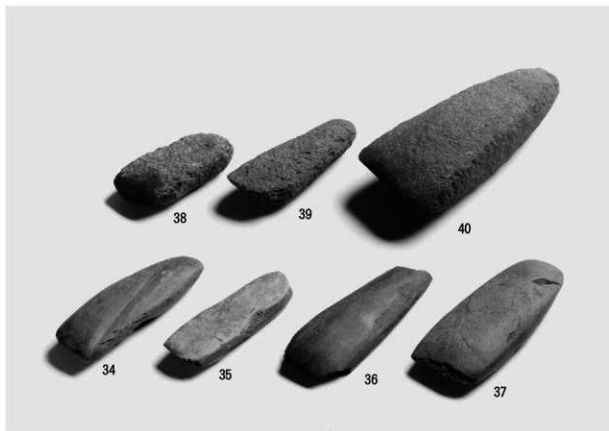
41



段丘上の包含層出土土器(8)

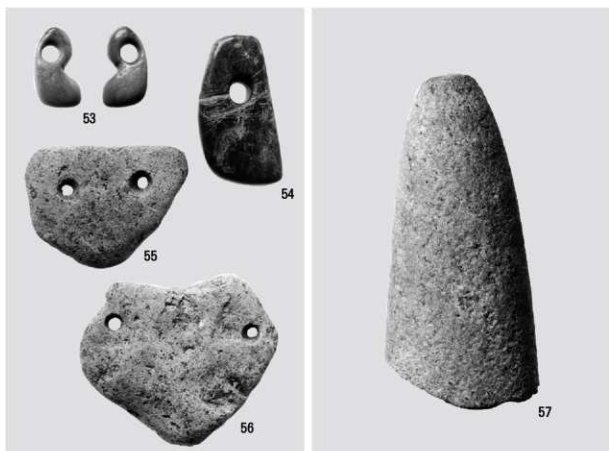
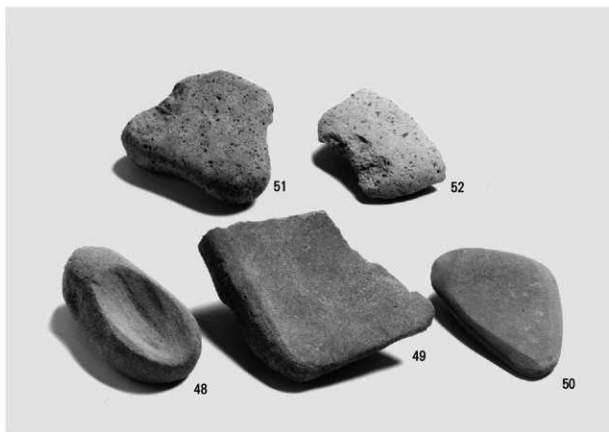


段丘上の包含層出土石器(1)

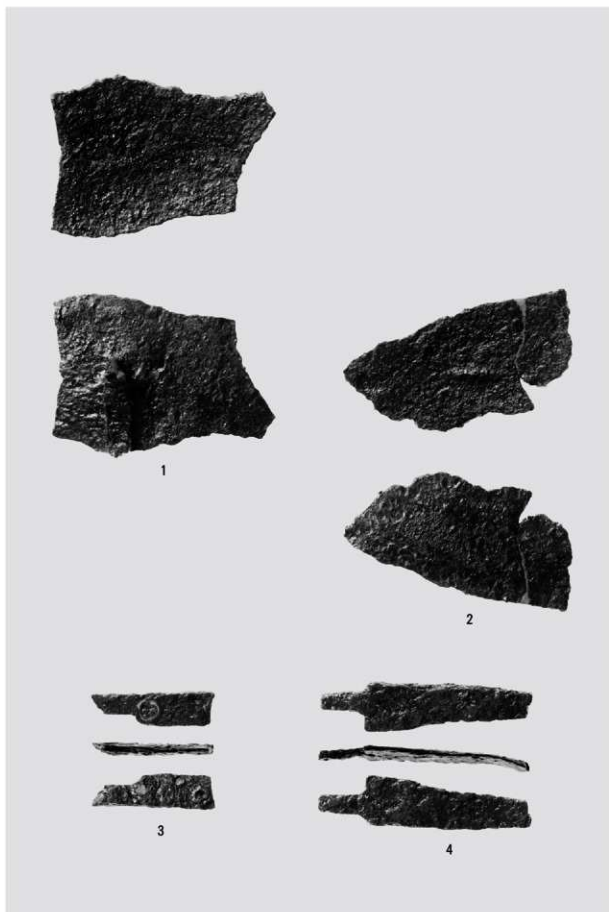


段丘上の包含層出土石器(2)

図版76



段丘上の包含層出土石器(3)



段丘上の包含層出土鉄製品

報告書抄録

ふりがな		えにわしわしわがわふんいせき きん						
書名		恵庭市柏木川4遺跡(3)						
巻次		なし						
シリーズ名		財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第249集						
編著者名		谷島由貴・佐藤 剛・吉田裕史洋						
編集機関		財団法人 北海道埋蔵文化財センター						
所在地		〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地-1 電話 (011)386-3231						
発行年月日		西暦2007年11月30日						
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
柏木川4遺跡	北海道恵庭市 柏木町 610,612ほか	1224	A-04-21	42度 53分 19秒	141度 33分 19秒	20050509～ 200051028 20060508～ 200061029	5,460㎡ 12,600㎡	柏木川基幹 河川改修工 事に伴う事 前調査 第 1遺水池
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
柏木川4遺跡	集落	縄文時代 前期・中期 後期・晩期 擦文時代	竪穴住居跡7軒 土坑 212基 焼土 117基			土坑 KP-397 出土一括遺物 (手形・足形付土製品 ・土器・石斧) 2基が隣接並行した 土坑 3カ所		
<p>平成17年度から3ヵ年発掘調査を行った。本報告書は平成17年度調査のA・C地区と18年度調査のE地区を対象としている。この3地区は柏木川右岸の河岸段丘上にある。掲載した遺構は縄文時代前期後半から中期後半の竪穴住居跡が7軒、土坑は縄文時代晩期を主として212基、焼土が1170ヵ所である。遺物は縄文時代晩期を主体に中期・後期、擦文文化期などが合計63,838点出土している。内訳は、土器45,040点、石器18,776点他である。</p> <p>最も多い縄文時代晩期の土抗のほとんどは遺物を伴わないが、KP-386、KP-397など副葬品と考えられる遺物が出土した土抗も少数ある。特にKP-397では手形付・足形付土製品が晩期まで作られ、双口土器などと共に副葬されていたことが明らかとなった。その他、擦文文化期の土抗で2基が対を成し20～30mの間隔で3ヵ所ほど検出されている。</p>								

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第249集

恵庭市 柏木川4遺跡(3)

—柏木川基幹河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月日 平成19年11月30日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

T E L (011) 386-3231 (代表)

F A X (011) 386-3238

E-mail mail@domaibun.or.jp.

印刷 株式会社 データワークス

〒060-0006 札幌市中央区北6条西14丁目1-1

TEL (011) 207-7007
